

令和8年度

履修要項

皇學館大学

文学部

教育学部

現代日本社会学部

文学研究科

教育学研究科

神道学専攻科

皇學館 建学の精神

「精神の基本」

日本の神々を祀る神道を基盤として、皇室や神宮を崇め、祖先を敬い、国を愛し、歴史・伝統・文化を尊ぶ心を育む。

この精神を中核として、学生は国家社会に貢献できる人物に成長できるように努力し、教員は世界に通用する学問と教育成果をあげられるように努める。

この原点を忘れないと同時に、時代状況に応じて国家社会を適切に導いていくための柔軟な精神もまた尊重される。

「大学の目標」

- ① わが国の歴史・伝統を継承・究明・応用して社会の要請に応える学園の創造
- ② 神道精神に基づく人間性豊かな 立派な日本人の育成
- ③ 自立心に富み、社会の各領域においてリーダーとして貢献できる人材の養成

皇學館大学

履修要項 目次

生成AIの教学面の取扱いに関する指針Ver.1.1	6
皇學館 建学の精神	
大 学 (文学部・教育学部・現代日本社会学部)	7
1. 3つのポリシー	
卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	8
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	8
入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	8
皇學館大学の3つのポリシー	9
文学部の3つのポリシー	12
○神道学科の3つのポリシー	13
○国文学科の3つのポリシー	15
○国史学科の3つのポリシー	17
○コミュニケーション学科の3つのポリシー	19
教育学部・教育学科の3つのポリシー	21
現代日本社会学部・現代日本社会学科の3つのポリシー	23
学修成果の評価の方針 (アセスメント・ポリシー)	25
2. 各学科と各コース	27
3. 単位制度	30
単位制、単位の認定 (成績評価)	30
GPA	30
成績評価についての質問	31
4. 授 業	32
学内授業 (授業時間)、学外授業	32
授業の欠席	32
「欠席届」の書式等について	33
休講等	33
補講	34
特別警報・暴風警報発令時及びその他の不測の事態による授業休講措置	34
5. 試 験	35
試験の種類	35
追試験	35
再試験	36
追試験・再試験受験手続き	36
受験心得	37
不正行為に関する注意事項	38
6. 卒業論文 (研究)	39
卒業論文 (研究) の提出手順	39
卒業論文 (研究) 提出についての注意	40
口頭試問についての注意	41
7. 参拝見学・山室山参拝・フィールドワーク	42
8. 学籍について (休学・復学・退学・除籍等)	43
休学	43
復学	44
退学	44
除籍	45
再入学・復籍	46
転学部、転科	46

9. 履修指導・成績通知	47
10. 履修登録	48
履修登録の心得	48
履修制限 (CAP制)	48
登録の手順	49
履修登録方法	50
シラバス検索方法	54
11. カリキュラム	56
I. 授業科目構成	57
II. 卒業進級要件・カリキュラム表 (令和5～8年度の入学生)	59
必要修得単位数	59
履修上の注意	60
共通科目	62
文学部専門科目	64
教育学部専門科目 (令和7・8年度の入学生に適用)	72
教育学部専門科目 (令和5・6年度の入学生に適用)	76
現代日本社会学部専門科目	79
III. 卒業進級要件・カリキュラム表 (平成31～令和4年度の入学生)	82
必要修得単位数	82
履修上の注意	83
共通科目	85
文学部専門科目	87
教育学部専門科目	95
現代日本社会学部専門科目 (令和3・4年度の入学生に適用)	98
(平成31・令和2年度の入学生に適用)	101
IV. 副専攻制度	104
V. 各種課程等	113
各種課程及び資格について (課程・資格一覧)	114
神職課程 (高等課程)	119
神職課程 (高等課程) (令和5～8年度の入学生に適用)	119
神職課程 (高等課程) (平成31～令和4年度の入学生に適用)	126
教職課程	132
介護等体験実習	135
教育実習	137
教員免許状取得のための早見表	145
「中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状」取得要件 (令和5～8年度の入学生に適用)	
○ 教育の基礎的理解に関する科目等 (文学部・現代日本社会学部)	146
○ 大学が独自に設定する科目 (文学部)	146
○ 教育の基礎的理解に関する科目等 (教育学部)	147
○ 大学が独自に設定する科目 (教育学部)	147
○ 教科及び教科の指導法に関する科目	
宗 教 (中学校一種・高等学校一種)	148
国 語 (中学校一種)	149
国 語 (高等学校一種)	150
書 道 (高等学校一種)	151

社 会 (中学校一種)	152
地理歴史 (高等学校一種)	153
公 民 (高等学校一種)	154
英 語 (中学校一種・高等学校一種)	155
保健体育 (中学校一種・高等学校一種)	156
数 学 (中学校一種・高等学校一種)	157
理 科 (中学校一種) (令和7・8年度の入学生に適用)	158
理 科 (高等学校一種) (令和7・8年度の入学生に適用)	159
〔小学校教諭一種免許状〕取得要件 教育学部 (令和5～8年度の入学生に適用)	
○ 教育の基礎的理解に関する科目等 (教育学部)	160
○ 大学が独自に設定する科目 (教育学部)	160
○ 教科及び教科の指導法に関する科目 [小学校] (教育学部)	161
〔幼稚園教諭一種免許状〕取得要件 (令和5～8年度の入学生に適用)	
○ 教育の基礎的理解に関する科目等 (教育学部)	162
○ 領域及び保育内容の指導法に関する科目 [幼稚園] (教育学部)	163
〔教員免許状の取得要件〕 (令和6～8年度の入学生に適用)	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (全教員免許共通)	164
〔教員免許状の取得要件〕 (令和5年度の入学生に適用)	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (全教員免許共通)	165
〔中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状〕取得要件 (平成31～令和4年度の入学生に適用)	
○ 教育の基礎的理解に関する科目等 (文学部・現代日本社会学部)	166
○ 大学が独自に設定する科目 (文学部)	166
○ 教育の基礎的理解に関する科目等 (教育学部)	167
○ 大学が独自に設定する科目 (教育学部)	167
○ 教科及び教科の指導法に関する科目	
宗 教 (中学校一種・高等学校一種)	168
国 語 (中学校一種)	169
国 語 (高等学校一種)	170
書 道 (高等学校一種)	171
社 会 (中学校一種)	172
地理歴史 (高等学校一種)	173
公 民 (高等学校一種)	174
英 語 (中学校一種・高等学校一種)	175
保健体育 (中学校一種・高等学校一種)	176
〔小学校教諭一種免許状〕取得要件 教育学部 (平成31～令和4年度の入学生に適用)	
○ 教育の基礎的理解に関する科目等 (教育学部)	177
○ 大学が独自に設定する科目 (教育学部)	177
○ 教科及び教科の指導法に関する科目 [小学校] (教育学部)	178
〔幼稚園教諭一種免許状〕取得要件 (平成31～令和4年度の入学生に適用)	
○ 教育の基礎的理解に関する科目等 (教育学部)	179
○ 領域及び保育内容の指導法に関する科目 [幼稚園] (教育学部)	180
〔教員免許状の取得要件〕 (平成31～令和4年度の入学生に適用)	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (全教員免許共通)	181
〔特別支援学校教諭一種免許状〕取得要件 (平成31～令和4年度の入学生に適用)	
特別支援教育に関する科目 [特別支援学校] (教育学部)	182

小学校教諭一種・二種免許状について	183
「小学校教諭一種及び二種免許状」取得要件 文学部（平成31～令和8年度の入学生に適用）	
○ 教育の基礎的理解に関する科目等〈文学部〉	184
○ 大学が独自に設定する科目〈文学部〉	184
○ 教科及び教科の指導法に関する科目〔小学校一種〕〈文学部〉	185
○ 教科及び教科の指導法に関する科目〔小学校二種〕〈文学部〉	186
図書館司書課程	187
図書館司書課程科目（平成31～令和8年度の入学生に適用）	188
司書教諭課程	189
司書教諭課程科目（平成31～令和8年度の入学生に適用）	190
博物館学芸員課程	191
博物館学芸員課程科目（平成31～令和8年度の入学生に適用）	193
保育士資格	194
「保育士資格」取得要件〈教育学部〉（令和5～8年度の入学生に適用）	
○ 教科目：必修〔保育士資格〕〈教育学部〉	196
○ 選択必修科目〔保育士資格〕〈教育学部〉	197
○ 教養科目〔保育士資格〕〈教育学部〉（令和6～8年度の入学生に適用）	198
○ 教養科目〔保育士資格〕〈教育学部〉（令和5年度の入学生に適用）	199
「保育士資格」取得要件〈教育学部〉（平成31～令和4年度の入学生に適用）	
○ 教科目：必修〔保育士資格〕〈教育学部〉	200
○ 選択必修科目〔保育士資格〕〈教育学部〉	201
○ 教養科目〔保育士資格〕〈教育学部〉	202
スポーツ指導者資格	203
スポーツ指導者資格科目（令和3～8年度の入学生に適用）	204
初級パラスポーツ指導員	205
初級パラスポーツ指導員指定科目（平成31～令和8年度の入学生に適用）	205
自然体験活動指導者（NEALリーダー）資格	206
自然体験活動指導者（NEALリーダー）指定科目（令和5～8年度の入学生に適用）	206
社会福祉士（国家試験受験資格）	207
社会福祉士指定科目（令和3～8年度の入学生に適用）	208
ソーシャルワーク実習Ⅰ及びⅡ（令和3～8年度の入学生に適用）	209
精神保健福祉士（国家試験受験資格）	211
精神保健福祉士指定科目（令和3～8年度の入学生に適用）	212
ソーシャルワーク実習Ⅲ（令和3～8年度の入学生に適用）	213
社会調査士資格	215
社会調査士指定科目（平成31～令和8年度の入学生に適用）	216
認定心理士資格	217
認定心理士資格取得要件（令和5～8年度の入学生に適用）	218
（平成31～令和4年度の入学生に適用）	219
公認心理師（国家試験受験資格）	220
公認心理師資格履修する科目（令和5～8年度の入学生に適用）	221
公認心理師資格履修する科目（平成31～令和4年度の入学生に適用）	222
心理演習と心理実習	223
GIS学術士資格	225
GIS学術士資格取得要件（平成31～8年度の入学生に適用）	226

任用資格	227
任用資格（平成31～令和8年度の入学生に適用）	227
①社会福祉主事任用資格	228
②身体障害者福祉司・知的障害者福祉司任用資格、③児童指導員任用資格	229
麻しん抗体検査	230
12. 関係規程	231

大学院（文学研究科・教育学研究科）	233
大学院について	234
教育研究上の目的と3つのポリシー	235
学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）	242
研究指導スケジュール	243
文学研究科 博士後期課程 神道学専攻	245
国文学専攻	248
国史学専攻	250
文学研究科 博士前期課程 神道学専攻	252
国文学専攻	254
国史学専攻	256
教育学研究科 修士課程 教育学専攻	258
神職課程（専攻課程Ⅱ類）	260
学位ならびに免許・資格	267
学位論文（修士）	269
博士学位請求論文（課程博士）	271
皇學館大学大学院 文学研究科 博士後期課程 博士学位請求論文（課程博士）評価基準	273
皇學館大学大学院 文学研究科 博士前期課程 修士論文評価基準	274
皇學館大学大学院 教育学研究科 修士課程 修士論文・特定の課題についての研究の成果評価基準	275
関係規程	276

専攻科（神道学専攻科）	277
神道学専攻科について	278
神職課程（専攻課程Ⅰ類）	279
関係規程	285

索引	286
-----------	-----

受講心得

生成 AI の教学面の取扱いに関する指針 Ver.1.1

1. 生成された結果を批判的態度で取扱うこと

例えば ChatGPT などの生成 AI は、ネット上の大量のコンテンツから自然言語処理によって文章を作り出していくものです。つまり、生成された文章は自然言語の形式にはなっていますが、語句どうし組合せの確率が高いデータを並べているに過ぎず、その内容が正しいものであるかどうか、倫理上問題がないかについて批判的な態度で取扱う必要があります。

2. 生成された結果をそのまま自己の学修成果として提出・公表しないこと

生成 AI によって出力された文章などをそのまま自分自身の学修成果としてのレポート等に用いると、意図したものではなかったとしても、剽窃盗用として不正行為に位置づけられます。出典（引用元）を ChatGPT としてもそれは無効です。

3. 機密情報・個人情報等の入力を避けること

生成 AI は、入力されたデータも学習の対象としていく仕組みになっています。機密情報や個人情報等を入力すると、それは AI にとって学習データとして蓄積され、流出・漏洩する危険性があります。

4. 著作権の侵害に注意すること

生成 AI によって出力された文章などが、既存の著作物の権利を侵害していないか注意が必要です。引用であれば、正確に出典を示す必要があります。

5. 新しい技術を使いこなす

生成 AI などの新しい技術は、今後も開発が続けられていきます。ワープロが開発された時に文章はペンによる手書きでなければならないとの主張がありました。しかし、それは現在の状況を見ればナンセンスなものであったことは明白です。開発された技術は積極的に使いこなしていくことが大切です。それを使うに当たって、上の 1～4 に示したような点に注意してください。

6. 指針の今後の在り方について

今後も生成 AI については、社会の状況や人々の考え方によって使い方が大きく変化するものと考えられます。それらに沿ってこの指針は随時改訂されることが予想されますので、あらかじめ承知しておいてください。

大 学

文 学 部

教 育 学 部

現代日本社会学部

1. 3つのポリシー

平成31年度～令和4年度入学生については、
右の2次元コードから確認してください。



ディプロマ・ポリシー

卒業認定・学位授与に関する
基本的な方針

カリキュラム・ポリシー

教育の実施に関する
基本的な方針

アドミッション・ポリシー

入学者受け入れに関する
基本的な方針

皇學館大学の教育とはいかなるものか、それを具体的に示したものが、この「3つのポリシー」です。これを知ることによって、本学の教育方針への理解をいっそう深めていただきたいと思います。

以下、それぞれのポリシーについて簡潔に説明します。

ディプロマ・ポリシー

大学がその教育理念を踏まえ、どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針。

アドミッション・ポリシー

大学・学部等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、入学者を受け入れるための基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（学力の3要素※）を示すもの。

※（1）知識・技能、（2）思考力・判断力、表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

● 皇學館大学の3つのポリシー ●

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学は、「わが国民族の歴史と伝統とに基づく文化を究明し、洋の東西に通ずる道義の確立を図り、祖国愛の精神を教育培養するとともに、社会有為の人材を育成すること」（学則第1条）を教育目的とします。

本学は、各学位の教育課程を修め、次の資質・能力を修得した者に学士の学位を授与します。

1. わが国の歴史と伝統・文化を深く理解し、それを基盤として、異なる歴史と伝統・文化を持つさまざまな世界をも尊重することができる。
2. 神道精神に基づく高い倫理観と寛容な精神を備えている。
3. 社会において必要とされる知識・技能と、課題解決のための思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力を備えている。
4. 生涯にわたり学び続ける意欲を持ち、主体的に考え、自ら積極的に行動することができる。
5. 地域・職域等社会のさまざまな領域において、身につけたコミュニケーション能力を用いて他者と協働し、中核的存在として貢献できる。
6. 専攻する専門領域における基礎的かつ体系的な知識・技能を身につけるとともに、それを実社会において活用することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するために、全学部共通科目、各学部・学科専門科目、各種資格課程科目及びその他必要とされる体験学修の機会や課外講座等を体系的に編成します。

大学教育全体のカリキュラム・マネジメントの観点から、教育課程の体系性を学生に示すとともに、各学部・学科の教員組織が自ら自己点検するために、全学及び各学部・学科の卒業認定・学位授与の方針や教育目標と個々の授業科目の関係性、各授業科目間の連関及び履修の順次性を明示したカリキュラム・マップを作成しています。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 全学部共通科目は、本学における学修に必要な基礎学力の養成、幅広い教養の修得、卒業後の社会的・職業的自立への意欲形成を図るために、以下の4区分にわたって授業科目を開設する。
 - I. 「建学の精神を理解する」
「建学の精神」科目群
 - II. 「知識・技能と汎用的能力を修得する」
「総合基礎」科目群
「数理・データサイエンス」科目群
「職業人実務基礎」科目群
「体育」科目群
「教養」科目群

Ⅲ. 「主体性を修得する」

「人生と仕事」科目群

Ⅳ. 「コミュニケーション能力を修得する」

「地域志向科目」科目群

「外国語」科目群

2. 多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにすることを目的として、少人数による初年次ゼミを開設する。
3. 英語教育は、大学入学以前に学んできた英語の4技能が個々の学生の進路に応じて「使えるようになる」ことを目標として、習熟度に基づくクラス編成により授業を実施し、外部試験等を適宜用いて学修成果の把握を行う。
4. 専門科目は、各学科の専門領域に関する系統的な知識と学問的方法を修得することができるように、各科目を体系的に開設する。科目の内容は、各専門分野についての知見を身につけるとともに、問題発見能力、理解力、判断力、物事に積極的に対応してゆく意欲等の社会人に必要な汎用的能力が身につくように精選されている。
5. 各学部・学科における専門科目を中心とする教育内容の統合と総合化のために、4年次の卒業論文、卒業研究を必修とする。
6. 能動的・主体的な学修姿勢、生涯にわたって学び続ける力、困難を克服する力を養成するために、正課内・正課外に「海外体験・留学」、「地域貢献活動」、「学校ボランティア活動」等、多彩な体験学修プログラムを開設する。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 1・2年次においては、学科ごとに全教員が分担して務める「指導教員」、3・4年次においてはゼミ指導教員が、4年間を通じて学修・生活上の助言をおこなう。
2. 大学における単位制では、1時間の授業時間に対して2時間に相当する事前・事後学修が必要とされている。この単位制度を実質化し、質の高い学修を保証するため、1年間で履修登録のできる単位数を制限する（CAP制）。学生には、各自の4年間での学修目標を明確にした計画的な履修を指導する。
3. 学生が各自の学修状況を客観的に数値で把握することができるように、GPAを算出・提示する。また、GPAは、退学勧告、教育実習・保育実習等の各種実習の履修要件や副専攻認定及び特待生の選考に使用する。
4. 国際共通語である英語については、「読むこと」「聞くこと」とともに、主体的に考えを表現することができるよう、「書くこと」「話すこと」をも重視し、それら4技能を総合的に養成する教育方法及び自習環境を整備する。また、海外語学研修の制度を充実させ、学生の実践的な英語への学修意欲を高める。
5. 知識の伝達・注入を中心とした授業方法だけではなく、学生が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見いだしていくアクティブ・ラーニングの組織的導入を図る。特に、少人数のチームワーク、集団討論、反転授業などの教育方法を実践する。

【3】評価については、次のとおり定める。

1. 「教員が何を教えたか」よりも「学生が何を身に付けたか」を重視し、学生の学修成果を把握・評価する手法の導入を推進する。
2. 大学全体としての共通の評価方針（アセスメント・ポリシー）に従って評価を行う。その際、学生の学修履歴（学修ポートフォリオ）の組織的な利用をはじめとして、「パフォーマンスによる評価」、「ルーブリックによる評価」などの多様な評価方法を適切に取り入れる。
3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づく厳格な成績評価、卒業認定をおこなう。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、全学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にふさわしい人材を育成するために、本学入学の段階で、①本学での学修に対する目的意識、②本学で他者と協働して主体的に学ぼうとする意欲、③そのために必要な基礎学力を備えた者を求めます。

本学での学修に必要とされる目的意識・意欲・基礎学力とは、次の3つを言います。

1. 高等学校までの教育課程で必要とされた「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体的に学習に取り組む態度」を修得していること。
2. 自らの生まれ育った地域社会や日本、また日本を取り巻く世界の話題について、これまで学んできた知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、自らの考えを他者に説明することができること。
3. 本学で志望する学部・学科での学修や経験を、地域社会、日本国内あるいは海外で生かしたいという目的と意欲を備えていること。

これらの資質・能力を備えた者を適正に選抜するために、多様な評価方法による複数の選抜機会を設けます。

▶ 文学部の3つのポリシー ◀

教育研究上の目的

文学部では、大学の目的（学則第1条）に加えて、以下の目的（同第3条の2）を定めています。

本学部は、日本文化を精確に究明し、これを継承・発展させるとともに広く世界に発信し、同時に、将来を展望する見識と生涯にわたって学び続ける姿勢を有し、現代社会の諸課題にも積極的に対処しようとする自立した人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

本学部は、その教育目的を達成するために、大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、次のような人材の育成を方針として定めています。

1. わが国の文化について深く学び、その継承・発展に寄与する意欲を有している。
2. 言語表現を的確におこなうことができる。
3. 人間の行為について理解し、知識を得る方法と考え方を身につけて、社会において主体的に活用することができる。

カリキュラム・ポリシー

本学部は、そのディプロマ・ポリシーを実現するために、全学的なカリキュラム・ポリシーに加えて、以下の学部独自のカリキュラム・ポリシーを定めています。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 各学科の専門分野に関する体系的な知識と学問的方法を修得するために、順次性と相互の関連性を明確に意識した専門的な演習や講義科目を設置する。これによって専門性を身につけるとともに、問題を発見し、解決するための汎用的能力を培う。
2. 学びの集大成としての卒業論文（卒業研究）を必修とする。卒業論文は、教員指導の下、自らテーマを主体的に設定し、学士課程において培った問題発見・問題解決能力を活かして完成させなければならない。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 学修効果を高めるために、アクティブ・ラーニング（主体的学修）を積極的に取り入れる。
2. 専門分野の演習科目においては、読解力・思考力を高めるために、主に原典や一次資料を取り扱う。

アドミッション・ポリシー

本学部では、全学のアドミッション・ポリシーに加えて、学科毎に入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めています。

神道学科の3つのポリシー

令和6年度以前の入学生については、
右の2次元コードから確認してください。



教育研究上の目的

神道学科では、大学の目的(学則第1条)、文学部の教育研究上の目的(同第3条の2)に加えて、以下の目的(同第3条の2)を定めています。

日本人が守り伝えた民族固有の信仰であり日本文化の根源である神道を、祭祀学・古典研究・神道史学・神道思想・宗教学などの分野を通して教育・研究するとともに、将来、現代社会の諸課題に真摯に対応できる神職をはじめ、各界において指導的な役割を果たす人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

神道学科では、大学全体(学部全体)の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています。

1. 神道の祭祀・古典・歴史・思想について幅広い知識を身につけて、日本の伝統的な神観念・人間観・世界観を理解し説明できる。
2. 日本の歴史・伝統・文化について理解を深め、その特質を説明できる。
3. 神社祭祀の概要を理解し、皇室・神宮・神社の祭祀について、その歴史や意義を説明できる。
4. 宗教学の基礎を身につけ、宗教史をふまえて日本の宗教事情や神道と諸宗教を比較し、的確に説明できる。

カリキュラム・ポリシー

神道学科では、大学全体(学部全体)の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています。

- 【1】教育内容については、次のとおり定める。
1. 祭祀学・古典研究・神道史学・神道思想・宗教学の分野ごとに科目を設置する。
 2. 各分野に関する基礎的・体系的な知識を段階的に修得するため、概論的科目を1~6セメスターに配置する。
 3. 関連諸文献の読解力をさらに高め、専門的研究方法と知識を身につけるため、1~6セメスターで「講義」科目と「講読」科目を学び、3~4セメスターの「基礎演習」科目と、5~8セメスターの「演習」科目に接続する。
 4. 神道・宗教文化コースを置き、5セメスターより、各演習(ゼミ)を選択する。演習は、祭祀学・古典研究・神道史学・神道思想・宗教学の観点から専門的な学びをより深める。
 5. 修学の集大成として、各自のテーマを定めて調査・研究・実習等を行い、個別指導のもとに卒業論文を作成する。また、専門科目の学修を通して、皇室・神宮・神社に関する精確な知識を学ぶと共に、皇室・神宮・神社を敬う精神を育む。
 6. 神職課程では、「祭式及び同行事作法」や「神務実習」等の所定単位を履修し、祭祀の齋行及び神社の管理・運営に必要な技能・知識を修得する。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 講義形式の他、アクティブ・ラーニング（主体的学修）やPBL（問題発見解決型学修）を教育方法として実施する。
2. 各科目の評価は、大学全体としての共通の評価方針（アセスメント・ポリシー）に従って行う。また、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、厳格な卒業認定を行う。

アドミッション・ポリシー

神道学科では、大学全体（学部全体）の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 神道・神社に興味を持ち、それを学びたいと考えている。
2. 雅楽・神楽等日本文化の歴史と伝統を理解し、後世に伝えたいと思っている。
3. 神職を志す強い信念を持ち、祭式作法等の技能の修得を目指している。
4. 高校時代に学んだ日本の古典や歴史・文化に関する知識を、さらに深めたいと考えている。
5. 世界の宗教・神話を学びたいと思っている。

国文学科の3つのポリシー

令和7年度以前の入学生については、右の2次元コードから確認してください。



教育研究上の目的

国文学科では、大学の目的(学則第1条)、文学部の教育研究上の目的(同第3条の2)に加えて、以下の目的(同第3条の2)を定めています。

日本文化の中核を成す国語と国文学を教育・研究することにより、豊かな感受性、柔軟な思考力、的確な表現力を身につけ、日本文化の担い手としての自覚を有しつつ、現代社会の諸課題にも積極的に対処し得る自立した人間を育成する。

ディプロマ・ポリシー

国文学科では、大学全体(学部全体)の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています。

1. 国語と国文学及びその関連分野の基礎的な知識をもち、説明することができる。
2. 文学作品及び関連する資料を読解することができる。
3. 国語と国文学及びその関連分野において、自ら課題を発見しそれを調査・考察し、論理的に表現することができる。
4. 書道、漢文学や図書館学に関する知識を有し、その技術を使うことができる。
5. 国語と国文学及びその関連分野の学修を通じて、人間の営みと日本の文化に対する関心をもち、地域や現代社会の諸課題にも対処しようとする意欲を有している。

カリキュラム・ポリシー

国文学科では、大学全体(学部全体)の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 専門科目に関して1年次(1・2 Semester)を導入、2年次(3・4 Semester)を基礎、3年次(5・6 Semester)を発展、4年次(7・8 Semester)を応用と位置づけ、段階的かつ有機的な学修を展開する。
2. 国文学(古典文学・近代文学)、国語学、漢文学、書道、図書館学の各分野に科目を設置し、幅広い学力を身につけることができるようにする。さらに、履修モデルとして「国語学・国文学コース」「国語教育コース(中高教員)」「書道・漢文学コース」「図書館司書コース」を設置する。
3. 各分野の概要を述べる概論的科目は、国語・国文学に関する基礎的かつ体系的な知識を、具体的な作品読解力の進展に応じて修得できるようにするために、1~4 Semesterに分散して配置する。
4. 2・3 Semesterに文献読解の技術を学ぶ講読科目、4・5 Semesterに研究の対象に関する知識と方法を学ぶ講義科目、5~8 Semesterに研究を実践する演習科目を段階的に設置する。
5. 大学における学修の集大成としての卒業論文作成を課す。自ら課題を発見して、それについての調査・考察を行い、論理的な文章としてまとめることができるように指導を行う。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 大学全体の方針に沿い、講義形式の他、アクティブ・ラーニング（学生の能動的な学修への参加を取り入れた学修方法）やPBL（「課題解決型学修」「問題解決型学修」）も取り入れた教育方法も実施する。
2. 個別の科目では、大学全体の方針に沿って評価する。卒業論文においては「卒業論文の評価基準」（国文学科）に則って客観的に評価する。
3. 国語・書道の中学校・高等学校教員や図書館司書・司書教諭の資格取得に必要な科目を、適宜国文学科の専門科目として配置し、その分野の専門職業人としての実践に役立つ指導を行う。

アドミッション・ポリシー

国文学科では、大学全体（学部全体）の入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 日本のことばと文学に対して興味をもち、それを学ぼうとする強い意欲を有している。
2. 自らの考えを日本語でわかりやすく表現することができる。
3. 国文学を学ぶ上で基本となる教科「国語」のうち、「現代の国語」「言語文化」「論理国語」「文学国語」「古典探求」の科目を履修、もしくは同等の学力を有している。

国史学科の3つのポリシー

令和7年度以前の入学生については、右の2次元コードから確認してください。



教育研究上の目的

国史学科では、大学の目的(学則第1条)、文学部の教育研究上の目的(同第3条の2)に加えて、以下の目的(同第3条の2)を定めています。

日本の歴史と伝統に根ざした祖国愛の精神を基軸とし、史料主義・原典主義にたち、バランスのとれた中正な歴史認識を確立することによって、多様な現代社会を、日本人として冷静に読み解き、将来を展望する見識ある人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

国史学科では、大学全体(学部全体)の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています。

1. わが国の歴史の流れや、伝統や文化の特質を説明することができる。
2. 歴史学の特質と現状について理解し、歴史研究の意義を伝えることができる。
3. 史料の厳密な読解、資料の分析によって歴史事実を考証し、バランスのとれた中正な歴史認識をもつことができる。
4. 多様な現代社会を、日本人として冷静に読み解くことができる。
5. 史料や資料の収集・整理をし、これらを保存・活用していくことができる。

カリキュラム・ポリシー

国史学科では、大学全体(学部全体)の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 古代史・中世史・近世史・近現代史の4区分に基づいた時代別の科目、および東洋史をはじめとする分野別の科目に、関連諸学問の科目も、あわせて設置する。
2. 1～4セメスターに「概説」科目、5・6セメスターに「特講」科目を配置し、歴史学に関する基礎的、かつ体系的な知識を幅広く修得し、歴史を多角的な視点から捉えることができるようにする。
3. 1～4セメスターに「講読」科目、5～8セメスターに「演習」科目を配置し、段階的に史料を読解する力を養い、実証的な研究方法を身につけることができるようにする。
4. 6セメスターまでの勉学の集大成として、7・8セメスターに卒業論文作成を課し、みずから課題を発見し、それについての調査・研究を行い、論理的な文章としてまとめることができるよう、個別に指導を行う。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 大学全体の方針に沿い、講義形式、演習形式などの他、アクティブ・ラーニング(主体的学修)を取り入れた教育方法も実施する。
2. 個別の科目では、大学全体の方針に沿って評価する。卒業論文は、学術論文としての評価に耐えうるかを基準として、客観的に評価する。
3. 高校の地理歴史・公民、中学校の社会などの教員、博物館学芸員・図書館司書などの資格取得に必要な科目のうち、歴史学の分野に含まれるものを、国史学の専門科目として配置し、その分野の専門職業人としての実践に役立つ指導を行う。

アドミッション・ポリシー

国史学科では、大学全体(学部全体)の入学受入れの方針(アドミッション・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています。

1. わが国の歴史や文化に関心を持ち、それらを学ぼうとする強い意欲をもっている。
2. 史料や文化財の価値を見出し、それらを後世に伝えていきたいという意欲をもっている。
3. わが国の伝統・文化を理解し、祖国愛の精神にもとづいて、国家・社会で活躍しようとする意欲をもっている。
4. 物事を論理的に考えることができ、また、自分の考えをわかりやすく表現できる。
5. 高等学校で履修した主要科目・教科について基礎的な知識をもち、特に日本史、または世界史に関する科目を履修しているか、それと同等の学力をもっている。

コミュニケーション学科の3つのポリシー

教育研究上の目的

コミュニケーション学科では、大学の目的（学則第1条）、文学部の教育研究上の目的（同第3条の2）に加えて、以下の目的（同第3条の2）を定めています。

「英語」、「心理学」、「情報学」の3分野の教育・研究を通じて、日本の文化や社会を広く世界に発信し、英語教育や国際的なビジネス、こころと行動のメカニズムの解明、情報社会に貢献できる人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

コミュニケーション学科では、大学全体（学部全体）の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 英語、心理学、情報についての幅広い知識・技能を身につけて、学んだ内容を自分の言葉で説明することができる。
2. 他者の異なる意見や他から得た情報を客観的に判断して自らの考えを論理的に整理し、他者が理解できるように文章や発話によって表現することができる。
3. 英語、心理学、情報についての知識や技能を活用し、問題解決に主体的に取り組み、個人や社会の多様性を尊重して対応することができる。

カリキュラム・ポリシー

コミュニケーション学科では、大学全体（学部全体）の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 履修モデルとして、「英語コミュニケーションコース」、「英語教育コース（中高教員）」、「心理学コース」、「情報コース」を設置する。
2. 1・2セメスターには、各分野の基本的知識を修得するための概論的科目を設置する。3セメスター以降には専門科目を段階的に配置し、体系的な専門知識、研究方法、社会生活で必要とされる実践力の修得をめざす。
3. 英語コミュニケーションコースおよび英語教育コース（中高教員）では、基礎的な英語運用能力の向上を図るための科目を1・2セメスターに配置する。3セメスター以降では、中等教育や国際的なビジネスで必要とされる実践的な英語運用能力を身につける。さらに、日本の歴史と文化を英語で発信する能力の修得をめざす。
4. 心理学コースでは、心理学諸分野の基礎知識を学び、社会生活と心理学のかかわりについて考える科目を1・2セメスターに配置する。3セメスター以降では、人間の心理と行動を理解するために必要な専門的知識を深め、心理測定技能とデータ分析能力の修得をめざす。

5. 情報コースでは、データサイエンスやウェブサイト構築に関する基礎知識を1・2 Semesterで身につける。3 Semester以降は、データ分析とプログラミング関連知識を深め、高度な情報収集・加工・分析・発信能力の修得をめざす。
6. 7・8 Semesterでは、大学における学びの集大成として自らが設定した研究課題に取り組み、個別指導のもとで卒業論文（卒業研究）にまとめる。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 英語コミュニケーションコースおよび英語教育コース（中高教員）では、英語による双方向対話型授業、課題解決型学修を導入し、実践的な英語運用力と英語教育力の向上につとめる。海外英語研修も積極的に活用する。
2. 心理学コースでは、グループワークを中心に据えた授業において、実験、調査、検査などの実習を繰り返し、実証的研究を行うために必要な測定技能とデータ分析能力の向上につとめる。
3. 情報コースでは、プログラミングとデータ分析を系統的に学び、身近な事例を対象とした情報を収集・加工・分析・表現することによって、高度情報社会で通用する情報運用能力の向上につとめる。

アドミッション・ポリシー

コミュニケーション学科では、大学全体（学部全体）の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 英語運用能力と国際的教養を身につけ、教育現場や国際交流の場面で活躍したいという意欲を有している。
2. 人間の心理と行動に関心を抱き、心の健康や他者支援について学び、地域・職場・家庭での生活に役立てたいと考えている。
3. 地元地域への貢献に意欲をもち、情報通信技術とデータ分析力を身につけ、情報通信技術の活用方法について学びたいと考えている。

教育学部・教育学科の3つのポリシー

令和6年度以前の入学生については、右の2次元コードから確認してください。



教育研究上の目的

教育学部・教育学科では、大学の目的（学則第1条）に加えて、以下の目的（同第3条の2）を定めています。

日本の伝統と文化に根ざした豊かな人間性を備え、教育諸科学に係る専門的知識や技能を活用して、現代の教育課題の解決に向けて実践的に即応する能力を有する人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

本学部・学科は、その教育目的を達成するために、大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、次のような人材の育成を方針として定めています。

1. 教育に関する確かな知識やそれを伝える豊かな表現力を持ち、激しく変化していく社会の教育課題に的確に対応できる高い技術を身につける。
2. 子どもの心身の成長を支え、さまざまな課題を発見し、その問題を主体的・積極的に工夫し、解決する能力を身につける。
3. 日本の歴史と伝統そして文化に立脚した広い視野を持つと同時に、それとは異なる歴史や伝統、文化を持つさまざまな世界を尊重しながら未来を創造していく教育に関心を持つ資質を身につける。
4. 教員としての使命感や責任感を持ち、多様な他者と協働しながら目標に向かい、よりよい社会の実現に寄与することができる。
5. 高い志、公正な態度、広い視野、柔軟な思考等、教員としてふさわしい人格を身につけ、子どもに知育・徳育・体育の指導を適切にバランスよく行うことができる。
6. 教育学及びその関連分野において、自ら課題を発見しそれを探究し、論理的に表現することができる。
7. 以上の目標に加え、各コースにおいて身につける資質・能力は以下の通りである。
 - ・初等教育コースでは、小学校教育に即応した学習内容の追究と各教科の指導法を修得し、教科毎に授業が展開できるとともに、個々の発育発達に応じた対応ができる。
 - ・幼児教育コースでは、保育・教育の理論と実践的な保育技術を修得し、適切な乳幼児理解の下、感受性豊かな好奇心に富んだ子どもを育てる保育ができる。
 - ・保健体育コース（中高教員）では、体育やスポーツ、健康に関する科学的理論と実践を融合させ、個々に応じた保健体育の授業ができる。
 - ・数理教育コース（中高教員）では、数学・理科教育に関する諸概念を、高い専門性と理論性をもとに学び、諸問題を主体的・発見的に探究し、多角的に分析・解決する力と発展・統合する力を身につけることができる。

カリキュラム・ポリシー

本学部・学科は、そのディプロマ・ポリシーを実現するために、全学的なカリキュラム・ポリシーに加えて、以下の学部独自のカリキュラム・ポリシーを定めています。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 専門科目については、導入、基礎、発展、応用の4領域別に4つのコースに必要な科目をそれぞれ設置する。
2. 1・2 Semesterでは主に教育学に関する概論を、3～6 Semesterでは教育学の本質や方法論、各教科内容の研究と実践または実技を、各コースの違いに応じて系統的に修得できるようにする。7・8 Semesterではさらに、それぞれの関心に従って、専門的な学力を身につける。
3. 当該Semesterにおける各種の教育・保育実習の経験や、また正課外の学校ボランティア等の体験学修プログラムを通して、実際の教育現場の取り組みを知り、子どもとの関係を切り結ぶことにより、将来教員になるためのモチベーションや実践力、対応力を高める。
4. 7・8 Semesterでは、6 Semesterまでの学修の集大成として卒業研究を課し、自らの関心に従って課題を設定し、問題を客観的に分析・解決することができるよう、ゼミを単位とした個別のおよび集団的学修の中で、卒業論文を完成させる。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 4領域に配置された4つのコースに必要な科目特性を考慮し、学生の主体的な学修を引き出すことができる教育方法を導入する。
2. 教育の方法として、少人数によるグループ・ワークや討論等を導入し、アクティブ・ラーニングの視点に立った主体的・対話的で深い学びの学修を進め、将来の教員に求められる資質・能力を開発していく。

アドミッション・ポリシー

本学部・学科では、全学のアドミッション・ポリシーに加えて、ディプロマ・ポリシーにふさわしい入学者として、以下のような人物を求めています。

1. 子どもを愛し、1人1人の子どもが持つ個性や能力及び人間性を育てていくことに喜びを感じ、それに対する強い使命感を有している。
2. 日本の歴史と伝統そして文化を尊重し、それを子どもに継承していくとともに、新しい知識・技能を柔軟に取り入れ、応用して活用することができる。
3. 教育や保育に関する学修に目的意識を持ち、社会に参画し貢献しようとする強い意欲を有している。
4. 卒業後、初等教育コース入学者は小学校の教員、幼児教育コース入学者は幼児教育・保育・福祉関係職員、保健体育コース入学者は中学校・高等学校の保健体育教員、数理教育コース入学者は中学校・高等学校の数学・理科教員、または数理能力を生かした専門職に就く強い意志を有している。

現代日本社会学部・現代日本社会学科の3つのポリシー

教育研究上の目的

現代日本社会学部・現代日本社会学科では、大学の目的（学則第1条）に加えて、以下の目的（同第3条の2）を定めています。

「経営革新」「地域創生」「福祉展開」という3コースの教育を通じて、現代日本の各領域においてリーダーとして貢献できる人材を養成する。その人材像を具体的に言えば、諸課題に対して、確固とした倫理観に基づいて、主体的に、現代日本の特徴を理解し、洞察力、コミュニケーション力、実践力、応用力を駆使して、創造的に対処できる幅広い職業人である。

ディプロマ・ポリシー

本学部・学科は、その教育目的を達成するために、大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、次のような人材の育成を方針として定めています。

1. 現代日本の「経営革新」「地域創生」「福祉展開」の3コースについて、基礎的な知識を身につけ、日本の課題を概説できる。
2. 3コースのいずれかについての専門的な知識を修得し、当該分野に関する日本の課題を論じることができる。
3. 現代日本における自らが選択した課題の意義を説明し、解決に向けた方策を考えることができる。
4. 日本の伝統文化に関わる領域で、基本的な作法・技能を体験し、身につけ、その情報を発信できる。
5. 諸課題に対して、リーダーとして貢献できるだけの倫理観、洞察力、コミュニケーション力、実践力、応用力を有し、制約された条件下においても、その能力を創造的に駆使できる。

カリキュラム・ポリシー

本学部・学科は、そのディプロマ・ポリシーを実現するために、各段階の教育において課題を「乗り越える」体験を積むことをめざして、全学的なカリキュラム・ポリシーに加えて、以下の学部独自のカリキュラム・ポリシーを定めています。

- 【1】教育内容については、次のとおり定める。
1. 課題解決能力を養う基礎を固めるために、現代日本の諸課題とリーダーシップを学ぶ基礎科目を置く。
 2. 3コースに通底する現代日本の課題と特徴を学ぶために基幹科目を置く。
 3. 3コースのいずれかについて、当該領域および周辺・関連領域の専門知識を修得するために展開科目を置く。
 4. 倫理観、洞察力、コミュニケーション力、実践力、応用力の修得・向上を図るために実習科目を置く。

5. 基礎科目、基幹科目、展開科目、実習科目での学びを、段階的に統合するために、全セメスターを通じて演習科目を置く。
6. 特に「展開科目」に公務員試験対応の科目を置く。
7. 自ら選択した現代日本の課題の意義を説明し、解決に向けた方策を考え、効果的に提示できるようにするために卒業研究を置く。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 大学全体の方針に沿い、講義形式の他、アクティブ・ラーニング（学生の能動的な学修への参加を取り入れた学修方法）やPBL（課題発見・解決型学修）を取り入れた教育方法も実施する。
2. 個別の科目では、大学全体としての共通の評価方針（アセスメント・ポリシー）に従って評価する。また、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、厳格な卒業認定を行う。

アドミッション・ポリシー

本学部・学科では、全学のアドミッション・ポリシーに加えて、ディプロマ・ポリシーにふさわしい入学者として、以下のような人物を求めています。

1. 現代日本の諸課題に対し、主体的・創造的に対応しようとする意欲を有している。
2. 国民の生活を支えるために公共機関で働きたいと考えている。
3. 民間企業で働いたり、事業を起こしたりすることを通じて、地域活性化に貢献したいと考えている。
4. 福祉関係の職に就いて援助を必要としている人を支援したいと考えている。
5. 日本の伝統文化を継承・発展・発信したいと考えている。
6. 「学びを人生や社会に生かそうとする志」「生きて働く知識技能を修得しようとする意欲」「未知の状況にも対応できる能力を身につけたいとの願い」を持っている。この「志」「意欲」「願い」を特に重視する。

▶ 学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー） ◀

皇學館大学では、ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーに基づき、大学全体レベル（機関レベル）、学部・研究科レベル（教育課程レベル・授業科目レベル）の2段階で、学修成果を検証します。

検証ツール（大学全体）

	入学前・入学直後 アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの検証	在学中 （単位認定・進級判定） カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかどうかの検証	卒業時 （卒業後） ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうかの検証
大学全体レベル （機関レベル）	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各種入学試験 ◆ 調査書等の記載内容 ◆ 面接、自己推薦書等 ◆ プレースメントテスト（日本語） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 外部英語力テスト ◆ 大学 I R コンソーシアム学生調査 ※1 ◆ 退学・除籍率（1年間／4年間） ◆ 海外研修プログラム参加者の成果 ◆ 英語学習アドバイザーの利用状況 ◆ 資格・免許取得者 ◆ 卒業時アンケート調査 ◆ 履修単位数状況 ◆ シラバス ◆ プレースメントテスト（英語） ※2 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 卒業時アンケート調査 ◆ 学位授与数 ◆ 就職率・進学率 ◆ 就職先・業種 ◆ 就職先満足度（卒業時） ◆ 大学 I R コンソーシアム学生調査 ※1 ◆ 退学・除籍率（1年間／4年間） ◆ 資格・免許取得者 ◆ 課外活動状況

※1 大学 I R コンソーシアム学生調査

大学 I R コンソーシアムの学生調査を学習プロセスの間接アセスメントとして利用。学生の学習行動や学習時間、能力に関する自己評価、満足度を中心に調査し、学生自身が大学での学びをどのように受けとめて、どのように評価しているのかを調べます。会員校が共通の調査項目で実施するため、ベンチマーク可能な標準調査として位置づけられます。学生調査の結果をコンソーシアム会員校全体と比較することで、各大学の特徴を見出すことができます。

※2 プレースメントテスト（英語）

新入生登学日に英語の習熟度テストを実施し、その結果に基づくクラス編成により授業を実施しています。

検証ツール（文学部・教育学部・現代日本社会学部）

	入学前・入学直後 アドミッション・ポリシーを 満たす人材かどうかの検証	在学中 （単位認定・進級判定） カリキュラム・ポリシーに則って 学修が進められているかどうかの 検証	卒業時 （卒業後） ディプロマ・ポリシー を満たす人材になった かどうかの検証
教育課程 レベル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各種入学試験 ◆ 外部英語力テスト ◆ 面接、自己推薦書等 ◆ 新入生アンケート調査 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ GPA ※1 ◆ 修得単位数 ◆ 資格・免許取得者 ◆ 大学IRコンソーシアム 学生調査 ※2 ◆ 退学・除籍率 (1年間/4年間) ◆ 休学率 ◆ 卒業時アンケート調査 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 卒業時アンケート 調査 ◆ 学位授与数 ◆ 卒業論文 ◆ 就職率・進学率 ◆ 就職先・業種 ◆ 就職先満足度 (卒業時) ◆ 大学IRコンソー シアム学生調査 ※2 ◆ 退学・除籍率 (1年間/4年間) ◆ 休学率 ◆ 資格・免許取得者 ◆ 課外活動状況
授業科目 レベル		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 成績評価 ◆ 学生授業評価アンケート 	

※1 GPA

GPAとは「Grade Point Average」の略で、科目の評価をグレードポイント（GP）に換算し、1単位あたりのグレードポイントの平均値を算出するもの。本学のGPAは、履修登録した科目毎の5段階評価（秀、優、良、可、不可・放棄）を4から0までのGP（Grade Point）に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点。

※2 大学IRコンソーシアム学生調査

大学IRコンソーシアムの学生調査を学習プロセスの間接アセスメントとして利用。学生の学習行動や学習時間、能力に関する自己評価、満足度を中心に調査し、学生自身が大学での学びをどのように受けとめて、どのように評価しているのかを調べます。会員校が共通の調査項目で実施するため、ベンチマーク可能な標準調査として位置づけられます。学生調査の結果をコンソーシアム会員校全体と比較することで、各大学の特徴を見出すことができます。

平成31年度～令和4年度の入学生については、右の2次元コードから確認してください。



2. 各学科と各コース

時代の変化や現代社会のニーズに応えるため、各学科にきめ細かくコースを設置しています。コースの詳細については、学科別の履修指導等にてお知らせします。

文学部

● 神道学科（1コース）

多様な視点から神道を学ぶことにより、日本の歴史や伝統、文化を理解し、社会の発展に貢献できる人材をめざします。神社での実習や祭式作法・雅楽など、実践的な授業が充実。「神職課程」を修了すれば、4年間で神職階位（神職の資格）が取得できます。

神道・宗教文化コース

古典・歴史・思想・祭祀を通じて神道の本質を探究するとともに、国内外の宗教文化への理解も深めます。

この学科の主な将来の進路

- 神社界（神職）
- 神社宝物館学芸員
- 中学校・高等学校教員（宗教）
- 一般企業
- 公務員 など

● 国文学科（4コース）

日本語の構造や表現などを学ぶ「国語学」と、上代・中古・中世・近世・近代・現代にかけての幅広い「国文学」を中心に、漢文学・書道・図書館学など、さまざまな領域について学修。美しい日本語・文学を鑑賞する感受性と、豊かで正確な表現力を養います。

国語学・国文学コース

日本の文学作品を読解し、日本語への理解を深めることで、作品を正確に読み解く力、豊かな感受性と思考力、表現力を培います。

国語教育コース（中高教員）

培った専門知識を学校教育の現場で活用できる技能を修得し、中学校・高等学校の国語科教員をめざします。

書道・漢文学コース

多様な書風を書く技術と書道教育に必要な知識を修得し、漢文作品を通して、中国文化とその日本への影響についての理解をめざします。

図書館司書コース

書物文化や図書館の理念、本と子どもを結びつける手法、読書文化など、地域の文化振興に役立つ知識と技術を学びます。

この学科の主な将来の進路

- 中学校教員（国語）
- 高等学校教員（国語・書道）
- 小学校教員
- 図書館司書
- 学校司書
- 一般企業
- 公務員 など

● 国史学科（3コース）

古代・中世・近世・近現代と東洋史の各時代に専任教員を配置し、1年次から日本の歴史に特化した授業を展開。少人数クラスによる講読・演習、国内外の史跡や博物館を訪ねるフィールドワークなど、一般の「歴史学科」とは一線を画し、日本史を深く追究していきます。

国史総合コース

国史に関する知識を中心としつつ、東洋史、西洋史など、「歴史」をさまざまな側面から幅広く学ぶことによって、わが国の歴史の特質を発見する幅広い力を養い、多様な分野での活躍をめざします。

歴史教育コース（中高教員）

歴史の事実を発見する力を修得。中学校・高等学校の教員（社会・地歴・公民）をはじめ歴史教育に関わる分野での活躍をめざします。

歴史文化財コース

文化財を取り扱う力、文化財から歴史を体感できる力、さらに古文書の読解を学び、博物館学芸員などの分野での活躍をめざします。

この学科の主な将来の進路

- 中学校教員（社会・国語）
- 高等学校教員（地歴・公民・国語）
- 小学校教員
- 博物館学芸員
- 一般企業
- 公務員
- 神社界（神職）など

● コミュニケーション学科（4コース）

「英語コミュニケーション」「英語教育（中高教員）」「心理学」「情報」の4コースでの専門的な学びを通して、グローバル社会で活躍し、社会に貢献できる実力を身に付けます。教員免許状（中学校・高等学校、小学校）をはじめ、心理学や情報関連の資格取得も可能です。

英語コミュニケーションコース

英語で意見を的確に伝え、日本の魅力を発信できる力を養成。国際的なビジネスの場で活躍できる人材をめざします。

英語教育コース（中高教員）

英語で授業をするために必要な英語力を培うとともに英語の教え方について実践的に学び、中学校・高等学校の英語教員をめざします。

心理学コース

心理学の多様な知識と心理測定の基礎技能を身に付け、深い他者理解と心理的支援に役立つ力を養います。

情報コース

社会の現状と課題を観察し、問題解決と社会発展のための方策を考えるうえで必要な情報・データリテラシーの修得をめざします。

この学科の主な将来の進路

- 中学校教員（英語・国語・社会）
- 高等学校教員（英語・国語・地歴・公民）
- 小学校教員
- 一般企業
- 公務員 など

教育学部

● 教育学科 (4コース)

小学校教員をめざす「初等教育コース」、幼児教育関係の指導者をめざす「幼児教育コース」、中学校・高等学校の保健体育教員あるいは身体運動に関する指導者をめざす「保健体育コース」、中学校・高等学校の数学・理科教員または数理能力を生かした専門職をめざす「数理教育コース」の目的に合わせて選べる4コースを設置。

初等教育コース

教育者に必要な知識を理論と技術の両面から学び、人間教育が重視される時代にふさわしい小学校教員をめざします。

幼児教育コース

教育・保育・福祉の学びを重ね、子どもにやさしく、保護者に信頼される幼稚園教員・保育士をめざします。

保健体育コース (中高教員)

運動のすばらしさと重要性を理論的かつ感覚的に伝えられる保健体育教員やスポーツ指導者をめざします。

数理教育コース (中高教員)

数学のおもしろさと奥深さを伝え、豊かな創造力を育む「数学教員」、理科を学ぶ魅力を伝え、探究心を伸ばす「理科教員」を養成します。

この学科の主な将来の進路

- 小学校教員
- 中学校 (数学・理科・保健体育・国語・社会・英語)
- 高等学校教員 (数学・理科・保健体育・国語・地歴・英語)
- 幼稚園教員
- 保育士
- 保育教諭
- 公務員
- 一般企業 など

現代日本社会学部

● 現代日本社会学科 (3コース)

日本の伝統や文化、社会人としての基本的なマナー、主体的に取り組む姿勢などを学んだうえで、問題解決に向けて自ら行動し解決できる力を養成。経営、地域、福祉などの視点から、現代日本のさまざまな問題を解決できる人材の育成をめざします。

経営革新コース

地域から国家まであらゆる組織の課題を探究し、その経営革新を実現するために必要な能力を育成します。

地域創生コース

現場を知るフィールドワークを重視。徹底した調査・分析を通して地域の問題を解決できる能力を育成します。

福祉展開コース

社会福祉士などの国家資格取得をめざすとともに、福祉マインドを活用できる企業人・公務員を育成します。

この学科の主な将来の進路

- 公務員
- 一般企業
- 福祉施設・福祉事業所
- 病院などの医療機関
- 出版・メディア関係
- 起業家 など

3. 単位制度

単 位 制

大学における学修は単位制で行われています。単位制とは修業年限中（最低4年間）に卒業に必要な単位数を修得する制度です。

一つの授業科目は授業及びこれに要する事前・事後学習時間を基礎として構成されており、この「基礎」を単位といい、単位は学修の量を示します。各授業での事前・事後学習の内容については、Webシラバスを参照してください。

1単位に必要な学修時間は事前・事後学習を含み45時間とされており、そのうち授業での学修時間数を以下のとおり設定しています。

1 単位に必要な学修時間数

区 分	授業時間	事前・事後学習時間
講 義	15 時間	30 時間
演 習	15 時間	30 時間
	30 時間	15 時間
外 国 語 科 目	30 時間	15 時間
実験・実習・実技	30 時間	15 時間
	45 時間	0 時間

なお、一般的に、授業1回（90分）における学修時間数を2時間として計算します。

単 位 の 認 定（成績評価）

履修登録を行い、その授業科目を履修し、指示された試験を受ける、あるいは論文及び研究報告等を提出した結果、評価が合格点に達していれば単位が認定されます。

成績評価		評 点	G P
合 格 (認 定)	秀	90 点 以上	4.0
	優	89 ~ 80 点	3.0
	良	79 ~ 70 点	2.0
	可	69 ~ 60 点	1.0
未 修 了	不 可	60 点 未 満	0
	放 棄	—	

※認定科目はGPAの対象外となります。

※授業や試験を放棄すると成績評価が「放棄」となります。

GPA

GPAとはGrade Point Averageの略で、科目の評価をGP（グレードポイント）に換算し、1単位あたりのGPの平均値を算出するものです。

本学では通算GPAを利用しており、履修登録した各科目の評価を上の方のGPに置き換えて、GPにその科目の単位数を掛け、その総和を履修登録科目の単位数の合計で割って算出します。

GPAをもとに、自己の学習意欲及び質を客観的な数値として把握することで、個人の勉学意欲の向上をめざします。また、教育実習の各種実習の履修条件（各課程のページ参照）や、退学勧告、副専攻制度の認定条件及び特待生の選考等にも活用しています。

※ GPAによる退学勧告については、P.45 参照

GPAの計算方法

100点満点の評点を0から4までの5段階のGPに置き換えて、GPに単位数を掛けた数値の総和を登録単位数の合計で割ったものがGPAとなります（GPAは、小数点第三位以下を四捨五入し、第二位まで表示します）。

「不可」「放棄」は、GPが0となるため、GPAは下がります。履修登録した科目を受講しない場合は「放棄」(=GPが0)となるため、履修登録修正期間中に必ず科目登録を削除してください。

$$\frac{\text{(評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数)の合計}}{\text{評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

GPAのイメージ

例①

3科目履修し、その単位数が同じ場合

科目A (2単位) 優 (80点) = GP 3.0 × 2 = 6.0
 科目B (2単位) 良 (70点) = GP 2.0 × 2 = 4.0
 科目C (2単位) 可 (60点) = GP 1.0 × 2 = 2.0
 合計 12ポイント ÷ 6単位 = GPA 2.00

例②

単位数が多い科目の評価が低い場合

科目A (2単位) 優 (80点) = GP 3.0 × 2 = 6.0
 科目B (2単位) 良 (70点) = GP 2.0 × 2 = 4.0
 科目D (4単位) 可 (60点) = GP 1.0 × 4 = 4.0
 合計 14ポイント ÷ 8単位 = GPA 1.75

例③

例①と同じ履修で、「不可」や「放棄」がある場合

科目A (2単位) 優 (80点) = GP 3.0 × 2 = 6.0
 科目B (2単位) 放棄 (-点) = GP 0.0 × 2 = 0.0
 科目C (2単位) 可 (60点) = GP 1.0 × 2 = 2.0
 合計 8ポイント ÷ 6単位 = GPA 1.33

例④

「不可」や「放棄」をカバーするためには「可」ではなく「優」が必要

科目A (2単位) 優 (80点) = GP 3.0 × 2 = 6.0
 科目B (2単位) 放棄 (-点) = GP 0.0 × 2 = 0.0
 科目C (2単位) 優 (80点) = GP 3.0 × 2 = 6.0
 合計 12ポイント ÷ 6単位 = GPA 2.00

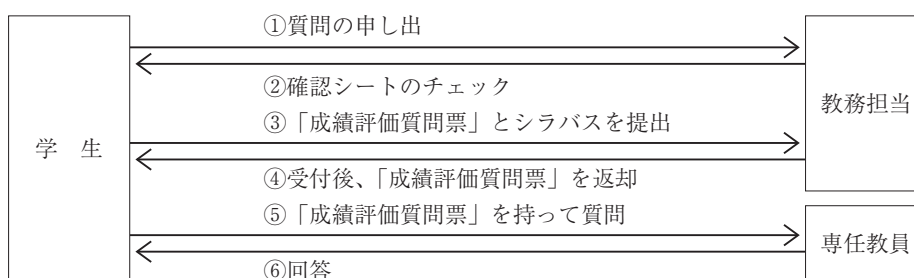
※ 履修登録後に開講学期が変更となった場合、成績表に表示される期間（春・秋・通年）とGPAに集計される学期が異なる場合があります。（成績が確定した学期のGPAの数値に算入します）

成績評価についての質問

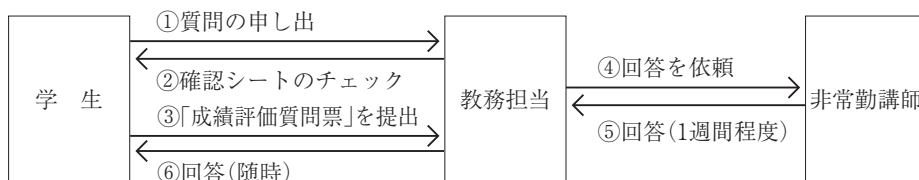
成績表の評価は、シラバスに示している「成績評価の方法」により試験等を実施し、「成績評価の基準」に沿って付与します。

成績評価について質問がある場合は、まず「成績評価の基準」を満たしているかを確認し、合理的かつ、具体的な根拠を示して説明できる場合に限り、学生支援部（教務担当）に申し出て、確認シートのチェックを受けた上で「成績評価質問票」を受け取ってください。「できたつもり」といった主観によるものは対象になりません。成績評価の質問は、所定の成績通知書配付日（学部4年次生及び専攻科生は成績開示日）から1週間以内に手続きする必要があります。期間を過ぎてからの質問は受け付けられません。

専任教員の担当する科目の場合



非常勤講師の担当する科目の場合



4. 授 業

学 内 授 業

1. 通常授業……春または秋学期と通年等で、時間割によって行う授業

春 学 期	4 月 10 日～7 月 30 日
秋 学 期	9 月 19 日～1 月 27 日 (12 月 23 日～1 月 6 日は閉講)

第 I 講時	9:30～11:00	第 IV 講時	15:10～16:40
第 II 講時	11:10～12:40	第 V 講時	16:50～18:20
第 III 講時	13:30～15:00	第 VI 講時	18:30～20:00

2. 集中講義……一定期間、集中的に行う授業

春 学 期	8 月 4 日～9 月 1 日
秋 学 期	12 月 23 日～28 日、2 月 1 日～6 日

3. 特別講義……必要に応じ、正課の時間に行う授業

学 外 授 業

1. 参拝見学、山室山参拝及びフィールドワーク (P.42参照)
2. 神務実習 (P.120～123、P.127～130参照)
3. 介護等体験実習・教育実習 (P.135～144参照)
4. 博物館実習 (P.191・192参照)
5. 保育士関係実習 (P.194・195参照)
6. ソーシャルワーク実習 I 及び II (P.209・210参照)
7. ソーシャルワーク実習 III (P.213・214参照)
8. 産業社会実習 (I・II)
9. 心理実習 他

授 業 の 欠 席

欠席の扱いについて

各授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席した場合は、その授業科目の修了認定を受けることができません。いわゆる「評価無資格者」となり、評価は「放棄」となります。なお、評価無資格者については、試験前に科目担当教員から伝達または掲示されることがありますので、注意してください。

また、本学では「欠席状況調査」を実施しています。5回目の授業までに、3回以上の欠席（4年次生については2回以上）が3科目以上確認された学生については、欠席過多として指導教員と保証人へ通知します。

欠席届の提出について

授業を欠席する場合は、「欠席届」を授業担当者へ提出してください。なお、「欠席届」の様式は、一般的な理由（風邪や通院、就職活動など）での欠席と、大学が配慮が必要と認める事由の欠席とで異なります。（次ページの表参照）

大学が配慮が必要と認める事由の欠席の場合は、「欠席届（要配慮）」に証明書類を添えて、確認者（または確認部署）に提出し、確認印を受けた上で授業担当者へ提出してください。ただし、集中講義については配慮がありませんので、注意してください。

出 席 停 止

学校感染症（インフルエンザ等）に罹患した場合は、学内感染の拡大を防ぐため、出席停止となります。医療機関で罹患の診断を受けた際には、登学せずに、欠席する授業が始まるまでに学生支援部（教務担当）に電話で連絡し、指示を受けてください。

また、治癒により医師から登校許可を受けた際には、診断書（罹患から完治までの期間が明記されたもの）を提出し、要配慮欠席の措置を受けてください。ただし、集中講義については配慮がありませんので、注意してください。

「欠席届」の書式等について

用紙	欠席理由	証明書類	確認者・部署
欠席届 (要配慮) * 教務担当窓口で 配付	課外活動のうち全国大会またはブロック大会 (中部・東海など)の試合・コンクール等への 参加(県大会は対象となりません)	学外活動許可願 参加者名簿	部の場合 部長 同好会の場合 顧問
	忌引(父母・配偶者・子の場合 5日) (祖父母・兄弟姉妹の場合 3日) (3親等までの血族の場合 1日) ※往復に必要な日数の追加可	会葬礼状等	教務担当 (記念講堂1階)
	学校感染症による出席停止	医師の診断書 (出席停止期間を明記)	
	実習(博物館実習、心理実習、ソーシャルワーク 実習、産業社会実習)及びその事前事後 指導	確認部署で証明	
	交通機関のスト・事故	当該交通機関の 遅延証明書	
	自己の責めによらない不慮の事故・災害	証明書	
	公的機関等からの派遣依頼	派遣依頼書	
	本学指定行事(初穂曳など)への参加	確認部署で証明	
	障がい学生支援室が認めた配慮	障がい学生支援室で証明	
神務実習	確認部署で証明	神職養成部 (4号館1階)	
教員免許・保育士資格取得に関する実習 (教育実習、保育所実習、児童福祉施設等実習、 教育観察実習、介護等体験実習) 及びその事前事後指導 *各実習の事前指導の際、教職支援担当より 配付	確認部署で証明	教職支援担当 (9号館1階百船)	
欠席届 証明書発行機横 のレターケース で配付	風邪、就職活動、就職試験、その他 理由を明記して、必要に応じて授業担当者に 直接説明してください。	-	-

※要配慮欠席について

要配慮に該当する欠席については、学修を保証する観点から、分母(授業回数)から除くのではなく、該当授業の内容に関する学修内容(課題やレポートの提出等)が指示され、それを完了することで、出席に準じた扱いを受けることとなります。

学修内容の指示は各担当教員によって異なりますので、必ず「欠席届(要配慮)」の提出時に指示を受けてください。「欠席届(要配慮)」を提出するだけでは配慮(出席に準じた扱い)を受けることにはならないため、注意してください。

要配慮欠席の授業担当者への提出時期

原則、要配慮欠席となった次の授業実施日まで(要配慮欠席となる日が授業の最終実施日の場合は1週間以内)とします。

ただし、やむを得ない事情により期限までに提出ができなかった場合は、提出可能となった直近の日までに授業担当者へ提出してください。その際、期限までに提出ができなかった事情も説明してください(説明内容に妥当性が見られない場合、受理されないことがあります)。

休 講 等

授業担当者が公務・病気等で授業ができなくなった場合は、休講となります。休講は担当者からの連絡があり次第、皇學館システム(PC・スマートフォン)にてお知らせします。また急な場合には当日の連絡になることもあります。なお、「学生ポータルサイト」でもさまざまな情報を確認することができます。

皇學館システム(皇學館大学ポータル)

<https://univision.kogakkan-u.ac.jp/>
ログイン後、個別に確認できます。



学生ポータルサイト

<http://sp.kogakkan-u.ac.jp/>



※特別警報・暴風警報発令時の一斉休講等のお知らせ(緊急の連絡含む)は本学公式HP(<https://www.kogakkan-u.ac.jp/>)または学生ポータルサイトを確認ください。

補 講

授業の進行あるいは休講を補う授業として補講が行われる場合があります。なお補講期間については以下のとおりですが、通常講義期間中の月曜から土曜のⅠ～Ⅵ講時（木Ⅴを除く）や日・祝日などの補講期間外に実施する場合がありますので、学生ポータルサイトや補講掲示を常に確認してください。

春 学 期	7月31日～8月3日
秋 学 期	1月28日、2月1日～2月4日

特別警報・暴風警報発令時について

三重県の伊勢志摩又は中部区域のいずれかの市町※1に、「特別警報」※2、または「暴風警報」が発令された場合の授業（試験を含む。）（以下「授業等」という。）は、休講とし、次のとおり取り扱います。

- (1) 午前6時までに解除されない場合は、午前中の授業等を休講とします。
- (2) 午前10時までに解除されない場合は、午後の授業等を休講とします。
- (3) 授業等の開始後に発令された場合は、原則としてその時限の授業等はいり、次の時限以降を休講とします。ただし、状況によって発令と同時に授業等を休講とする場合があります。

※1 「いずれかの市町」とは下記に示す市町

- ・三重県伊勢志摩区域：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町
- ・三重県中部区域：津市、松阪市、多気町、明和町

※2 「特別警報」とは下記に示すもの

大雨・暴風・高潮・波浪・暴風雪・大雪の各特別警報

その他の警報発令時について

教務担当学部長は、次の場合、各学部長及び大学事務局に授業等の休講措置を指示するものとします。

- (1) 伊勢市に大雨警報及び洪水警報が同時に発令され、本学周辺に洪水が発生またはそのおそれがある場合
- (2) 伊勢市に大雨警報が発令され、交通機関への影響により通学が困難である場合またはそのおそれがある場合
- (3) 上記以外の場合において、授業等を実施することが困難であると予想される場合

各種実習について

上記の措置に関わらず、神務実習、教育実習・ソーシャルワーク実習及びその他の学外で実施する実習については、各実習先の指示に従ってください。

不測の事態による交通途絶の場合の取扱いについて

授業担当教員は、悪天候または交通機関のストライキ等の不測の事態により交通手段が途絶したため学生が授業等を欠席した場合において、学生の届出（証明書添付）に基づき、その学生が通学不能であったと判断したときは、本人の不利益にならないよう配慮します。

休講及び授業再開の周知について

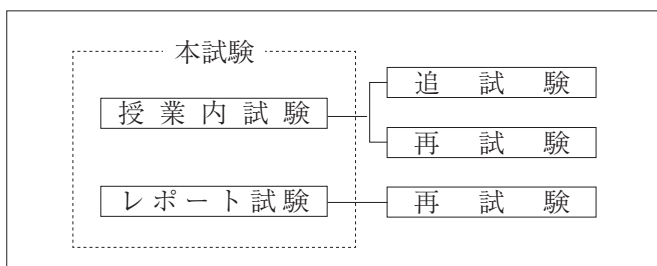
休講措置をとる場合または授業を再開する場合、本学公式ホームページ及び学生ポータルサイトへの案内により学生へ周知します。

授業実施方法の変更について

感染症等の感染拡大によっては、対面型授業から、オンデマンド型授業へ変更する場合があります。

5. 試 験

試験の種類



授業内試験

科目によっては、授業内で試験を実施する場合があります。この場合の試験日や持ち込み許可品等については、科目担当教員の指示に従ってください。

レポート試験

レポート試験を実施する科目があります。レポート提出が課された場合は、原則、以下の内容を遵守し提出してください。

提出方法	<ul style="list-style-type: none"> * レポートには、授業科目名、学生番号、氏名を記入した表紙を必ずつけてください。 * 2ヶ所をホッチキスで綴じ、欠落しないようにしてください。 * 学生支援部提出分は記念講堂の学生支援部カウンター横のレポート提出BOXに提出してください。
受付時間	平日 9時～16時30分 ※特に担当教員より指示のない限りレポートの 土曜日 9時～12時30分 提出締切日は 正午まで とします。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> * 一度提出したレポートは、訂正・ページの増減等の変更を一切認めません。 * 郵送、FAX等、指示された方法以外での提出は一切認めません。 * 締切を過ぎての提出や学生支援部での受け取り、預かりはできません。 * 担当教員への取り継ぎや連絡も行いません。

追 試 験

本試験をやむを得ない理由により受けられなかった場合は、皇學館大学試験規程第10条(P.231参照)によって追試験を受けることが認められていますが、本試験を受けられなかった理由が次ページ(1)～(13)のいずれかに該当し、かつ所定の手続きにより審査し許可された場合に限りです。なお、(10)～(13)の場合は、1科目につき追評価料3,000円が必要となり、得点の80%で評価されます。

ただし、自己の不注意によるものは、理由のいかんを問わず追試験を受けることができません。

追試験許可基準

理 由	証 明 書 類	受験料・評価
(1) 忌 引 (父母・配偶者・子の場合 5日) (祖父母・兄弟姉妹の場合 3日) (3親等までの血族の場合 1日) ※上記の日数に、往復に要する日数の追加も可能	会葬礼状等	無 料 (評価100%)
(2) 感染症による出席停止 (学校保健安全法に定められたもの)	医師の診断書 (実施当日を証明するもの)	
(3) 本学で認めた実習・体験 (往復に要する日数の加算可)	担当部署にて証明	
(4) 本学が認めた実習先での事前指導 (打ち合わせ含む)		
(5) 交通機関のスト及び事故	当該交通機関の遅延証明書	
(6) 課外活動のうち全国大会参加	学外活動許可願・参加者名簿	
(7) 自己の責めによらない不慮の事故・災害	証明書	
(8) 障がい学生支援室による配慮	障がい学生支援室長承認の事由書	
(9) 公的機関等からの派遣依頼 (本学が認めたもの)	派遣依頼書	
(10) 傷 病	医師の診断書 (実施当日を証明するもの)	
(11) 就職試験	学生支援部就職担当課長承認の 受験証明書	
(12) 課外活動のうち全国大会以外の公式戦参加	学外活動許可願・参加者名簿	
(13) その他本学が特にやむを得ないと認めたもの	事由書	

再 試 験

4年次(大学院及び専攻科の場合は修了年次)に限り、評価が不可となった授業科目について再評価願を提出したものは、皇學館大学試験規程第11条(P.231参照)の条件の下で再試験を受けることができます(1年間に16単位までとし、1科目につき3,000円の再評価料が必要)。

なお、卒業論文(研究)*については、再試験は実施しません。

* 卒業論文(研究)には口頭試問を含みます。

追試験・再試験受験手続き

追試験受験の願いは、当該科目の試験実施日を含む4日以内(土は含め、日祝などの休日は除く)に所定の「追試験願」に必要な証明書を添えて学生支援部(教務担当)に提出してください(手続きに学生証・印鑑・追評価料が必要)。ただし、卒業論文(研究)は対象外とします。

やむを得ない理由(感染症による出席停止等)により、上記期間内に手続きできない場合は、必ず期間内に学生支援部(教務担当)に電話にて申し出を行い、仮受付をしてください。仮受付を行わず、試験実施日から5日を過ぎた場合は、追試験の手続きはできません。

仮受付をした場合、登学可能となった初日(個人の授業の有無にかかわらず)に「追試験願」を学生支援部(教務担当)に提出してください。手続きを行わず、仮受付のままでは追試験を受験することはできません。

再試験受験の願いは、成績開示日を含み4日以内に「再評価願」を学生支援部(教務担当)に提出してください(手続きに学生証・印鑑・再評価料が必要)。

試験に関する伝達

試験の実施日及び関連事項は、科目担当教員より授業内にて発表します。

また、研究報告（レポート）提出による場合も、授業担当者より直接口頭で伝達します。

なお、追試験・再試験の実施日等については、掲示にて確認することになります。

論文・研究報告（レポート）

論文・研究報告（レポート）等は、指定された日時までに、学生支援部（教務担当）に提出してください。ただし、授業担当者に直接提出する場合があります。

なお、提出後の加筆・訂正・ページの増減等の変更は一切認めませんので、提出に際しては慎重に行ってください。

受験心得

- (1) 履修登録をしていない科目は受験できない。
- (2) 各授業科目について出席しなければならない時間数の3分の1以上欠席した者（＝「放棄」）は受験できない。
- (3) 試験場における行為は、すべて監督者の指示に従うこと。監督者の指示に従わない者、又受験態度不良の者は、不正行為とみなし直ちに解答を中止させる。
- (4) 座席指定された科目の受験者は、指定された座席に着席すること。
- (5) 認められたもの以外の持ち込みは許さない。試験開始後、試験に不正利用できる可能性のあるものを所持すること、及び身近に置くことは認めない。
- (6) 試験中の物品の貸借を禁止する。
- (7) 教科書その他使用を認められない物品は、監督者の指示するところに置く。
- (8) 学生証は必ず机上の見やすい位置に置く。万一忘れたときは必ず学生支援部（学生担当）に願い出て仮学生証の発行を受けること。学生証あるいは仮学生証を持っていないときは受験できない。
- (9) 試験開始後30分以上遅刻したときは、受験できない。
- (10) 試験開始後30分以上経過しなければ、トイレなどの一時退出を認めない。
- (11) 解答用紙等は、必ず氏名を明記して提出すること。無記名又は学生番号のないものは原則として無効となる。
- (12) 携帯電話・スマートフォン・ウェアラブルデバイス等の電子機器は電源を切り、かばん等にしまうこと。

不正行為に関する注意事項

試験やレポート等における不正行為は許されるものではありません。

どのような行為が「不正行為」に該当するのかを知り、不正行為と疑われないためにはどうすればよいのかをよく理解し、試験やレポートの作成に臨んでください。

【不正行為とは】

試験において、**受験心得**（履修要項P.37）の(3)~(7)及び(12)に反する場合やカンニング、試験中の私語は不正行為になります。また、筆記試験の答案やレポート・論文において、他者の文章やアイデアを無断で書き写すことも「剽窃（ひょうせつ）」という盗用にあたる不正行為になります。生成AIで出力された文章をそのまま用いることも剽窃・盗用にあたります。（P. 6 参照）

剽窃（ひょうせつ）…他人の作品・学説などを自分のものとして発表すること（大辞林）

【不正行為の発覚における処分】

筆記試験中に不正行為が確認された場合は、その場で解答を中断し、当該学期におけるすべての履修科目の受験資格を失い、成績評価を「放棄」とします。また、解答用紙やレポート・論文の文章に剽窃が確認された場合も、当該学期におけるすべての履修科目の受験資格を失い、成績評価を「放棄」とします。

さらに、いずれの場合も停学処分となります。

【剽窃を行わないために】

論述試験やレポート・論文においては、自分で考察したオリジナルの文章を作成しなければなりません。

自分で考察する際に引用した他者の文章やアイデア（図表や新聞記事など）については、必ず引用した箇所を「 」でくくり、その出典を明らかにする必要があります。出典には「著者名、書名・論文名、該当ページ、出版社、出版年」を記載します。詳しくは、各教員から指導を受けてください。

また、インターネット上の情報については、「URL、アクセス・閲覧した日付」を記載することで出典となりますが、インターネット上の情報は短期間で閲覧不可となることもあり、資料や文章の確認ができなくなる場合があるため、できるだけ印刷・出版物を利用するようにしてください。

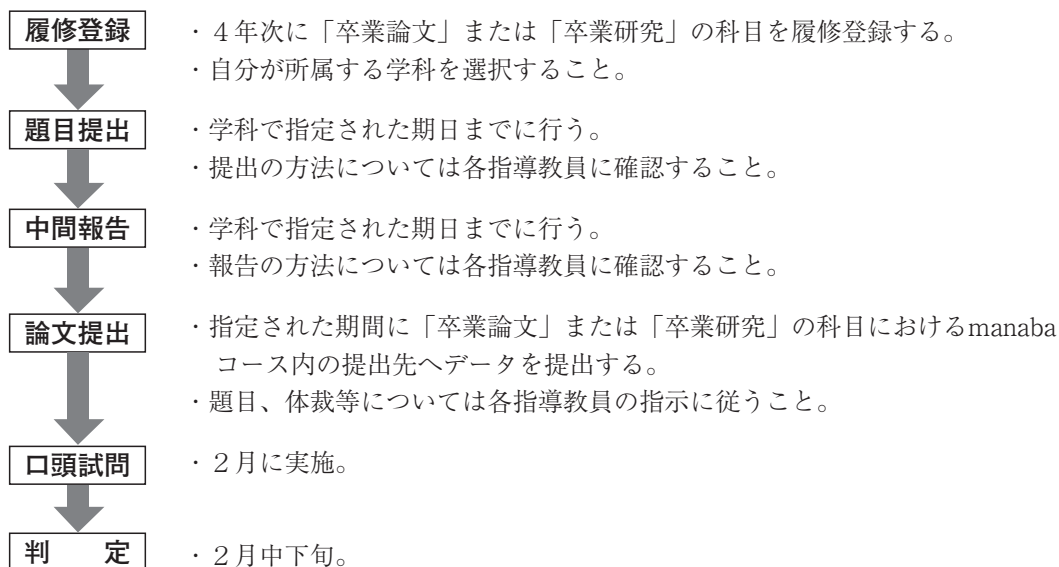
【不正行為の具体例】

- ・印刷・出版物、友人等の文章の全部、もしくは一部を書き写したもの（提供者が本学の学生であった場合には、提供者も不正行為として処分する）。
- ・インターネット上に書き込まれている他者の文章（Googleの検索結果、Wikipediaなど）をそのままコピーして貼り付け（いわゆる「コピペ」）したもの、あるいは一部でもそうした部分を含むもの。
- ・ChatGPTなどの生成AIで出力された文章をそのまま書き写したもの。
- ・Q&Aサイト（Yahoo!知恵袋など）に課題や問題を投稿し、その答えを自分の解答やレポートとして記載したもの。
- ・他者が作成した文章の前後関係や語句等を若干変更し、あたかも自分が作成した文章に見せかけたもの。

6. 卒業論文（研究）

卒業論文（研究）は4年間の研究の集大成となるものですから、安易に考えず、指導教員と連絡を密にし、十分指導を受けてください。

卒業論文（研究）の提出手順



注意)

- ①「題目提出」、「中間報告」及び「卒業論文（研究）の提出」が無い場合や、正当な理由なく口頭試問を欠席した場合、成績評価は「放棄」となります。
- ②卒業論文（研究）が不合格になった学生は、改めて次年度、履修登録を行ってください。
なお、8月または9月卒業の要件を満たす場合は、春学期末で修了できることがあります。

審査の方法・時期

卒業論文（研究）の審査は審査委員が担当し、審査は提出された論文（研究）を主に口頭試問と合わせて行い、2月下旬に合否が判定されます。

審査基準

卒業論文（研究）は、各学科のディプロマ・ポリシーに基づいて執筆または研究がなされていることを要します。

- (1) 資・史料、研究対象及び研究史などの情報を適切に扱っていること。
- (2) 自ら問題を設定し、その解決について論理的に説明していること。
- (3) 論文の形式が整っていること。

審査委員の構成

審査の委員は主査1人、副査1人より構成され、当該論文（研究）関係科目担当の専任教員が担当します。ただし、論文題目によっては所属学科以外の専任教員が担当することがあります。

卒業論文（研究）の指導教員

卒業論文（研究）の作成には、指導教員の指導助言を受けるものとされています。題目提出等、指導教員の指導や指示をうけて提出すべき書類がありますので、論文（研究）提出まで指導教員とは密に連絡をとり十分指導を受けてください。

8月又は9月卒業時の卒業論文（研究）について ※教務規程第4条（P.231）参照

4年次留年生が次の①及び②-1、又は①及び②-2の条件を満たす場合は、申請により春学期に卒業論文（研究）を提出することができます。

- ① 春学期の履修により卒業要件を満たすことができる。
- ②-1 前年度、春学期の最初の授業で題目提出済の学生が、その年度中に中間報告を提出し、休学を挟まず継続して指導教員より指導を受ける。
- ②-2 前年度、春学期の最初の授業で題目未提出の学生が、秋学期の最初の授業で題目を提出し、かつその年度中に中間報告を提出し、休学を挟まず継続して指導教員より指導を受ける。

卒業論文（研究）提出についての注意

1. 様式等

データ形式 PDFデータ ※Wordデータを変換

ファイル名 「学生番号」と「氏名」（例：E0511000皇大太郎）

※原則1ファイルだが、データの容量が50MBを超える場合や別冊子（資料や付録等）がある場合は、複数ファイルに分けて提出する

（例：E0511000皇大太郎1・E0511000皇大太郎2）

論文の表紙 全学科の共通データ（縦書きと横書きの2種類）を使用する

提出方法 manabaの「卒業論文（研究）」コースを利用して提出

※履修登録をした自身の所属学科のmanabaコース内にて提出する

※卒業論文（研究）に係る案内は、manabaコース内のコースニュースにて案内があるため、確認を怠らないようにする

様式

学科	形式	PDFデータ（活字ポイント10.5ポイント）※Wordを変換	
		A4縦置き 縦書き（30字×20行×2段組）	A4縦置き 横書き（40字×30行）
神道	論文形式	11～27ページ	11～27ページ
国文	論文形式	11～17ページ	11～17ページ
教育	論文形式	11～34ページ	11～34ページ

学科	形式	PDFデータ（活字ポイント10.5ポイント）※Wordを変換	
		A4横置き 縦書き（40字×30行）	A4縦置き 横書き（40字×30行）
国史	論文形式	11～34ページ	英文等の史料で、特に横書きが必要な場合を除きすべて縦書きとする

学科	形式	PDFデータ（活字ポイント10.5ポイント）※Wordを変換	
		A4縦置き 縦書き（30字×20行×2段組） 11～35ページ	A4縦置き・横書き 和文：40字×30行 11～35ページ 英文（欧文）：80字×30行 8～30ページ
コミュニケーション	論文形式		
現代日本社会	論文形式	A4縦置き・横書き（40字×40行）8～25ページ	

（注）本文のページ数超過は、卒業論文（研究）指導教員の指示にしたがうこと。

2. 提出期間等

受付開始 令和8年12月19日(土) 9時30分から

受付締切 令和8年12月25日(金) 11時59分59秒まで (※時間厳守)

※受付最終日の提出締切は、manabaのシステム上、11時59分59秒までです。いかなる理由があっても、提出が遅れた場合は受付できません。体調不良や不測の事態(通信機器のトラブル等)に備え、時間に余裕をもって論文(研究)を作成・提出してください。

※提出期間中での再提出は認められますが、締切後の加筆・修正・ページの増減等のデータ変更は一切認められません。

提出場所 自身の所属学科の「卒業論文(研究)」manabaコース内

3. 優秀論文の図書館での保管

各学科における成績上位者の卒業論文(研究)は、優秀論文として図書館にデータが保管され、館内で閲覧・公開されます。manabaコース内へ論文(研究)を提出する際、保管及び公開に係る承諾の可否を確認してください。

口頭試問についての注意

口頭試問では、提出された卒業論文(研究)の内容について、主査及び副査の指導教員が口頭にて確認します。その実施方法は、学科及び指導教員によって異なります。

口頭試問の結果により加点・減点された上で、卒業論文(研究)の評価が付与されます。

1. 副査及び日程の発表

令和9年1月14日(木) 10時00分から

※発表場所は、自身の所属学科の「卒業論文(研究)」manabaコース内

2. 実施予定期間

令和9年2月8日(月)・9日(火)・10日(水)・12日(金)

※自身の該当時間・場所については、上記の1月14日(木)からmanabaコース内にて発表する「副査・口頭試問日程の発表」を確認すること

合否発表

合否発表(成績開示)は、各自で皇學館システムにログイン後、学生メニューの履修・修得科目から確認してください。開示日は、令和9年2月17日(水) 9時30分からです。

7. 参拝見学・山室山参拝・フィールドワーク

参拝見学（山室山参拝含む）・フィールドワークは、授業やそれに伴う調査研究と同じ修学上の意義を有します。特に教室での学びだけでは得られないことを実地踏査によって体感・体得することをねらいとします。原則、全学生がこれに参加することになりますが、各学部により行事の内容は異なります。

なお、特別な事情があつて不参加の場合は、「不参加許可願」（学生支援部（教務担当）にて配付）に必要書類を添えて、参拝見学（山室山参拝含む）にあつてはクラス担任の、フィールドワークにあつては引率指導教員の許可を得た後、学生支援部（教務担当）に提出してください。必要書類は、病気のために参加できない場合は医師の診断書等の症状がわかるもの、事故や忌引きなどのために参加できない場合は保証人による事由書となります。

参 拝 見 学

文学部1～4年次生、教育学部・現代日本社会学部2年次生

（主 旨）

本学の学問にゆかり深い地に赴いて参拝・見学し、建学の精神を体感します。

（目 的）

本学の建学の精神にとつても、また、実質的な学校設立の歴史においても伊勢の神宮はその核というべき存在です。事前学習として、配付された書籍「お伊勢まいり」を熟読し、そのゆかりの地を巡って参拝することで、関係する祭祀・文学・歴史をはじめとする諸領域の知識を得て、皇學館大学のアイデンティティを確認します。さらに、文学部では近世の国学者・本居宣長についても深く理解します。

また、国のあり方というものを考えるとき、建武中興を成した南朝をめぐる人々のはらたきに思いをいたすことは、特に現代において重要です。皇學館大学で学ぶ者として常に国にあるべき姿に関心をもつという使命があります。

以上、二点を中心に臨地により学習することを目的とします。

フ ィ ー ル ド ワ ー ク

原則3年次生（一部学科では実施しないことがあります）

（主 旨）

演習科目の実地学習の機会として実施します。

（目的・内容）

各学科・演習科目（ゼミ）の一環として目的を設定し、それに沿った実施計画書に基づいて実施されます。

国内の場合は原則として1社以上の神社での正式参拝があります。

（フィールドワーク費用）

ア. 1～3年次において、授業料と同時に、指定の金額を預って積み立てる場合と実施時に支払う場合があります（学科によって異なります）。

イ. 積み立ての場合、休学等で不足が発生した場合には追加で徴収します。

ウ. 積立金に余剰が生じた際には、4年次の3月に返付します。また、許可を得て不参加者として登録された者に対しては共同負担の金額を差引いた額を返付します。無断不参加者に対しては、当該実施に関する経費は返付しません。

エ. 預金利子はフィールドワーク経費に充当します。

オ. 積立金の超過が認められた場合（海外のみ）の超過分は自己負担となります。

8. 学籍について（休学・復学・退学・除籍等）

学籍とは、学生として本学に所属することを意味し、在学（学費を納め学修している状態）を変更する場合は、必ず指導教員に相談し、同意を得た上で学生支援部（教務担当）に連絡し、次に示す所定の手続きを行わなければなりません。

なお、学籍変更時の所定の手続きが期日までに行われず、かつ学費が未納の場合は、学費等が納付された最終学期の末日をもって除籍となります。

休学 《参考：学則第6章第41条、及び教務規程第3章第8条》

病気・その他の事由により1ヶ月以上授業に出席できない場合、休学を許可することがあり、休学期間は通算して2年以内です。

なお、休学許可者は、休学期間中の学費を免除された学期について、皇學館大学学則第41条の規定により、休学在籍料（1学期につき60,000円）を納める必要があります。休学在籍料が未納の場合、学費等が納入された最終学期の末日をもって除籍となります。

〔休学が認められる期間〕

休学期間	申請期限
春学期（4月1日～9月30日）	前年度3月31日までを原則とする
1年間（4月1日～翌年3月31日）	
秋学期（10月1日～翌年3月31日）	当年度9月30日までを原則とする

ただし、申請期限後に休学事由が発生した場合は、各学期の学費引落日（春学期5月1日、秋学期11月1日）の前業務日までに願出すること。

〔休学の手続き〕

- ① 保証人・指導教員に相談し、同意を得る。
- ② 休学希望を学生支援部（教務担当）に申し出て「休学願」を受け取る。
- ③ 「休学願」に必要事項を記入・捺印（本人・保証人）し、学生支援部（教務担当）へ提出する。
※休学事由が疾病の場合、医師の診断書が必要になります。
- ④ 学生支援部（教務担当）にて指導教員及びクラス担任に確認の上、承認を得る。
- ⑤ 教授会にて承認された場合、「休学許可書」を本人宛に送付。

〔休学に関する留意点〕

- ・秋学期から翌年度春学期の1年間で休学を申請することはできません。
- ・休学期間中においても、本学図書館の利用や各部署窓口での相談は可能です。
- ・卒業には4年以上在学することが条件となりますので、休学した場合は在学期間不足となり、4年間での卒業ができなくなります。
- ・卒業要件単位の不足による4年次留年生及び進級単位不足による2年次留年生については、それぞれの要件科目の開講されない学期の休学を申請することができます。
- ・休学期間を終えてもなお休学事由が解消せず、休学の期間延長を願出する場合は、新たに休学の手続きが必要になります。

- ・休学期間終了日までに復学・退学・休学の手続きを行わない場合、または2年間の休学期間を超えてもなお復学できない場合は、除籍となります。
- ・学費引落日（春学期5月1日、秋学期11月1日）以降に休学を願い出る場合は、当該学期における学費を全額納めた上で、学期途中での休学となります。

復学 《参考：学則第6章第42条及び教務規程第3章第9条》

休学中の者が、休学事由の解消により復学を願い出る場合は、下記に示す手続きを行わなければなりません。

〔復学が認められる日〕

休学期間	申請期限	復学日
9月30日までの休学	9月24日まで	当年度10月1日付
3月31日までの休学	3月25日まで	翌年度4月1日付

〔復学の手続き〕

- ① 休学許可書送付の際、同封されている「復学願」に必要事項を記入・捺印（本人・保証人）し、学生支援部（教務担当）へ提出する。
 ※「復学願」を紛失した場合は、学生支援部（教務担当）に申し出てください。
 ※休学事由が疾病の場合、復学に際し医師の診断書が必要になります。
- ② 教授会にて承認された場合、「復学許可書」を本人宛に送付。
 ※復学日が翌年度4月1日付になる「復学許可書」は3月中旬以降の送付になります。

〔復学に関する留意点〕

- ・2セメスター以上の休学の場合、休学開始時の学年に復学します。
- ・秋学期のみ休学した場合、所定の進級学年に復学することができます。ただし、所定の進級学年が3年次である場合、進級要件を満たしていなければ2年次に留まります。

退学 《参考：学則第6章第45条、同第8章第53条、教務規程第5章第15条、第16条及び学生の懲戒に関する規程》

病気や進路変更等、やむを得ない事由により退学を希望する場合、願い出により許可することがあります。また、懲戒処分により退学を命じられることがあります。

〔申請による退学が認められる日〕

退学日	申請期限
春学期末（9月30日付）	当年度9月30日までを原則とする
秋学期末（3月31日付）	当年度3月31日までを原則とする

ただし、申請期限後に退学事由が発生した場合は、各学期の学費引落日（春学期5月1日、秋学期11月1日）の前業務日までに願い出ること。

〔退学の申請手続き〕

- ① 保証人・指導教員に相談し、同意を得る。
- ② 退学希望を学生支援部（教務担当）に申し出て「退学願」を受け取る。
- ③ 「退学願」に必要事項を記入・捺印（本人・保証人）し、学生支援部（教務担当）へ提出する。
※退学事由が疾病の場合、医師の診断書が必要になります。
- ④ 学生支援部（教務担当）にて指導教員及びクラス担任に確認の上、承認を得る。
- ⑤ 教授会にて承認された場合、「退学許可書」を本人宛に送付。

〔退学に関する留意点〕

- ・学費引落日（春学期5月1日、秋学期11月1日）以降に退学を願い出る場合は、当該学期における学費を全額納めた上で、学期途中での退学となります。
- ・退学した学生は再入学ができますが、懲戒処分により退学となった場合は、再入学はできません。

〔退学勧告〕

正当な理由がなく、6セメスターまでの各セメスターにおいて、修得単位が8単位未満かつ通算GPAが1.0未満の者については、退学を勧告する場合があります。

除 籍	《参考：学則第6章第46条及び教務規程第6章第19条》
------------	-----------------------------

次のいずれかに該当する場合、除籍となることがあります。なお、学費または休学在籍料の未納による除籍を除き、除籍後に復籍することはできません。

〔除籍となる事由と除籍日〕

除 籍 事 由	除 籍 日
8年の在学期間を越えてなお卒業できない場合	在学期間終了日
2年の休学期間を越えてなお就学できない場合	休学期間終了日
休学期間を終えても、復学または休学更新の手続きをしない場合	休学期間終了日
学費または休学在籍料を納めず、督促を受けても、なお納入しない場合	学費を納入した期間の終了日

退学・除籍後の扱いについて

本学では、退学または除籍後における証明書の発行及び履歴書への記載については、下記のとおりとします。

証 明 書 の 発 行	履 歴 書 へ の 記 載
単位修得・在籍証明書等の発行が可能	在籍の記載が可能

再入学・復籍

《参考：学則第6章第38条及び教務規程第5章第18条》

退学者（懲戒処分によるものを除く）が退学当時の同学科同年次（学年の最終日付での退学者が進級要件を満たしている場合は、進級後の年次）に再入学を希望する場合及び除籍者（学費または休学在籍料の未納）が除籍当時の同学科同年次（学年の最終日付での除籍者が進級要件を満たしている場合は、進級後の年次）への復籍を希望する場合、11月現在の学生数により教育上支障がなければ、願い出により再入学試験または復籍試験を実施し、年度当初に限り許可することがあります。

〔再入学・復籍の手続き〕

- ① 再入学・復籍希望を学生支援部（教務担当）に申し出て、試験の実施予定の有無を確認する。
- ② 試験の実施予定がある場合は、「再入学願」または「復籍願」を受け取り、原則として履修再開を希望する年度の前年度2月末日までに、再入学の場合は検定料30,000円を、復籍の場合は審査料10,000円を添えて学生支援部（教務担当）へ提出する。
- ③ 筆記及び口頭試験などを実施の上で、本人に対し「結果通知書」を送付するとともに、合格者には「再入学許可書」または「復籍許可書」を送付する。

転学部

《参考：学則第6章第44条及び教務規程第4章第13条》

転科

《参考：学則第6章第44条及び教務規程第4章第14条》

本学内の他学部の学科への転学部や、同一学部内の他学科への転科については、各学科の5月1日現在の学生数により教育上支障がない場合に、願い出により2年次及び3年次の当初に限り許可することがあります。原則翌年度に進級後の年次での受験となります。なお、3年次への転学部・転科で、進級要件を満たさなかった場合は、試験に合格しても転学部・転科は認められません。

〔転学部の手続き〕

- ① 転学部希望を学生支援部（教務担当）に申し出て「転学部願」を受け取り、1年次または2年次の11月末日までに審査料10,000円を添えて学生支援部（教務担当）へ提出する。
- ② 筆記及び口頭試験などによる転学部試験を実施の上で、保証人に対し、受験者の「結果通知書」及び合格者の「転学部許可書」を送付する。

〔転科の手続き〕

- ① 転科希望を学生支援部（教務担当）に申し出て「転科願」を受け取り、1年次または2年次の11月末日までに審査料10,000円を添えて、学生支援部（教務担当）へ提出する。
- ② 筆記及び口頭試験などによる転科試験を実施の上で、保証人に対し、受験者の「結果通知書」及び合格者の「転科許可書」を送付する。

9. 履修指導・成績通知

新しい年度を迎えるに当たり、4年間の履修計画を踏まえて、その年度に修得しなければならぬ単位やその登録方法等を確認できるようオンラインにて履修指導を実施します。

履修登録を始めるまでにmanabaより視聴し、自分の計画をしっかりと立てて科目を履修するようにしてください。オンライン履修指導を視聴しなかったために、きちんと登録ができなかった場合には、その学期を無駄にしてしまうこともありますので、十分注意してください。

なお、オンライン履修指導・成績通知を含め、下記の期間に関係する行事を予定していますので、漏れのないようにしてください。

※学年に留年者を含む

実施日	時間	学年	事項	場所
令和8年 3月26日(木)	13:00~16:00	新2~4	履修要項・時間割等配付 オンライン履修指導開始	211教室 212教室
	13:00~14:00	新2	成績表配付(指導教員より)	指導教員 研究室
	14:00~15:00	新3		
	15:00~16:00	新4		
	13:00~16:00	大学院		
♪ 3月27日(金)	9:30~12:10	新4	修学指導 オンライン履修指導等	神道 221教室 国文 224教室 国史 431教室 コミ 234教室 教育 231教室 現日 621教室
	13:30~16:20	新3		
♪ 3月28日(土)	9:30~12:30	新2		
♪ 3月31日(火) ~ 4月3日(金)	—	新1	オンライン履修指導等	—
♪ 4月4日(土)	9:30~12:00	1	修学指導等	別途指示
♪ 4月6日(月)	9:30~12:40	1	修学指導等	別途指示
♪ 4月7日(火)	9:30~11:10	1	学生生活指導等	別途指示
♪ 8月4日(火)	9:30~ (予定)	4 大学院・専攻科 (※)	成績開示	4年次：皇學館システム 院・専 (PC・スマホ)
♪ 9月18日(金)	12:00~16:00	1~4 大学院・専攻科 詳細は掲示	春学期成績表配付 (指導教員より)	指導教員 研究室
	(予定)	4	履修指導・卒業論文等説明会	別途掲示
令和9年 2月8日(月)	9:30~ (予定)	4 大学院・専攻科 (※)	成績開示	4年次：皇學館システム 院・専 (PC・スマホ)
♪ 3月25日(木)	13:00~ (予定)	学部・大学院	履修要項・時間割配布 成績表配付 等	別途掲示

※大学院は修了年次生のみが成績開示の対象となります。

オンライン履修指導は、履修計画を立てるための内容であることから必ず視聴するようにしてください。

10. 履修登録

学則第27条の規程により、科目の履修は学期始めに届け出て、承認を受けなければならないとされており、1年間に履修する科目を決め、「皇學館システム」で Web 登録することを履修登録といいます。

各自の修学計画に基づき、履修要項、オンライン履修指導コンテンツ、時間割及びWebシラバスにて十分検討した上で、正しく登録をしてください。

不備や間違いをそのままにすると、受講資格がなくなり、進級や卒業に重大な影響を及ぼしますので、正しく登録されているか自分で確認するとともに記録をとり、誤りがあれば指定された期日までに必ず修正してください。

履修登録の心得

1. 春学期始めの所定の日時に今年度履修しようとする春学期・秋学期・通年の全科目の登録を行い（登録方法は次ページ以降参照）、各授業の履修者名簿に名前が載っていることを授業担当教員に確認してください。登録する科目は、集中講義・実習・卒業論文（研究）等、すべてになります。
2. 原則、一講時に登録できる科目は1つです。同一講時に2科目登録する場合は、隔週授業等の特別な場合に限りです。
3. 単位修得済みの科目は履修できません。また名称が異なる同時開講科目についても履修できません。
4. 春学期科目（集中講義・実習等含む）と通年科目は、春学期履修登録修正期間中に登録内容を修正・確認してください。秋学期科目については、秋学期履修登録修正期間にも追加・削除が行えますが、クラス指定された科目は春学期に登録したクラスを変更したり、追加したりすることができません。
5. 履修登録修正期間に登録内容の確認を行ってください。最終的に登録している科目についてのみ受講資格が得られ、成績評価を受けることができます。
6. 履修登録修正期間を過ぎると、登録内容を変更することはできません。
7. 登録した科目を放棄すると、4年間での卒業や資格取得が出来ない場合があります。各科目の配当セメスターを基礎とした修学計画を立てましょう。
8. 4年次生が「卒業見込証明書」を発行できるのは、履修登録修正期間終了後です。また履修登録の内容が卒業要件を満たしている場合のみ発行可能です。

履修制限 (CAP 制)

各授業では、事前・事後学習が単位修得の条件となっていることから、むやみに履修科目を増やすのではなく、カリキュラム表やシラバス、履修系統図（講義概要・ホームページ）等を参考にして、自身の履修計画に基づき登録科目を精選することが、確実な単位修得につながります。

そのため本学では、以下の表に示した履修制限単位数を目安として、前年度の成績状況も参考としながら指導教員等とよく相談の上、各自の修得状況に合った履修計画を立てることにしています。履修制限単位数を超えている場合は登録科目を削除することがあります。

〔履修制限単位数〕

条 件	学 部	履修制限単位数 (年間)		
		文	教育	現日
基 準 値 (上限)		48	48	48
前年度までの 通算 G P A	2.5 以上 3.0 未満	52	56	52
	3.0 以上	56	60	56

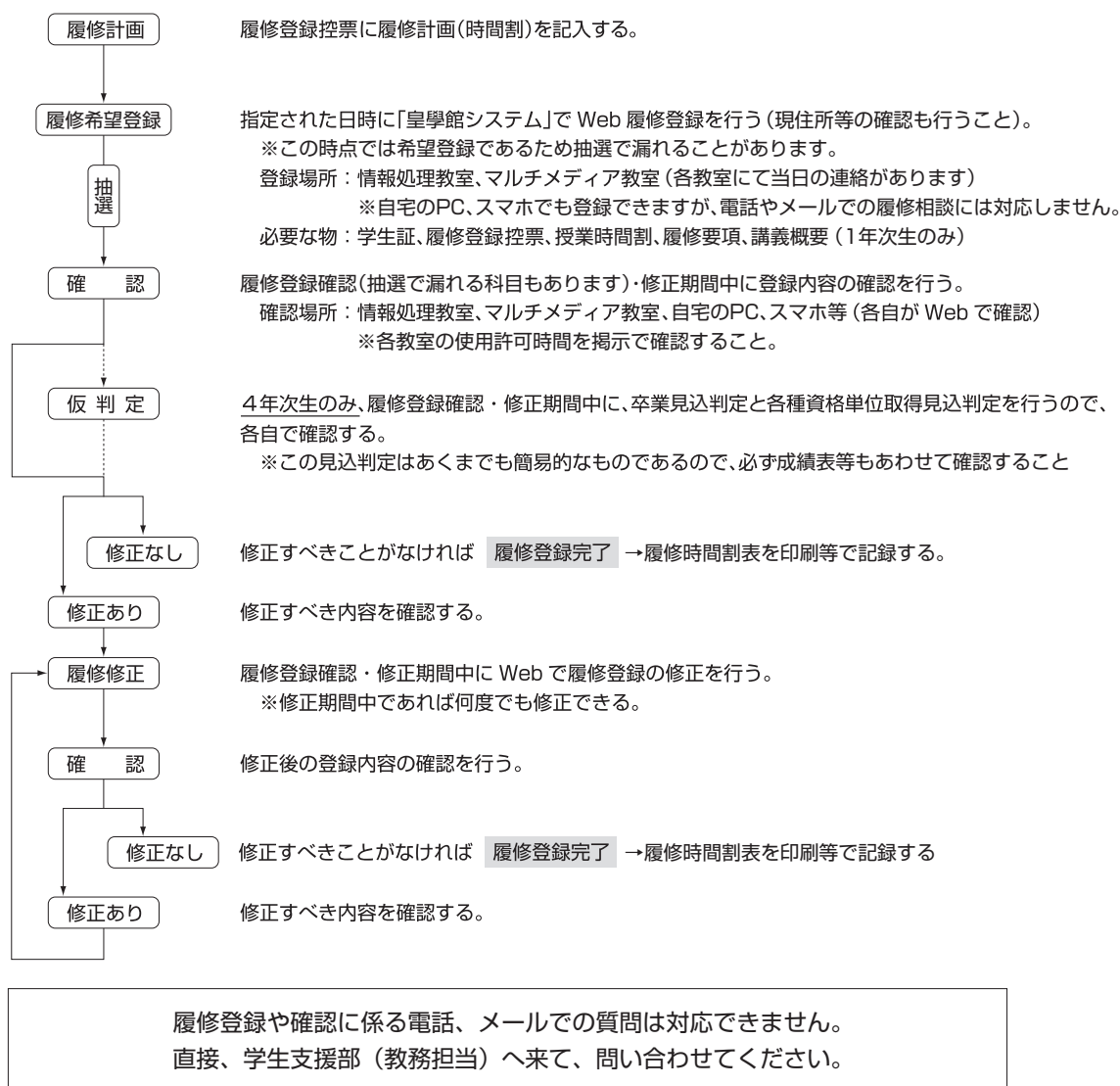
〔参考〕

1 年間で48単位取得する場合
45時間(1単位の学習時間)×48単位=1年間で2,160時間
開講月数8ヶ月 2,160時間÷8ヶ月=1ヶ月で270時間
1ヶ月27日とすると、270時間÷27日=1日に10時間

1年間で48単位取得する場合、開講期間中は1日に10時間の学修時間が必要となります。

※4年次生、転・編・学士入学生、卒業要件外の科目、教育実習などの学外で行う実習、集中講義、認定科目及び卒業論文（研究）は、履修制限の対象外となります。

登録の手順



[注意事項]

- ① 履修登録控票は必ず事前に記入しておくこと。
- ② Web履修登録には学生証を携帯すること(本人確認時や印刷時に必要)。
- ③ 現住所等(特に携帯電話番号)を確認し、入力(変更)すること。
- ④ 履修希望登録は抽選で漏れる科目もあるため、必ず履修登録修正期間中に登録内容を確認すること。
- ⑤ 確認・修正期間中に、各自で「履修時間割表」で確認すること。
- ⑥ 修正が必要な場合、確認・修正期間中に必ず履修修正すること。
 ※やむを得ない理由で指定された期間にて履修登録・修正ができない場合は事前に学生支援部(教務担当)へ申し出ること。
- ⑦ 履修者が5名以下の選択科目については、状況によって不開講となる場合があります。
 ※対象となる科目の履修者には直接連絡をします。
- ⑧ わからないことがあれば、放置せず、速やかに学生支援部(教務担当)へ相談すること。

履修登録方法

履修登録（Web登録）について、具体的な画面（PC版）を見ながら手順を紹介しています。次の〔注意事項〕を必ず守って、各自でWeb登録を行きましょう（スマートフォンでも利用可能ですが、できる限りPCを使用してください）。

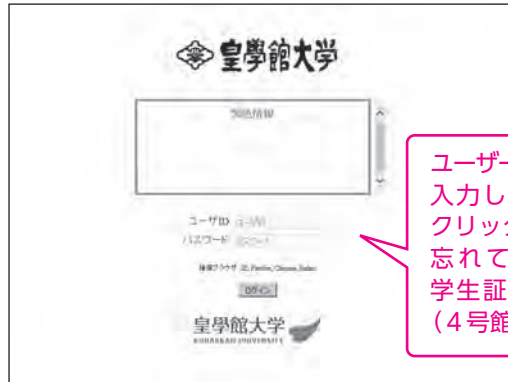
- 〔注意事項〕
- ① 1台のパソコンで、2つ以上の登録画面（タブも含む）を使用しないでください。
 - ② ブラウザの左上にある「←戻る」は、絶対に使用しないでください。入力内容をキャンセルする場合は、画面最上段の「学生メニュー」をクリックします。
 - ③ 操作終了後は画面上端のログアウトをクリックするか、Edge、Chrome、Safari等のブラウザをすべて閉じてください（不正に利用される恐れがあります）。

①-1 学生ポータルサイト



Edge、Chrome、Safari等のブラウザで大学公式ホームページ(https://www.kogakkan-u.ac.jp/)から学生ポータルサイトにアクセスします。「皇學館システム」をクリックして、ログイン画面を開きます。

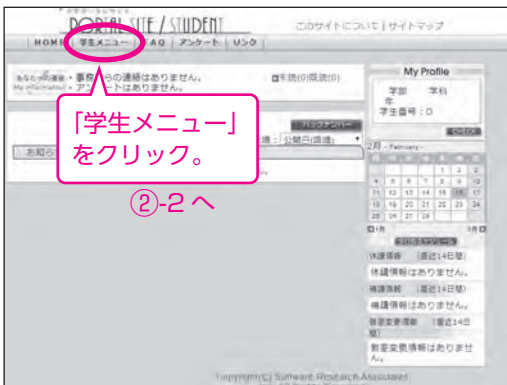
①-2 ログイン画面



ユーザーIDとパスワードを入力して、「ログイン」をクリック。
忘れてしまった場合は、学生証を持って情報担当（4号館2階）で確認する。

②-1へ

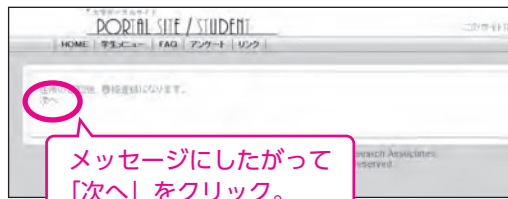
②-1 HOME画面



「学生メニュー」をクリック。

②-2へ

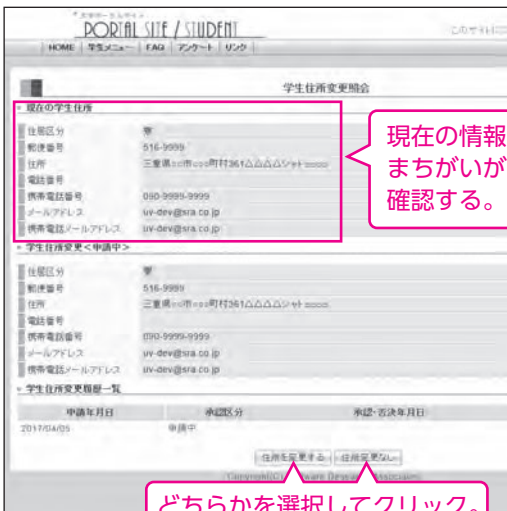
②-2 確認メッセージ



メッセージにしたがって「次へ」をクリック。

③-1へ

③-1 現住所等確認画面



現在の情報にまちがいがなければ確認する。

どちらかを選択してクリック。

変更する場合は③-2へ

変更しない場合は③-3へ

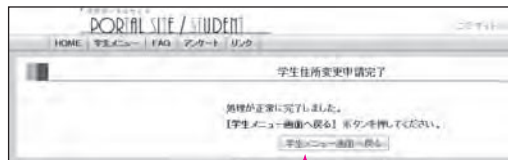
③-2 現住所等修正画面



必要に応じて修正する。

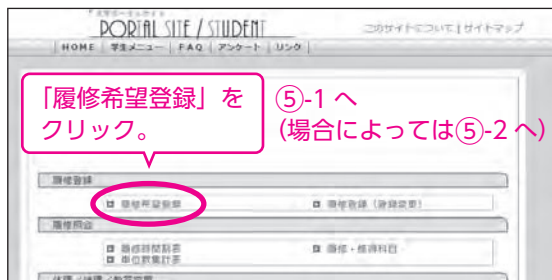
修正後クリック。③-3へ

③-3 確認メッセージ



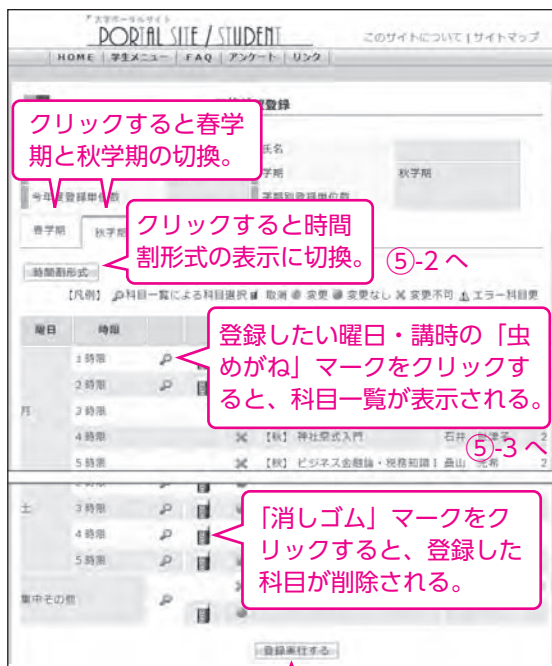
メッセージにしたがってクリック。④へ

④ 学生メニュー画面（履修（希望）登録へ）

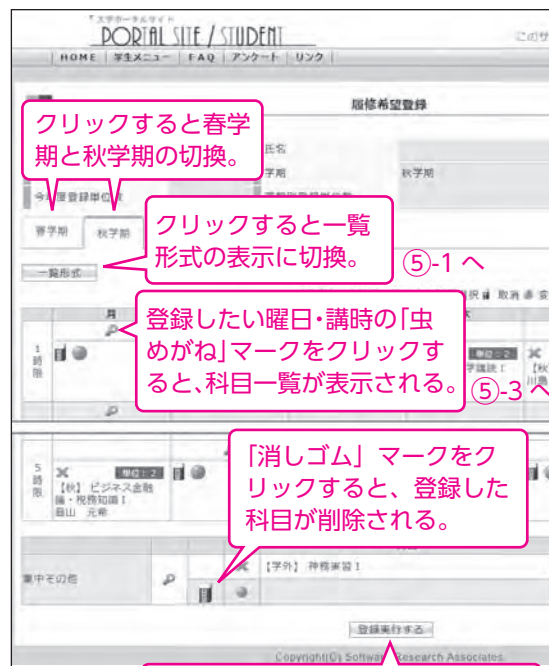


「学生メニュー」は履修（希望）登録・修正、時間割や修得単位数など、さまざまな情報が確認できる「入口」の画面となっております。
履修希望登録は4月の上旬のみ表示されます。

⑤-1 履修（希望）登録画面（一覧形式）



⑤-2 履修登録画面（時間割形式）



画面切換

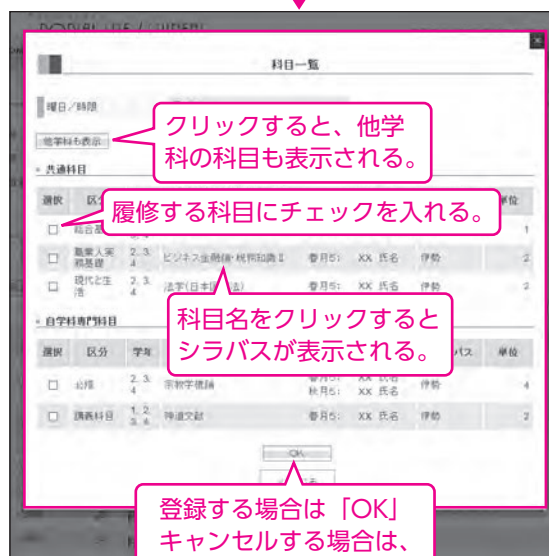
すべての登録が完了したらクリック。

⑥-1 または、⑥-2 へ

すべての登録が完了したらクリック。

⑥-1 または、⑥-2 へ

⑤-3 科目一覧ウィンドウ

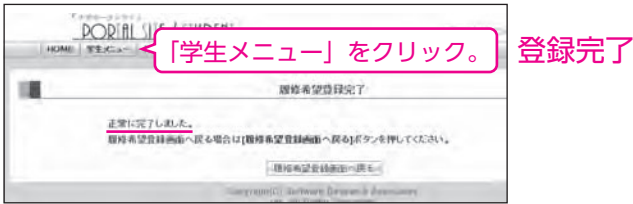


⑤-1 または、⑤-2 へ戻る。

⑤-1または⑤-2と⑤-3を繰り返して、すべての登録を完了させます。

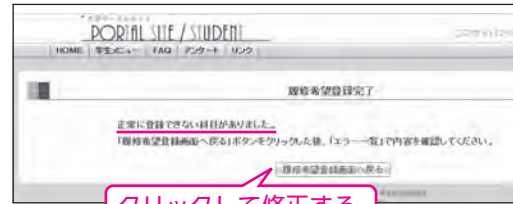
登録が完了したら、⑤-1または⑤-2の画面下にある「登録実行する」をクリックします。

⑥-1 登録完了メッセージ (エラーなし)



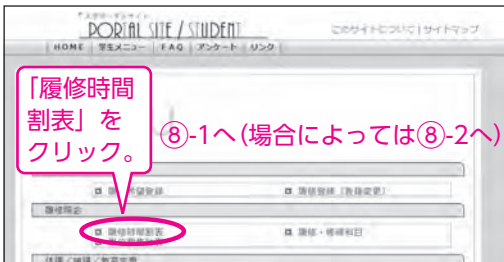
・終了するときは画面上端のログアウトをクリックするか、Edge、Chrome、Safari等のブラウザをすべて閉じます(終了させないと、不正に利用される恐れがあります)。

⑥-2 登録完了メッセージ (エラーあり)



⑤-1 へ (場合によっては⑤-2 へ)

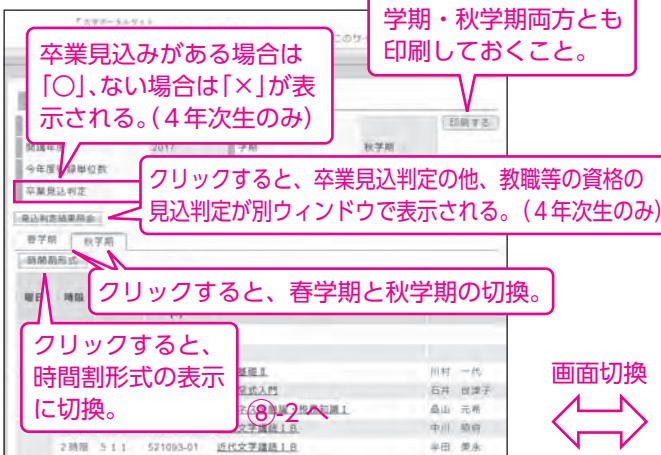
⑦ 学生メニュー画面 (時間割印刷・卒業見込確認へ)



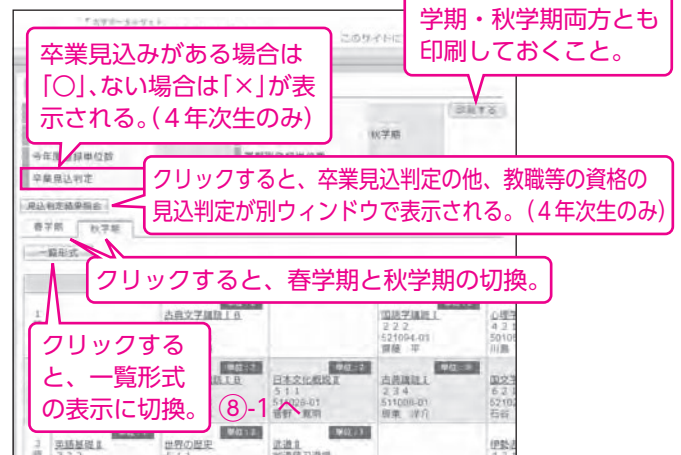
履修時間割の確認

履修希望登録期間中は時間割が確定していないため、履修時間割表を確認することはできません。

⑧-1 時間割印刷画面 (一覧形式)



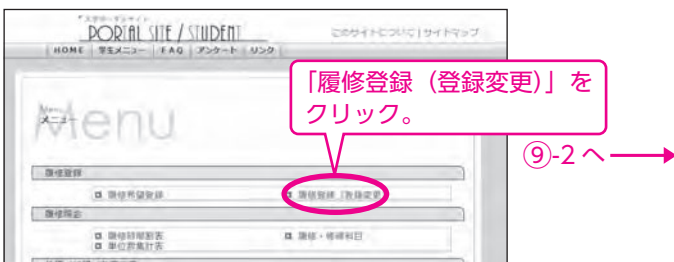
⑧-2 時間割印刷画面 (時間割形式)



- ・4年次生は履修登録翌日以降に必ず卒業見込判定を確認し、見込が「×」の場合は、必要に応じて修正します。そのままにしておくと、卒業できません。
- ・終了するときは画面上端のログアウトをクリックするか、Edge、Chrome、Safari等のブラウザをすべて閉じます(終了させないと、不正に利用される恐れがあります)。

履修登録修正

⑨-1 学生メニュー画面 (履修登録修正へ)



①と②-1を行っておきます。

⑨-2 履修登録修正画面

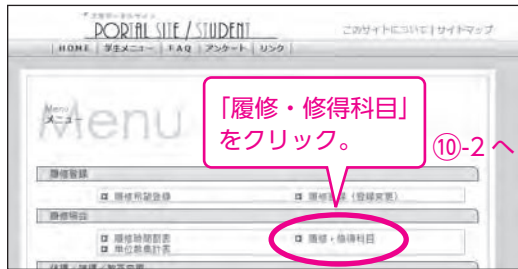


⑤-1 から⑧-1 または⑧-2 を行います。

その他の機能

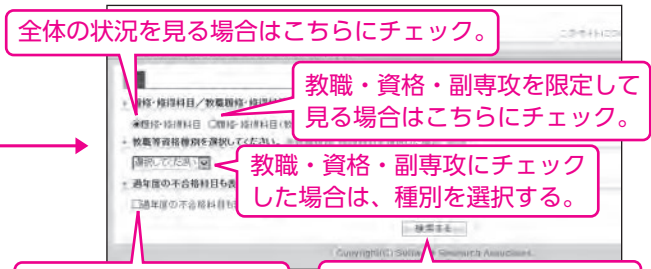
履修・修得状況や単位数を確認する機能があります。これらの機能はいつでも利用可能です。

⑩-1 学生メニュー画面（履修・修得科目一覧へ）



①と②-1を行っておきます。

⑩-2 履修・修得科目一覧条件選択画面

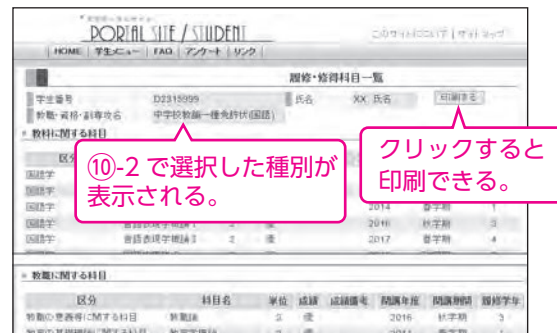


⑩-1または⑩-2へ

⑩-1 履修・修得科目一覧（全体）画面

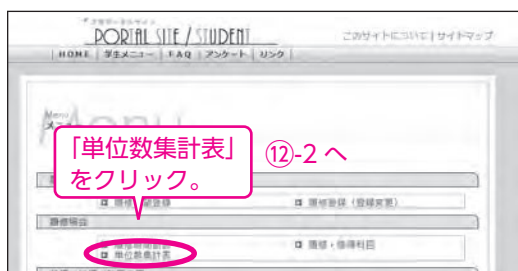


⑩-2 履修・修得科目一覧（教職・資格・副専攻）画面



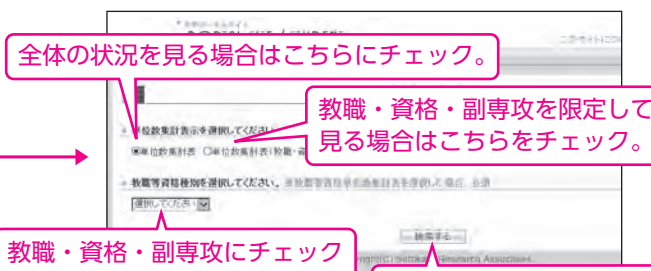
- ・画面最上段の「学生メニュー」をクリックすると⑩-1へ、画面最下段の「検索画面に戻る」をクリックすると⑩-2へ戻ります。
- ・終了するときは画面上端のログアウトをクリックするか、Edge、Chrome、Safari等のブラウザをすべて閉じます（終了させないと、不正に利用される恐れがあります）。

⑫-1 学生メニュー画面（単位数集計表へ）



①と②-1を行っておきます。

⑫-2 単位数集計表条件選択画面

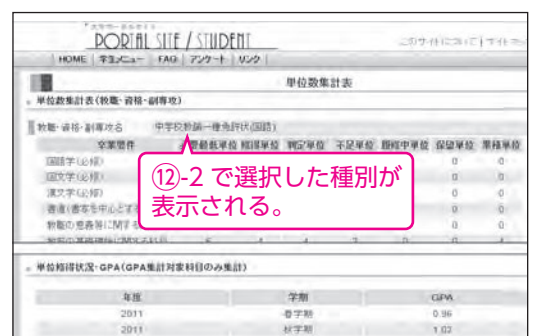


⑬-1または⑬-2へ

⑬-1 単位数集計表（全体）画面



⑬-2 単位数集計表（教職・資格・副専攻）画面



- ・画面最上段の「学生メニュー」をクリックすると⑫-1へ、画面最下段の「検索画面に戻る」をクリックすると⑫-2へ戻ります。
- ・終了するときは画面上端のログアウトをクリックするか、Edge、Chrome、Safari等のブラウザをすべて閉じます（終了させないと、不正に利用される恐れがあります）。

シラバス検索方法

シラバスとは、今年度開講される授業科目の科目ナンバリングコード（※1）、アクティブ・ラーニングの種別、実務経験のある教員による授業、目的、内容、到達目標、ディプロマ・ポリシー、授業形態、教科書・参考書、評価の方法・基準、要望・注意などを示し、学習・研究への取組みに対して具体的な指針を提供するものです。

履修科目を選択する際はもちろん、事前・事後学習にも活用しましょう。

※1 科目ナンバリングコードの見方

<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">12 3 08</p> <p style="text-align: center;">↓ ↓ ↓</p> <p style="text-align: center;">①学部学科等番号 ②セメスター ③個別番号</p> </div>	<p>【学部学科等番号】</p> <table border="0"> <tr> <td>01…共通科目</td> <td>61…神道学専攻（博士前期）</td> <td>91…神職課程（学部）</td> </tr> <tr> <td>11…神道学科専門科目</td> <td>62…国文学専攻（博士前期）</td> <td>92…教職課程</td> </tr> <tr> <td>12…国文学科専門科目</td> <td>63…国史学専攻（博士前期）</td> <td>93…図書館司書課程</td> </tr> <tr> <td>13…国史学科専門科目</td> <td>65…教育学専攻（修士）</td> <td>司書教諭課程</td> </tr> <tr> <td>15…コミュニケーション学科専門科目</td> <td>71…神道学専攻（博士後期）</td> <td>94…博物館学芸員課程</td> </tr> <tr> <td>31…教育学科専門科目</td> <td>72…国文学専攻（博士後期）</td> <td>98…神職課程（院）</td> </tr> <tr> <td>51…現代日本社会学科専門科目</td> <td>73…国史学専攻（博士後期）</td> <td></td> </tr> </table>	01…共通科目	61…神道学専攻（博士前期）	91…神職課程（学部）	11…神道学科専門科目	62…国文学専攻（博士前期）	92…教職課程	12…国文学科専門科目	63…国史学専攻（博士前期）	93…図書館司書課程	13…国史学科専門科目	65…教育学専攻（修士）	司書教諭課程	15…コミュニケーション学科専門科目	71…神道学専攻（博士後期）	94…博物館学芸員課程	31…教育学科専門科目	72…国文学専攻（博士後期）	98…神職課程（院）	51…現代日本社会学科専門科目	73…国史学専攻（博士後期）	
01…共通科目	61…神道学専攻（博士前期）	91…神職課程（学部）																				
11…神道学科専門科目	62…国文学専攻（博士前期）	92…教職課程																				
12…国文学科専門科目	63…国史学専攻（博士前期）	93…図書館司書課程																				
13…国史学科専門科目	65…教育学専攻（修士）	司書教諭課程																				
15…コミュニケーション学科専門科目	71…神道学専攻（博士後期）	94…博物館学芸員課程																				
31…教育学科専門科目	72…国文学専攻（博士後期）	98…神職課程（院）																				
51…現代日本社会学科専門科目	73…国史学専攻（博士後期）																					
<p>「12308」の場合、国文学科専門科目のうち、3セメスターにある8番目の科目。</p>																						

- 1 大学公式ホームページ (<https://www.kogakkan-u.ac.jp/>) から学生ポータルサイトにアクセスする。

スマートフォンを使用して確認する場合は、2次元コードを読み込むと直接「学生ポータルサイト」へアクセスできます。



- ② シラバス検索ページからキーワード入力またはカテゴリの選択から検索できます。
(画面のデザインは変更されることがあります。)



《キーワードで検索》

「科目名」「教員名」「全文」のいずれかに入力し、検索実行をクリックすると検索できます。

- ※ 1 「教科名」検索では、完全一致の必要はありません。
- ※ 2 「教員名」検索では、姓または名前のみでも検索可能です。
姓・名とも確定したい場合は、姓と名前の間に1文字分のスペースを空けてください。
- ※ 3 キーワードの「全文」検索では、関連する文章あるいは用語を入力してください。

《カテゴリの選択》

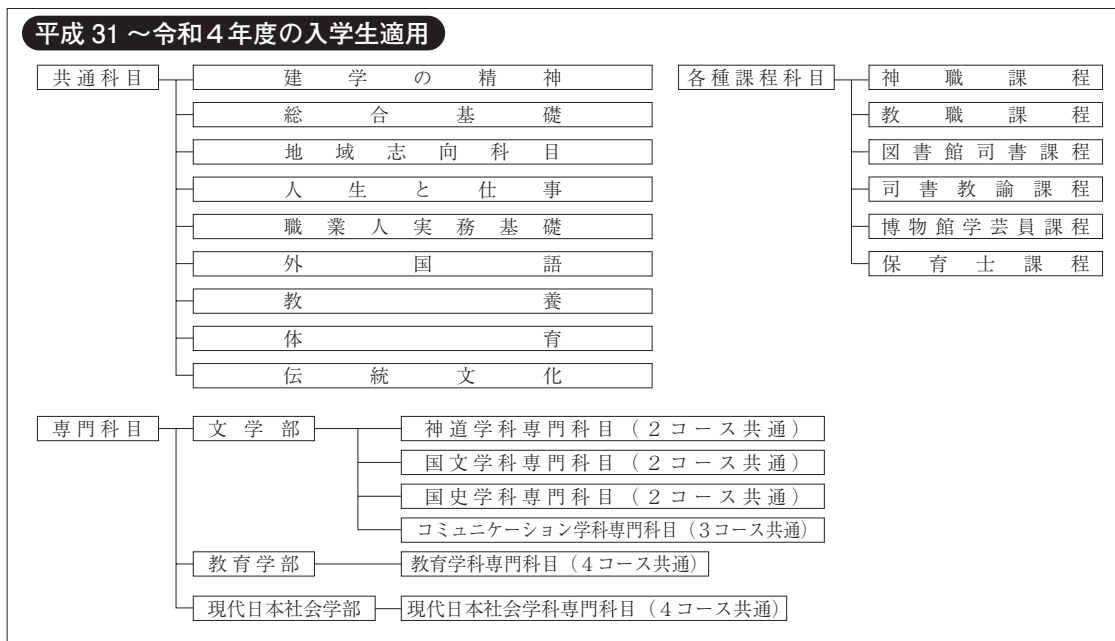
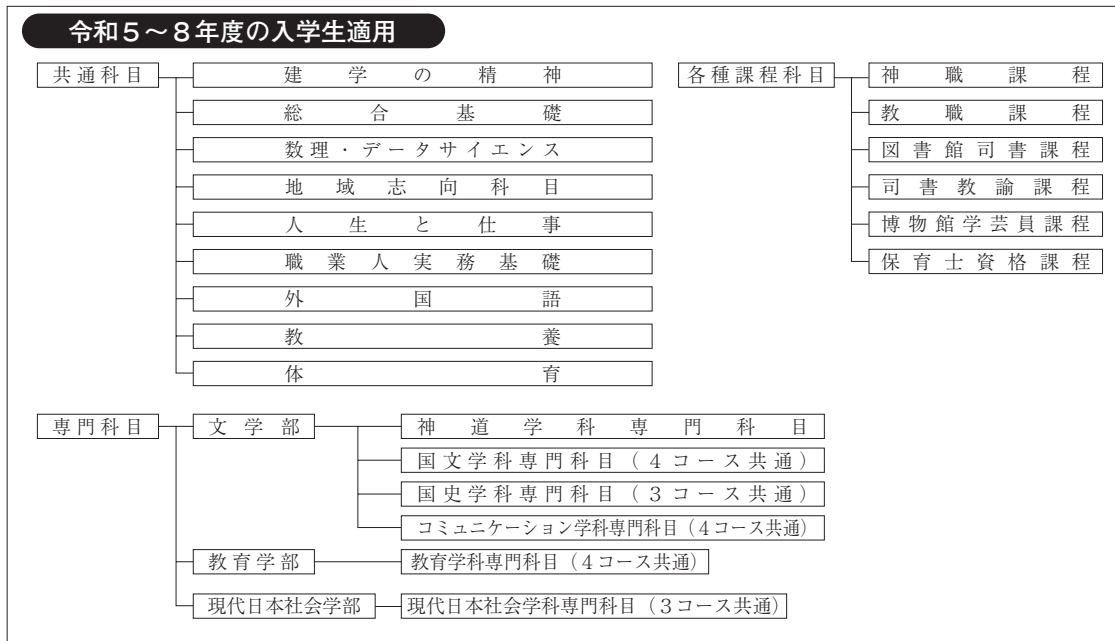
該当する学部等を選択し、検索することもできます。

11. カリキュラム

I. 授業科目構成	57
II. 卒業進級要件・カリキュラム表（令和5～8年度の入学生）	59
必要修得単位数	59
履修上の注意	60
共通科目	62
文学部専門科目	64
教育学部専門科目（令和7・8年度の入学生に適用）	72
（令和5・6年度の入学生に適用）	76
現代日本社会学部専門科目	79
III. 卒業進級要件・カリキュラム表（平成31～令和4年度の入学生）	82
必要修得単位数	82
履修上の注意	83
共通科目	85
文学部専門科目	87
教育学部専門科目	95
現代日本社会学部専門科目（令和3・4年度の入学生に適用）	98
（平成31・令和2年度の入学生に適用）	101
IV. 副専攻制度	104
V. 各種課程等	113

I. 授業科目構成

● 本学の授業科目は以下のとおり区分されています。



● すべての授業科目は以下のいずれかに指定されており、各年次に配当されています。
P.62以降のカリキュラム表で確認してください。

● 授業科目の名称表記について

カリキュラム表や時間割表において、便宜上、授業科目名に表記されている《 》内は種目等の区分を、【 】内はクラス区分を表しています。

カリキュラム表の読み方

3種類のカリキュラム表があります。各ページの上端に、入学年度別の表記（例：**令和5～8年度の入学生に適用**）またはマーク（例：**R5～8**）がありますので、必ず確認してください。

授業科目

【必修科目】

必ず修得しなければならない科目であり、この科目の単位が未修得の場合は、卒業要件単位数を満たしたとしても卒業することができません。

【選択必修科目】

特定された科目の中から一定の単位数を必修とする科目であり、必修科目と同様に、この科目の必要単位を未修得の場合は、卒業要件単位数を満たしたとしても卒業することができません。

【選択科目】

各種資格等の取得、または教養を高めることを目的として、設定された科目から自由に選んで履修できます。

配当年次・セメスター

- ・4年間を8セメスターにて分割しています。（1年次は1・2セメスター、2年次は3・4セメスター、3年次は5・6セメスター、4年次は7・8セメスター）
- ・セメスターの奇数（1・3・5・7）は春学期（4～9月）、偶数（2・4・6・8）は秋学期（10月～3月）となります。
- ・複数セメスターにわたって設定されている科目（1-2や3-4）については1年間実施される通年科目となります。
- ・該当するセメスターには「○」が付いています。
- ・下の年次科目（例えば3年次が2年次の科目）を履修することは可能です。

不開講：当該年度に実施（開講）されない科目

入学した年度によってカリキュラムが異なるので注意すること

〈 〉内は授業科目名ではなく、科目内容がイメージしづらいものについて便宜上、表記している

配当を変更する場合があるため注意すること

令和5～8年度の入学生に適用

授 業 科 目	種 別	単 位	配当年次・セメスター								備 考		
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			1	2	3	4	5	6	7	8			
建学の精神 必修	皇学入門《神道と日本文化》	講義	2	○									7クラス
	伊勢志摩共生学	講義	2		○								
教 養 選 択	法 学（日本国憲法）	講義	2			○							2クラス 教免・保育士必修
	リ ス ク 社 会 と 安 全	講義	1		○								不開講
	生 物 学	講義	2	○	○								2セメへ変更
	化 学	講義	2	○									隔週
	物 理 学	講義	2	○									2クラス 中社・高地歴免必修
自 然 地 理 学	講義	2	○	○									

※このカリキュラム表はサンプルです。

複数のセメスターでクラスが開講される科目

例：「物理学」は1年次配当で1年間実施される通年科目

隔週科目の日程は時間割を参照

例：「東洋史概説Ⅰ」から「西洋史概説Ⅱ」までの4科目から4単位以上の修得が必要な選択必修科目

授 業 科 目	種 別	単 位	配当年次・セメスター								備 考		
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			1	2	3	4	5	6	7	8			
選 択 必 修	東 洋 史 概 説 Ⅰ	講義	2			○							□ ◎ ☆
	東 洋 史 概 説 Ⅱ	講義	2				○						☆
	西 洋 史 概 説 Ⅰ	講義	2			○							□ ◎ ☆
	西 洋 史 概 説 Ⅱ	講義	2				○						☆ 2クラス

※このカリキュラム表はサンプルです。

記号の説明については各カリキュラム表の欄外を確認

授業によっては複数クラスで開講する科目あり

Ⅱ. 卒業進級要件・カリキュラム表 (令和5～8年度の入学生)

必要修得単位数

カリキュラム

(卒業進級要件 R5～8)

学部	学科	科目区分	共通科目													共通又は自学科専門 (他学科専門も可)	自学科専門科目							卒業進級単位数	各種課程						
			建学の精神	総合基礎		サイエンス	数理・データ	地域志向科目	人生と仕事	職業人実務基礎	外国語	教養	体育	単位互換単位認定	選択科目	必修	選択	講義	講読	特講	概説	演習	卒業論文・卒業研究								
			必修	必修	選択	必修	選択															必修				選択必修					
文	神道		4	4		2																		12	20以上	4以上			10	卒業論文4	卒業・進級の単位には含まれません 卒業単位124単位以上 進級単位62単位以上(「初年次ゼミ」2単位を含む)
			20以上													42以上	62以上														
	国史		4	4		2																		12	8以上	12以上			8	卒業論文4	
			20以上													42以上	62以上														
コミュニケーション			4	4	2	2																		6	2以上			10	卒業研究4		
			20以上													42以上	62以上														
教育	教育(4コース)		4	4		2																		12			14	卒業研究4	卒業・進級の単位には含まれません 卒業単位124単位以上 進級単位62単位以上(「初年次ゼミ」2単位を含む)		
			20以上													24以上	80以上														
現代	現代日本社会(3コース)		4	4		2																		4	2以上	2以上	2以上		12	卒業研究4	卒業・進級の単位には含まれません 卒業単位124単位以上 進級単位62単位以上(「初年次ゼミ」2単位を含む)
			20以上													34以上	70以上														

※仮進級については、「皇學館大学授業科目履修規程」第6章第13条(P.231)を参照

履修上の注意（令和5~8年度の入学生）

〈共通科目〉

共通科目とは、大学の卒業に必要な基礎知識・教養を修得するために、全学部生が履修できる科目です。履修に際しては、以下の条件に注意すること。

- (1) 必修科目を含め、20単位以上修得すること。
- (2) 建学の精神の「皇学入門」「伊勢志摩共生学」は必修。
- (3) 総合基礎について、「初年次ゼミ」「日本語表現」は必修。
- (4) コミュニケーション学科は総合基礎「情報処理Ⅰ（基礎）・Ⅱ（応用）」の2単位必修。
- (5) 数理・データサイエンスについて、「データサイエンス入門」は必修。
- (6) 「英語表現Ⅰ～Ⅵ」について、履修を希望する場合はまず「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の登録が必要。英語習熟度テストの結果等により、クラスが指定される。
- (7) 教員免許取得希望者は以下の科目が必修。
 - ①「英語表現Ⅰ～Ⅵ」のうち2科目以上
 - ②令和5年度入学生は、「情報処理Ⅰ（基礎）・Ⅱ（応用）」 令和6年度以降入学生は、「データサイエンス入門」
 - ③「法学（日本国憲法）」
 - ④「スポーツⅠ・Ⅱ」、「アダプテッドスポーツⅠ・Ⅱ」及び「武道Ⅰ・Ⅱ」の6科目より2単位以上
- (8) 「英語表現Ⅰ～Ⅵ」について、履修せず単位認定を受ける場合の単位認定条件は、Ⅲ・Ⅳ〈中級〉は英検2級合格、Ⅴ・Ⅵ〈上級〉は英検準1級合格とする。なお、下位の科目が未認定で上位の科目の認定を受けた場合、その下位の科目も同時に単位認定される。
- (9) 「TOEIC演習Ⅰ～Ⅵ」について、履修せず単位認定を受ける場合の単位認定条件は、Ⅰ〈初級〉はTOEIC 500～545点、Ⅱ〈初級〉はTOEIC 550～595点、Ⅲ〈中級〉はTOEIC 600～645点、Ⅳ〈中級〉はTOEIC 650～695点、Ⅴ〈上級〉はTOEIC 700～745点、Ⅵ〈上級〉はTOEIC 750点以上とする。なお、下位の科目が未認定で上位の科目の認定を受けた場合、その下位の科目も同時に単位認定される。
- (10) 「外国語Ⅰ・Ⅱ」については、本学が指定した留学を申請により単位認定。
- (11) 「外国語Ⅰ・Ⅱ」「キャリア形成（就業体験）」「インターンシップ」「ボランティア」の単位認定については、必要な証明書を添付の上、履修登録願を学生支援部（教務担当）へ提出すること。申請期間は運用上、各学期の履修登録修正期間とする。なお、4年次生について、上記期間に申請できなかった場合は、1月中を最終の申請期間とする。
- (12) 「スポーツⅠ・Ⅱ」の間で種目は変更できるが、「武道Ⅰ・Ⅱ」の間で種目は変更できない。

〈共通又は自学科専門（他学科専門も可）〉

「共通科目」「自学科専門科目」のそれぞれに設定された必要単位数を超えて修得した科目及び他学部・他学科の専門科目から修得した科目の単位数は、卒業判定において「共通又は専門」として集計されます。

- (1) 文学部については、共通科目又は専門科目から42単位以上修得すること。
教育学部については、共通科目又は専門科目から24単位以上修得すること。
現代日本社会学部については、共通科目又は専門科目から34単位以上修得すること。
- (2) 各学部・学科の専門科目の備考欄に「☆」のついた科目については、他学部及び他学科の学生も履修できる。
- (3) 現代日本社会学部について、教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」は、卒業・進級要件単位に含まない。

〈自学科専門科目〉

●文学部

○神道学科

- (1) 必修単位12単位、演習科目「神道学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「神道学演習Ⅰ～Ⅳ」10単位卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。
- (2) 選択必修の講義科目より20単位以上、講読科目より4単位以上修得すること。
- (3) 「祭式及び同行事作法」はⅠA→ⅠB→ⅡA→ⅡB→ⅢA→ⅢBの順序で履修すること。
ただし、「祭式及び同行事作法ⅡAまたはⅡB」が留学等の本学が認めたプログラムの参加により修得できなかったものについては、最終学年において「祭式及び同行事作法ⅢAまたはⅢB」と同時に履修することを認める場合がある。

- (4) 「神道基礎Ⅰ（神社検定）・Ⅱ（宗教文化士）」の単位認定については、検定に合格、資格を取得し、必要書類を添付の上、履修登録願を学生支援部（教務担当）へ提出すること。申請期間は、各学期の履修登録修正期間とする。
- (5) 備考
 ◎は神職課程必修科目
 △は神職課程選択必修科目
 ○は中学校・高校一種「宗教」教免必修科目
 ★は他学部・他学科学生のうち神職課程履修者のみ履修可の科目

○国文学科

- (1) 必修単位12単位、卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。
- (2) 選択必修の講義科目より8単位以上、講読科目より12単位以上、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」より8単位以上修得のこと。
- (3) 備考
 □は中学校・高校一種「国語」教免必修科目
 △は高校一種「書道」教免必修科目

○国史学科

- (1) 必修単位18単位、卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。
- (2) 選択必修の特講科目より8単位以上、講読科目より10単位（基礎史料講読2単位、史料講読8単位）以上、「東洋史概説Ⅰ・Ⅱ」及び「西洋史概説Ⅰ・Ⅱ」より4単位以上修得のこと。
- (3) 備考
 □は中学校一種「社会」教免必修科目
 ◎は高校一種「地理歴史」教免必修科目
 △は高校一種「公民」教免必修科目
 ○は中学校・高校一種「宗教」教免必修科目

○コミュニケーション学科

- (1) 必修単位16単位、卒業研究4単位を含む62単位以上修得すること。
- (2) 選択必修より2単位以上修得すること。
- (3) 備考
 □は中学校・高校一種「英語」教免必修科目

●教育学部

○教育学科（各コース共通）

- (1) 基礎必修単位12単位、演習必修18単位を含む80単位以上修得すること。
- (2) □は中学校一種「保健体育」教免必修科目
 ◎は高校一種「保健体育」教免必修科目
 ▼は中学校一種「理科」教免必修科目
 ◆は高校一種「理科」教免必修科目
 ■は中学校一種「数学」教免必修科目
 ●は高校一種「数学」教免必修科目

●現代日本社会学部

○現代日本社会学科（各コース共通）

- (1) 基礎科目4単位必修。
- (2) 基幹科目は経営革新・地域創生・福祉展開の各分野から2単位以上を含めて、8単位以上修得すること。
- (3) 演習科目は「現代日本社会演習Ⅰ～Ⅵ」12単位、「卒業研究」4単位の計16単位が必修。
- (4) 上記を含めて70単位以上修得すること。
- (5) 実習科目におけるローマ数字表記科目については、順番どおり修得すること。
- (6) 「社会情報実習Ⅰ・Ⅱ」の単位認定については、必要な証明書を添付の上、履修登録願を学生支援部（教務担当）へ提出すること。申請期間は、各学期の履修登録修正期間とする。
- なお、4年次生について、上記期間に申請できなかった場合は、1月中を最終の申請期間とする。

共 通 科 目

全学部共通科目

共通 R5 ~ 8 ①

授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			1	2	3	4	5	6	7	8				
建学の精神	必修	皇学入門《神道と日本文化》	講義	2	○									7クラス (神文史コ現各1クラス・教2クラス)
		伊勢志摩共生学	講義	2		○								
総合基礎	必修	初年次ゼミ	演習	2	○									26クラス (編入留学生クラス含む)
		日本語表現	演習	2	○	○								
	選択	情報処理Ⅰ(基礎)	演習	1	○									7クラス } R5入学生のみ 保育士・教免必修 7クラス } コミュニケーション 学科必修
		情報処理Ⅱ(応用)	演習	1		○								
数理・データサイエンス	必修	データサイエンス入門	講義	2		○								数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リ テラシーレベル) R6以降入学生保育士・教免必修
	選択	数学基礎	講義	2			○							6セメへ変更 } 数理・データサイ エンス・AI 教育プログラム 認定制度(応用 基礎レベル)
		プログラミング・アルゴリズム基礎	講義	2				○						
		データサイエンス・データエンジニアリング基礎	講義	2					○	○				
		AI基礎	講義	2						○				
地域志向科目	必修	伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ	講義	2			○							伊勢志摩圏域の定住資源と将来像 伊勢志摩圏域の経済・産業と将来像
		伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅱ	講義	2				○						
	選択	伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅲ	講義	2					○					2クラス(6次産業化実践論、 bクラスはGIS学術士必修) bクラスのみ5セメへ変更 不開講
		伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅳ	講義	2						○				2クラス(1・2・3次産業基本論、 bクラスはGIS学術士必修) bクラスのみ6セメへ変更 不開講
		伊勢志摩共生学演習Ⅰ	演習	2					○					
		伊勢志摩共生学演習Ⅱ	演習	2						○				
	必修	伊勢志摩共生学実習A	実習	1						○				
		伊勢志摩共生学実習B	実習	1							○			
人生と仕事	必修	人生と仕事Ⅰ	講義	1		○								隔週
		人生と仕事Ⅱ	講義	2					○					愛知心理教育ラボ
		グローバル化と地域の経済社会	講義	2						○				三十三総研との産学協働講座
	選択	キャリア形成(就業体験)	演習	1					○	※				海外・国内での就業体験等
		インターンシップ	演習	1							○	※		海外・国内でのインターン シップ等
		ボランティア	演習	1						○	※			教育アシスタ ント等
職業人実務基礎	選択	ビジネス会計学(基礎編)	講義	2		○								名古屋大原学園
		ビジネス会計学(応用編)Ⅰ	講義	2			○							
		ビジネス会計学(応用編)Ⅱ	講義	2				○						
		ビジネス法律学(基礎編)	講義	2					○					
		ビジネス法律学(応用編)Ⅰ	講義	2						○				
		ビジネス法律学(応用編)Ⅱ	講義	2							○			
		ビジネス金融論・税務知識Ⅰ	講義	2		○								
		ビジネス金融論・税務知識Ⅱ	講義	2			○							
		ビジネス情報学Ⅰ《ITパスポート》	講義	2	○									
		ビジネス情報学Ⅱ《ITパスポート》	講義	2		○								
		キャリア形成のための数学基礎Ⅰ	演習	2	○									
		キャリア形成のための数学基礎Ⅱ	演習	2		○								

共通 R5 ~ 8 ②

授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考				
			1年次		2年次		3年次		4年次						
			1	2	3	4	5	6	7	8					
外 選 国	英 語 表 現 I 《初 級》	演習	1	○									16クラス	教免・保育士 2単位必修	
	英 語 表 現 II 《初 級》	演習	1		○								16クラス		
	英 語 表 現 III 《中 級》	演習	1	○									4クラス		
	英 語 表 現 IV 《中 級》	演習	1		○								4クラス		
	英 語 表 現 V 《上 級》	演習	1	○									2クラス		
	英 語 表 現 VI 《上 級》	演習	1		○								2クラス		
	T O E I C 演 習 I 《初 級》	演習	1	○									3クラス		アルク
	T O E I C 演 習 II 《初 級》	演習	1		○								3クラス		
	T O E I C 演 習 III 《中 級》	演習	1	○											
	T O E I C 演 習 IV 《中 級》	演習	1		○										
	T O E I C 演 習 V 《上 級》	演習	1	○											
	T O E I C 演 習 VI 《上 級》	演習	1		○										
語 択	ポ ル ト ガ ル 語 I	演習	1	○		○							2クラス	1セメへ変更	
	ポ ル ト ガ ル 語 II	演習	1		○		○						2クラス	2セメへ変更	
	中 国 語 初 級 I	演習	1	○									4クラス		
	中 国 語 初 級 II	演習	1		○								4クラス		
	中 国 語 中 級 I	演習	1			○							2クラス		
	中 国 語 中 級 II	演習	1				○						2クラス		
	外 国 語 I	演習	2		○									} 単位認定のみ 成績はつかない	
	外 国 語 II	演習	2		○										
教 選 養 択	法 学 (日 本 国 憲 法)	講義	2			○							2クラス	教免・保育士必修	
	生 物 学	講義	2		○										
	化 学	講義	2	○											
	物 理 学	講義	2	○											
	自 然 地 理 学	講義	2		○								2クラス (中社・高地歴免必修、GIS学術士必修) 2セメのみへ変更		
	書 道 I	実技	1			○							5クラス	中国免必修	
	書 道 II	実技	1				○						5クラス	中国免必修	
	茶 道 (裏 千 家)	演習	2	○	○								隔週 各1クラス		
雅 楽 入 門	演習	2	○									不開講			
体 選 育 択	ス ポ ー ツ I	実技	1	○									10クラス	} スポーツ I・II、 武道 I・II 又はア ダプテッドスポー ツ I・II より教免 は 2 単位、保育士 は 1 単位必修 中・高(保体)教免 は柔道を履修	
	ス ポ ー ツ II	実技	1		○								10クラス		
	武 道 I 《柔 道 ・ 剣 道》	実技	1	○									4クラス		
	武 道 II 《柔 道 ・ 剣 道》	実技	1		○								4クラス		
	ア ダ プ テ ッ ド ス ポ ー ツ I	実技	1	○											
ア ダ プ テ ッ ド ス ポ ー ツ II	実技	1		○											

文学部専門科目

神道学科専門科目

神道 R5 ~ 8 ①

授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			1	2	3	4	5	6	7	8				
必修	古典講読 I A (古事記)	演習	2	○									◎ ★	2クラス
	古典講読 I B (古事記)	演習	2		○								◎ ★	
	神道史 I	講義	2			○							◎ ★	
	神道史 II	講義	2				○						◎ ★	
	宗教学概論 I	講義	2			○							◎ ○ ☆	
	宗教学概論 II	講義	2				○						◎ ○ ☆	
選択	神道概論 I	講義	2			○							◎ ○ ★	20 単 位 以 上
	神道概論 II	講義	2				○						◎ ○ ★	
	祭祀概論 I	講義	2			○							◎ ★	
	祭祀概論 II	講義	2				○						◎ ★	
	神道神学 I	講義	2								○		◎ ○ ★	
	神道神学 II	講義	2									○	◎ ○ ★	
	皇室概説	講義	2		○								△ ☆	
	神道文献	講義	2	○									△ ☆	
	神社概説	講義	2		○								△ ★	
	神道思想史	講義	2				○						△ ☆	
	近代神道史	講義	2				○						△ ☆	
	現代神道論	講義	2					○					△ ☆	
	神宮史 I	講義	2				○						△ ☆	
	神宮史 II	講義	2					○					△ ☆	
必修	宗教学講義 I	講義	2				○						○ ☆	オムニバス
	宗教学講義 II	講義	2					○					○ ☆	
	日本宗教史	講義	2					○					△ ☆	
	日本民俗論	講義	2	○									☆	
	古典講読 II A (日本書紀)	演習	2			○							◎ ★	
	古典講読 II B (日本書紀)	演習	2				○						◎ ★	
	古典講読 III A (延喜式祝詞)	演習	2					○					◎ ★	
	古典講読 III B (延喜式祝詞)	演習	2						○				◎ ★	
	有職故実	講義	2						○				◎ ★	
	神社祭祀入門	演習	2		○								△ ☆	
選択	祭式及び同行事作法 I A	演習	1			○							◎ ★	2クラス 2クラス 2クラス 2コマ連続 2コマ連続 2コマ連続 2コマ連続
	祭式及び同行事作法 I B	演習	1				○						◎ ★	
	祭式及び同行事作法 II A	演習	2					○					◎ ★	
	祭式及び同行事作法 II B	演習	2						○				◎ ★	
	祭式及び同行事作法 III A	演習	1							○			◎ ★	
	祭式及び同行事作法 III B	演習	1								○		◎ ★	
	祭式及び同行事作法 III B	演習	1									○	◎ ★	

神道 R5 ~ 8 ②

授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			1	2	3	4	5	6	7	8				
選 択	祝 詞 作 文 I	演習	2					○				◎ ★	} 検定に合格、資格を取得すること とで単位認定	
	祝 詞 作 文 II	演習	2						○			◎ ★		
	神 道 教 化 概 論 I	講義	2					○				◎ ★		
	神 道 教 化 概 論 II	講義	2						○			◎ ★		
	神 社 関 係 法 規 I	講義	2					○				◎ ★		
	神 社 関 係 法 規 II	講義	2						○			◎ ★		
	S h i n t o E n g l i s h	演習	2						○			△ ☆		
	世 界 宗 教 史 I	講義	2					○				△ ○ ☆		集中
	世 界 宗 教 史 II	講義	2						○			△ ○ ☆		集中
	仏 教 概 説	講義	2			○						△ ☆		集中
	神道基礎 I (神社検定)	演習	1	○										} 検定に合格、資格を取得すること とで単位認定
	神道基礎 II (宗教文化士)	演習	1	○										
必 修	神 道 学 基 礎 演 習 I	演習	1			○							隔週 7クラス	
	神 道 学 基 礎 演 習 II	演習	1				○						隔週 7クラス	
	神 道 学 演 習 I	演習	2					○					7クラス	
	神 道 学 演 習 II	演習	2						○				7クラス	
	神 道 学 演 習 III	演習	2							○			7クラス	
	神 道 学 演 習 IV	演習	2								○		7クラス	
必 修	卒 業 論 文	演習	4								○			

履修上の注意

◎は神職課程必修科目 △は神職課程選択必修科目

○は中学校・高校一種「宗教」教免必修科目

※62単位以上修得。

☆について、他学部・他学科の学生が履修することができます。

★について、他学部・他学科学生のうち神職課程履修者のみ履修することができます。

国文学科専門科目

国文 R5 ~ 8 ①

	授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				1	2	3	4	5	6	7	8				
必修	国文学概論Ⅰ《古典文学》	講義	2			○							□△☆	2クラス	
	国文学概論Ⅱ《近代文学》	講義	2				○						□△☆		
	国語学概論Ⅰ《音声・語彙》	講義	2	○									□☆		
	漢文学概論Ⅰ《中国思想》	講義	2			○							□△☆		
	国文学史概説Ⅰ《上代・中古・中世》	講義	2	○									□△☆		
	国文学史概説Ⅱ《近世・近代・現代》	講義	2		○								□△☆		
選	国語学概論Ⅱ《文法・書記》	講義	2				○						□☆	不開講	8 単 位 以 上
	漢文学概論Ⅱ《中国文学》	講義	2				○						□△☆		
	古典文学講義ⅠA	講義	2				○						☆		
	古典文学講義ⅠB	講義	2				○						☆		
	古典文学講義ⅠC	講義	2				○						☆		
	古典文学講義ⅠD	講義	2				○						☆		
	近代文学講義ⅠA	講義	2				○						☆		
	近代文学講義ⅠB	講義	2				○						☆		
	国語史概説Ⅰ	講義	2				○						☆		
	古典文学講義ⅡA	講義	2					○					☆		
	古典文学講義ⅡB	講義	2					○					☆		
	古典文学講義ⅡC	講義	2					○					☆		
	古典文学講義ⅡD	講義	2					○					☆		
	近代文学講義ⅡA	講義	2					○					☆		
近代文学講義ⅡB	講義	2					○					☆			
国語史概説Ⅱ	講義	2					○					☆			
択	古典文学講読ⅠA	演習	2		○								☆	不開講	12 単 位 以 上
	古典文学講読ⅠB	演習	2		○								☆		
	古典文学講読ⅠC	演習	2		○								☆		
	古典文学講読ⅠD	演習	2		○								☆		
	近代文学講読Ⅰ	演習	2		○								☆		
	国語学講読Ⅰ	演習	2		○								☆		
	古典文学講読ⅡA	演習	2			○							☆		
	古典文学講読ⅡB	演習	2			○							☆		
	古典文学講読ⅡC	演習	2			○							☆		
	古典文学講読ⅡD	演習	2			○							☆		
	近代文学講読Ⅱ	演習	2			○							☆		
	国語学講読Ⅱ	演習	2			○							☆		
	漢文学講読Ⅰ	演習	2		○								☆		
	漢文学講読Ⅱ	演習	2			○							☆		
図書館学講読	演習	2			○							☆			
修	専門演習ⅠA	演習	2					○					☆	不開講 不開講	4 単 位 必 修
	専門演習ⅡA	演習	2						○				☆		
	専門演習ⅠB	演習	2					○					☆		
	専門演習ⅡB	演習	2						○				☆		
	専門演習ⅠC	演習	2					○					☆		
	専門演習ⅡC	演習	2						○				☆		
	専門演習ⅠD	演習	2					○					☆		
	専門演習ⅡD	演習	2						○				☆		
	専門演習ⅠE	演習	2					○					☆		
	専門演習ⅡE	演習	2						○				☆		
	専門演習ⅠF	演習	2					○					☆		
	専門演習ⅡF	演習	2						○				☆		
	専門演習ⅠG	演習	2					○					☆		
	専門演習ⅡG	演習	2						○				☆		
専門演習ⅠH	演習	2					○					☆			
専門演習ⅡH	演習	2						○				☆			
専門演習ⅠⅠ(書道史)	演習	2					○					△			
専門演習ⅡⅠ(書道史)	演習	2						○				△			

カリキュラム

(国文学科専門科目 R5~8)

国文 R5 ~ 8 ②

	授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考				
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				1	2	3	4	5	6	7	8					
選 択 必 修	専 門 演 習 III a	演習	2										○		不 開 講 不 開 講	4 単 位 必 修
	専 門 演 習 IV a	演習	2											○		
	専 門 演 習 III b	演習	2										○			
	専 門 演 習 IV b	演習	2											○		
	専 門 演 習 III c	演習	2										○			
	専 門 演 習 IV c	演習	2											○		
	専 門 演 習 III d	演習	2										○			
	専 門 演 習 IV d	演習	2											○		
	専 門 演 習 III e	演習	2											○		
	専 門 演 習 IV e	演習	2											○		
	専 門 演 習 III f	演習	2											○		
	専 門 演 習 IV f	演習	2											○		
	専 門 演 習 III g	演習	2											○		
	専 門 演 習 IV g	演習	2											○		
	専 門 演 習 III h	演習	2											○		
	専 門 演 習 IV h	演習	2											○		
専 門 演 習 III i	演習	2											○			
専 門 演 習 IV i	演習	2											○			
選 択	言 語 表 現 学 概 論 I	講義	2										○		□ ☆	不 開 講 不 開 講 集 中 集 中
	言 語 表 現 学 概 論 II	講義	2										○		□ ☆	
	国 文 法 概 説 I	講義	2			○									☆	
	国 文 法 概 説 II	講義	2				○								☆	
	日 本 語 教 授 法	講義	2			○									☆	
	社 会 言 語 学	講義	2						○						☆	
	図 書 館 概 論	講義	2	○											☆	
	図 書 館 情 報 資 源 概 論	講義	2	○											☆	
	情 報 資 源 組 織 論	講義	2			○									☆	
	書 物 と 図 書 館 の 文 化 史	講義	2			○									☆	
	子 ど も の 本 と 児 童 サ ー ビ ス	講義	2				○								☆	
	読 書 と 豊 か な 人 間 性	講義	2				○								☆	
	芸 能 論 I	講義	2			○									☆	
	芸 能 論 II	講義	2				○								☆	
	日 本 文 化 史 I	講義	2					○							☆ 不 開 講	
	日 本 文 化 史 II	講義	2						○						☆ 不 開 講	
	世 界 宗 教 史 I	講義	2						○						☆ 集 中	
	世 界 宗 教 史 II	講義	2							○					☆ 集 中	
	日 本 宗 教 史	講義	2				○								☆	
書 論 ・ 鑑 賞	講義	2						○						△ ☆		
書 I (漢 字 書 法)	実技	1			○			○						△ 隔週2コマ連続 5セメへ変更		
書 II (漢 字 書 法)	実技	1				○			○					△ 隔週2コマ連続 6セメへ変更		
書 III (金 石 書 法)	実技	1						○						△		
書 IV (金 石 書 法)	実技	1							○					△		
書 V (仮 名 書 法)	実技	1								○				△		
書 VI (仮 名 書 法)	実技	1									○			△		
書 VII (作 品 制 作)	実技	1										○		△ 隔週2コマ連続		
書 VIII (作 品 制 作)	実技	1											○	△ 隔週2コマ連続		
必 修	卒 業 論 文	演習	4										○			

履修上の注意

□は中学校・高校一種「国語」教免必修科目

△は高校一種「書道」教免必修科目

※62単位以上修得。

☆について、他学部・他学科の学生が履修することができます。

国史学科専門科目

国史 R5 ~ 8 ①

カリキュラム

(国史学科専門科目 R5~8)

	授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考				
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				1	2	3	4	5	6	7	8					
必	国史概説 A 《古代》	講義	2				○							□◎☆		
	国史概説 B 《中世》	講義	2			○								□◎☆		
	国史概説 C 《近世》	講義	2		○									□◎☆		
	国史概説 D 《近現代》	講義	2	○										□◎☆		
	史学概論	講義	2				○							☆		
修	国史学演習 I 【A I ~ E】	演習	2					○								
	国史学演習 II 【A I ~ E】	演習	2						○							
	国史学特殊演習 I 【A I ~ E】	演習	2							○					【D II】 不開講	
	国史学特殊演習 II 【A I ~ E】	演習	2								○				【D II】 不開講	
選	国史学特講 A I 《古代》	講義	2					○						☆	不開講	8 単位以上
	国史学特講 A II 《古代》	講義	2						○					☆		
	国史学特講 B I 《中世》	講義	2					○						☆		
	国史学特講 B II 《中世》	講義	2						○					☆		
	国史学特講 C I 《近世》	講義	2					○						☆		
	国史学特講 C II 《近世》	講義	2						○					☆		
	国史学特講 D I 《近代》	講義	2					○						☆		
	国史学特講 D II 《近代》	講義	2						○					☆		
外国史特講 《東洋史》	講義	2							○				☆			
択	基礎史料講読 I 《古代・中世》	演習	2	○										☆	2クラス	2 単位以上
	基礎史料講読 II 《近世・近代》	演習	2		○									☆	2クラス	
必	史料講読 A I 《古代》	演習	2			○								☆	各時代の II を履修する場合は、同時代の I が履修済であることが望ましい。	8 単位以上
	史料講読 A II 《古代》	演習	2				○							☆		
	史料講読 B I 《中世》	演習	2			○								☆		
	史料講読 B II 《中世》	演習	2				○							☆		
	史料講読 C I 《近世》	演習	2				○							☆		
	史料講読 C II 《近世》	演習	2					○						☆		
	史料講読 D I 《近代》	演習	2				○							☆		
	史料講読 D II 《近代》	演習	2					○						☆		
	史料講読 E I 《東洋史》	演習	2			○								☆		
	史料講読 E II 《東洋史》	演習	2				○							☆		
選	東洋史概説 I	講義	2			○								□◎☆	4 単位以上	
	東洋史概説 II	講義	2				○							☆		
	西洋史概説 I	講義	2			○								□◎☆		
	西洋史概説 II	講義	2				○							☆		
選	漢文基礎	講義	2	○	○									☆	2クラス	
	日本史学史	講義	2		○									☆		
	古文書学 I	講義	2			○								☆		
	古文書学 II	講義	2				○							☆		
	考古学 I	講義	2			○								☆		
	考古学 II	講義	2				○							☆		
	美術史 I	講義	2			○								☆		
	美術史 II	講義	2				○							☆		
	教育史	講義	2				○							☆	2クラス	
	東洋思想史	講義	2					○						☆		
	西洋思想史	講義	2						○					☆		
	日本思想史	講義	2			○								☆		
	日本文化史 I	講義	2					○						☆	不開講	
	日本文化史 II	講義	2						○					☆	不開講	
歴史地理学 I	講義	2						○					☆			
歴史地理学 II	講義	2						○	←○				☆	5セメへ変更		

国史 R5 ~ 8 ②

授 業 科 目	種 別	単 位	配当年次・セメスター								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			1	2	3	4	5	6	7	8				
選 択	人 文 地 理 学 I	講義	2			○							□ ◎ ☆	集中
	人 文 地 理 学 II	講義	2				○						☆	
	地 誌 学	講義	2				○						□ ◎ ☆	集中
	法 律 学 概 論	講義	2				○						△ ☆	
	法 制 史 特 講	講義	2									○	☆	集中
	政 治 学 概 論	講義	2					○					△ ☆	
	政 治 学 特 講	講義	2									○	☆	集中
	社 会 学 概 論	講義	2			○							△ ☆	
	社 会 学 特 講	講義	2			○							☆	3セメへ変更
	経 済 学 概 論	講義	2			○	○						△ ☆	
	社 会 経 済 史	講義	2									○	☆	集中
	哲 学 概 論	講義	2									○	△ ○ ☆	集中
	心 理 学 概 論 I	講義	2	○									△ ☆	
	宗 教 学 概 論 I	講義	2			○							△ ☆	2クラス
	宗 教 学 概 論 II	講義	2				○						△ ☆	2クラス
	日 本 宗 教 史	講義	2				○						☆	集中
	世 界 宗 教 史 I	講義	2						○				☆	
	世 界 宗 教 史 II	講義	2							○			☆	集中
	神 宮 史 I	講義	2			○							☆	集中
	神 宮 史 II	講義	2				○						☆	
有 職 故 実	講義	2						○				☆	集中	
国文学史概説Ⅰ《上代・中古・中世》	講義	2	○									☆		中高国免必修
国文学史概説Ⅱ《近世・近代・現代》	講義	2		○								☆	中高国免必修	
博 物 館 概 論	講義	2	○									☆	集中	
博 物 館 資 料 論	講義	2		○								☆		
博 物 館 資 料 保 存 論	講義	2						○				☆		
必 修	卒 業 論 文	演習	4									○		

履修上の注意

- は中学校一種「社会」教免必修科目
- ◎は高校一種「地理歴史」教免必修科目
- △は高校一種「公民」教免必修科目
- は中学校・高校一種「宗教」教免必修科目

※62単位以上修得。

☆について、他学部・他学科の学生が履修することができます。

コミュニケーション学科専門科目

コミ R5 ~ 8 ①

	授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考					
				1年次		2年次		3年次		4年次							
				1	2	3	4	5	6	7	8						
必修	学科共通	英語学概論 I	講義	2	○									☆	9クラス 9クラス 9クラス 9クラス		
		心理学概論 I	講義	2	○									☆			
		情報科学概論 I	講義	2	○									☆			
	演習	基礎演習	演習	2				○									
		専門演習 I	演習	2					○								
		専門演習 II	演習	2						○							
		専門演習 III	演習	2							○						
選択必修	学科共通	英語学概論 II	講義	2		○								☆	2単位以上		
		心理学概論 II	講義	2		○								☆			
選択	学 科 共 通	日本語コミュニケーション概論 I	講義	2		○								☆	3セメへ変更 4セメへ変更 2クラス(コミ1、教育1) 1セメへ変更 2セメへ変更 不開講 不開講 集中		
		日本語コミュニケーション概論 II	講義	2			○							☆			
		表現演習 I 《文章》	演習	2				○						☆			
		表現演習 II 《話し方》	演習	2					○					☆			
		社会言語学	講義	2						○				☆			
		異文化間コミュニケーション I	講義	2	○									☆			
		異文化間コミュニケーション II	講義	2		○								☆			
		海外事情 I	講義	2		○								☆			
		海外事情 II	講義	2			○							☆			
		日本文化史 I	講義	2						○				☆			
	日本文化史 II	講義	2							○			☆				
	人文地理学 I	講義	2			○							☆				
	人文地理学 II	講義	2				○						☆				
	地誌学	講義	2					○						☆			
	英 語	英文法 I	講義	2	○									☆	2クラス(コミ1、教育1) 2クラス(コミ1、教育1) 2クラス(コミ1、教育1) 2クラス(コミ1、教育1) 2クラス(コミ1、教育1) 2クラス(コミ1、教育1) 2クラス(コミ1、教育1) 2クラス(コミ1、教育1) 2クラス(コミ1、教育1) 2クラス(コミ1、教育1)		
		英文法 II	講義	2		○								☆			
		リーディング・ライティング基礎 I	演習	2	○									☆			
		リーディング・ライティング基礎 II	演習	2		○								☆			
		リーディング・ライティングスキル I	演習	2			○							☆			
		リーディング・ライティングスキル II	演習	2				○						☆			
英文学概論 I		講義	2			○							☆				
英文学概論 II		講義	2				○						☆				
英文学講読 I		演習	2					○					☆				
英文学講読 II		演習	2						○				☆				
英 語	英語音声学 I	演習	2			○							☆	2クラス(コミ1、教育1) 2クラス(コミ1、教育1) ☆ ☆ 3セメへ変更 ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆			
	英語音声学 II	演習	2				○						☆				
	ブラクティカル・イングリッシュ I	演習	2			○							☆				
	ブラクティカル・イングリッシュ II	演習	2				○						☆				
	英会話中級	演習	2					○					☆				
	英会話上級	演習	2						○				☆				
	Business English I	演習	2						○				☆				
	Business English II	演習	2							○			☆				
	Global Japan	演習	2			○							☆				
	Tourism English	演習	2				○						☆				
英 語	Japanese Culture and History	演習	2				○						☆	3セメへ変更 ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆			
	Shinto English	演習	2						○				☆				
	時事英語	演習	2								○		☆				
	Study Abroad I	演習	2	○									☆				
	Study Abroad II	演習	2	○									☆				
	Study Abroad III	演習	2	○									☆				
	Study Abroad IV	演習	2	○									☆				
	Study Abroad V	演習	2	○									☆				
	Study Abroad VI	演習	2	○									☆				
	Study Abroad VII	演習	2	○									☆				
Study Abroad VIII	演習	2	○									☆					
Study Abroad IX	演習	2	○									☆					

カリキュラム

(コミュニケーション学科専門科目 R5~8)

教育学部専門科目

教育学科専門科目

教育 R7・8 ①

カリキュラム

(教育学科専門科目 R7・8)

	授業科目	種別	単位	配当年次・セメスター								備考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				1	2	3	4	5	6	7	8		
基礎	教育学概論	講義	2	○									☆
	教育哲学	講義	2		○								☆2クラス
	教育史	講義	2		○								☆2クラス
	教育社会学	講義	2		○								☆
	教育・学校心理学	講義	2		○								☆2クラス(教2セメ1・文現3セメ1)
	特別支援教育の基礎	講義	2			○							☆2クラス(初保数1・幼1)
応	教職論	講義	2		○								☆
	教育方法論(ICTの活用を含む)	講義	2				○						☆2クラス
	教育課程論	講義	2					○	○				☆2クラス
	道徳の理論及び指導法	講義	2	○									☆
	生涯学習論	講義	2		○								☆ 3クラス(図書館司書・学芸員はaクラスまたはbクラス必修、保育士はcクラス必修)
	病弱児教育方法	講義	2					○					
	特別支援教育課程論	講義	2				○						
	特別支援教育総論	講義	2				○						
	障害児療育論	講義	2				○						
	保育内容総論	演習	1							○			2クラス 隔週
	保育指導の方法	講義	2						○				
	運動学(運動方法学)	講義	2							○			□◎
	児童国語	演習	2				○						☆2クラス
	児童社会	演習	2					○					☆3クラス
	児童算数	演習	2				○						☆2クラス
	児童理科	演習	2				○	○					☆12クラス(春6・秋6)
	児童生活	演習	2				○						☆2クラス
	児童音楽	演習	2				○	○					☆4クラス(春1・秋3)
	児童造形	演習	2				○	○					☆5クラス(春3・秋2)
	児童家庭	演習	2				○	○					☆6クラス(春3・秋3)
児童体育	演習	2						○	○			☆2クラス(春1・秋1)	
児童英語	演習	2					○					☆2クラス	
解	幼児と健康	演習	2				○						
	幼児と人間関係	演習	2				○						
	幼児と環境	演習	2				○						
	幼児と言葉	演習	2				○						
	幼児と表現(身体)	演習	2					○					2クラス
	幼児と表現(造形)	演習	2					○					2クラス
	幼児と表現(音楽)	演習	2					○	○				2クラス(春1・秋1)
	総合的な学習の時間の指導法	講義	1								○		
用	特別活動の指導法	講義	1							○			☆2クラス
	国語科教育法	講義	2				○						☆3クラス
	社会科教育法	講義	2				○						☆2クラス
	算数科教育法	講義	2				○						☆4クラス
	理科教育法	講義	2				○						☆4クラス オムニバス
	生活科教育法	講義	2							○			☆2クラス
	音楽科教育法	講義	2				○	○					☆4クラス(春2・秋2)
	図画工作科教育法	講義	2						○	○			☆7クラス(春3・秋4)
	家庭科教育法	講義	2							○			☆2クラス
	体育科教育法	講義	2					○					☆3クラス
	英語科教育法	講義	2						○	○			☆4クラス(春2・秋2)
	法	言葉(指導法)	演習	2				○					
身体表現(指導法)		演習	2						○				2クラス
造形表現(指導法)		演習	2				○	○					2クラス 3セメへ変更
音楽表現(指導法)		演習	2						○				2クラス
健康(指導法)		演習	2					○					2クラス

※幼児教育コースの学生は3年次以降に履修すること

教育 R7・8 ②

授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			1	2	3	4	5	6	7	8				
応指 導 法 用	人間関係(指導法)	演習	2		○									2クラス
	環境(指導法)	演習	2				○							2クラス
	保健体育科教育法 I	講義	2			○								□◎
	保健体育科教育法 II	講義	2				○							□◎
	保健体育科教育法 III	講義	2					○						□
	保健体育科教育法 IV	講義	2						○					□
	数学科教育法 I	講義	2			○								■●
	数学科教育法 II	講義	2				○							■●
	数学科教育法 III	講義	2					○						■
	数学科教育法 IV	講義	2						○					■
	理科教育法 I	講義	2			○								▼◆
	理科教育法 II	講義	2				○							▼◆集中
	理科教育法 III	講義	2					○						▼
	理科教育法 IV	講義	2						○					▼
実践演習	教職実践演習(初等)	演習	2									○		
	教職実践演習(中等)	演習	2									○		
展 文 ・ 社 会 数 理 情 報	教育法 規	講義	2								○			☆ 隔週2コマ
	教育の社会と制度	講義	2						○					☆ 2クラス(教1・文現1)
	体育史	講義	2		○									
	体育原理	講義	2	○										□◎
	体育原理	講義	2	○										集中
	体育社会学	講義	2					○						
	体育経営管理学	講義	2						○					
	教育相談	講義	2					○	○					☆ 3クラス (教5・6セメ2・文6セメ1)
	生徒・進路指導の理論及び方法	講義	2						○					☆ 3クラス(教2・文現1)
	障害児心理学	講義	2				○							
	子どもの心理学	講義	2			○								
	子ども家庭支援の心理学	講義	2						○					
	幼児理解	演習	1				○							2クラス 隔週 集中
	体育心理学	講義	2				○							
	代数学基礎	講義	2	○										■●
	代数学序論	講義	2		○									■●
	代数学 I	講義	2			○								■●
	代数学 II	講義	2				○							■●
	代数学 III	講義	2					○						
	代数学 IV	講義	2						○					
	幾何学基礎	講義	2	○										■●
	幾何学序論	講義	2		○									■●
	幾何学 I	講義	2			○								■●
	幾何学 II	講義	2				○							■●
幾何学 III	講義	2					○							
幾何学 IV	講義	2						○						
解析学基礎	講義	2	○										■●	
解析学序論	講義	2		○									■●	
解析学 I	講義	2			○								■●	
解析学 II	講義	2				○							■●	
解析学 III	講義	2					○							
解析学 IV	講義	2						○						
確率・統計学 I	講義	2						○					■●	
確率・統計学 II	講義	2							○					
コンピュータ概論	講義	2						○					■●	
コンピュータ演習	演習	2							○					

展 数 理 情 報 医 学 健 康 子 ど も 支 援 ス ポ ー ツ	授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				1	2	3	4	5	6	7	8			
	物 理 学 基 礎	講義	2	○	←○									▼◆1セメへ変更
	物 理 学 I	講義	2			○								▼◆
	物 理 学 II	講義	2				○							
	物 理 学 III	講義	2					○						
	物 理 学 IV	講義	2						○					
	化 学 基 礎	講義	2		○									▼◆
	化 学 I	講義	2			○								▼◆
	化 学 II	講義	2				○							
	化 学 III	講義	2					○						
	化 学 IV	講義	2						○					
	生 物 学 基 礎	講義	2	○	←○									▼◆1セメへ変更
	生 物 学 I	講義	2			○								▼◆
	生 物 学 II	講義	2				○							
	生 物 学 III	講義	2					○						
	生 物 学 IV	講義	2						○					
	地 学 基 礎	講義	2	○	←○									▼◆1セメへ変更
	地 学 I	講義	2			○								▼◆
	地 学 II	講義	2				○							
	地 学 III	講義	2					○						
	地 学 IV	講義	2						○					
	物 理 学 実 験 ・ 地 学 実 験	演習	2						○					▼◆
	化 学 実 験 ・ 生 物 学 実 験	演習	2					○						▼◆
	理 科 実 験 指 導 法 I	演習	2					○						☆
	理 科 実 験 指 導 法 II	演習	2						○					☆
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 教 育 演 習	演習	2					○						☆
	I C T 教 育 教 材 開 発 演 習	演習	2						○					☆
	子 ど も の 食 と 栄 養	演習	2					○						2クラス
	生 理 学	講義	2		○									□◎
	バ イ オ メ カ ニ ク ス	講義	2			○								隔週
	子 ど も の 保 健	講義	2					○						2クラス
	子 ど も の 健 康 と 安 全	演習	1						○					2クラス 隔週
	学 校 保 健	講義	2					○						□◎
	衛 生 学	講義	2			○								□◎
	公 衆 衛 生 学	講義	2				○							
	児 童 文 化 論	講義	2	○										☆
	社 会 福 祉	講義	2		○									
	社 会 的 養 護 I	講義	2				○							隔週
	社 会 的 養 護 II	演習	1					○						
	子 ど も 家 庭 福 祉	講義	2			○								
	子 育 て 支 援	演習	1							○				隔週 2クラス
	子 ど も 家 庭 支 援 論	講義	2								○			
	乳 児 保 育 I	講義	2					○						
	乳 児 保 育 II	演習	1					○						2クラス 隔週
	障 害 児 保 育	演習	2							○				
	障 害 者 ス ポ ー ツ 論	講義	2					○						☆ 他学科は(現)福祉展開コースのみ履修可
	体 育 実 技 (陸 上)	演習	2				○							□◎2クラス
	体 育 実 技 (器 械 運 動 ・ 体 つ くり 運 動)	演習	2			○								□◎2クラス
	体 育 実 技 (球 技)	演習	2			○								□◎2クラス
	体 育 実 技 (水 泳)	演習	1			○								□◎集中
	体 育 実 技 (柔 道)	演習	2			○	○							□◎4クラス(春2・秋2)
	体 育 実 技 (ダ ンス ・ 舞 踊)	演習	2					○						□◎2クラス
	体 育 実 技 (野 外 活 動)	演習	1		○									集中 1-2セメへ変更
	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 演 習	演習	2		○									保健体育コース希望者は履修が望ましい

教育 R7・8 ④

授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考		
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			1	2	3	4	5	6	7	8			
実 習	教育実習(小学校)	実習	4					○					☆ 文学部の場合は小一種免取得の場合のみ 隔週 ☆ 文学部の場合は小一・二種免取得の場合のみ 隔週 隔週 隔週 隔週 隔週 隔週 隔週
	教育実習(幼稚園)	実習	4					○					
	教育実習 I	実習	4					○					
	教育実習 II	実習	2					○					
	介護等体験実習	実習	1			○							
	教育実習事前事後指導(小学校)	演習	1					○					
	教育実習事前事後指導(幼稚園)	演習	1					○					
	教育実習事前事後指導(中等)	演習	1					○					
	保育所実習 I	実習	2			○							
	保育所実習 II	実習	2							○			
	児童福祉施設等実習	実習	2					○					
	保育実習指導 I (保育所)	演習	1			○							
	保育実習指導 I (児童福祉施設等)	演習	1					○					
保育実習指導 II	演習	1							○				
演 習	教育研究基礎演習 I	演習	2		○								
	教育研究基礎演習 II	演習	2			○							
	教育研究基礎演習 III	演習	2				○						
	教育研究演習 I	演習	2					○					
	教育研究演習 II	演習	2						○				
	教育研究演習 III	演習	2							○			
	教育研究演習 IV	演習	2								○		
	卒業研究	演習	4								○		

履修上の注意
 □は中学校一種「保健体育」教免必修科目
 ◎は高校一種「保健体育」教免必修科目
 ▼は中学校一種「理科」教免必修科目
 ◆は高校一種「理科」教免必修科目
 ■は中学校一種「数学」教免必修科目
 ●は高校一種「数学」教免必修科目
 ☆について、他学部・他学科の学生が履修することができます。
 他学部・他学科の学生が教育学部の演習・実習科目を履修する場合、小学校教諭二種免許状を取得することが条件になります。

カリキュラム (教育学科専門科目 R7・8)

教育学科専門科目

教育 R5・6 ①

	授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				1	2	3	4	5	6	7	8		
基礎	教 育 学 概 論	講義	2	○									☆
	教 育 哲 学	講義	2		○								☆2クラス
	教 育 史	講義	2		○								☆2クラス
	教 育 社 会 学	講義	2		○								☆
	教 育 ・ 学 校 心 理 学	講義	2		○								☆2クラス (教2セメ1・文現3セメ1)
	特 別 支 援 教 育 の 基 礎	講義	2			○							☆2クラス(初保数1・幼1)
応	教 職 論	講義	2		○								☆
	教育方法論(ICTの活用を含む)	講義	2				○						☆2クラス
	教 育 課 程 論	講義	2					○	○				☆2クラス
	道 徳 の 理 論 及 び 指 導 法	講義	2	○									☆
	生 涯 学 習 論	講義	2		○								☆ 3クラス(教1・文現2、図書 館司書・学芸員はaクラス またはbクラス必修、保育 士はcクラス必修)
	病 弱 児 教 育 方 法	講義	2					○					
	特 別 支 援 教 育 課 程 論	講義	2				○						
	特 別 支 援 教 育 総 論	講義	2				○						
	障 害 児 療 育 論	講義	2				○						
	保 育 内 容 総 論	演習	1							○			隔週 2クラス
	保 育 指 導 の 方 法	講義	2						○				
	運 動 学 (運 動 方 法 学)	講義	2							○			□◎
	児 童 国 語	演習	2				○						☆2クラス
	児 童 社 会	演習	2					○					☆3クラス
	児 童 算 数	演習	2				○						☆2クラス
	児 童 理 科	演習	2				○	○					☆12クラス(春6・秋6)
	児 童 生 活	演習	2				○						☆2クラス
	児 童 音 楽	演習	2				○	○					☆4クラス(春1・秋3)
	児 童 造 形	演習	2				○	○					☆5クラス(春3・秋2)
	児 童 家 庭	演習	2				○	○					☆6クラス(春3・秋3)
児 童 体 育	演習	2						○	○			☆2クラス(春1・秋1)	
児 童 英 語	演習	2						○				☆2クラス	
幼 児 と 健 康	演習	2				○							
幼 児 と 人 間 関 係	演習	2				○							
幼 児 と 環 境	演習	2				○							
幼 児 と 言 葉	演習	2				○							
幼 児 と 表 現 (身 体)	演習	2					○					2クラス	
幼 児 と 表 現 (造 形)	演習	2					○					2クラス	
幼 児 と 表 現 (音 楽)	演習	2				○	○					2クラス(春1・秋1)	
用 導 法	総合的な学習の時間の指導法	講義	1								○		
	特 別 活 動 の 指 導 法	講義	1							○			☆2クラス
	国 語 科 教 育 法	講義	2				○						☆3クラス
	社 会 科 教 育 法	講義	2				○						☆2クラス
	算 数 科 教 育 法	講義	2				○						☆4クラス
	理 科 教 育 法	講義	2				○						☆4クラス オムニバス
	生 活 科 教 育 法	講義	2							○			☆2クラス
	音 楽 科 教 育 法	講義	2				○	○					☆4クラス(春2・秋2)
	図 画 工 作 科 教 育 法	講義	2						○	○			☆7クラス(春3・秋4)
	家 庭 科 教 育 法	講義	2							○			☆2クラス
	体 育 科 教 育 法	講義	2					○					☆3クラス
	英 語 科 教 育 法	講義	2						○	○			☆4クラス(春2・秋2)
	言 葉 (指 導 法)	演習	2				○						集中
	身 体 表 現 (指 導 法)	演習	2						○				2クラス
造 形 表 現 (指 導 法)	演習	2				○	○					2クラス 3セメへ変更	
音 楽 表 現 (指 導 法)	演習	2						○				2クラス	

幼児教育
コースの
学生は3
年次以降
履修す
ること

カリキュラム
(教育学科専門科目 R5・6)

教育 R5・6 ②

授業科目	種別	単位	配当年次・セメスター								備考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			1	2	3	4	5	6	7	8				
応 指 導 法	健康(指導法)	演習	2				○							2クラス
	人間関係(指導法)	演習	2		○									2クラス
	環境(指導法)	演習	2				○							2クラス
	保健体育科教育法Ⅰ	講義	2			○								□◎
	保健体育科教育法Ⅱ	講義	2				○							□◎
	保健体育科教育法Ⅲ	講義	2					○						□
	保健体育科教育法Ⅳ	講義	2						○					□
	数学科教育法Ⅰ	講義	2			○								■●
	数学科教育法Ⅱ	講義	2				○							■●
	数学科教育法Ⅲ	講義	2					○						■
数学科教育法Ⅳ	講義	2						○					■	
用 実践演習	教職実践演習(初等)	演習	2										○	
	教職実践演習(中等)	演習	2										○	
展 文 ・ 社 会 数 理 ・ 情 報	教育法規	講義	2									○		☆ 隔週 2コマ
	教育の社会と制度	講義	2						○					☆ 2クラス(教1・文現1)
	体育史	講義	2		○									
	体育原理	講義	2	○										□◎
	体育原理	講義	2	○										集中
	体育社会学	講義	2					○						
	体育経営管理学	講義	2							○				
	教育相談	講義	2						○	○				☆ 3クラス (教5・6セメ2・文6セメ1)
	生徒・進路指導の理論及び方法	講義	2							○				☆ 3クラス(教2・文現1)
	障害児心理学	講義	2				○							
	子どもの心理学	講義	2			○								
	子ども家庭支援の心理学	講義	2							○				
	幼児理解	演習	1				○							隔週 2クラス
	体育心理学	講義	2				○							集中
	代数学基礎	講義	2	○										■●
	代数学序論	講義	2		○									■●
	代数学Ⅰ	講義	2			○								■●
	代数学Ⅱ	講義	2				○							■●
	代数学Ⅲ	講義	2					○						■●
	代数学Ⅳ	講義	2						○					■●
幾何学基礎	講義	2	○										■●	
幾何学序論	講義	2		○									■●	
幾何学Ⅰ	講義	2			○								■●	
幾何学Ⅱ	講義	2				○							■●	
幾何学Ⅲ	講義	2					○						■●	
幾何学Ⅳ	講義	2						○					■●	
解析学基礎	講義	2	○										■●	
解析学序論	講義	2		○									■●	
解析学Ⅰ	講義	2			○								■●	
解析学Ⅱ	講義	2				○							■●	
解析学Ⅲ	講義	2					○						■●	
解析学Ⅳ	講義	2						○					■●	
確率・統計学Ⅰ	講義	2						○					■●	
確率・統計学Ⅱ	講義	2							○				■●	
コンピュータ概論	講義	2						○					■●	
コンピュータ演習	演習	2							○					
理科実験指導法Ⅰ	演習	2						○					☆	
理科実験指導法Ⅱ	演習	2							○				☆	
プログラミング教育演習	演習	2						○					☆	
ICT教育教材開発演習	演習	2							○				☆	

カリキュラム (教育学科専門科目 R5・6)

展	業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				1	2	3	4	5	6	7	8			
展	子どもの食と栄養	演習	2					○					2クラス	
	生 理 学	講義	2		○								□◎	
	バイオメカニクス	講義	2			○							隔週	
	子どもの保健	講義	2					○					2クラス	
	子どもの健康と安全	演習	1						○				隔週 2クラス	
	学 校 保 健	講義	2					○					□◎	
	衛 生 学	講義	2			○							□◎	
	公 衆 衛 生 学	講義	2				○							
	子 ども 支 援	児 童 文 化 論	講義	2	○									☆
		社 会 福 祉	講義	2		○								
社 会 的 養 護 I		講義	2				○						隔週	
社 会 的 養 護 II		演習	1					○						
子 ども 家 庭 福 祉		講義	2			○								
子 育 て 支 援		演習	1								○		隔週 2クラス	
子 ども 家 庭 支 援 論		講義	2									○		
乳 児 保 育 I		講義	2					○						
乳 児 保 育 II		演習	1					○						隔週 2クラス
障 害 児 保 育		演習	2								○			
ス ポ ー ツ	障 害 者 ス ポ ー ツ 論	講義	2					○					☆ 他学科は(現)福祉展開コースのみ履修可	
	体 育 実 技 (陸 上)	演習	2				○						□◎2クラス	
	体 育 実 技 (器 械 運 動 ・ 体 つ くり 運 動)	演習	2			○							□◎2クラス	
	体 育 実 技 (球 技)	演習	2			○							□◎2クラス	
	体 育 実 技 (水 泳)	演習	1			○							□◎集中	
	体 育 実 技 (柔 道)	演習	2			○	○						□◎4クラス(春2・秋2)	
	体 育 実 技 (ダ ンス ・ 舞 踊)	演習	2					○					□◎2クラス	
	体 育 実 技 (野 外 活 動)	演習	1		○								集中 1-2セメへ変更	
	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 演 習	演習	2		○								保健体育コース 希望者は履修が望ましい	
	実 習	教 育 実 習 (小 学 校)	実習	4					○					☆ 文学部の場合は小一種免取得の場合のみ
教 育 実 習 (幼 稚 園)		実習	4					○						
教 育 実 習 I		実習	4					○						
教 育 実 習 II		実習	2					○						
介 護 等 体 験 実 習		実習	1			○							隔週	
教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 (小 学 校)		演習	1					○					☆ 文学部の場合は小一・二種免取得の場合のみ 隔週	
教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 (幼 稚 園)		演習	1					○					隔週	
教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 (中 等)		演習	1					○					隔週	
保 育 所 実 習 I		実習	2			○								
保 育 所 実 習 II		実習	2								○			
児 童 福 祉 施 設 等 実 習		実習	2					○						
保 育 実 習 指 導 I (保 育 所)		演習	1			○							隔週	
保 育 実 習 指 導 II (児 童 福 祉 施 設 等)		演習	1					○					隔週	
保 育 実 習 指 導 III	演習	1								○		隔週		
演 習 修	教 育 研 究 基 礎 演 習 I	演習	2		○									
	教 育 研 究 基 礎 演 習 II	演習	2			○								
	教 育 研 究 基 礎 演 習 III	演習	2				○							
	教 育 研 究 演 習 I	演習	2					○						
	教 育 研 究 演 習 II	演習	2						○					
	教 育 研 究 演 習 III	演習	2							○				
	教 育 研 究 演 習 IV	演習	2								○			
	卒 業 研 究	演習	4									○		

履修上の注意

□は中学校一種「保健体育」教免必修科目

◎は高校一種「保健体育」教免必修科目

■は中学校一種「数学」教免必修科目

●は高校一種「数学」教免必修科目

☆について、他学部・他学科の学生が履修することができます。

他学部・他学科の学生が教育学部の演習・実習科目を履修する場合、小学校教諭二種免許状を取得することが条件になります。

現代日本社会学部専門科目

現代日本社会学科専門科目

現日 R5～8 ①

授 業 科 目		種別	単位	配当年次・セメスター								備 考				
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				1	2	3	4	5	6	7	8					
基礎科目	必修	現代日本社会総論	講義	2	○									12クラス	4単位	
		リーダーシップ・セミナー	演習	2		○										
基幹科目	経営革新	現代憲法論	講義	2	○									☆	8単位以上	
		経営学概論	講義	2	○									☆		
		マネジメント論	講義	2	○									☆		
		日本国家論	講義	2		○								☆		
		スポーツキャリア論	講義	2	○									☆		
	日本文化論	講義	2		○								☆			
	地域創生	選択必修	現代社会論	講義	2	○										☆
			地域社会論	講義	2		○									☆
			社会学概論	講義	2		○									☆
	福祉展開	選択必修	社会福祉の原理と政策	講義	4		○									☆ 週2コマ
ソーシャルワークの基盤と専門職			講義	2		○								☆		
展 開 科 目	選 択	法律学概論	講義	2				○						☆		
		スポーツ革新論	講義	2		○								☆		
		地域スポーツ論	講義	2			○							☆		
		スポーツ指導論	講義	2				○						☆		
		日本外交論	講義	2					○	→	○			☆ 6セメへ変更		
		マーケティング論	講義	2				○						☆		
		イノベーション論	講義	2				○						☆		
		安全保障論	講義	2				○						☆ 自衛隊三重地方協力本部		
		現代日本政治論	講義	2			○							☆		
		日本芸能論	講義	2			○							☆		
		日本礼法論	講義	2		○	←	○						☆ 集中 2セメへ変更		
		映像発信論Ⅰ	講義	2	○									☆		
		映像発信論Ⅱ	講義	2		○								☆		
		伊勢志摩発信英語	講義	2	○									☆		
		海外インターンシップ英語	講義	2		○								☆		
		日本文化発信英語	講義	2			○							☆		
		伊勢志摩食材論	講義	2			○							☆		
		日本料理発信論	講義	2				○						☆		
		SBP概説《社会ビジネス活動概説》	講義	2		○								☆		
		社会情報学	講義	2			○							☆		
		社会調査法	講義	2				○						☆		
		社会情報分析	講義	2				○						☆		
		産業社会学	講義	2			○							☆ 不開講		
		家族社会学	講義	2				○						☆		
		社会統計学Ⅰ(基礎統計)	講義	2					○					☆		
		社会統計学Ⅱ(多変量解析)	講義	2						○				☆		
		質的調査論	講義	2							○			☆		
		公共政策論	講義	2				○						☆		
		心理学と心理的支援	講義	2					○					☆		
		社会福祉調査の基礎	講義	2					○					☆		
		ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	講義	2			○							☆		
		ソーシャルワークの理論と方法	講義	4			○							☆		
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	講義	4				○						☆ 隔週・集中		
		医学概論	講義	2			○	←	○					☆ 3セメへ変更 隔週2コマ連続		
社会保障	講義	4			○							☆ 週2コマ				
児童・家庭福祉	講義	2			○							☆				
障害者福祉	講義	2				○						☆				
貧困に対する支援	講義	2				○						☆				
高齢者福祉	講義	2				○						☆				
地域福祉と包括的支援体制	講義	4				○						☆ 週2コマ				
保健医療と福祉	講義	2					○					☆				

授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考		
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			1	2	3	4	5	6	7	8			
展 選 開 科 目 択	作物栽培学講義	講義	2	○									☆ 集中(三重県農業大学校)
	経営倫理論	講義	2					○					☆ 集中
	観 光 論	講義	2						○				☆
	サブカルチャー論	講義	2			○							☆
	伝統音楽論	講義	2				○						☆
	情報リテラシーと経済安全保障	講義	2		○								☆
	権利擁護を支える法制度	講義	2						○				☆
	福祉サービスの組織と経営	講義	2					○					☆
	刑事司法と福祉	講義	2							○			☆
	精神保健福祉制度論	講義	2						○				☆
	精神保健福祉の原理Ⅰ	講義	2				○						☆
	精神保健福祉の原理Ⅱ	講義	2					○					☆
	精神医学と精神医療Ⅰ	講義	2					○					☆
	精神医学と精神医療Ⅱ	講義	2						○				☆
	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	講義	2					○					☆ 集中
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	講義	2						○				☆ 集中
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	講義	2					○					☆ 集中
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅲ	講義	2						○				☆
	精神障害リハビリテーション論	講義	2							○			☆ 隔週
	神道福祉論	講義	2						○				☆
	近代神道史	講義	2					○					☆
	皇室概説	講義	2				○						☆
	一般知能Ⅰ(数的処理入門)	講義	2		○								☆
	一般知能Ⅱ(数的処理B-I)	講義	2			○							☆
	一般知能Ⅲ(数的処理B-II)	講義	2				○						☆
	一般知能Ⅳ(数的処理A-I、文章理解)	講義	2					○					☆
	一般知能Ⅴ(数的処理A-II)	講義	2						○				☆
	一般知識Ⅰ(政治)	講義	2			○							☆
	一般知識Ⅱ(経済)	講義	2				○						☆
	一般知識Ⅲ(日本史、世界史)	講義	2					○					☆
	一般知識Ⅳ(地理、思想)	講義	2						○				☆
	一般知識Ⅴ(社会)	講義	2						○				☆
	一般知識Ⅵ(地学、生物)	講義	2							○			☆ 集中
専門Ⅰ(憲法)	講義	2		○								☆	
専門Ⅱ(政治学、社会学)	講義	2		○								☆	
専門Ⅲ(民法Ⅰ)	講義	2			○							☆	
専門Ⅳ(行政法Ⅰ)	講義	2			○							☆	
専門Ⅴ(民法Ⅱ)	講義	2				○						☆	
専門Ⅵ(行政法Ⅱ、行政学)	講義	2				○						☆	
専門Ⅶ(ミクロ経済学)	講義	2					○					☆	
専門Ⅷ(マクロ経済学)	講義	2						○				☆	
専門Ⅸ(経済系科目演習)	講義	2					○					☆ 集中	
専門Ⅹ(法律系科目演習)	講義	2						○				☆	
実 習 科 目 択	作物栽培学実習	実習	1	○									☆ 集中(三重県農業大学校)
	産業社会実習指導	実習	1			○							
	産業社会実習Ⅰ	実習	1			○							
	産業社会実習Ⅱ	実習	1			○							
	社会調査実習Ⅰ	実習	1					○					2クラス
	社会調査実習Ⅱ	実習	1						○				2クラス
	S B P 実習Ⅰ 《社会ビジネス活動実習Ⅰ》	実習	1			○							2クラス
	S B P 実習Ⅱ 《社会ビジネス活動実習Ⅱ》	実習	1				○						2クラス
	社会情報実習Ⅰ《映像制作》	実習	1			○							2クラス (bクラス(五十嵐)は単位認定)
	社会情報実習Ⅱ《映像制作》	実習	1				○						2クラス (bクラス(五十嵐)は単位認定)

名古屋大原学園

現日 R5 ~ 8 ③

授 業 科 目		種別	単位	配当年次・セメスター								備 考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				1	2	3	4	5	6	7	8				
実 習 科 目	選	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	1			○							隔週	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	2					○						
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習	1				○							
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	実習	4					○						
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習	1						○					
		ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	実習	1							○				
		ソーシャルワーク実習Ⅲ	実習	4								○			
		ソーシャルワーク実習指導Ⅴ	実習	1									○		
	択	礼 法 Ⅰ	実習	1	○										☆2クラス
		礼 法 Ⅱ	実習	1		○									☆2クラス
		礼 法 Ⅲ	実習	1			○								☆
		礼 法 Ⅳ	実習	1				○							☆
		能 Ⅰ	実習	1	○										☆ 隔週2コマ
		能 Ⅱ	実習	1	○	○									☆ 隔週2コマ 1セメへ変更
		茶 道 Ⅰ	実習	1	○										☆2クラス
		茶 道 Ⅱ	実習	1		○									☆2クラス
演 習 科 目	必 修	現代日本社会演習Ⅰ	演習	2			○							11クラス	
		現代日本社会演習Ⅱ	演習	2				○						11クラス	
		現代日本社会演習Ⅲ	演習	2					○					12クラス	
		現代日本社会演習Ⅳ	演習	2						○				12クラス	
		現代日本社会演習Ⅴ	演習	2							○			12クラス	
		現代日本社会演習Ⅵ	演習	2								○		12クラス	
	選 択	卒業研究	演習	4									○		
		総合福祉演習Ⅰ	演習	1								○			4クラス
		総合福祉演習Ⅱ	演習	1									○		4クラス
		ソーシャルワーク演習	演習	1				○							
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	演習	2					○						週2コマ
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	演習	2						○					週2コマ
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	演習	1						○					
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ	演習	1								○			
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅴ	演習	1									○		

履修上の注意

☆について、他学部・他学科の学生が履修することができます。

Ⅲ. 卒業進級要件・カリキュラム表 (平成31~令和4年度の入学生)

必要修得単位数

カリキュラム (卒業進級要件 H31~R4)

学部	学科	科目区分	共通科目											共通又は自学科専門 (他学科専門も可)	自学科専門科目										卒業進級単位数	各種課程
			建学の精神 必修	総合基礎		地域志向科目	人生と仕事	職業人実務基礎	外国語	教養	体育	伝統文化	単位互換単位認定	選択科目	必修	講義	講読	演習		特講	概説	卒業論文又は卒業研究				
				必修	選択													必修	選択							
文	文学部	神道	4	4																			卒業論文 4	卒業進級単位数 卒業単位124単位以上 (「初年次ゼミ」2単位を含む)	卒業・進級の単位には含まれません	
			20以上											42以上	62以上											
		国文	4	4																						卒業論文 4
			20以上											42以上	62以上											
国史	4	4														10		10以上			8		8以上	4以上	卒業論文 4	
	20以上											42以上	62以上													
コミュニケーション	4	4																					卒業研究 4			
	20以上											42以上	62以上													
教	教育	(4コース)	4	4																				2単位を含む	卒業進級単位数 卒業単位124単位以上 進級単位62単位以上 (「初年次ゼミ」2単位を含む)	卒業・進級の単位には含まれません
			20以上											24以上	80以上											
現代	現代日本社会	(4コース)	4	4																					卒業進級単位数 卒業単位124単位以上 進級単位62単位以上 (「初年次ゼミ」2単位を含む)	卒業・進級の単位には含まれません
			20以上											34以上	70以上											

※仮進級については、「皇學館大学授業科目履修規程」第6章第13条 (P.231) を参照

履修上の注意（平成31～令和4年度の入学生）

〈共通科目〉

共通科目とは、大学の卒業に必要な基礎知識・教養を修得するために、全学部生が履修できる科目です。履修に際しては、以下の条件に注意すること。

- (1) 必修科目を含め、20単位以上修得すること。
- (2) 建学の精神の「皇学入門」「伊勢志摩共生学」は必修。
- (3) 総合基礎について、「初年次ゼミ」「日本語表現」は必修。
- (4) コミュニケーション学科は総合基礎科目「情報処理Ⅰ（基礎）・Ⅱ（応用）」の2単位必修。
- (5) 「英語表現Ⅰ～Ⅵ」について、履修を希望する場合はまず「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の登録が必要。英語習熟度テストの結果等により、クラスが指定される。
- (6) 教員免許取得希望者は以下の科目が必修。
 - ①「英語表現Ⅰ～Ⅵ」のうち2科目以上
 - ②「情報処理Ⅰ（基礎）・Ⅱ（応用）」
 - ③ 法学（日本国憲法）
 - ④「スポーツⅠ・Ⅱ」、「アダプテッドスポーツⅠ・Ⅱ」及び「武道Ⅰ・Ⅱ」の6科目より2単位以上
- (7) 「英語表現Ⅰ～Ⅵ」について、履修せず単位認定を受ける場合の単位認定条件は、Ⅲ・Ⅳ〈中級〉は英検2級合格、Ⅴ・Ⅵ〈上級〉は英検準1級合格とする。なお、下位の科目が未認定で上位の科目の認定を受けた場合、その下位の科目も同時に単位認定される。
- (8) 「TOEIC演習Ⅰ～Ⅵ」について、履修せず単位認定を受ける場合の単位認定条件は、Ⅰ〈初級〉はTOEIC 500～545点、Ⅱ〈初級〉はTOEIC 550～595点、Ⅲ〈中級〉はTOEIC 600～645点、Ⅳ〈中級〉はTOEIC 650～695点、Ⅴ〈上級〉はTOEIC 700～745点、Ⅵ〈上級〉はTOEIC 750点以上とする。なお、下位の科目が未認定で上位の科目の認定を受けた場合、その下位の科目も同時に単位認定される。
- (9) 「外国語Ⅰ・Ⅱ」については、本学が指定した留学を申請により単位認定。
- (10) 「外国語Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップ」「ボランティア」の単位認定については、必要な証明書を添付の上、履修登録願を学生支援部（教務担当）へ提出すること。申請期間は運用上、各学期の履修登録修正期間とする。なお、4年次生について、上記期間に申請できなかった場合は、1月中を最終の申請期間とする。
- (11) 「スポーツⅠ・Ⅱ」の間で種目は変更できるが、「武道Ⅰ・Ⅱ」の間で種目は変更できない。

〈共通又は自学科専門（他学科専門も可）〉

「共通科目」「自学科専門科目」のそれぞれに設定された必要単位数を超えて修得した科目及び他学部・他学科の専門科目から修得した科目の単位数は、卒業判定において「共通又は専門」として集計されます。

- (1) 文学部については、共通科目又は専門科目から42単位以上修得すること。
教育学部については、共通科目又は専門科目から24単位以上修得すること。
現代日本社会学部については、共通科目又は専門科目から34単位以上修得すること。
- (2) 各学部・学科の専門科目の備考欄に「☆」のついた科目については、他学部及び他学科の学生も履修できる。
- (3) 現代日本社会学部について、教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」は、卒業・進級要件単位に含まない。

〈自学科専門科目〉

●文学部

○神道学科

- (1) 必修単位12単位、卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。
- (2) 選択必修の講義科目より20単位以上、講読科目より4単位以上、「神道学演習Ⅰ～Ⅳ」又は「宗教学演習Ⅰ～Ⅳ」又は「日本文化学演習Ⅰ～Ⅳ」又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」より8単位修得のこと。
- (3) 「祭式及び同行事作法」はⅠA→ⅠB→ⅡA→ⅡB→ⅢA→ⅢBの順序で履修すること。

- (4) 備考欄
 ◎は神職課程必修科目
 △は神職課程選択必修科目
 ○は中学校・高校一種「宗教」教免必修科目

○国文学科

- (1) 必修単位12単位、卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。
 (2) 選択必修の講義科目については8単位以上、講読科目より12単位以上、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」についてはいずれか8単位修得のこと。
 (3) 備考
 □は中学校・高校一種「国語」教免必修科目
 △は高校一種「書道」教免必修科目

○国史学科

- (1) 必修単位10単位、「国史学演習Ⅰ・Ⅱ」及び「国史学特殊演習Ⅰ・Ⅱ」、又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」より選択必修8単位、卒業論文4単位を含む62単位以上修得すること。
 (2) 選択必修の特講科目については8単位以上、講読科目より10単位以上、「東洋史概説Ⅰ・Ⅱ」及び「西洋史概説Ⅰ・Ⅱ」については4単位以上修得のこと。
 (3) 備考
 □は中学校一種「社会」教免必修科目
 ◎は高校一種「地理歴史」教免必修科目
 △は高校一種「公民」教免必修科目
 ○は中学校・高校一種「宗教」教免必修科目

○コミュニケーション学科

- (1) 必修単位12単位、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」より選択必修8単位、卒業研究4単位を含む62単位以上修得すること。
 (2) 備考
 □は中学校・高校一種「英語」教免必修科目

●教育学部

○教育学科（各コース共通）

- (1) 基礎（必修）単位12単位、「教育研究基礎演習」6単位、「教育研究演習Ⅰ～Ⅳ」又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」より選択必修8単位、卒業研究4単位を含む80単位以上修得すること。
 (2) □は中学校一種「保健体育」教免必修科目
 ◎は高校一種「保健体育」教免必修科目

●現代日本社会学部

○現代日本社会学科（各コース共通）

- (1) 基礎科目4単位必修。
 (2) 基幹科目は経営革新・地域創生・福祉展開・文化発信の各分野から2単位以上を含めて、10単位以上修得すること。
 (3) 展開科目は経営革新・地域創生・福祉展開・文化発信の各分野から2単位以上修得すること。
 (4) 実習科目は2単位以上修得。演習科目は「現代日本演習Ⅰ・Ⅱ」必修4単位、「現代日本演習Ⅲ～Ⅵ」又は「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」より選択必修8単位、「卒業研究」必修4単位を含む16単位以上修得すること。
 (5) 上記を含めて70単位以上修得すること。
 (6) 実習科目におけるローマ数字表記科目については、順番どおり修得すること。
 (7) 「社会情報実習Ⅰ・Ⅱ」の単位認定については、必要な証明書を添付の上、履修登録願を学生支援部（教務担当）へ提出すること。申請期間は、各学期の履修登録修正期間とする。
 なお、4年次生について、上記期間に申請できなかった場合は、1月中を最終の申請期間とする。

共通科目

全学部共通科目

共通 H31～R4 ①

授業科目	種別	単位	配当年次・セメスター								備考				
			1年次		2年次		3年次		4年次						
			1	2	3	4	5	6	7	8					
建学の精神	必修	皇学入門《神道と日本文化》	講義	2	○										7クラス (神文史コ現各1クラス・教2クラス)
		伊勢志摩共生学	講義	2		○									
総合基礎	必修	初年次ゼミ	演習	2	○										26クラス (編入留学生クラス含む)
		日本語表現	演習	2	○	○									
	選択	情報処理Ⅰ(基礎)	演習	1	○										7クラス
		情報処理Ⅱ(応用)	演習	1		○									7クラス
地域志向科目	選択	伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ	講義	2			○								伊勢志摩圏域の定住資源と将来像 伊勢志摩圏域の経済・産業と将来像 6次産業化実践論 1・2・3次産業基本論
		伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅱ	講義	2			○								
		伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅲ	講義	2			○								
		伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅳ	講義	2			○								
	択	伊勢志摩共生学実習A	実習	1					○						
		伊勢志摩共生学実習B	実習	1						○					
人生と仕事	選択	人生と仕事Ⅰ	講義	1		○									隔週
		人生と仕事Ⅱ	講義	2			○								愛知心理教育ラボ
		グローバル化と地域の経済社会	講義	2			○								三十三総研との産学協働講座
		社会人課題解決力養成演習	演習	2					○						不開講
	択	インターンシップ	演習	1			○	※	○	※					海外・国内での インターンシップ等 5セメへ変更
		ボランティア	演習	1			○	※							教育アシスタント等
職業人実務基礎	選択	ビジネス会計学(基礎編)	講義	2		○									名古屋大原学園
		ビジネス会計学(応用編)Ⅰ	講義	2			○								
		ビジネス会計学(応用編)Ⅱ	講義	2				○							
		ビジネス法律学(基礎編)	講義	2				○							
		ビジネス法律学(応用編)Ⅰ	講義	2					○						
		ビジネス法律学(応用編)Ⅱ	講義	2						○					
		ビジネス金融論・税務知識Ⅰ	講義	2			○								
		ビジネス金融論・税務知識Ⅱ	講義	2				○							
	択	キャリア形成のための数学基礎Ⅰ	演習	2	○										
		キャリア形成のための数学基礎Ⅱ	演習	2		○									
		統計学基礎	演習	2	○	○									2セメのみへ変更 「データサイエンス入門」と同時開講
		マネー入門	演習	2	○	○									不開講
外国語	選択	英語表現Ⅰ《初級》	演習	1	○										16クラス
		英語表現Ⅱ《初級》	演習	1		○									16クラス
		英語表現Ⅲ《中級》	演習	1	○										4クラス
		英語表現Ⅳ《中級》	演習	1		○									4クラス
		英語表現Ⅴ《上級》	演習	1	○										2クラス
		英語表現Ⅵ《上級》	演習	1		○									2クラス
	択	TOEIC演習Ⅰ《初級》	演習	1	○										3クラス
		TOEIC演習Ⅱ《初級》	演習	1		○									3クラス
		TOEIC演習Ⅲ《中級》	演習	1	○										
		TOEIC演習Ⅳ《中級》	演習	1		○									
		TOEIC演習Ⅴ《上級》	演習	1	○										
		TOEIC演習Ⅵ《上級》	演習	1		○									
		ポルトガル語Ⅰ	演習	1	○	○									2クラス 1セメへ変更
		ポルトガル語Ⅱ	演習	1		○	○								2クラス 2セメへ変更

カリキュラム

(共通科目 H31～R4)

	授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				1	2	3	4	5	6	7	8			
外国語	選	中国語初級Ⅰ	演習	1	○									4クラス
		中国語初級Ⅱ	演習	1		○								4クラス
	択	中国語中級Ⅰ	演習	1			○							2クラス
		中国語中級Ⅱ	演習	1				○						2クラス
		外国語Ⅰ	演習	2		○								} 単位認定のみ } 成績はつかない
		外国語Ⅱ	演習	2		○								
教養	選	中国の思想	講義	2		○								不開講
		法学(日本国憲法)	講義	2			○							2クラス 教免・保育士必修
		リスク社会と安全	講義	1		○								不開講
	択	生物	講義	2		○								2クラス 中社・高地歴免必修
		化学	講義	2	○									
		物理	講義	2	○									
体育	選	スポーツⅠ	実技	1	○									10クラス
		スポーツⅡ	実技	1		○								10クラス
	択	武道Ⅰ《柔道・剣道》	実技	1	○									4クラス
		武道Ⅱ《柔道・剣道》	実技	1		○								4クラス
		アダプテッドスポーツⅠ	実技	1	○									} 6科目より教免は } 2単位、保育士は } 1単位必修 } 中・高(保体)教免 } は柔道の履修が望 } ましい
		アダプテッドスポーツⅡ	実技	1		○								
伝統文化	選	書道Ⅰ	実技	1			○							5クラス 中国免必修
		書道Ⅱ	実技	1				○						5クラス 中国免必修
	択	茶道(裏千家)	演習	2	○	○								隔週2コマ連続 各1クラス
		伝統建築・工芸	演習	2		○								不開講
		雅楽入門	演習	2	○									不開講
		和歌	演習	2		○								不開講

文学部専門科目

神道学科専門科目

神道 H31～R4 ①

	授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				1	2	3	4	5	6	7	8				
必 修	古典講読ⅠA(古事記)	演習	2	○									◎	★	
	古典講読ⅠB(古事記)	演習	2		○								◎	★	
	神道史Ⅰ	講義	2			○							◎	★	
	神道史Ⅱ	講義	2				○						◎	★	
	宗教学概論Ⅰ	講義	2			○							◎○☆	2クラス	
	宗教学概論Ⅱ	講義	2				○						◎○☆	2クラス	
選 択	神道概論Ⅰ	講義	2			○							◎○★	20 単 位 以 上	
	神道概論Ⅱ	講義	2				○						◎○★		
	祭祀概論Ⅰ	講義	2			○							◎		★
	祭祀概論Ⅱ	講義	2				○						◎		★
	神道神学Ⅰ	講義	2							○			◎○★		
	神道神学Ⅱ	講義	2								○		◎○★		
	皇室概説	講義	2		○								△		☆
	神道文献	講義	2	○									△		☆
	日本文化概説Ⅰ	講義	2	○									☆		不開講
	日本文化概説Ⅱ	講義	2		○								☆		不開講
	神社概説	講義	2		○								△		☆
	神道思想史	講義	2				○						△		☆
	近代神道史	講義	2			○							△		☆
	現代神道論	講義	2					○					△		☆
	神宮史Ⅰ	講義	2			○							△		☆
	神宮史Ⅱ	講義	2				○						△		☆
	宗教学講義Ⅰ	講義	2			○							○☆		不開講 不開講
	宗教学講義Ⅱ	講義	2				○						○☆		
	日本思想史	講義	2			○							☆		
	日本文化史Ⅰ	講義	2					○					☆		
日本文化史Ⅱ	講義	2						○				☆			
日本宗教史	講義	2				○						△	☆		
日本民俗論	講義	2			○	○						☆	3セメへ変更		
古典講読ⅡA(日本書紀)	演習	2			○							◎	★		
古典講読ⅡB(日本書紀)	演習	2				○						◎	★		
古典講読ⅢA(延喜式祝詞)	演習	2			○							◎	★		
古典講読ⅢB(延喜式祝詞)	演習	2				○						◎	★		
必 修	神道学演習Ⅰ	演習	2					○					4クラス	神道学演習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ または、 宗教学演習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ または、 日本文化学 演習Ⅰ・Ⅱ・ Ⅲ・Ⅳ または、 プロジェクト 研究Ⅰ・Ⅱ・ Ⅲ・Ⅳ より8単位 必修	
	神道学演習Ⅱ	演習	2						○				4クラス		
	神道学演習Ⅲ	演習	2							○			4クラス		
	神道学演習Ⅳ	演習	2								○		4クラス		
	宗教学演習Ⅰ	演習	2					○					2クラス		
	宗教学演習Ⅱ	演習	2						○				2クラス		
	宗教学演習Ⅲ	演習	2							○			2クラス		
	宗教学演習Ⅳ	演習	2								○		2クラス		
	日本文化学演習Ⅰ	演習	2					○					不開講 不開講 不開講 不開講		
	日本文化学演習Ⅱ	演習	2						○						
	日本文化学演習Ⅲ	演習	2							○					
	日本文化学演習Ⅳ	演習	2								○				
	プロジェクト研究Ⅰ	演習	2					○					不開講 不開講 不開講 不開講		
	プロジェクト研究Ⅱ	演習	2						○						
プロジェクト研究Ⅲ	演習	2							○						
プロジェクト研究Ⅳ	演習	2								○					

カリキュラム (神道学科専門科目 H31～R4)

授 業 科 目	種別	単 位	配当年次・セメスター								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			1	2	3	4	5	6	7	8				
選 扱	有 職 故 実	講義	2					○				◎	★	
	神 社 祭 式 入 門	演習	2		○							△	☆	2クラス
	祭式及び同行事作法ⅠA	演習	1			○						◎	★	2クラス
	祭式及び同行事作法ⅠB	演習	1				○					◎	★	2クラス
	祭式及び同行事作法ⅡA	演習	2					○				◎	★	2クラス2コマ連続
	祭式及び同行事作法ⅡB	演習	2						○			◎	★	2クラス2コマ連続
	祭式及び同行事作法ⅢA	演習	1							○		◎	★	2クラス隔週2コマ連続
	祭式及び同行事作法ⅢB	演習	1								○	◎	★	2クラス隔週2コマ連続
	祝 詞 作 文 Ⅰ	演習	2					○				◎	★	
	祝 詞 作 文 Ⅱ	演習	2						○			◎	★	
	神 道 教 化 概 論 Ⅰ	講義	2					○				◎	★	
	神 道 教 化 概 論 Ⅱ	講義	2						○			◎	★	
	神 社 関 係 法 規 Ⅰ	講義	2					○				◎	★	
	神 社 関 係 法 規 Ⅱ	講義	2						○			◎	★	
	S h i n t o E n g l i s h	演習	2						○			△	☆	
	世 界 宗 教 史 Ⅰ	講義	2					○				△○	☆	集中
	世 界 宗 教 史 Ⅱ	講義	2						○			△○	☆	集中
	仏 教 概 説	講義	2			○						△	☆	集中
	礼 法 Ⅰ	実習	1	○									☆	2クラス
	礼 法 Ⅱ	実習	1		○								☆	2クラス
礼 法 Ⅲ	実習	1			○							☆		
礼 法 Ⅳ	実習	1				○						☆		
能 Ⅰ	実習	1	○									☆	隔週2コマ連続	
能 Ⅱ	実習	1	○	○								☆	隔週2コマ連続 1セムへ変更	
茶 道 Ⅰ	実習	1	○										2クラス	
茶 道 Ⅱ	実習	1		○									2クラス	
茶 道 Ⅲ	実習	1			○									
茶 道 Ⅳ	実習	1				○								
茶 道 Ⅴ	実習	1					○						隔週2コマ連続	
茶 道 Ⅵ	実習	1						○					隔週2コマ連続	
必 修	卒 業 論 文	演習	4								○			

履修上の注意

◎は神職課程必修科目

△は神職課程選択必修科目

○は中学校・高校一種「宗教」教免必修科目

※62単位以上修得。

☆について、他学部・他学科の学生が履修することができます。

★について、他学部・他学科のうち神職課程履修者のみ履修することができます。

国文学科専門科目

国文 H31～R4 ①

	授業科目	種別	単位	配当年次・セメスター								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				1	2	3	4	5	6	7	8				
必修	国文学概論Ⅰ《古典文学》	講義	2					○					□△☆	2クラス	
	国文学概論Ⅱ《近代文学》	講義	2						○				□△☆		
	国語学概論Ⅰ《音声・語彙》	講義	2	○									□☆		
	漢文学概論Ⅰ《春秋戦国～漢代》	講義	2			○							□△☆		
	国文学史概説Ⅰ《上代・中古・中世》	講義	2	○									□△☆		
	国文学史概説Ⅱ《近世・近代・現代》	講義	2		○								□△☆		
選択	国語学概論Ⅱ《文法・書記》	講義	2				○						□☆	8 単位以上	
	漢文学概論Ⅱ《六朝～明清》	講義	2				○						□△☆		
	古典文学講義ⅠA	講義	2				○						☆		
	古典文学講義ⅠB	講義	2				○						☆		
	古典文学講義ⅠC	講義	2				○						☆		
	古典文学講義ⅠD	講義	2				○						☆		
	近代文学講義ⅠA	講義	2				○						☆		
	近代文学講義ⅠB	講義	2				○						☆		
	国語史概説Ⅰ	講義	2				○						☆		
	古典文学講義ⅡA	講義	2					○					☆		
	古典文学講義ⅡB	講義	2					○					☆		
	古典文学講義ⅡC	講義	2					○					☆		
	古典文学講義ⅡD	講義	2					○					☆		
	択	近代文学講義ⅡA	講義	2					○						☆
近代文学講義ⅡB		講義	2					○					☆		
国語史概説Ⅱ		講義	2					○					☆		
古典文学講読ⅠA		演習	2		○								☆		
古典文学講読ⅠB		演習	2		○								☆		
古典文学講読ⅠC		演習	2		○								☆		
古典文学講読ⅠD		演習	2		○								☆		
近代文学講読ⅠA		演習	2		○								☆		
近代文学講読ⅠB		演習	2		○								☆		
国語学講読Ⅰ		演習	2		○								☆		
古典文学講読ⅡA		演習	2			○							☆		
古典文学講読ⅡB		演習	2			○							☆		
古典文学講読ⅡC		演習	2			○							☆		
古典文学講読ⅡD		演習	2			○							☆		
必修	近代文学講読ⅡA	演習	2			○							☆	4 単位 必修	
	近代文学講読ⅡB	演習	2			○							☆		
	国語学講読Ⅱ	演習	2			○							☆		
	漢文学講読Ⅰ	演習	2		○								☆		
	漢文学講読Ⅱ	演習	2		○								☆		
	専門演習ⅠA	演習	2					○					不開講 不開講		
	専門演習ⅡA	演習	2						○						
	専門演習ⅠB	演習	2						○						
	専門演習ⅡB	演習	2							○					
	専門演習ⅠC	演習	2							○					
	専門演習ⅡC	演習	2								○				
	専門演習ⅠD	演習	2							○					
	専門演習ⅡD	演習	2								○				
	専門演習ⅠE	演習	2							○					
専門演習ⅡE	演習	2								○					
専門演習ⅠF	演習	2							○						
専門演習ⅡF	演習	2								○					
専門演習ⅠG	演習	2							○						
専門演習ⅡG	演習	2								○					
専門演習ⅠH	演習	2							○						
専門演習ⅡH	演習	2								○					
専門演習ⅠⅠ(書道史)	演習	2						○				△ △			
専門演習ⅡⅠ(書道史)	演習	2							○						
プロジェクト研究Ⅰ	演習	2						○				不開講 不開講			
プロジェクト研究Ⅱ	演習	2							○						

カリキュラム

(国文学科専門科目 H31～R4)

国史学科専門科目

国史 H31～R4 ①

授業科目	種別	単位	配当年次・セメスター								備考				
			1年次		2年次		3年次		4年次						
			1	2	3	4	5	6	7	8					
必修	国史概説 A《古代》	講義	2				○							□◎☆	
	国史概説 B《中世》	講義	2			○								□◎☆	
	国史概説 C《近世》	講義	2		○									□◎☆	
	国史概説 D《近現代》	講義	2	○										□◎☆	
	史学概論	講義	2				○							☆	
選	国史学演習 I【A I～E】	演習	2					○							4単位必修
	国史学演習 II【A I～E】	演習	2						○						
	プロジェクト研究 I	演習	2					○							
	プロジェクト研究 II	演習	2						○						
選	国史学特殊演習 I【A I～E】	演習	2								○				4単位必修
	国史学特殊演習 II【A I～E】	演習	2									○			
	プロジェクト研究 III	演習	2								○				
	プロジェクト研究 IV	演習	2									○			
択	国史学特講 A I《古代》	講義	2					○						☆	8単位以上
	国史学特講 A II《古代》	講義	2						○					☆	
	国史学特講 B I《中世》	講義	2						○					☆	
	国史学特講 B II《中世》	講義	2							○				☆	
	国史学特講 C I《近世》	講義	2						○					☆	
	国史学特講 C II《近世》	講義	2							○				☆	
	国史学特講 D I《近代》	講義	2						○					☆	
	国史学特講 D II《近代》	講義	2							○				☆	
外国史特講《東洋史》	講義	2						○	○				☆	6セメへ変更	
必修	基礎史料講読 I《古代・中世》	演習	2	○										☆	10単位以上
	基礎史料講読 II《近世・近代》	演習	2		○									☆	
	史料講読 A I《古代》	演習	2			○								☆	
	史料講読 A II《古代》	演習	2				○							☆	
	史料講読 B I《中世》	演習	2			○								☆	
	史料講読 B II《中世》	演習	2				○							☆	
	史料講読 C I《近世》	演習	2			○								☆	
	史料講読 C II《近世》	演習	2				○							☆	
	史料講読 D I《近代》	演習	2			○								☆	
	史料講読 D II《近代》	演習	2				○							☆	
必修	史料講読 E I《東洋史》	演習	2			○								☆	各時代の I・II は合わせて履修することが望ましい。
	史料講読 E II《東洋史》	演習	2				○							☆	
	東洋史概説 I	講義	2			○								□◎☆	
	東洋史概説 II	講義	2				○							☆	
必修	西洋史概説 I	講義	2			○								□◎☆	4単位以上
	西洋史概説 II	講義	2				○							☆	
	漢文基礎	講義	2	○	○									☆	
	日本史学史	講義	2		○									☆	
選	古文書学 I	講義	2			○								☆	2クラス
	古文書学 II	講義	2				○							☆	
	考古学 I	講義	2			○								☆	
	考古学 II	講義	2				○							☆	
	美術史 I	講義	2			○								☆	
	美術史 II	講義	2				○							☆	
	教育史	講義	2				○							☆	
	東洋思想史	講義	2					○						☆	
択	西洋思想史	講義	2						○					☆	2クラス
	日本思想史	講義	2			○								☆	
	日本文化史 I	講義	2					○						☆	
	日本文化史 II	講義	2						○					☆	

カリキュラム

(国史学科専門科目 H31～R4)

授 業 科 目	種 別	単 位	配当年次・セメスター								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			1	2	3	4	5	6	7	8				
選	歴 史 地 理 学 I	講義	2					○					☆	5セメへ変更 集中
	歴 史 地 理 学 II	講義	2					○←○					☆	
	人 文 地 理 学 I	講義	2			○							□◎☆	
	人 文 地 理 学 II	講義	2				○						☆	
	地 誌 学	講義	2				○						□◎☆	
	法 律 学 概 論	講義	2				○						△☆	
	法 制 史 特 講	講義	2								○		☆	
	政 治 学 概 論	講義	2					○					△☆	
	政 治 学 特 講	講義	2							○			☆	
	社 会 学 概 論	講義	2			○							△☆	
	社 会 学 特 講	講義	2			○							☆	
	経 済 学 概 論	講義	2			○←○							△☆	
	社 会 経 済 史	講義	2							○			☆	
	哲 学 概 論	講義	2							○←○			△○☆	
	心 理 学 概 論 I	講義	2	○									△☆	
	宗 教 学 概 論 I	講義	2			○							△☆	
	宗 教 学 概 論 II	講義	2				○						△☆	
	日 本 宗 教 史	講義	2				○						☆	
	世 界 宗 教 史 I	講義	2					○					☆	
	世 界 宗 教 史 II	講義	2						○				☆	
択	神 宮 史 I	講義	2			○							☆	
	神 宮 史 II	講義	2				○						☆	
	有 職 故 実	講義	2					○					☆	
	国文学史概説Ⅰ《上代・中古・中世》	講義	2	○									☆	
	国文学史概説Ⅱ《近世・近代・現代》	講義	2		○								☆	
	博 物 館 概 論	講義	2	○									☆	
	博 物 館 資 料 論	講義	2		○								☆	
	博 物 館 資 料 保 存 論	講義	2					○←○					☆	
	必 修	卒 業 論 文	演習	4							○			

履修上の注意

- は中学校一種「社会」教免必修科目
- ◎は高校一種「地理歴史」教免必修科目
- △は高校一種「公民」教免必修科目
- は中学校・高校一種「宗教」教免必修科目
- ※62単位以上修得。
- ☆について、他学部・他学科の学生が履修することができます。

コミュニケーション学科専門科目

コミ H31～R4 ①

	授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				1	2	3	4	5	6	7	8		
必修	英語学概論 I	講義	2	○									☆ ☆ ☆ 文・教育のみ受講可 ☆ ☆
	心理学概論 I	講義	2	○									
	地域情報論	講義	2		○								
	日本語コミュニケーション概論 I	講義	2		○								
	日本語コミュニケーション概論 II	講義	2			○							
	基礎演習	講義	2				○						
選択必修	専門演習 I (英語)	演習	2					○					3クラス } 4クラス } いずれか 2クラス } 2単位必修 不開講 } 3クラス } 4クラス } いずれか 2クラス } 2単位必修 不開講 } 3クラス } 4クラス } いずれか 2クラス } 2単位必修 不開講 } 3クラス } 4クラス } いずれか 2クラス } 2単位必修 不開講 }
	専門演習 I (心理)	演習	2					○					
	専門演習 I (地域情報)	演習	2					○					
	プロジェクト研究 I	演習	2					○					
	専門演習 II (英語)	演習	2						○				
	専門演習 II (心理)	演習	2						○				
	専門演習 II (地域情報)	演習	2						○				
	プロジェクト研究 II	演習	2						○				
	専門演習 III (英語)	演習	2							○			
	専門演習 III (心理)	演習	2							○			
	専門演習 III (地域情報)	演習	2							○			
	プロジェクト研究 III	演習	2							○			
専門演習 IV (英語)	演習	2								○			
専門演習 IV (心理)	演習	2								○			
専門演習 IV (地域情報)	演習	2								○			
プロジェクト研究 IV	演習	2								○			
選択	社会・集団・家族心理学	講義	2	○									☆ ☆ □ ☆ 2クラス(コミ1、教育1) ☆ 2クラス(コミ1、教育1) ☆ ☆ 不開講 ☆ 不開講 □ ☆ 2クラス(コミ1、教育1) □ ☆ 2クラス(コミ1、教育1) □ ☆ 2クラス(コミ1、教育1) □ ☆ ☆ 名古屋大原学園 ☆ 名古屋大原学園 □ ☆ ☆ □ ☆ □ ☆ ☆ 2クラス(コミ1、教育1) ☆ 2クラス(コミ1、教育1) ☆ 1セメへ変更 ☆ 2セメへ変更 ☆ ☆ 集中 ☆ 4セメへ変更 ☆ 4セメへ変更 ☆ ☆ 5セメへ変更 不開講 ☆ 6セメへ変更 不開講 ☆ ☆ 週2コマ 週2コマ
	英語学概論 II	講義	2		○								
	英文法 I	講義	2	○									
	英文法 II	講義	2		○								
	心理学概論 II	講義	2		○								
	ソーシャル・スキル I	演習	2			○							
	ソーシャル・スキル II	演習	2				○						
	プラクティカル・イングリッシュ I	演習	2				○						
	プラクティカル・イングリッシュ II	演習	2					○					
	異文化間コミュニケーション I	講義	2				○						
	異文化間コミュニケーション II	講義	2					○					
	ITリテラシー I 《ITパスポート》	講義	2	○									
	ITリテラシー II 《ITパスポート》	講義	2		○								
	英語音声学 I	演習	2				○						
	英語音声学 II	演習	2					○					
	英文学概論 I	講義	2					○					
	英文学概論 II	講義	2						○				
	リーディング・ライティングスキル I	演習	2					○					
	リーディング・ライティングスキル II	演習	2						○				
	海外事情 I	講義	2	○		○							
	海外事情 II	講義	2		○		○						
	人文地理学 I	講義	2				○						
	人文地理学 II	講義	2					○					
	地誌学	講義	2					○	○				
	モバイル情報処理	演習	2					○	○				
	情報システム演習	演習	2						○				
G I S 実習 I	演習	2					○		○				
G I S 実習 II	演習	2						○		○			
教育・学校心理学	講義	2					○						
心理学研究法	講義	2					○						
心理学統計法	講義	2						○					
心理学実験 I	実習	2						○					
心理学実験 II	実習	2							○				

カリキュラム

(コミュニケーション学科専門科目 H31～R4)

教育学部専門科目

教育学科専門科目

教育 H31～R4 ①

授 業 科 目	種別	単位	配当年次・セメスター								備 考		
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			1	2	3	4	5	6	7	8			
基 礎 修	教 育 学 概 論	講義	2	○									☆
	教 育 哲 学	講義	2		○								☆2クラス
	教 育 史	講義	2		○								☆2クラス
	教 育 社 会 学	講義	2		○								☆
	教 育 ・ 学 校 心 理 学	講義	2		○								☆1クラス(教育2セメ) ☆1クラス(文現3セメ)
特 別 支 援 教 育 の 基 礎	講義	2			○							☆	
基 選	教 職 論	講義	2		○								☆
	R4以降入学生 教育方法論(ICTの活用を含む) R3以前入学生 教 育 方 法 学	講義	2				○						☆2クラス
	教 育 課 程 論	講義	2					○	○				2クラス ☆5・6セメへ変更 (教育5セメ・文現6セメ)
	幼 児 理 解	演習	1				○						隔週 2クラス
	子 ども の 心 理 学	講義	2			○							
	子 ども 家 庭 支 援 の 心 理 学	講義	2						○				
	保 育 内 容 総 論	演習	1						○				隔週 2クラス
	保 育 原 理	講義	2	○									
	国 語 科 教 育 法	講義	2				○						☆3クラス
	社 会 科 教 育 法	講義	2			○	←○						☆2クラス 3セメへ変更
	算 数 科 教 育 法	講義	2				○	→○					☆4クラス 4セメへ変更
	理 科 教 育 法	講義	2				○	←○					☆4クラス オムニバス 3セメへ変更
	生 活 科 教 育 法	講義	2							○			☆2クラス
	音 楽 科 教 育 法	講義	2			○	○						☆4クラス(春2・秋2)
	図 画 工 作 科 教 育 法	講義	2						○	○			☆7クラス(春3・秋4)
	家 庭 科 教 育 法	講義	2							○			☆2クラス
	体 育 科 教 育 法	講義	2				○						☆3クラス
	英 語 科 教 育 法	講義	2						○	○			☆4クラス(春2・秋2)
	保 育 指 導 の 方 法	講義	2						○				
	言 葉 (指 導 法)	演習	2			○							集中
	身 体 表 現 (指 導 法)	演習	2						○				2クラス
	造 形 表 現 (指 導 法)	演習	2				○	←○					2クラス 3セメへ変更
	健 康 (指 導 法)	演習	2					○					2クラス
	人 間 関 係 (指 導 法)	演習	2		○								2クラス
	環 境 (指 導 法)	演習	2					○					2クラス
	保 健 体 育 科 教 育 法 I	講義	2			○							□◎
	保 健 体 育 科 教 育 法 II	講義	2				○						□◎
	保 健 体 育 科 教 育 法 III	講義	2						○				□
	保 健 体 育 科 教 育 法 IV	講義	2							○			□
	児 童 国 語	演習	2			○							☆2クラス
	児 童 社 会	演習	2			○	→○						☆3クラス 4セメへ変更
	児 童 算 数	演習	2				○	←○					☆2クラス 3セメへ変更
	児 童 理 科	演習	2				○	○					☆12クラス(春6・秋6)
児 童 生 活	演習	2				○						☆2クラス	
児 童 音 楽	演習	2				○	○					☆4クラス(春1・秋3)	
児 童 造 形	演習	2				○	○					☆5クラス(春3・秋2)	
児 童 家 庭	演習	2				○	○					☆6クラス(春3・秋3)	
児 童 体 育	演習	2						○	○			☆2クラス(春1・秋1)	
児 童 英 語	演習	2					○					☆2クラス	
体 育 原 理	講義	2	○									□◎	
体 育 史	講義	2		○									
体 育 実 技 (陸 上)	演習	2					○					□◎2クラス	
体 育 実 技 (器 械 運 動 ・ 体 つ くり 運 動)	演習	2			○							□◎2クラス	

カリキュラム

(教育学部専門科目 H31～R4)

授 業 科 目	種 別	単 位	配当年次・セメスター								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			1	2	3	4	5	6	7	8				
基 選 幹 択	体 育 実 技 (球 技)	演習	2			○←○								□ ◎2クラス 3セメへ変更
	体 育 実 技 (水 泳)	演習	1			○								□ ◎集中
	体 育 実 技 (柔 道)	演習	2			○	○							□ ◎4クラス(春2・秋2)
	体 育 心 理 学	講義	2				○							集中
	運 動 学 (運 動 方 法 学)	講義	2						○					□ ◎
	社 会 福 祉	講義	2		○									
	子 ども 家 庭 福 祉	講義	2			○								
	子 育 て 支 援	演習	1						○←○					
児 童 文 化 論	講義	2	○											☆
展 選 開 択	生 涯 学 習 論	講義	2		○									3クラス(教育1・文現2、図書館司書・学芸員はaクラスまたはbクラス必修、保育士はcクラス必修)
	教 育 法 規	講義	2								○			☆隔週2コマ
	教 育 の 社 会 と 制 度	講義	2							○				☆2クラス(教育1・文現1)
	教 育 相 談	講義	2						○	○				☆2クラス(教育5・6セメ) 1クラス(文6セメ)
	学 校 現 場 での ポ ル ト ガ ル 語	講義	2							○				不開講
	子 ども の 表 現 技 術	演習	2						○					☆2クラス
	保 育 内 容 の 研 究 (身 体 表 現)	演習	2							○				2クラス
	保 育 内 容 の 研 究 (造 形 表 現)	演習	2						○→○					2クラス 6セメへ変更
	道 徳 の 理 論 及 び 指 導 法	講義	2	○										☆
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法	講義	1									○		
	特 別 活 動 の 指 導 法	講義	1							○				☆2クラス
	生 徒 ・ 進 路 指 導 の 理 論 及 び 方 法	講義	2						○→○					☆3クラス(教育2・文現1) 6セメへ変更
	衛 生 学	講義	2			○								□ ◎
	公 衆 衛 生 学	講義	2				○							
	体 育 経 営 管 理 学	講義	2							○				
	体 育 社 会 学	講義	2							○				集中
	生 理 学	講義	2		○←○									□ ◎2セメへ変更
	バ イ オ メ カ ニ ク ス	講義	2			○←○						○		隔週 3セメへ変更
	学 校 保 健	講義	2							○				□ ◎
	体 育 実 技 (ダ ン ス ・ 舞 踊)	演習	2							○				□ ◎2クラス
	体 育 実 技 (ス キ ー ・ ス ノ ー ボ ー ド)	演習	1				○							不開講
	栄 養 と 運 動	講義	2									○		不開講
	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 演 習	演習	2		○									スポーツ健康科学コース 希望者は履修が望ましい
	社 会 的 養 護 I	講義	2				○							
	社 会 的 養 護 II	演習	1							○				隔週
	子 ども の 保 健	講義	2							○				2クラス
	子 ども の 健 康 と 安 全	演習	1							○				隔週 2クラス
	乳 児 保 育 I	講義	2							○				
	乳 児 保 育 II	演習	1							○				隔週 2クラス
	子 ども の 食 と 栄 養	演習	2							○				2クラス
	子 ども 家 庭 支 援 論	講義	2									○		
	障 害 児 保 育	演習	2									○		
特 別 支 援 教 育 総 論	講義	2			○									
知 的 障 害 児 の 心 理 ・ 生 理 ・ 病 理	講義	2			○								不開講	
肢 体 不 自 由 児 の 心 理 ・ 生 理 ・ 病 理	講義	2				○							不開講	
病 弱 児 の 心 理 ・ 生 理 ・ 病 理	講義	2					○						不開講	
特 別 支 援 教 育 課 程 論	講義	2					○							
障 害 児 療 育 論	講義	2			○									
病 弱 児 教 育 方 法	講義	2						○						
障 害 児 心 理 学	講義	2				○								
知 的 障 害 教 育 I	講義	2			○								不開講	
知 的 障 害 教 育 II	講義	2						○					不開講	
特 別 支 援 教 育 授 業 論	講義	2						○					不開講	

教育 H31 ~ R4 ③

授 業 科 目	種 別	単 位	配当年次・セメスター								備 考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			1	2	3	4	5	6	7	8		
展 選 開 択	障 害 児 指 導 法 I	講義	2						○			不開講
	障 害 児 指 導 法 II (心 理 等)	講義	1						○			不開講
	障 害 児 指 導 法 II (教 育 課 程 等)	講義	1						○			不開講
	障 害 児 指 導 法 III (心 理 等)	講義	1						○			不開講
	障 害 児 指 導 法 III (教 育 課 程 等)	講義	1						○			不開講
	障 害 者 ス ポ ー ツ 論	講義	2					○				☆ 他学科履修は現日の福祉展開コースのみ可
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 教 育 演 習	演習	2					○				☆
	I C T 教 育 教 材 開 発 演 習	演習	2						○			☆
	理 科 実 験 指 導 法 I	演習	2						○			☆
理 科 実 験 指 導 法 II	演習	2							○		☆	
実 選 習 択	教 育 実 習 (小 学 校)	実習	4						○			☆ 文学部の場合は小一一種免取得の場合のみ
	教 育 実 習 (幼 稚 園)	実習	4						○			
	教 育 実 習 I	実習	4						○			
	教 育 実 習 II	実習	2						○			
	介 護 等 体 験 実 習	実習	1			○						隔週
	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 (小 学 校)	演習	1						○			☆ 文学部の場合は小一・二種免取得の場合のみ 隔週
	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 (幼 稚 園)	演習	1						○			隔週
	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 (中 等)	演習	1						○			隔週
	保 育 所 実 習 I	実習	2			○						
	保 育 所 実 習 II	実習	2							○		
	児 童 福 祉 施 設 等 実 習	実習	2						○			
	保 育 実 習 指 導 I (保 育 所)	演習	1			○						隔週
	保 育 実 習 指 導 I (児 童 福 祉 施 設 等)	演習	1						○			隔週
	保 育 実 習 指 導 II	演習	1							○		隔週
特 別 支 援 教 育 実 習	実習	2								○	不開講	
特 別 支 援 教 育 実 習 事 前 事 後 指 導	演習	1								○	不開講	
必 修 演 選 習 必 修 選 択 必 修	教 育 研 究 基 礎 演 習 I	演習	2	○								
	教 育 研 究 基 礎 演 習 II	演習	2		○							
	教 育 研 究 基 礎 演 習 III	演習	2			○						
	教 育 研 究 演 習 I	演習	2					○				教育研究演習Ⅰ・Ⅱまたは、プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱより4単位必修
	教 育 研 究 演 習 II	演習	2						○			
	プ ロ ジ ェ ク ト 研 究 I	演習	2					○				
	プ ロ ジ ェ ク ト 研 究 II	演習	2						○			
	教 育 研 究 演 習 III	演習	2							○		教育研究演習Ⅲ・Ⅳまたは、プロジェクト研究Ⅲ・Ⅳより4単位必修
	教 育 研 究 演 習 IV	演習	2							○		
	プ ロ ジ ェ ク ト 研 究 III	演習	2							○		
	プ ロ ジ ェ ク ト 研 究 IV	演習	2								○	
選 択	教 職 実 践 演 習 (初 等)	演習	2								○	
必 修	卒 業 研 究	演習	4								○	

履修上の注意

□は中学校一種「保健体育」教免必修科目

○は高校一種「保健体育」教免必修科目

☆について、他学部・他学科の学生が履修することができます。

他学部・他学科の学生が教育学部の演習・実習科目を履修する場合、小学校教諭二種免許状を取得することが条件になります。

現代日本社会学部専門科目

現代日本社会学科専門科目

現日 R3・4 ①

基礎科目	授業科目	種別	単位	配当年次・セメスター								備考				
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				1	2	3	4	5	6	7	8					
基礎科目	必修	現代日本総論	講義	2	○									12クラス	4単位	
		リーダーシップ・セミナー	演習	2		○										
基幹科目	経営革新	選択必修	現代憲法論	講義	2	○								☆	10単位以上	
			経営学概論	講義	2	○										☆
			マネジメント論	講義	2	○	←○									☆1セメへ変更
			日本国家論	講義	2		○									☆
	地域創生	選択必修	現代社会学論	講義	2	○										☆社会学特講と同時開講
			地域社会学概論	講義	2		○									☆
			地域再生論	講義	2			○								☆
	福祉展開	選択必修	社会福祉の原理と政策	講義	4		○									☆週2コマ
			社会保険	講義	4			○								☆週2コマ
			神道福祉論	講義	2		○									☆
		日本文化論	講義	2		○								☆		
文化発信	選択必修	日本建築論	講義	2	○									☆不開講		
		映像発信論Ⅰ	講義	2	○									☆		
		伊勢志摩発信英語	講義	2	○									☆		
展開	経営革新	選択必修	法律学概論	講義	2			○						☆	2単位以上	
			日本経済論	講義	2				○							☆不開講
			経済政策論	講義	2					○						☆不開講
			日本外交論	講義	2					○	→○	→○				☆6セメへ変更
			マーケティング論	講義	2						○					☆
			イノベーション論	講義	2					○	→○					☆4セメへ変更
	地域創生	選択必修	安全保障論	講義	2					○						☆自衛隊三重地方協力本部
			現代日本政治論	講義	2				○							☆
			社会情報学	講義	2				○							☆
			社会調査法	講義	2					○						☆
科展	地域創生	選択必修	社会情報分析	講義	2				○					☆	2単位以上	
			産業社会学	講義	2					○				☆不開講		
			家族社会学	講義	2					○				☆		
			社会統計学Ⅰ(基礎統計)	講義	2						○			☆		
			社会統計学Ⅱ(多変量解析)	講義	2							○		☆		
			質的調査論	講義	2							○		☆		
	福祉展開	選択必修	公共政策論	講義	2					○						☆
			心理学と心理的支援	講義	2						○					☆
			社会福祉調査の基礎	講義	2						○					☆
			ソーシャルワークの基礎	講義	2							○				☆
目	福祉展開	選択必修	ソーシャルワークの基礎と専門職(専門)	講義	2					○				☆	2単位以上	
			ソーシャルワークの理論と方法	講義	4						○					☆
			ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	講義	4							○				☆隔週・集中
			医学概論	講義	2						○	←○				☆3セメへ変更 隔週2コマ連続
	文化発信	選択必修	児童・家庭福祉	講義	2						○					☆
			障害者福祉	講義	2							○				☆
			貧困に対する支援	講義	2								○			☆
			高齢者福祉	講義	2								○			☆
			地域福祉と包括的支援体制	講義	4								○			☆週2コマ
			保健医療と福祉	講義	2								○			☆
文化発信	選択必修	日本工芸論	講義	2							○			☆不開講		
		日本芸能論	講義	2								○		☆		
		日本礼法論	講義	2								○		☆集中 2セメへ変更		
		映像発信論Ⅱ	講義	2								○		☆		
		海外インターンシップ英語	講義	2									○	☆		
		日本文化発信英語	講義	2									○	☆		
	伊勢志摩食材論	講義	2									○	☆			
	日本料理発信論	講義	2									○	☆			

授 業 科 目		種別	単位	配当年次・セメスター								備 考				
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				1	2	3	4	5	6	7	8					
実 習 科 目	選	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	1			○							隔週	2 単 位 以 上 (前 頁 の 実 習 を 含 む)	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	2					○							
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習	1				○								
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	実習	4					○							
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習	1						○						
	択	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	実習	1							○					
		ソーシャルワーク実習Ⅲ	実習	4								○				
		ソーシャルワーク実習指導Ⅴ	実習	1									○			
		礼 法 Ⅰ	実習	1	○											☆2クラス
		礼 法 Ⅱ	実習	1		○										☆2クラス
	必 修	礼 法 Ⅲ	実習	1			○									☆
		礼 法 Ⅳ	実習	1				○								☆
		能 Ⅰ	実習	1	○											☆ 隔週2コマ
		能 Ⅱ	実習	1	○	○										☆ 隔週2コマ 1セメへ変更
		茶 道 Ⅰ	実習	1	○											2クラス
茶 道 Ⅱ		実習	1		○								2クラス			
茶 道 Ⅲ		実習	1			○										
茶 道 Ⅳ		実習	1				○									
茶 道 Ⅴ		実習	1					○					隔週2コマ			
茶 道 Ⅵ		実習	1						○				隔週2コマ			
演 習 科 目	必 修	現代日本演習Ⅰ	演習	2			○						11クラス	4 単 位		
		現代日本演習Ⅱ	演習	2				○					11クラス			
	選 択	現代日本演習Ⅲ	演習	2					○				12クラス		い ず れ か 4 単 位	
		現代日本演習Ⅳ	演習	2						○			12クラス			
		プロジェクト研究Ⅰ	演習	2					○				12クラス			
		プロジェクト研究Ⅱ	演習	2						○			12クラス			
	必 修	現代日本演習Ⅴ	演習	2							○		12クラス		い ず れ か 4 単 位	
		現代日本演習Ⅵ	演習	2								○	12クラス			
		プロジェクト研究Ⅲ	演習	2							○		12クラス			
		プロジェクト研究Ⅳ	演習	2								○	12クラス			
	必 修	卒 業 研 究	演習	4								○				
		選 択	総合福祉演習Ⅰ	演習	1							○			週2コマ 週2コマ	
総合福祉演習Ⅱ			演習	1								○				
ソーシャルワーク演習			演習	1				○								
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ			演習	2					○							
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ			演習	2						○						
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ			演習	1							○					
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ			演習	1								○				
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅴ	演習	1									○					

履修上の注意

☆について、他学部・他学科の学生が履修することができます。

現代日本社会学科専門科目

現日 H31・R2 ①

授 業 科 目			種別	単位	配当年次・セメスター								備 考			
					1年次		2年次		3年次		4年次					
					1	2	3	4	5	6	7	8				
基礎科目	必修	現代日本総論	講義	2	○										12クラス	4単位
		リーダーシップ・セミナー	演習	2		○										
基 幹 科 目	経営革新	現代憲法論	講義	2	○									☆	2単位以上	10単位以上
		経営学概論	講義	2	○									☆		
		マネジメント論	講義	2	○	←○								☆ 1セメへ変更		
	地域創生	現代国家論	講義	2		○								☆	2単位以上	
		現代社会論	講義	2	○									☆ 社会学特講と同時開講		
		地域社会学概論	講義	2		○								☆		
	福祉展開	地域再生論	講義	2			○							☆	2単位以上	
		社会福祉原論	講義	4		○								☆ 週2コマ		
		社会保障論	講義	4			○							☆ 週2コマ		
	文化発信	神道福祉論	講義	2		○								☆	2単位以上	
		日本文化論	講義	2		○								☆		
		日本建築論	講義	2	○									☆ 不開講		
展 開 目 的	経営革新	映像発信論Ⅰ	講義	2	○									☆	2単位以上	
		伊勢志摩発信英語	講義	2	○									☆		
		法律学概論	講義	2				○						☆		
		日本経済論	講義	2				○						☆ 不開講		
		経済政策論	講義	2				○						☆ 不開講		
		日本外交論	講義	2				○	→○	→○				☆ 6セメへ変更		
	地域創生	マーケティング論	講義	2			○	→○						☆ 4セメへ変更	2単位以上	
		イノベーション論	講義	2			○							☆		
		安全保障論	講義	2			○							☆ 自衛隊三重地方協力本部		
		現代日本政治論	講義	2			○							☆		
		社会情報学	講義	2			○							☆		
		社会調査法	講義	2			○							☆		
福祉展開	社会情報分析	講義	2			○							☆	2単位以上		
	産業社会学	講義	2			○							☆ 不開講			
	家族社会学	講義	2			○							☆			
	社会統計学Ⅰ(基礎統計)	講義	2				○						☆			
	社会統計学Ⅱ(多変量解析)	講義	2					○					☆			
	質的調査論	講義	2					○					☆			
文化発信	福祉展開	公共政策論	講義	2			○						☆	2単位以上		
		心理学	講義	2			○						☆ 不開講			
		相談援助の基盤と専門職	講義	4		○									☆ 不開講	
		相談援助の理論と方法Ⅰ	講義	4			○								☆ 不開講	
		相談援助の理論と方法Ⅱ	講義	4			○								☆ 不開講	
		医学概論	講義	2			○								☆ 隔週2コマ連続	
	文化発信	介護概論	講義	2			○							☆ 不開講	2単位以上	
		児童・家庭福祉論	講義	2			○							☆ 不開講		
		障害者福祉論	講義	2			○							☆ 不開講		
		公的扶助論	講義	2			○							☆ 不開講		
		高齢者福祉サービス論	講義	2			○							☆ 不開講		
		雇用政策論	講義	1			○							☆ 不開講		
文化発信	地域福祉論	講義	4				○						☆ 不開講	2単位以上		
	医療福祉論	講義	2				○						☆ 不開講			
	日本工芸論	講義	2		○								☆ 不開講			
	日本芸能論	講義	2			○							☆			
	日本礼法論	講義	2		○	←○							☆ 集中 2セメへ変更			
	映像発信論Ⅱ	講義	2		○								☆			
文化発信	必修	海外インターンシップ英語	講義	2		○							☆	2単位以上		
		日本文化発信英語	講義	2			○						☆			
		伊勢志摩食材論	講義	2			○						☆			
		日本料理発信論	講義	2			○						☆			

カリキュラム

(現代日本社会学科専門科目 H31・R2)

授 業 科 目	種 別	単 位	配当年次・セメスター								備 考		
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			1	2	3	4	5	6	7	8			
発 選	作物栽培学講義	講義	2	○									☆ 集中(三重県農業大学校)
	エアライン・ビジネス論	講義	2			○							☆ 不開講
	経営者倫理論	講義	2					○					☆ 集中
	地域情報論	講義	2			○							☆ 不開講
	地方自治論	講義	2					○	○				☆ 6セメへ変更
	観光論	講義	2						○				☆
	サブカルチャー論	講義	2			○							☆
	伝統音楽論	講義	2				○						☆
	権利擁護と成年後見制度	講義	2						○				☆ 不開講
	福祉行財政と福祉計画	講義	2						○				☆ 不開講
	社会福祉経営論	講義	2					○					☆ 不開講
	司法福祉論	講義	1								○		☆ 不開講
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	講義	2						○				☆ 不開講
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	講義	2						○				☆ 不開講
	精神障害者の生活支援システム	講義	2								○		☆ 不開講
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	講義	2						○				☆ 不開講
	精神医学Ⅰ	講義	2						○				☆ 不開講
	精神医学Ⅱ	講義	2							○			☆ 不開講
	精神保健学Ⅰ	講義	2						○				☆ 不開講
	精神保健学Ⅱ	講義	2							○			☆ 不開講
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	講義	2							○			☆ 不開講
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	講義	2								○		☆ 不開講
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	講義	2									○	☆ 不開講
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	講義	2									○	☆ 不開講
	近代神道史	講義	2						○				☆
	皇室概説	講義	2					○					☆
	一般知能Ⅰ(数的処理入門)	講義	2		○								☆
	一般知能Ⅱ(数的処理B-I)	講義	2			○							☆
	一般知能Ⅲ(数的処理B-II)	講義	2				○						☆
	一般知能Ⅳ(数的処理A-I、文章理解)	講義	2						○				☆
	一般知能Ⅴ(数的処理A-II)	講義	2							○			☆
	一般知識Ⅰ(政治)	講義	2			○							☆
	一般知識Ⅱ(経済)	講義	2				○						☆
	一般知識Ⅲ(日本史、世界史)	講義	2						○				☆
一般知識Ⅳ(地理、思想)	講義	2						○				☆	
一般知識Ⅴ(社会)	講義	2						○				☆	
一般知識Ⅵ(地学、生物)	講義	2							○			☆ 集中	
専門Ⅰ(憲法)	講義	2		○								☆	
専門Ⅱ(政治学、社会学)	講義	2		○								☆	
専門Ⅲ(民法Ⅰ)	講義	2			○							☆	
専門Ⅳ(行政法Ⅰ)	講義	2			○							☆	
専門Ⅴ(民法Ⅱ)	講義	2				○						☆	
専門Ⅵ(行政法Ⅱ、行政学)	講義	2				○						☆	
専門Ⅶ(ミクロ経済学)	講義	2						○				☆	
専門Ⅷ(マクロ経済学)	講義	2						○				☆	
専門Ⅸ(経済系科目演習)	講義	2						○				☆ 集中	
専門Ⅹ(法律系科目演習)	講義	2							○			☆	
実 習 科 目	作物栽培学実習	実習	1	○									☆ 集中(三重県農業大学校)
	産業社会実習指導Ⅰ	実習	1			○							☆ 2単位以上(次頁の実習含む)
	産業社会実習	実習	2			○							☆ 不開講
	産業社会実習指導Ⅱ	実習	1				○						☆ 不開講
	社会調査実習Ⅰ	実習	1					○					☆ 2クラス
社会調査実習Ⅱ	実習	1							○			☆ 2クラス	

名古屋大原学園

授 業 科 目	種 別	単 位	配当年次・セメスター								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			1	2	3	4	5	6	7	8				
実 選 習 択 科 必 目 修	社 会 臨 床 実 習 I	実 習	1			○	←	○					2クラス 3セメへ変更	2 単 位 以 上 (前 頁 の 実 習 含 む)
	社 会 臨 床 実 習 II	実 習	1				○	←	○				2クラス 4セメへ変更	
	社会情報実習 I 《映像制作》	実 習	1			○							2クラス (bクラス(五十嵐(正))は単位認定)	
	社会情報実習 II 《映像制作》	実 習	1				○						2クラス (bクラス(五十嵐(正))は単位認定)	
	相 談 援 助 実 習	実 習	4						○				不開講	
	相 談 援 助 実 習 指 導 I	実 習	1			○							不開講	
	相 談 援 助 実 習 指 導 II	実 習	2						○				不開講	
	精神保健福祉援助実習指導 I	実 習	1							○			不開講	
	精神保健福祉援助実習指導 II	実 習	1								○		不開講	
	精神保健福祉援助実習	実 習	4									○	不開講	
	精神保健福祉援助実習指導 III	実 習	1									○	不開講	
	礼 法 I	実 習	1	○									☆2クラス	
	礼 法 II	実 習	1		○								☆2クラス	
	礼 法 III	実 習	1			○							☆	
	礼 法 IV	実 習	1				○						☆	
	能 I	実 習	1	○									☆ 隔週2コマ連続	
	能 II	実 習	1	○	←	○							☆ 隔週2コマ連続 1セメへ変更	
	茶 道 I	実 習	1	○									2クラス	
茶 道 II	実 習	1		○								2クラス		
茶 道 III	実 習	1			○									
茶 道 IV	実 習	1				○								
茶 道 V	実 習	1					○					隔週2コマ連続		
茶 道 VI	実 習	1						○				隔週2コマ連続		
演 習 科 必 目 修	現 代 日 本 演 習 I	演 習	2			○							11クラス	4 単 位
	現 代 日 本 演 習 II	演 習	2				○						11クラス	
	現 代 日 本 演 習 III	演 習	2					○					12クラス } いずれか 4単位	
	現 代 日 本 演 習 IV	演 習	2						○					
	プロジェクト研究 I	演 習	2						○				12クラス } いずれか 4単位	
	プロジェクト研究 II	演 習	2							○				
	現 代 日 本 演 習 V	演 習	2								○		12クラス } いずれか 4単位	
	現 代 日 本 演 習 VI	演 習	2								○			
	プロジェクト研究 III	演 習	2								○			
	プロジェクト研究 IV	演 習	2									○		
	卒 業 研 究	演 習	4									○		
	選 択	総 合 福 祉 演 習 I	演 習	1								○		
総 合 福 祉 演 習 II		演 習	1									○		
相 談 援 助 演 習 I		演 習	2				○							
相 談 援 助 演 習 II		演 習	2					○						
相 談 援 助 演 習 III		演 習	1							○				
精神保健福祉援助演習(専門) I		演 習	1								○			
精神保健福祉援助演習(専門) II		演 習	1									○		

履修上の注意
 ☆について、他学部・他学科の学生が履修することができます。

IV. 副専攻制度

この制度は、学生の皆さんに芽生えた興味を幅広く、かつ体系的な学びにつなげるための制度です。下記の条件を満たした場合、自身が所属する学科（主専攻）のほかに、副専攻の修了が認定されます。副専攻の修了者には修了証が発行されるため、対外的・社会的に自身の学びを証明することにより、自身の第二の強みとして活用できます。

副専攻は、事前に申請していないと修了認定されません。希望者は、「副専攻認定の申請方法について」に基づいて申請をしてください。

なお、副専攻を申請していても、主専攻の修了が優先されますので、時間割の都合上、必ずしも4年間での修了を保証するものではありませんので注意してください。

専攻の名称

- ①主専攻 所属する学科の名称（例：神道学科であれば「神道学」）
- ②副専攻 「データサイエンス」「キャリア[公務員]」「SDGsとビジネス」「プログラミング（初等中等教育）」「日本語教育学」「中国文化学」「伊勢志摩定住自立圏共生学」

令和5～8年度の入学生

副専攻認定の申請方法について

①ガイダンスの実施

各年次当初に公開される履修指導動画とともに、副専攻制度の概要・修了要件等を解説した動画を公開します。

②申請方法・期限

2年次・3年次・4年次の各学年春学期の履修登録修正期間内を申請期間とします。manaba「履修指導（〇年次）」コース内に申請フォームを公開しますので、期限内に申請をしてください。なお、3年次・4年次の申請については、新規申請だけでなく、既に申請している副専攻の変更も可能です。

③副専攻の修了認定

見込み認定 4年次春学期の履修登録修正期間に確認
最終認定 卒業時

平成31～令和4年度の入学生

副専攻認定の申請方法について

①ガイダンスの実施

1年次の当初及び学年末に実施する履修指導時に制度の説明を行い、申請用紙は1年次末の履修指導時に配付する。

②申請方法・期限

2年次春学期の履修登録修正期間（締切は最終日16:30）に、記念講堂の学生支援部前のレポート提出ボックスへ申請用紙を提出。

③副専攻の修了認定

見込み判定 4年次春学期の履修登録修正期間中に確認することができます。
最終認定 卒業時

副専攻の修了認定条件

次の①～⑦の副専攻について修了認定を受けるためには、副専攻認定申請を行い、各自の入学年度に該当するカリキュラム表のうち、次にあげる条件を満たして卒業することを条件とします。

① 「データサイエンス」

→令和5年度以降に入学した全学科生が対象

今後のデジタル社会を担う人材養成方針として国が推進する「AI戦略2019」のうち、「リテラシーレベル」をベースに、数理・データサイエンス・AIの考え方を各学部の専門性に活かすという「応用基礎レベル」をめざすコースです。

P.107の認定要件科目のうち、

- ・ 神道・国文・国史・コミュニケーション学科生は、必修20単位を修得し、かつGPAが2.5以上の者。
- ・ 教育学科生は、必修10単位を含む20単位以上を修得し、かつGPAが2.5以上の者。
- ・ 現代日本社会学科生は、必修18単位を含む20単位以上を修得し、かつGPAが2.5以上の者。

② 「キャリア【公務員】」

→令和5年度以降に入学した神道・国文・国史・コミュニケーション・教育学科生が対象

社会有為の人材をめざして自らのキャリア形成について考え、特に公務員として身につけるべき知識や教養を学び、理解を深めていくコースです。あらゆる公務員キャリアに即した必修科目群に加え、多様な公務員キャリアに対応する選択科目群を配置します。

- ・ P.108の認定要件科目のうち、必修23単位以上を修得し、かつGPAが2.5以上の者。

③ 「SDGsとビジネス」

→令和5年度以降に入学した全学科生が対象

2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標であるSDGsを踏まえ、ビジネスの観点から実際の各専門領域でSDGsの理念をどのように活かすべきかを考えていくコースです。

- ・ P.108の認定要件科目のうち、18単位以上の修得及び「SDGsとビジネス教育講演会」を2回聴講し、かつGPAが2.5以上の者。

④ 「プログラミング（初等中等教育）」

→令和5年度以降に入学した全学科生が対象

初等教育や中等教育の現場で活用できるプログラミングをはじめとするICTに関する技術や知識を身につけるコースです。次世代に伝えるべき技術や知識を学びます。

- ・ P.109の認定要件科目のうち、必修2単位を含む20単位以上を修得し、かつGPAが2.5以上の者。

⑤ 「日本語教育学」

→全学科生が対象

日本語教員試験では、日本語教育の専門家として必要とされる知識及び能力が一定の水準に達しているかどうか問われます。本副専攻は出題分野を含む講義で構成し、基礎的水準の達成をめざします。

- ・ P.110の認定要件科目のうち、必修6単位を含む26単位以上を修得し、かつGPAが2.5以上の者。

⑥ 「中国文化学」

→全学科生が対象

語学（中国語）・文学・思想・歴史・芸術（書道）の五分野の学習を通じて、中国を中心に、日本を含む東アジアについての知識を体系的・総合的に学ぶためのコースです。

- ・ P.111の認定要件科目のうち、令和4年度以前の入学生については、必修12単位を含む20単位以上を修得し、かつGPAが2.5以上の者、令和5年度以降の入学については、必修12単位を含む18単位以上を修得し、かつGPAが2.5以上の者。

⑦ 「伊勢志摩定住自立圏共生学」

→全学科生が対象

地（知）の拠点大学に位置づけられる本学で学び、将来、地域で活躍するアクティブ・シチズン（主体的かつ積極的に地域の課題解決を実践する人材）として必要な学びと活動を実践するためのコースです。

- ・ P.112の認定要件科目のうち、令和4年度以前の入学生については、必修18単位を含む19単位以上を修得及び1つ以上のCLL活動（Community Learning Labo：伊勢志摩定住自立圏域内の活動拠点）に参加し、かつGPAが2.5以上の者、令和5年度以降の入学生については、必修14単位を含む15単位以上を修得及び1つ以上のCLL活動と地域志向研究発表会に参加し、かつGPA2.5以上の者。

なお、「三重創生ファンタジスタ（アドヴァンス：食と観光）」資格も同時に認定されます。

令和5～8年度の入学生に適用

「データサイエンス副専攻」要件科目

神道・国文・国史・コミュニケーション学科生

授業科目	セメスター	種別	単位			備考
			必修	選択必修	選択	
データサイエンス入門	2	講義	2			
数学基礎	3	講義	2			
プログラミング・アルゴリズム基礎	4	講義	2			
データサイエンス・データエンジニアリング基礎	6	講義	2			
AI基礎	6	講義	2			
情報数学	3	講義	2			
アルゴリズムとデータ構造演習	4	演習	2			
データ加工	3	演習	2			
データ収集	4	演習	2			
データサイエンス演習	5	演習	2			
合計			20単位以上			

教育学科生

授業科目	セメスター	種別	単位			備考
			必修	選択必修	選択	
データサイエンス入門	2	講義	2			
数学基礎	3	講義	2			
プログラミング・アルゴリズム基礎	4	講義	2			
データサイエンス・データエンジニアリング基礎	6	講義	2			
AI基礎	6	講義	2			
代数学基礎	1	講義		2		
代数学序論	2	講義		2		
確率・統計学Ⅰ	5	講義		2		
確率・統計学Ⅱ	6	講義		2		
コンピュータ概論	5	講義		2		
コンピュータ演習	6	演習		2		
合計			20単位以上			GPAが2.5以上の者

現代日本社会学科生

授業科目	セメスター	種別	単位			備考
			必修	選択必修	選択	
データサイエンス入門	2	講義	2			
数学基礎	3	講義	2			
プログラミング・アルゴリズム基礎	4	講義	2			
データサイエンス・データエンジニアリング基礎	6	講義	2			
AI基礎	6	講義	2			
社会情報学	3	講義	2			
社会調査法	4	講義	2			
社会情報分析	4	講義	2			
社会統計学Ⅰ（基礎統計）	5	講義	2			
社会統計学Ⅱ（多変量解析）	6	講義		2		
質的調査論	6	講義		2		
合計			20単位以上			GPAが2.5以上の者

令和5~8年度の入学生に適用

「キャリア〔公務員〕副専攻」要件科目

授業科目	セメスター	種別	単 位			備 考
			必修	選択必修	選択	
人生と仕事 I	2	講義	1			
一般知能 I (数的処理入門)	2	講義	2			
一般知能 II (数的処理B-I)	3	講義	2			
一般知能 III (数的処理B-II)	4	講義	2			
一般知能 IV (数的処理A-I、文章理解)	5	講義	2			
一般知能 V (数的処理A-II)	6	講義	2			
一般知識 I (政治)	3	講義	2			
一般知識 II (経済)	4	講義	2			
一般知識 III (日本史、世界史)	5	講義	2			
一般知識 IV (地理、思想)	5	講義	2			
一般知識 V (社会)	5	講義	2			
一般知識 VI (地学、生物)	6	講義	2			
公共政策論	4	講義			2	
専門 I (憲法)	2	講義			2	
専門 II (政治学、社会学)	2	講義			2	
専門 III (民法 I)	3	講義			2	
専門 IV (行政法 I)	3	講義			2	
専門 V (民法 II)	4	講義			2	
専門 VI (行政法 II、行政学)	4	講義			2	
専門 VII (ミクロ経済学)	5	講義			2	
専門 VIII (マクロ経済学)	5	講義			2	
専門 IX (経済系科目演習)	5	講義			2	
専門 X (法律系科目演習)	6	講義			2	
合 計				23単位以上		GPAが2.5以上の者

令和5~8年度の入学生に適用

「SDGsとビジネス副専攻」要件科目

授業科目	セメスター	種別	単 位			備 考
			必修	選択必修	選択	
経営学概論	1	講義		2		
マネジメント論	1	講義		2		
生涯学習論	2	講義		2		
社会福祉	2	講義		2		
社会福祉の原理と政策	2	講義		4		
特別支援教育の基礎	3	講義		2		
子ども家庭福祉	3	講義		2		
地域再生論	3	講義		2		
児童・家庭福祉	3	講義		2		
マーケティング論	4	講義		2		
イノベーション論	4	講義		2		
地域福祉と包括的支援体制	4	講義		4		
子どもの食と栄養	5	演習		2		
合 計				18単位以上		GPAが2.5以上の者

令和5~8年度の入学生に適用

「プログラミング（初等中等教育）副専攻」要件科目
文学部・現代日本社会学部

授業科目	セメスター	種別	単位			備考
			必修	選択必修	選択	
中等教育方法論（ICTの活用を含む）	5	講義	2			不開講
ビジネス情報学Ⅰ	1	講義		2		
ビジネス情報学Ⅱ	2	講義		2		
情報科学概論Ⅰ	1	講義		2		
情報科学概論Ⅱ	2	講義		2		
プログラミングⅠ	2	演習		2		
プログラミングⅡ	3	演習		2		
プログラミングⅢ	5	演習		2		
Webデザイン	4	演習		2		
児童算数	3	演習		2		
理科実験指導法Ⅰ	5	演習		2		
理科実験指導法Ⅱ	6	演習		2		
プログラミング教育演習	5	演習		2		
ICT教育教材開発演習	6	演習		2		
情報リテラシーと経済安全保障	2	講義		2		
合計			20単位以上			GPAが2.5以上の者

カリキュラム

副専攻制度 R5~8

教育学部

授業科目	セメスター	種別	単位			備考
			必修	選択必修	選択	
教育方法論（ICTの活用を含む）	4	講義	2			不開講
ビジネス情報学Ⅰ	1	講義		2		
ビジネス情報学Ⅱ	2	講義		2		
情報科学概論Ⅰ	1	講義		2		
情報科学概論Ⅱ	2	講義		2		
プログラミングⅠ	2	演習		2		
プログラミングⅡ	3	演習		2		
プログラミングⅢ	5	演習		2		
Webデザイン	4	演習		2		
児童算数	3	演習		2		
理科実験指導法Ⅰ	5	演習		2		
理科実験指導法Ⅱ	6	演習		2		
プログラミング教育演習	5	演習		2		
ICT教育教材開発演習	6	演習		2		
情報リテラシーと経済安全保障	2	講義		2		
合計			20単位以上			GPAが2.5以上の者

「日本語教育学副専攻」要件科目

授 業 科 目	セメスター	種別	単 位			備 考
			必修	選択必修	選択	
日本語教授法	3	講義	2			
日本語コミュニケーション概論Ⅱ	3	講義	2			
社会言語学	5	講義	2			
国語学概論Ⅰ	1	講義		2		
国語学概論Ⅱ	4	講義		2		
国語史概説Ⅰ	4	講義		2		
国語史概説Ⅱ	5	講義		2		
異文化間コミュニケーションⅠ	1	講義		2		
異文化間コミュニケーションⅡ	2	講義		2		
英語音声学Ⅰ	3	演習		2		
英語音声学Ⅱ	4	演習		2		
日本語コミュニケーション概論Ⅰ	2	講義		2		
日本文化論	2	講義		2		
外国語Ⅱ《日本語教育実習》	2	演習		2		
情報処理Ⅰ（基礎）	1	演習		1		
情報処理Ⅱ（応用）	2	演習		1		
合 計			26単位以上			GPAが2.5以上の者

「日本語教育学副専攻」要件科目

授 業 科 目	セメスター	種別	単 位			備 考
			必修	選択必修	選択	
日本語教授法	3	講義	2			これらより 4単位以上必修
日本語コミュニケーション概論Ⅱ	3	講義	2			
社会言語学	5	講義	2			
国語学概論Ⅰ	1	講義		2		
国語学概論Ⅱ	4	講義		2		
国語史概説Ⅰ	4	講義		2		
国語史概説Ⅱ	5	講義		2		
異文化間コミュニケーションⅠ	3	講義		2		
異文化間コミュニケーションⅡ	4	講義		2		
英語音声学Ⅰ	3	演習		2		
英語音声学Ⅱ	4	演習		2		
日本語コミュニケーション概論Ⅰ	2	講義		2		
日本文化論	2	講義		2		
外国語Ⅱ《日本語教育実習》	2	演習		2		
情報処理Ⅰ（基礎）	1	演習		1		
その他の国文学科・コミュニケーション 学科専門科目のうち、他学部・他学科の 学生が履修可能な科目					4	
合 計			26単位以上			GPAが2.5以上の者

令和5～8年度の入学生に適用

「中国文化学副専攻」要件科目

授業科目	セメスター	種別	単位			備考
			必修	選択必修	選択	
漢文学概論Ⅰ	3	講義		2		
漢文学概論Ⅱ	4	講義	2			
東洋史概説Ⅰ	3	講義	2			
東洋史概説Ⅱ	4	講義		2		
外国史特講	6	講義		2		
東洋思想史	5	講義	2			
書論・鑑賞	5	講義	2			
中国語初級Ⅰ	1	演習	1			
中国語初級Ⅱ	2	演習	1			
中国語中級Ⅰ	3	演習	1			
中国語中級Ⅱ	4	演習	1			
外国語Ⅰ ※	2	演習		2		
外国語Ⅱ ※	2	演習		2		
書道Ⅰ	3	実技		1		
書道Ⅱ	4	実技		1		
合計			18単位以上			GPAが2.5以上の者

※ただし、外国語Ⅰ・Ⅱは中国語圏への留学に限る。

平成31～令和4年度の入学生に適用

「中国文化学副専攻」要件科目

授業科目	セメスター	種別	単位			備考
			必修	選択必修	選択	
漢文学概論Ⅰ	3	講義	2			これらより 20単位以上必修
漢文学概論Ⅱ	4	講義		2		
東洋史概説Ⅰ	3	講義	2			
東洋史概説Ⅱ	4	講義		2		
外国史特講《東洋史》	6	講義		2		
東洋思想史	5	講義	2			
書論・鑑賞	5	講義	2			
中国語初級Ⅰ	1	演習	1			
中国語初級Ⅱ	2	演習	1			
中国語中級Ⅰ	3	演習	1			
中国語中級Ⅱ	4	演習	1			
中国の思想	2	講義		2		
外国語Ⅰ ※	2	演習		2		
外国語Ⅱ ※	2	演習		2		
書道Ⅰ	3	実技		1		
書道Ⅱ	4	実技		1		
合計			20単位以上			

※ただし、外国語Ⅰ・Ⅱは中国語圏への留学に限る。

令和5～8年度の入学生に適用

「伊勢志摩定住自立圏共生学副専攻」要件科目

授 業 科 目	セメスター	種別	単 位			備 考
			必修	選択必修	選択	
伊勢志摩共生学	2	講義	2			
伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ	3	講義	2			
伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅱ	4	講義	2			
伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅲ	3	講義	2			
伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅳ	4	講義	2			
伊勢志摩共生学演習Ⅰ	3	演習	2			
伊勢志摩共生学演習Ⅱ	4	演習	2			
伊勢志摩共生学実習A	5	実習		1		
伊勢志摩共生学実習B	6	実習		1		
指定科目のほか、1つ以上のCLL活動に参加及び地域志向研究発表会に参加すること。						
合 計			15単位以上			GPAが2.5以上の者

平成31～令和4年度の入学生に適用

「伊勢志摩定住自立圏共生学副専攻」要件科目

授 業 科 目	セメスター	種別	単 位			備 考
			必修	選択必修	選択	
伊勢志摩共生学	2	講義	2			} これらより } 1単位以上必修
伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ	3	講義	2			
伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅱ	4	講義	2			
伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅲ	3	講義	2			
伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅳ	4	講義	2			
伊勢志摩共生学実習A	5	実習		1		
伊勢志摩共生学実習B	6	実習		1		
プロジェクト研究Ⅰ	5	演習	2			
プロジェクト研究Ⅱ	6	演習	2			
プロジェクト研究Ⅲ	7	演習	2			
プロジェクト研究Ⅳ	8	演習	2			
指定科目のほか、1つ以上のCLL活動に参加すること。						
合 計			19単位以上			GPAが2.5以上の者

V. 各種課程等

1. 各種課程及び資格について（課程・資格一覧）	114
2. 神職課程（高等課程）	119
3. 教職課程	132
教員免許状取得のための早見表	145
4. 図書館司書課程	187
5. 司書教諭課程	189
6. 博物館学芸員課程	191
7. 保育士資格	194
8. スポーツ指導者資格	203
9. 初級パラスポーツ指導員	205
10. 自然体験活動指導者（NEALリーダー）資格	206
11. 社会福祉士（国家試験受験資格）	207
12. 精神保健福祉士（国家試験受験資格）	211
13. 社会調査士資格	215
14. 認定心理士資格	217
15. 公認心理師（国家試験受験資格）	220
16. GIS学術士資格	225
17. 任用資格	227
18. 麻しん抗体検査	230

各種課程及び資格について（課程・資格一覧）

学部学科の特性に応じて各自がカリキュラム上で履修可能なものを選択して各種免許・資格の取得をめざすことができます。

なお、取得可能な免許・資格の全てが取得できるわけではなく、免許・資格によっては4年間で取得できない場合もあります。

各種免許・資格取得を希望する者は下表を参考にして、計画的な科目修得を心がけましょう。

●文学部

令和5～8年度の入学生に適用

			神道学科	国文学科	国史学科	コミュニケーション学科		
						英語コミュニケーションコース 英語教育コース	心理学コース	情報コース
教員免許	中学校 教諭一種	国語		○	△	△	○	○
		社会	△	△	○	△	○	○
		英語		△		○	△	△
		宗教	○					
	高等学校 教諭一種	国語		○	△	△	○	○
		書道		○				
		地理歴史	△	△	○	△	○	○
		公民	△	△	○	△	○	○
	小学校教諭一種	英語		△		○	△	△
		宗教	○					
	小学校教諭一種		▲	▲	▲	▲	▲	
	神職階位 [高等課程・明階検定合格・正階授与]	●	□	□				
	神職階位 [明階総合課程・明階検定合格・明階授与]	●						
	司書		●	□				
	司書教諭		◇	◇				
	学芸員	□		●				
	G I S 学術士				●	●	●	
	認定心理士					●		
	公認心理師国家試験受験資格					#		

免許資格取得条件

○印の免許・資格取得について

それぞれの学科において主となる教員免許です。

△印の資格について

各学科の主となる教員免許（○印）のいずれかを取得することが条件となるため、時間割などの都合上必ずしも4年間で取得を保障するものではありません。

●印の資格取得について

それぞれの学科において取得可能な資格です。

◇印の資格取得について

中学校・高等学校いずれかの教員免許を取得することが条件となります。

□印の資格取得について

自学科の専門科目として割り当てられていないため4年間で取得が困難な場合があります。

#印の資格取得について

在学中、または卒業直後に国家試験を受験することはできません。卒業後に他大学の大学院に進学するか、認定を受けた機関における実務経験を2年以上積み必要があります。

注 意

コミュニケーション学科の英語以外の教員免許取得は自学科の学修が優先されるため、時間割などの都合上必ずしも4年間で取得を保障するものではありません。

▲印の小学校一種については、自学科の主となる教員免許（中学校教諭一種）履修者の中から1年次の成績及び教職に対する熱意などによる選考を経て、30名程度の者に対して2年次からの他学部履修による取得を認めます。また、単位修得状況により、二種免許として取得も可能です。

●教育学部

令和7・8年度の入学生に適用

		初等教育コース	幼児教育コース	保健体育コース	数理教育コース	
教員免許	幼稚園教諭一種		○			
	小学校教諭一種	○	△	△	△③	
	中学校教諭一種	国語	△			
		社会	△			
		英語	△			
		数学				○①
		理科				○②
	保健体育			○		
	高等学校教諭一種	国語	△			
		地理歴史	△			
		英語	△			
		数学				○①
		理科				○②
	保健体育			○		
司書教諭	◇	◇	◇	◇		
保育士		○				
スポーツ指導者			◆			
初級パラスポーツ指導員	■	■	■	■		
自然体験活動指導者(NEALリーダー)資格	■	■	■	■		

免許資格取得条件

○印の免許・資格取得について

それぞれのコースにおいて主となる免許・資格です。

△印の免許取得について

○印の免許取得を条件として一つ取得可能（初等教育コースの△は教科ごとに中・高セットで一教科取得可能）です。

◇印の資格取得について

小・中・高等学校いずれかの教員免許を取得することが条件となります。

◆印の資格取得について

定められた必修科目を履修し、その単位を修得することが条件となります。

■印の資格取得について

指定科目を履修し、認定団体に対して資格申請を行うことが条件です。

数理教育コースで取得できる免許・資格について

○①、○②は中学校・高等学校両免許状で二教科取得可能。

△③を取得する場合は○①又は○②の中学校・高等学校両免許状の一教科となります。

●教育学部

令和5・6年度の入学生に適用

		初等教育コース	幼児教育コース	保健体育コース	数理教育コース	
教員免許	幼稚園教諭一種		○			
	小学校教諭一種	○	△	△	△	
	中学校教諭一種	国語	△			
		社会	△			
		英語	△			
		数学				○
	保健体育			○		
	高等学校教諭一種	国語	△			
		地理歴史	△			
		英語	△			
数学					○	
保健体育			○			
司書教諭	◇	◇	◇	◇		
保育士		○				
スポーツ指導者			◆			
初級パラスポーツ指導員	■	■	■	■		
自然体験活動指導者(NEALリーダー)資格*	■	■	■	■		

*R6履修生から申請可

免許資格取得条件

免許資格取得条件

○印の免許・資格取得について

それぞれのコースにおいて主となる免許・資格です。

△印の免許取得について

○印の免許取得を条件として一つ取得可能（初等教育コースの△は教科ごとに中・高セットで一教科取得可能）です。

◇印の資格取得について

小・中・高等学校いずれかの教員免許を取得することが条件となります。

◆印の資格取得について

定められた必修科目を履修し、その単位を修得することが条件となります。

■印の資格取得について

指定科目を履修し、認定団体に対して資格申請を行うことが条件です。

●現代日本社会学部

令和5～8年度の入学生に適用

			経営革新コース	地域創生コース	福祉展開コース
教員免許	高等学校教諭一種	公民	□	□	□
社会福祉士国家試験受験資格					○
精神保健福祉士国家試験受験資格					◇
社会調査士				○	
社会福祉主事（任用資格）					○
身体障害者福祉司（任用資格）					○
知的障害者福祉司（任用資格）					○
児童指導員（任用資格）					○
初級パラスポーツ指導員					◆

免許資格取得条件

○印の資格取得について

それぞれのコースにおいて主となる資格です。

□印の免許取得について

自学科の専門科目として割り当てられていないため4年間での取得を保証するものではありません。

◇印の資格取得について

社会福祉士国家試験受験資格を取得することが条件となります。

◆印の資格取得について

指定科目を履修し、日本パラスポーツ協会に対して資格申請を行うことが条件です。

注意

「社会福祉士国家試験受験資格」と「公民」の教員免許状の両方を取得することは可能ですが、「精神保健福祉士国家試験受験資格」と「公民」の教員免許状の両方を取得することはできません。

●文学部

平成31～令和4年度の入学生に適用

			神道学科	国文学科	国史学科	コミュニケーション学科		
						類コミュニケーションコース	心理コース	地域情報コース
教員免許	中学校教諭一種	国語		○	△	△	○	○
		社会	△	△	○	△	○	○
		英語		△		○	△	△
		宗教	○					
	高等学校教諭一種	国語		○	△	△	○	○
		書道		○				
		地理歴史	△	△	○	△	○	○
		公民	△	△	○	△	○	○
		英語		△		○	△	△
	宗教	○						
	小学校教諭一種		▲	▲	▲	▲	▲	
神職階位 [高等課程：明階検定合格・正階授与]			●	□	□			
神職階位 [明階総合課程：明階検定合格・明階授与]			●					
司書				●	□			
司書教諭				◇	◇			
学芸員			□		●			
GIS学術士						●	●	
認定心理士							●	
公認心理師国家試験受験資格							#	

免許資格取得条件

○印の免許取得について

それぞれの学科において主となる教員免許です。

△印の免許取得について

各学科の主となる教員免許（○印）のいずれかを取得することが条件となるため、時間割などの都合上必ずしも4年間での取得を保証するものではありません。

●印の資格取得について

それぞれの学科において取得可能な資格です。

◇印の資格取得について

中学校・高等学校いずれかの教員免許を取得することが条件となります。

□印の資格取得について

自学科の専門科目として割り当てられていないため4年間で取得が困難な場合があります。

#印の資格取得について

在学中、または卒業直後に国家試験を受験することはできません。卒業後に他大学の大学院に進学するか、認定を受けた機関における実務経験を2年以上積む必要があります。

注 意

コミュニケーション学科の英語以外の教員免許取得は自学科の学修が優先されるため、時間割などの都合上必ずしも4年間での取得を保証するものではありません。

▲印の小学校一種については、自学科の主となる教員免許（中学校教諭一種）履修者の中から1年次の成績及び教職に対する熱意などによる選考を経て、30名程度の者に対して2年次からの他学部履修による取得を認めます。また、単位修得状況により、二種免許として取得も可能です。

●教育学部

平成31~令和4年度の入学生に適用

		学 校 教 育 コ ー ス	幼 児 教 育 コ ー ス	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 コ ー ス	特 別 支 援 教 育 コ ー ス	
教 員 免 許	幼 稚 園 教 諭 一 種		○			
	小 学 校 教 諭 一 種	○	△	△	○	
	中 学 校 教 諭 一 種	国 語	△			
		社 会	△			
		英 語	△			
	高 等 学 校 教 諭 一 種	保 健 体 育			○	○
		国 語	△			
		地 理 歴 史	△			
		英 語	△			
保 健 体 育			○	○		
特 別 支 援 学 校 教 諭 一 種				▲		
司 書 教 諭	◇	◇	◇	◇		
保 育 士		○				
ス ポ ー ツ 指 導 者			◆	◆		
初 級 パ ラ ス ポ ー ツ 指 導 員			■	■		

免許資格取得条件

- 印の免許・資格取得について
それぞれのコースにおいて主となる免許・資格です。
- △印の免許取得について
○印の免許取得を条件として一つ取得可能（学校教育コースの△は教科ごとに中・高セットで一教科取得可能）です。
- ▲印の免許取得について
小学校または中学校・高等学校（保健体育）の教員免許取得を条件として取得することができます。ただし、小学校と中学校・高等学校（保健体育）はいずれかの選択となります。
- ◇印の資格取得について
小・中・高等学校いずれかの教員免許を取得することが条件となります。
- ◆印の資格取得について
定められた必修科目を履修し、その単位を修得することが条件となります。
- 印の資格取得について
指定科目を履修し、日本バラスポーツ協会に対して資格申請を行うことが条件です。

●現代日本社会学部

平成31~令和4年度の入学生に適用

		経 営 革 新 コ ー ス	地 域 創 生 コ ー ス	福 祉 展 開 コ ー ス	文 化 発 信 コ ー ス
教 員 免 許	高 等 学 校 教 諭 一 種 公 民	□	□	□	□
社 会 福 祉 士 国 家 試 験 受 験 資 格				○	
精 神 保 健 福 祉 士 国 家 試 験 受 験 資 格				◇	
社 会 調 査 士			○		
社 会 福 祉 主 事 (任 用 資 格)				○	
身 体 障 害 者 福 祉 司 (任 用 資 格)				○	
知 的 障 害 者 福 祉 司 (任 用 資 格)				○	
児 童 指 導 員 (任 用 資 格)				○	
初 級 パ ラ ス ポ ー ツ 指 導 員				◆	

免許資格取得条件

- 印の資格取得について
それぞれのコースにおいて主となる資格です。
- 印の免許取得について
自学科の専門科目として割り当てられていないため4年間での取得を保証するものではありません。
- ◇印の資格取得について
社会福祉士国家試験受験資格を取得することが条件となります。
- ◆印の資格取得について
指定科目を履修し、日本バラスポーツ協会に対して資格申請を行うことが条件です。

注 意

「社会福祉士国家試験受験資格」と「公民」の教員免許状の両方を取得することは可能ですが、「精神保健福祉士国家試験受験資格」と「公民」の教員免許状の両方を取得することはできません。

神職課程（高等課程）

神職課程は、神職をめざす学生が、神社本庁で定められた規程により、神職資格を取得できるよう設置している課程です。

履修者は、卒業後、神社に奉職するという明確で堅固な意志のもと、履修してください。

神職資格

神社本庁（伊勢の神宮を本宗と仰ぎ、全国8万社の神社を包括する組織として、昭和21年に創立された。）の定める「階位検定及び授与に関する規程」により、神職資格【階位】は、上位より浄階（じょうかい）、明階（めいかい）、正階（せいはい）、権正階（ごんせいはい）、直階（ちよっかい）があります。

明階以下の階位は、神社本庁の階位検定委員会の「検定（学識認定＝学科目単位）」を合格し、かつ所定の「神務実習」を修了したのち、同委員会審査を経て階位が「授与」されます。

神職資格取得条件

1. 神道学科・国文学科・国史学科の学生であること。
2. 卒業単位を修得していること。

課程名	学科目		神務実習					
	必修	選択必修	基礎実習	指定実習Ⅰ ①②	指定実習Ⅱ	指定実習Ⅲ ①②③	神宮実習	中央実習
高等課程	60単位	12単位以上	○	○	○	○	△	△
明階総合課程	28単位		○	○	○	○	○	○

○必修実習

△高等課程履修者は、神社本庁の特別措置により、所定の要件を満たした者には、受講が認められる。ただし、事情により受講者数が限定される場合がある。P.121の6.注意事項の(5)を参照。

大学での取得可能な階位（神職資格）

1. 在学中に「神職課程：高等課程」を履修して所定の単位を取得並びに、神務実習を修了した者は、「正階（明階検定合格）」を取得することができます。
2. 4年次（神道学科）に所定の要件を満たし、「明階総合課程」の受講を許可され、所定の単位を取得並びに、神務実習を修了した者は、「明階（明階検定合格）」を取得することができます。

課程名	履修学科	検定合格（無試験）	階位授与	【神社本庁神職資格】
高等課程	神道・国文・国史	明階	正階	【明階検定合格・正階授与】
明階総合課程	神道（4年次）	明階	明階	【明階検定合格・明階授与】

高等課程【明階検定合格・正階授与】

高等課程は、神社本庁「神職養成機関に関する規程」の第二章（第六条）に、「高い教養と広い知識を踏まえ、神道に関する学問及び技芸を教授・研究し、（中略）将来指導神職となるに必要な基礎的資質を養うことを目的とする」とあり、神職を育成するため大学に設置されています。

1. 履修手続き

- (1) 「神職課程履修申込書」を、期日までに神職養成部へ提出すること。
- (2) 履修後に神職課程を辞退する場合は、指導教員に相談・報告の上、「神職課程履修辞退願」を神職養成部へ提出すること。

2. 明階授与申請

大学卒業後・修了後、神宮・神社・神社本庁・神社庁の職員（神職・巫女・事務員を問わない）として2年以上在職し、神社本庁研修規程に基づき、必要な研修を受講した後、各都道府県神社庁を通して「明階」を申請することができます。

明階総合課程【明階検定合格・明階授与】

明階総合課程は、神社本庁「神職養成機関に関する規程」の第六章（第三十四条）に、「神職として必要な専門的知識及び技能を広く教授し、応用的能力を養うとともに、信仰心を強固にし神明奉仕の精神を陶冶せしめることを目的とする」とあり、将来指導神職たるべき素地を養うため開講されるものです。

1. 履修資格

大学神道学科（高等課程）の4年次に在籍し、下記の要件を満たす者。

- (1) 卒業後、神社に奉職する意志堅固な者（4年次の4月に行う面接又はレポート提出により確認）。
- (2) 4年次で卒業見込みの者。
- (3) 3年次末までに4年次配当科目の履修のみとなっている者。
- (4) 3年次末に高等課程の必修単位をすべて修得している者。
- (5) 高等課程の神務実習をすべて修了し、その実習が優良な者（ただし、やむを得ない事情で修了できなかった者についても、選考対象とする）。
- (6) 3年次末に高等課程の必修単位科目を履修済の者で、その成績が優良な者。
- (7) 「祭式及び同行事作法ⅠA・ⅠB」・「祭式及び同行事作法ⅡA・ⅡB」とともに、その成績が良以上の者。

2. 履修手続き

- (1) 手続き時期は、4年次の4月初旬（詳細は掲示）。
- (2) 「受講願書」、「神職を志望する理由：レポート」を提出すること。

神務実習

本学において神職課程を履修し、神社本庁神職資格を取得しようとする者は、神社本庁「階位検定及び授与に関する規程」に基づき、本学の定める各「神務実習」を履修し、修得しなければなりません。

実習は、「神務実習（基礎実習）」及び神務実習（指定実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の4種類をすべて修得する必要があります。また、直階・権正階・正階の階位を有していても、本学所定の各「神務実習」をすべて修得しなければなりません。

1. 目的

神職としての奉仕を実地に体験し、将来指導神職となるに必要な基礎的資質を養うことを目的としています。

2. 神務実習心得

神務実習は神明に対する真実の奉仕です。潔斎の徹底・清浄な心身の維持に心を致し、誠実、敬虔、謹慎の態度を以て一貫しなければなりません。

実習期間中は参籠の心構えで服装・頭髪等の身嗜みにいたるまで気を配り、言葉を明瞭に、動作を機敏に、何事にも積極的に取り組むよう心がけなければなりません。

3. 履修申込資格

- (1) 神職課程を履修中の者。（「神職課程履修申込書」を提出している者）
- (2) 卒業後、神社に奉職する意志堅固な者。
- (3) 集団生活が可能で実習に耐え得る心身ともに健康な者。
- (4) 該当する「神務実習」を指定された配当年次で履修登録している者。
- (5) 「実習申込書」その他必要書類を期日までに提出している者。
- (6) 「事前指導」、「事前研修」を受けた者。
- (7) 実習費が期限内に納入されている者。

4. 実習の内容

- (1) 機関実習◎（事前指導、事前研修、事前テスト、指定レポート提出を含む）を受講すること。

- (2) 実務実習（大学指定の神社ほか）を指定日数分受講すること。
- (3) 機関実習（事後研修、指定レポート提出）を受講すること。
- (4) 「実習日誌」を提出すること。

◎機関実習とは、大学内で行われる神務実習です。

5. 履修登録方法・単位認定

- (1) 神務実習（基礎実習）を1年次の春学期に履修登録する。
- (2) 神務実習（指定実習Ⅰ・Ⅲ）は4年次の春学期に履修登録する。
- (3) 神務実習（指定実習Ⅱ）は原則3年次の春学期に履修登録を行うが、やむを得ず実習が4年次になってしまった場合には、4年次で登録する。
- (4) 神務実習（中央・神宮）は、許可者のみ4年次の春学期に履修登録する。
- (5) 履修登録がされていない場合は、実習を行っても単位修得できないので、必ず指定された該当年次で登録すること。
- (6) 実習日誌、事前指導・事前事後研修の出席、事前テスト、提出レポート、実習態度（実習評価票）をあわせて単位を認定する。

6. 注意事項

- (1) 最初に神務実習（基礎実習）の内容を終えていなければ、他の実習を受講することは認められない。
- (2) 2年次から神務実習（基礎実習）を履修しようとする者は、4年次までの3年間では定められた実習を全て履修できない可能性があり、最終的に卒業時に神職の資格が取得できなくなる可能性がある。
- (3) 神務実習（指定実習Ⅲ）の実習3回（①～③）を受ける場合は、前学期までのGPAが1.5以上でなければならない。
- (4) 神務実習（指定実習Ⅱ）を履修しようとする者は、前年度までのGPAが原則2.0以上で、かつ祭式及び同行事作法ⅡA・ⅡBを修得済又は履修中でなければならない。但し、神社界への奉職意志が堅固で、3年次未履修者のうち、当該年度のGPAが原則1.5以上あり、卒業時に神職資格取得見込の者については、テストを実施したうえで、委員会での審議を経て履修を認める場合がある。
- (5) 神宮実習・中央実習については、神社本庁の特例措置として、人物及び既往の神務実習の状況、学科目の成績並びに単位の修得等を勧告して、特別に受講が認められる。ただし、事情により受講者数が限定される場合がある。受講推薦の条件は下記の通り。
 - ア. 神職を志す者であること（面談<進路指導等>により意志を確認）。
 - イ. 実習（基礎・指定等）において、神職としての資質を疑わしめるような問題行動等の指摘がなされていないこと。
 - ウ. 修学姿勢、及び生活態度が良好と認められ、神職たるに相応しい人物であること。
 - エ. 「祭式及び同行事作法」の成績が（「祭式及び同行事作法ⅠA・ⅠB」「祭式及び同行事作法ⅡA・ⅡB」共に）「良」以上（70点以上）であること。
 - オ. 高等課程履修者のうち、成績上位の者（当面の間「8割」以内）であること。
- (6) 各実習とも、各神社で定められた実習・奉仕日数が不足した場合は、神職養成部に報告の上、必ず大学が承認する神社で再度不足分の実習・奉仕を行われなければならない。
- (7) 神職養成委員会において、実習の履修が不適切と判断した場合は、神務実習を認めないことがある。
- (8) 各実習の事前指導及び事前研修には、実習に臨む心構え等基本的な重要事項が含まれている。また、事後研修は、実習の反省・総括指導を行う。そのため、特にその出欠を重視し、正当な理由なく無断で欠席（遅刻・早退も含む）した者は、当該実習の受講を放棄したものとみなし、当該実習を再度受講しなければならない。
- (9) 神職養成委員会において、実習中に不適切と判断した場合は、履修の不許可や実習中止とする。

(10) 実習に関する事柄についてSNSやインターネットなどに投稿・掲載・発信することを一切禁止する。実習に関する物品（印刷物、刊行物含む）や成果物、情報などを掲載することで、トラブルが起こりうるため、絶対に行わないこと。その事実を確認した場合、当該実習の参加停止、または修了不認定とする。

学生本人以外（家族等）が行っても同様となるため、実習に関する成果物や情報など適正な管理に努めること。

(11) 神務実習中の携帯電話・スマートフォン等の通信機器の使用は、禁止とする。

7. 明階総合課程

4年次に明階総合課程の履修を許可された者は、必ず神宮実習及び中央実習を受講しなければなりません。

8. 実習の種類及び日数

◎機関実習（大学が行う実習） ●実務実習先神社

神務実習	時期	実習名（場所）	日数	履修登録	備考（実習内容）
基礎実習			3日	1年次	
	1年次	◎機関実習 ・事前指導 ●神宮会館	1日 2日		
指定実習Ⅰ			10日以上	3年次	基礎実習修了後
I①	1年次～3年次	◎機関実習 1. 神饌調理 2. 禊研修 3. 祭式作法 4. 祝詞 5. 日誌の書き方等	4コマ 3コマ 4コマ 4コマ 5コマ		
I②	1年次～3年次	神社実務実習 ・事前指導 ●熱田神宮（女子） ●大神神社（男子）	1日 6日分		
指定実習Ⅱ			10日	3年次	祭式ⅡA・B修得済み又は履修中
	3年次	・事前指導 ◎機関実習 ・事前研修 ・事前テスト ・レポート作成 ・事後研修 ●本学が指定する神社	0.5日 1日 0.5日 0.5日 0.5日 7日		事前研修) ・衣紋 ・修祓、拝礼 ・祝詞作文 事前テスト) ・大祓詞 ・実習神社由緒説明等 レポート作成) ・実習神社由緒説明等
指定実習Ⅲ			20日以上	3年次	基礎実習修了後
Ⅲ① Ⅲ② Ⅲ③	1年次～4年次 1回目 2回目 3回目	・事前指導 ●本学が承認する神社 （神宮、熱田神宮を含む）	1日	※4年次に3回目の実習を受ける場合は、4年次に履修登録する。	実習日数分以上と3社以上の神社で実習を受けること。
神宮実習			7日	4年次	
	4年次	・事前指導 ●神宮	1日 6日		
中央実習			4日	4年次	基礎、指定Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、神宮実習修了後
	4年次	・事前指導 ●神社本庁	1日 3日		

9. 実習費

状況により変更される場合があります。(令和8年4月現在)

実習名	金額	振込年次	振込時期	納入方法	注意事項
基礎実習	13,000円	1年次	5月下旬	証明書発行機にて指定する期間内に納入すること。	◎納入年次は、履修資格及び指定年次を確認してください。 ◎納入時期は、掲示板等で連絡します。 ◎実習費は一部事務手数料等を含んだ金額です。
指定実習Ⅰ① (神饌調理)	実費	履修年次	未定		
指定実習Ⅰ② (禊研修)	実費	履修年次	未定		
指定実習Ⅱ	26,000円	3年次	6月上旬		
(神宮実習)	(30,000円)	(4年次)	(6月上旬)		
(中央実習)	(34,000円)	(4年次)	(1月中旬)		◎明階総合課程履修者も4年次納入です。

※指定実習Ⅲ①②③の実習費は不要です。

階位申請

4年次に次の書類を整え、期間を厳守して神職養成部に提出してください。

(書類は11月の階位申請説明会で配布します。)

- (1) 階位検定願 3通 (神社本庁所定用紙)
- (2) 階位授与願 3通 (〃)
- (3) 検定合格証写 3通 (〃)
- (4) 履歴書(複写式) 2通 (〃)
- (5) 本学文学部卒業証明書並びに単位成績証明書・神務実習修了証明書
(本学所定用紙)
- (6) 明階検定・正階授与申請料122,840円 (令和8年4月現在)
- (7) 明階検定・明階授与申請料152,840円 (令和8年4月現在)

以上の書類を揃え、三重県神社庁を経て神社本庁に提出し審査を受けるため、書類の書き間違いや遅れは許されません。注意してください。

階位証の交付

学位記授与式当日、各自に「階位証(正階、または明階)」並びに「明階検定合格証」が交付されます。

神職課程(高等課程)科目<文学部(神道・国文・国史)共通>

カリキュラム

(神職課程 R5~8)

「神職養成機関に関する規程」別表1(高等課程における学科科目及び修得すべき単位数)	授業科目	種別	単位	配当年次・セメスター								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				1	2	3	4	5	6	7	8			
神道概論	必修	神道概論 I	講義	2			○							
	必修	神道概論 II	講義	2				○						
神道史に関する講義又は演習	必修	神道史 I	講義	2			○							
	必修	神道史 II	講義	2				○						
神道神学に関する講義又は演習	必修	神道神学 I	講義	2								○		
	必修	神道神学 II	講義	2									○	
神道古典に関する講義又は演習	必修	古典講読 I A (古事記)	演習	2	○									
	必修	古典講読 I B (古事記)	演習	2		○								
	必修	古典講読 II A (日本書紀)	演習	2			○							
	必修	古典講読 II B (日本書紀)	演習	2				○						
	必修	古典講読 III A (延喜式祝詞)	演習	2					○					
	必修	古典講読 III B (延喜式祝詞)	演習	2						○				
神道祭祀に関する講義及び演習	必修	祭祀概論 I	講義	2			○							
	必修	祭祀概論 II	講義	2				○						
		神社祭式入門	演習	2		○								2クラス
	必修	祭式及び同行事作法 I A	演習	1			○							2クラス
	必修	祭式及び同行事作法 I B	演習	1				○						2クラス
	必修	祭式及び同行事作法 II A	演習	2					○					2クラス 2コマ連続
	必修	祭式及び同行事作法 II B	演習	2						○				2クラス 2コマ連続
	必修	祭式及び同行事作法 III A	演習	1							○			2クラス 隔週2コマ連続
	必修	祭式及び同行事作法 III B	演習	1								○		2クラス 隔週2コマ連続
	必修	祝詞作文 I	演習	2					○					
必修	祝詞作文 II	演習	2						○					
神道教化に関する講義又は演習	必修	神道教化概論 I	講義	2					○					
	必修	神道教化概論 II	講義	2						○				
神社実務に関する講義又は演習	必修	神社関係法規 I	講義	2					○					
	必修	神社関係法規 II	講義	2						○				
	必修	書道 I	実技	1			○							2クラス 隔週2コマ連続
	必修	書道 II	実技	1				○						2クラス 隔週2コマ連続
		Shinto English	演習	2						○				
		情報処理 I (基礎)	演習	1	○									
		情報処理 II (応用)	演習	1		○								
		雅楽 I	演習	1								○		
	雅楽 II	演習	1									○		
その他、神道及び宗教に関する講義又は演習	必修	宗教学概論 I	講義	2			○							2クラス
	必修	宗教学概論 II	講義	2				○						2クラス
	必修	有職故実	講義	2					○					集中
		世界宗教史 I	講義	2						○				集中
		世界宗教史 II	講義	2							○			集中
		神社概説	講義	2		○								
		神道文献	講義	2	○									
		神道思想史	講義	2			○							
		近代神道史	講義	2			○							
		現代神道論	講義	2					○					
		神宮史 I	講義	2			○							
		神宮史 II	講義	2				○						
		皇室概説	講義	2		○								
		日本宗教史	講義	2			○							
	仏教概説	講義	2			○							集中	
(その他必修・選択)	必修	神務実習(基礎実習)	実習	1	○									認定科目
	必修	神務実習(指定実習 I)	実習	1		○								認定科目
	必修	神務実習(指定実習 II)	実習	1				○						認定科目
	必修	神務実習(指定実習 III)	実習	1		○								認定科目
		神務実習(中央・神宮)	実習	1							○			認定科目
計	60	必修 60単位 / 選択必修 12単位以上												

白衣等一覧表

R 8. 4. 1 現在

品 目	サ イ ズ	単価 (税込) 円
白 衣	標 準	9,100
	身巾広 (4 L以上)	10,700
	別注寸法 (5 L以上)	15,000
白 袴 (男子)	標 準	16,000
	別注寸法 (5 L以上)	17,000
白 袴 (女子)	標 準	11,000
	別注寸法 (5 L以上)	12,000
白 襦 袢	標 準	3,900
	身巾広 (4 L以上)	4,900
	別注寸法 (5 L以上)	6,000
白 帯 (木綿)		3,700
笏(男女共通:ヒバ)		2,500
扇(女子)白竹(金銀)		7,500
白 足 袋	21.0 ~ 30.0cm	1,300
草 履 (男子)	3 L寸 (29.0cm)	4,500
	L L寸 (27.5cm)	2,000
	L寸 (25.5cm)	1,700
草 履 (女子)	L寸 (25.0cm)	2,700
	M寸 (24.0cm)	1,700
白作務衣 (上下)	M ~ LL	7,000
	大	8,000
禊用禪 (男子)		800
禊用白衣上下 (女子)	標 準	7,000
	大	9,000
白 鉢 卷		400
白 風 呂 敷		1,200
※ 畳 紙		2,000
黒 装 束 鞆		9,500
※ジャージ 白上下一式 : 校名入 (男女兼用)		
S ~ LL	身長 150 ~ 180cm	11,000
3 L、4 L	身長 180cm以上	12,000
※白手提げ鞆 (校章入)		2,000
※白巾着・白ミニタオル (2枚入)		1,200
※白 タ オ ル		300

※印のものは、大学指定です。必ず1つ購入してください。

〈購入単価は、物価の変動により、変更あり〉

- (1)白衣の必要枚数は、基礎実習においては、白衣・袴・襦袢・足袋・草履を1着ずつご用意ください。
- (2)指定実習Ⅱ・Ⅲでは、1週間から10日以上の実習期間中、複数枚の着替えが必要になります。目安として、白衣2~3枚、袴2腰、襦袢2~3枚、足袋5~7足をご用意ください。
- (3)白衣の購入時期は、各実習前に白衣等の注文を取りますので、その時々に必要な枚数をご用意ください。
- (4)白足袋のサイズは、靴のサイズより一回り小さいサイズを目安としてください。

神職課程（高等課程）

神職課程は、神職をめざす学生が、神社本庁で定められた規程により、神職資格を取得できるよう設置している課程です。

履修者は、卒業後、神社に奉職するという明確で堅固な意志のもと、履修してください。

神職資格

神社本庁（伊勢の神宮を本宗と仰ぎ、全国8万社の神社を包括する組織として、昭和21年に創立された。）の定める「階位検定及び授与に関する規程」により、神職資格【階位】は、上位より浄階（じょうかい）、明階（めいかい）、正階（せいはい）、権正階（ごんせいはい）、直階（ちよっかい）があります。

明階以下の階位は、神社本庁の階位検定委員会の「検定（学識認定＝学科目単位）」を合格し、かつ所定の「神務実習」を修了したのち、同委員会審査を経て階位が「授与」されます。

神職資格取得条件

1. 神道学科・国文学科・国史学科の学生であること。
2. 卒業単位を修得していること。
3. 神職課程（高等課程・明階総合課程）に関する所定の単位を修得していること。

課程名	学科目		神務実習（4単位）					
	必修	選択必修	基礎実習	指定実習Ⅰ ①②③	指定実習Ⅱ	指定実習Ⅲ ①②③	神宮実習	中央実習
高等課程	60単位	12単位以上	○	○	○	○	△	△
明階総合課程	28単位	—	○	○	○	○	○	○

○必修実習

△高等課程履修者は、神社本庁の特別措置により、所定の要件を満たした者には、受講が認められる。ただし、事情により受講者数が限定される場合がある。P.128の7.注意事項の(6)を参照。

大学での取得可能な階位（神職資格）

1. 在学中に「神職課程：高等課程」を履修して所定の単位を取得並びに、神務実習を修了した者は、「正階（明階検定合格）」を取得することができます。
2. 4年次（神道学科）に所定の要件を満たし、「明階総合課程」の受講を許可され、所定の単位を取得並びに、神務実習を修了した者は、「明階（明階検定合格）」を取得することができます。

課程名	履修学科	検定合格（無試験）	階位授与	【神社本庁神職資格】
高等課程	神道・国文・国史	明階	正階	【明階検定合格・正階授与】
明階総合課程	神道（4年次）	明階	明階	【明階検定合格・明階授与】

高等課程【明階検定合格・正階授与】

高等課程は、神社本庁「神職養成機関に関する規程」の第二章（第六条）に、「高い教養と広い知識を踏まえ、神道に関する学問及び技芸を教授・研究し、（中略）将来指導神職となるに必要な基礎的資質を養うことを目的とする」とあり、神職を育成するため大学に設置されています。

1. 履修手続き

- (1) 「神職課程履修申込書」を、期日までに神職養成部へ提出すること。
- (2) 履修後に神職課程を辞退する場合は、指導教員に相談・報告の上、「神職課程履修辞退願」を神職養成部へ提出すること。

2. 明階授与申請

大学卒業後・修了後、神宮・神社・神社本庁・神社庁の職員（神職・巫女・事務員を問わない）として2年以上在職し、神社本庁研修規程に基づき、必要な研修を受講した後、各都道府県神社庁を通して「明階」を申請することができます。

明階総合課程【明階検定合格・明階授与】

明階総合課程は、神社本庁「神職養成機関に関する規程」の第六章（第三十四条）に、「神職として必要な専門的知識及び技能を広く教授し、応用的能力を養うとともに、信仰心を強固にし神明奉仕の精神を陶冶せしめることを目的とする」とあり、将来指導神職たるべき素地を養うため開講されるものです。

1. 履修資格

大学神道学科（高等課程）の4年次に在籍し、下記の要件を満たす者。

- (1) 卒業後、神社に奉職する意志堅固な者（4年次の4月に行う面接又はレポート提出により確認）。
- (2) 4年次で卒業見込みの者。
- (3) 3年次末までに4年次配当科目の履修のみとなっている者。
- (4) 3年次末に高等課程の必修単位をすべて修得している者。
- (5) 高等課程の神務実習をすべて修了し、その実習が優良な者（ただし、やむを得ない事情で修了できなかった者についても、選考対象とする）。
- (6) 3年次末に高等課程の必修単位科目を履修済の者で、その成績が優良な者。
- (7) 「祭式及び同行事作法ⅠA・ⅠB」・「祭式及び同行事作法ⅡA・ⅡB」とともに、その成績が良以上の者。

2. 履修手続き

- (1) 手続き時期は、4年次の4月初旬（詳細は提示）。
- (2) 「受講願書」、「神職を志望する理由：レポート」を提出すること。

神務実習

本学において神職課程を履修し、神社本庁神職資格を取得しようとする者は、神社本庁「階位検定及び授与に関する規程」に基づき、神職課程の一科目として本学の定める「神務実習」を履修しなければなりません。

実習は、基礎実習及び指定実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の4種類をすべて修了しなければなりません。また、直階・権正階・正階の階位を有していても、本学所定の神務実習をすべて履修しなければなりません。

1. 目的

神職としての奉仕を実地に体験し、将来指導神職となるに必要な基礎的資質を養うことを目的としています。

2. 神務実習心得

神務実習は神明に対する真実の奉仕です。潔斎の徹底・清浄な心身の維持に心を致し、誠実、敬虔、謹慎の態度を以て一貫しなければなりません。

実習期間中は参籠の心構えで服装・頭髮等の身嗜みにいたるまで気を配り、言葉を明瞭に、動作を機敏に、何事にも積極的に取り組むよう心がけなければなりません。

3. 履修資格

- (1) 神職課程を履修中の者。（「神職課程履修申込書」を提出している者）
- (2) 卒業後、神社に奉職する意志堅固な者。
- (3) 集団生活が可能で実習に耐え得る心身ともに健康な者。
- (4) 「実習申込書」を期日までに提出している者。
- (5) 「事前指導」、「事前研修」を受けた者。
- (6) 実習費が期限内に納入されている者。

4. 履修手続き

- (1) 実習申込説明会で配布された「実習申込書」その他必要書類を期日までに提出をすること。
- (2) 「実習費」を期日までに納入すること。

5. 履修内容

- (1) 機関実習◎（事前指導、事前研修、事前テスト、指定レポート提出を含む）を受講すること。

- (2) 実務実習（大学指定の神社ほか）を指定日数分受講すること。
- (3) 機関実習（事後研修、指定レポート提出）を受講すること。
- (4) 「実習日誌」を提出すること。

◎機関実習とは、大学内で行われる神務実習です。

6. 履修登録・成績評価

- (1) 4年次に神務実習を一括で履修登録すること。
- (2) 実習日誌、事前指導・事前事後研修の出席、提出レポート、実習態度（実習評価票）をあわせて総合評価する。履修登録がされていない場合は、実習を行っても単位修得できないので、必ず登録すること。

7. 注意事項

- (1) 最初に基礎実習を終えていなければ、他の実習を受講することは認められない。
- (2) 2年次から基礎実習を履修しようとするものは、4年次までの3年間では定められた実習を全て履修できない可能性があり、最終的に卒業時に神職の資格が取得できなくなる可能性がある。
- (3) 指定実習Ⅲの実習3回(①～③)を受ける場合は、前学期までのGPAが1.5以上でなければならない。
- (4) 指定実習Ⅱの履修は、前年度までのGPAが2.0以上で、祭式及び同行事作法ⅡA・ⅡBを修得済又は履修中でなければならない。但し、神社界への奉職意志が堅固で、3年次未履修者のうち、当該年度のGPAが原則1.5以上あり、卒業時に神職資格取得見込の者については、テストを実施したうえで、委員会での審議を経て履修を認める場合がある。
- (5) 指定実習Ⅲ①（原則1年次）・Ⅲ②（原則2年次）・Ⅲ③（原則3年次）の実習履修にあたり、年末年始の正月奉仕期間中に事情により履修できないものは、神職養成部に証明書の提出または申告をしなければならない。当該年度の実習履修をしなかったものは、必ず4年間の間に指定実習Ⅲ①・②・③を履修すること。
- (6) 神宮実習・中央実習については、神社本庁の特例措置として、人物及び既往の神務実習の成績、学科目の成績並びに単位の修得等を勘案して、特別に受講が認められる。ただし、事情により受講者数が限定される場合がある。受講推薦の条件は下記の通り。
 - ア. 神職を志す者であること（面談<進路指導等>により意志を確認）。
 - イ. 実習（基礎・指定等）において、神職としての資質を疑わしめるような問題行動等の指摘がなされていないこと。
 - ウ. 修学姿勢、及び生活態度が良好と認められ、神職たるに相応しい人物であること。
 - エ. 「祭式及び同行事作法」の成績が（「祭式及び同行事作法ⅠA・ⅠB」「祭式及び同行事作法ⅡA・ⅡB」共に）「良」以上（70点以上）であること。
 - オ. 高等課程履修者のうち、成績上位の者（当面の間「8割」以内）であること。
- (7) 各実習とも、各神社で定められた実習・奉仕日数が不足した場合は、神職養成部に報告の上、必ず大学が承認する神社で再度不足分の実習・奉仕を行われなければならない。
- (8) 各神務実習の事前指導及び事前研修には、実習に臨む心構え等基本的な重要事項が含まれている。また、事後研修は、実習の反省・総括指導を行う。そのため、特にその出欠を重視し、正当な理由なく無断で欠席（遅刻・早退も含む）した者は、当該実習の受講を放棄したものとみなし、当該実習を再度受講しなければならない。
- (9) 神職養成委員会において、実習の履修が不適切と判断した場合は、神務実習を認めないことがある。
- (10) 神職養成委員会において、実習中に不適切と判断した場合は、履修の不許可や実習中止とする。
- (11) 実習に関する事柄についてSNSやインターネットなどに投稿・掲載・発信することを一切禁止する。実習に関する物品（印刷物、刊行物含む）や成果物、情報などを掲載することで、トラブルが起こりうるため、絶対に行わないこと。その事実を確認した場合、当該実習の参加停止、または修了不認定とする。

学生本人以外（家族等）が行っても同様となるため、実習に関する成果物や情報など適正な管理に努めること。

- (12) 神務実習中の携帯電話・スマートフォン等の通信機器の使用は、禁止とする。
- (13) 実習及び事前指導・事前研修・事後研修の出席は、背広上下（紺色又は、黒色の無地指定）、白ワイシャツ（無地指定、柄なしのもの、ボタンダウン等特殊な形状のものは禁止）、黒長靴下、黒革靴（運動靴やスニーカー等は厳禁）で学章を必ずつけること。女子は男子に準ずる服装とする。
- (14) 白衣等については、P.125を参照のこと。

8. 明階総合課程

4年次に明階総合課程の履修を許可された者は、必ず神宮実習及び中央実習を受講しなければなりません。

9. 実習の種類及び日数

神務実習	時 期	場 所	日 数	備 考
基礎実習			3日	
	1年次	機関実習 (祭式教室) 神宮会館	1日 2日	事前指導、白衣白袴著装・基本作法指導 本学は神社本庁より神職養成機関と認められていることから「機関実習」という。
指定実習 I			10日以上	
I①	1年次～4年次	機関実習 機関実習 以下の共通科目より 1科目選択 「伝統建築・工芸」 「雅楽入門」、「和歌」 「マナー入門」	5日分（1年次～4年次のうちに取得）	1科目（2単位分）を実習の5日分に認定する。
		本学は神社本庁より神職養成機関と認められていることから「機関実習」という。		
I②		神社実務実習	4日分、本学が指定した神社	
I③	6月・10月・12月 (男子) 5月・11月 (男子・女子)	神宮三節祭または倭姫宮例祭奉仕	1日分、原則それぞれ1回を限度とする。	
指定実習 II			10日	
	3年次	祭式教室等	3日	衣紋・祝詞作文・実習神社事前レポート作成・実習神社由緒説明等・事前テスト
		【事前指導0.5日、事後指導0.5日 事前研修1.0日、レポート作成指導0.5日、 事前テスト0.5日】 本学が指定する神社	7日	
指定実習 III			20日以上	
III① III② III③	1年次 2年次 3年次	本学が承認する神社 10日、神宮・熱田神宮の年末年始10日間（本学独自実習として必須）		※ III①・III②は、1年次及び2年次に本学が承認する神社で2社以上実習すること。
(神宮実習)			7日	
	4年次	神宮	7日	
(中央実習)			3日	
	4年次 年度末	神社本庁	3日	

10. 実習費

状況により変更される場合があります。(令和8年4月現在)

実習名	金額	振込年次	振込時期	納入方法	注意事項
基礎実習	13,000円	1年次	5月下旬	証明書発行機にて指定する期間内に納入すること。	◎納入年次は、履修資格及び指定年次を確認してください。 ◎納入時期は、掲示板等で連絡します。 ◎実習費は一部事務手数料等を含んだ金額です。
指定実習Ⅱ	26,000円	3年次	6月上旬		
(神宮実習)	(30,000円)	(4年次)	(6月上旬)		◎明階総合課程履修者も4年次納入です。
(中央実習)	(34,000円)	(4年次)	(1月中旬)		

※指定実習Ⅰ①②③・Ⅲ①②③の実習費は不要です。

階位申請

4年次に次の書類を整え、期間を厳守して神職養成部に提出してください。

(書類は11月の階位申請説明会で配布します。)

- (1) 階位検定願 3通 (神社本庁所定用紙)
- (2) 階位授与願 3通 (〃)
- (3) 検定合格証写 3通 (〃)
- (4) 履歴書(複写式) 2通 (〃)
- (5) 本学文学部卒業証明書並びに単位成績証明書・神務実習修了証明書
(本学所定用紙)
- (6) 明階検定・正階授与申請料122,840円(令和8年4月現在)
- (7) 明階検定・明階授与申請料152,840円(令和8年4月現在)

以上の書類を揃え、三重県神社庁を経て神社本庁に提出し審査を受けるため、書類の書き間違いや遅れは許されません。注意してください。

階位証の交付

学位記授与式当日、各自に「階位証(正階、または明階)」並びに「明階検定合格証」が交付されます。

神職課程(高等課程)科目<文学部(神道・国文・国史)共通>

「神職養成機関に関する規程」別表1(高等課程における学科科目及び修得すべき単位数)	授業科目	種別	単位	配当年次・セメスター								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				1	2	3	4	5	6	7	8			
神道概論	必修	神道概論Ⅰ	講義	2			○							
	必修	神道概論Ⅱ	講義	2				○						
神道史に関する講義又は演習	必修	神道史Ⅰ	講義	2			○							
	必修	神道史Ⅱ	講義	2				○						
神道神学に関する講義又は演習	必修	神道神学Ⅰ	講義	2								○		
	必修	神道神学Ⅱ	講義	2									○	
神道古典に関する講義又は演習	必修	古典講読ⅠA(古事記)	演習	2	○									
	必修	古典講読ⅠB(古事記)	演習	2		○								
	必修	古典講読ⅡA(日本書紀)	演習	2			○							
	必修	古典講読ⅡB(日本書紀)	演習	2				○						
	必修	古典講読ⅢA(延喜式祝詞)	演習	2			○							
	必修	古典講読ⅢB(延喜式祝詞)	演習	2				○						
神道祭祀に関する講義及び演習	必修	祭祀概論Ⅰ	講義	2			○							
	必修	祭祀概論Ⅱ	講義	2				○						
		神社祭式入門	演習	2		○								2クラス
	必修	祭式及び同行事作法ⅠA	演習	1			○							2クラス
	必修	祭式及び同行事作法ⅠB	演習	1				○						2クラス
	必修	祭式及び同行事作法ⅡA	演習	2					○					2クラス 2コマ連続
	必修	祭式及び同行事作法ⅡB	演習	2						○				2クラス 2コマ連続
	必修	祭式及び同行事作法ⅢA	演習	1							○			2クラス 隔週2コマ連続
	必修	祭式及び同行事作法ⅢB	演習	1								○		2クラス 隔週2コマ連続
	必修	祝詞作文Ⅰ	演習	2					○					
必修	祝詞作文Ⅱ	演習	2						○					
神道教化に関する講義又は演習	必修	神道教化概論Ⅰ	講義	2					○					
	必修	神道教化概論Ⅱ	講義	2						○				
神社実務に関する講義又は演習	必修	神社関係法規Ⅰ	講義	2					○					
	必修	神社関係法規Ⅱ	講義	2						○				
	必修	書道Ⅰ	実技	1			○							2クラス 隔週2コマ連続
	必修	書道Ⅱ	実技	1				○						2クラス 隔週2コマ連続
		Shinto English	演習	2						○				
		情報処理Ⅰ(基礎)	演習	1	○									7クラス
		情報処理Ⅱ(応用)	演習	1		○								7クラス
		雅楽Ⅰ	演習	1							○			隔週2コマ連続
	雅楽Ⅱ	演習	1								○		隔週2コマ連続	
その他、神道及び宗教に関する講義又は演習	必修	宗教学概論Ⅰ	講義	2			○							2クラス
	必修	宗教学概論Ⅱ	講義	2				○						2クラス
	必修	有職故実	講義	2					○					
		世界宗教史Ⅰ	講義	2						○				集中
		世界宗教史Ⅱ	講義	2							○			集中
		神社概説	講義	2		○								
		神道文献	講義	2	○									
		神道思想史	講義	2				○						
		近代神道史	講義	2				○						
		現代神道論	講義	2						○				
		神宮史Ⅰ	講義	2				○						
		神宮史Ⅱ	講義	2					○					
		皇室概説	講義	2		○								
		日本宗教史	講義	2							○			
	仏教概説	講義	2				○							
(その他必修)	必修	神務実習	実習	4		○	○	○	○	○	○	○	○	履修登録は4年次に行う
計	60	必修 60単位 / 選択必修 12単位以上												

カリキュラム

(神職課程 H31～R4)

教 職 課 程

教職課程は、教育職員免許法に定められている規定により、教育職員免許状が取得できるよう設置している課程です。今日の教育現場の多様化に伴い多くの問題が発生している現状を考え、学校教育及び教職のあり方等について深く学び、教員としての専門知識等を修得することを目的としています。

履修者は、自分の進路をよく考え、単なる資格取得のみに終らず、教職に対して更なる自覚をもって履修してください。

令和7・8年度 の入学生

学部	学 科	主 免 許		副 免 許
文	神 道	中 学 校 一 種 宗 教		(中学校一種社会)
		高 等 学 校 一 種 宗 教		(高等学校一種地理歴史、高等学校一種公民)
	国 文	中 学 校 一 種 国 語		(中学校一種社会、中学校一種英語、小学校一種又は小学校二種)
		高 等 学 校 一 種 国 語	高 等 学 校 一 種 書 道	(高等学校一種地理歴史、高等学校一種公民、高等学校一種英語)
	国 史	中 学 校 一 種 社 会		(中学校一種国語、小学校一種又は小学校二種)
		高 等 学 校 一 種 地 理 歴 史	高 等 学 校 一 種 公 民	(高等学校一種国語)
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	英語コミュニケーションコース 英語教育コース	中 学 校 一 種 英 語	(中学校一種国語、中学校一種社会、小学校一種又は小学校二種)
			高 等 学 校 一 種 英 語	(高等学校一種国語、高等学校一種地理歴史、高等学校一種公民)
		心 理 学 コ ー ス 情 報 コ ー ス	中 学 校 一 種 国 語	中 学 校 一 種 英 語 (小 学 校 一 種 又 は 小 学 校 二 種)
			中 学 校 一 種 社 会	
高 等 学 校 一 種 国 語	高 等 学 校 一 種 地 理 歴 史	高 等 学 校 一 種 公 民	高 等 学 校 一 種 英 語	
			高 等 学 校 一 種 英 語	
現 代 日 本 社 会	現 代 日 本 社 会	(高等学校一種公民) 他学科履修にて取得することになります。		

上記免許のうち、副免許教科は、主免許教科を取得することを条件に取得できますが、当該教科関連科目が配当年次では履修できない場合があります。さらに、()内の教科については、カリキュラムの都合上、4年間では取得が困難な場合があります。

コミュニケーション学科の英語以外の主免許教科は自学科の学修が優先されるため、時間割当の都合上4年間での取得を保証するものではありません。

学部	学 科	コ ー ス	主 免 許	副 免 許	
教 育	教 育	初 等 教 育 コ ー ス	小 学 校 一 種	以下の①~③のうち一つを選択 ①中学校・高等学校一種 (国語) ②中学校・高等学校一種 (社会・地理歴史) ③中学校・高等学校一種 (英語)	中学校・高等学校のセット
		幼 児 教 育 コ ー ス (※1)	幼 稚 園 一 種	小 学 校 一 種	
		保 健 体 育 コ ー ス	中 学 校 ・ 高 等 学 校 一 種 (保 健 体 育)	小 学 校 一 種	
		数 理 教 育 コ ー ス	中 学 校 ・ 高 等 学 校 一 種 (数 学)	小 学 校 一 種	
中 学 校 ・ 高 等 学 校 一 種 (理 科)					

主免許を取得することを条件に副免許を取得することが可能です。
(※1) 幼児教育コースの「保育士」の詳細については「保育士資格」のページをご覧ください。

令和5・6年度
の入学生

学部	学 科	主 免 許		副 免 許		
文	神 道	中 学 校 一 種 宗 教		(中学校一種社会)		
		高 等 学 校 一 種 宗 教		(高等学校一種地理歴史、高等学校一種公民)		
	国 文	中 学 校 一 種 国 語		(中学校一種社会、中学校一種英語、小学校一種又は小学校二種)		
		高 等 学 校 一 種 国 語 高 等 学 校 一 種 書 道		(高等学校一種地理歴史、高等学校一種公民、高等学校一種英語)		
	国 史	中 学 校 一 種 社 会		(中学校一種国語、小学校一種又は小学校二種)		
		高 等 学 校 一 種 地 理 歴 史 高 等 学 校 一 種 公 民		(高等学校一種国語)		
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	英語コミュニケーション コース 英語教育コース	中 学 校 一 種 英 語		(中学校一種国語、中学校一種社会、小学校一種又は小学校二種)	
			高 等 学 校 一 種 英 語		(高等学校一種国語、高等学校一種地理歴史、高等学校一種公民)	
		心 理 学 コ ー ス 情 報 コ ー ス	中 学 校 一 種 国 語 中 学 校 一 種 社 会		中 学 校 一 種 英 語 (小 学 校 一 種 又 は 小 学 校 二 種)	
			高 等 学 校 一 種 国 語 高 等 学 校 一 種 地 理 歴 史 高 等 学 校 一 種 公 民		高 等 学 校 一 種 英 語	
現 代 日 本 社 会	現 代 日 本 社 会	(高等学校一種公民) 他学科履修にて取得することになります。				

上記免許のうち、副免許教科は、主免許教科を取得することを条件に取得できますが、当該教科関連科目が配当年次では履修できない場合があります。さらに、()内の教科については、カリキュラムの都合上、4年間では取得が困難な場合があります。

コミュニケーション学科の英語以外の主免許教科は自学科の学修が優先されるため、時間割当の都合上4年間での取得を保証するものではありません。

学部	学 科	コ ー ス	主 免 許	副 免 許	
教 育	教 育	初 等 教 育 コ ー ス	小学校一種	以下の①～③のうち一つを選択 ①中学校・高等学校一種 (国語) ② 〃 (社会・地理歴史) ③ 〃 (英語)	中学校・高等学校 のセット
		幼 児 教 育 コ ー ス (※1)	幼稚園一種	小学校一種	
		保 健 体 育 コ ー ス	中学校・高等学校 一種 (保健体育)	小学校一種	
		数 理 教 育 コ ー ス	中学校・高等学校 一種 (数学)	小学校一種	

主免許を取得することを条件に副免許を取得することが可能です。

(※1) 幼児教育コースの「保育士」の詳細については「保育士資格」のページをご覧ください。

平成31~
令和4年度
の入学生

カリキュラム

(教職課程 H31~R4)

学部	学 科	主 免 許		副 免 許	
文	神 道	中 学 校 一 種 宗 教		(中学校一種社会)	
		高 等 学 校 一 種 宗 教		(高等学校一種地理歴史、高等学校一種公民)	
	国 文	中 学 校 一 種 国 語		(中学校一種社会、中学校一種英語、小学校一種又は小学校二種)	
		高 等 学 校 一 種 国 語 高 等 学 校 一 種 書 道		(高等学校一種地理歴史、高等学校一種公民、高等学校一種英語)	
	国 史	中 学 校 一 種 社 会		(中学校一種国語、小学校一種又は小学校二種)	
		高 等 学 校 一 種 地 理 歴 史 高 等 学 校 一 種 公 民		(高等学校一種国語)	
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	英語コミュニケーションコース	中 学 校 一 種 英 語		(中学校一種国語、中学校一種社会、小学校一種又は小学校二種)
			高 等 学 校 一 種 英 語		(高等学校一種国語、高等学校一種地理歴史、高等学校一種公民)
		心理コース 地域情報コース	中 学 校 一 種 国 語 中 学 校 一 種 社 会		中学校一種英語 (小学校一種又は小学校二種)
			高 等 学 校 一 種 国 語 高 等 学 校 一 種 地 理 歴 史 高 等 学 校 一 種 公 民		高等学校一種英語
現代日本社会	現代日本社会	(高等学校一種公民) 他学科履修にて取得することになります。			

上記免許のうち、副免許教科は、主免許教科を取得することを条件に取得できますが、当該教科関連科目が配当年次では履修できない場合があります。さらに、()内の教科については、カリキュラムの都合上、4年間では取得が困難な場合があります。

コミュニケーション学科の英語以外の主免許教科は自学科の学修が優先されるため、時間割等の都合上4年間での取得を保証するものではありません。

学部	学 科	コ ー ス	主 免 許	副 免 許	
教 育	教 育	学 校 教 育 コ ー ス	小学校一種	以下の①~③のうち一つを選択 ①中学校・高等学校一種 (国語) ② " (社会・地理歴史) ③ " (英語)	中学校・高等学校のセット
		幼 児 教 育 コ ー ス (※1)	幼稚園一種	小学校一種	
	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 コ ー ス	中学校・高等学校一種 (保健体育)	小学校一種		
	特 別 支 援 教 育 コ ー ス	小学校一種 中学校・高等学校一種 (保健体育)	特別支援学校一種		

主免許を取得することを条件に副免許を取得することが可能です。
(※1) 幼児教育コースの「保育士」の詳細については「保育士資格」のページをご覧ください。

単 位

教員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位を修得するほか、「教育の基礎的理解に関する科目」「大学が独自に設定する科目」、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の必要な単位及び、小学校・中学校・高等学校については「教科及び教科の指導法に関する科目」、幼稚園については「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の必要な単位を修得しなければなりません。

介護等体験実習

介護等体験実習の義務

義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者は、障がい者、高齢者に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わなければなりません。文学部生、教育学部生で小学校一種・二種または中学校一種免許状を取得する学生は「介護等体験実習」（1単位）を履修登録してください。

時期及び期間…2年次以降の8月～12月に指定された7日間

実施施設…特別支援学校（2日）、社会福祉施設（5日）

実習費…15,000円

介護等体験実習の免除

下記の1又は2に該当する者は介護等体験実習が免除されます。

該当する場合は、教職支援担当まで申し出てください。

1. 身体障害者のうち、身体障害者手帳の交付を受け、その障害の程度が1級から6級である者
2. 次の免許・資格を受けている者
社会福祉士、介護福祉士、保健師、助産師、看護師、准看護師
理学療法士、作業療法士、義肢装具士、盲学校・聾学校または養護学校の教員免許の取得者

成績評価

成績評価は実施年度の年度末に、実習日誌、課題レポート、事前・事後指導の出席をあわせて総合評価します。

ただし、履修登録がされていない場合は、実習を行っても成績の評価は出ませんので必ず登録してください。

履修資格

実習に行くためには、下記の1に該当し、且つ2～7（令和7年度以降入学生については2～8）の条件を満たしている者としてします。

1. 小学校一種・二種、中学校一種の教員免許の取得を希望する者
2. 実習へ行く前年度の所定の期日までに、予約申込書を提出している者
3. 実習へ行く前年度の所定の期日までに、「麻しん抗体検査報告書」の提出が完了している者（P.230参照）
4. 予備指導・事前指導を受けた者（正当な理由（試験規定第10条）による欠席者は除く）
5. 介護等体験実習の履修登録がされている者
6. 実習費が期限内に納入されている者
7. 本学宛の「実習に関する誓約書」の内容を理解し、期限内に提出の上、遵守できる者

令和7年度以降入学生に適用

8. 上記1～7に加え、実習へ行く前年度末のGPAが2.0以上であること。

予備指導
事前指導
事後指導

予備指導・事前指導を受けない者は介護等体験実習を行うことができません。
予備指導は、介護等体験実習を履修するための準備のための指導です。介護等体験実習の概要、履修の方法、実習に必要な申込書の配布並びに記入方法・提出期限、その他必要な手続きなどについて説明を行います。

事前指導は、予備指導を踏まえて、実習に臨む心構えや、介護等体験実習の基本的な重要事項についての指導がなされます。

介護等体験実習が終わると、事後指導を行い、実習の反省・指導がなされます。

これらの指導の履修については単位に含まれますので、欠席した場合は介護等体験実習の評価を出すことができません。本学においては、特にその出欠を重視し、正当な理由（試験規定第10条）がなく無断で欠席及び5分以上の遅刻をした者については、介護等体験実習の履修を放棄したものとみなします。

実習年次・
期間・時期

学部・学科 内容	文学部・教育学部
予約申込み	1年次 4月 説明・申込書配布 5月末 申込期限
麻しん抗体検査	1年次 4月 説明・書類配布 6月末 報告書提出期限 ※1
予備指導	1年次（新2年次） 3月下旬 説明・書類配布
本申込み	2年次 4月初旬 申込書提出
事前指導	2年次 5月初旬～7月 ※2
実習 学校（2日間）	2年次 8月～12月に2日間 ※3
実習 施設（5日間）	2年次 8月～12月に5日間 ※3
事後指導	2年次 1月中旬 ※2

※1：抗体検査（EIA法-IgG）の結果、抗体の値が「4.0」未満の場合、ワクチン接種歴を確認の上、ワクチン接種を行い、再度抗体検査を受ける必要があります（P.230参照）。その場合の報告書の提出は、実習前年度の3月末を限度とし、それまでに提出が完了していなければ実習に行くことができません。

※2：事前指導・事後指導の日程等は、授業時間割を参照。

※3：具体的な実習の日程等は、事前指導で告知します。

【重要】 実習に関する事柄についてSNSやインターネットなどに投稿・掲載・発信することを一切禁止します。実習に関する物品や成果物、情報などを掲載することで、トラブルが起こりうるため、絶対に行わないこと。

その事実を確認した場合、実習の単位を不認定とします。

学生本人以外（家族等）が行っても同様となるため、実習に関する成果物や情報など適正な管理に努めること。

教育実習

目的

教育実習は、教科及び教職に関する科目の1科目として履修するものであって、本学の責任において学外の実習校（園）と緊密な連絡のもとに実施するものであり、下記事項を目的として行うものです。

- ◎各実習校（園）における教育を実際に体験し、将来教員として必要な資質を総合的・有機的に養う。
- ◎学習指導・生活指導・学級経営・学校（園）運営等の原理と方法を理解し、それぞれに必要な技能と態度を体得する。
- ◎学校・家庭及び地域社会との関連を理解し、それぞれに応ずる能力・態度を養う。

成績評価

成績評価は、実施年度の年度末に、実習校（園）の評価と、実習日誌、学習指導案等実習中の資料、事前・事後指導の出席をあわせて総合評価します。

ただし、「教育実習」と「事前事後指導」の2科目をセットで履修登録がされていない場合は、実習を行っても成績の評価は出ませんので必ず登録してください。

また、いずれかの科目が不合格となった場合、両科目とも原則不合格とします。（セットで履修のため）

履修資格

令和5～
8年度の
入学生

下記ア～ウの実習に行くためには、実習へ行く前年度の春学期に各自で実習校へ依頼を行い、実習校の承諾を得る必要があります。（令和7年度以降入学生については、実習校へ依頼を行う前年度末のGPAが2.0以上でないと、実習校へ依頼することができません）また、実習へ行く前年度末のGPAが2.0以上で、1～9の条件を満たしている者としてします。

1. 将来確実に教育職員になる意志がある者
2. 心身ともに健康かつ実習施設の活動を妨げる恐れのない者
3. 予備指導、事前指導を履修した者（正当な理由（試験規程第10条）による欠席は除く）
4. 教育実習、事前事後指導の履修登録がされている者
5. 実習費が期限内に納入されている者
6. 実習へ行く前年度までに次の単位が修得済みであり、それらの科目の履修状況をもとに教職課程・保育士資格部会で認めた者

ただし、中・高（英語）で教育実習を行なう場合は、日本英語検定協会が実施する英検において、2級以上、もしくはTOEIC500点以上取得済みの者であることを原則とする。

[英検などの取得期限]

- ・3年次春学期実習希望者…2年次終了時（年度末）
- ・3年次秋学期実習希望者…3年次7月末日
- （4年次実習希望者…3年次終了時（年度末）

ア、高等学校・中学校で教育実習をする場合

教職論、教育学概論、教育・学校心理学、該当する教科教育法（4単位以上）

イ、小学校で教育実習をする場合

・教職論、教育学概論、教育・学校心理学、教育方法論（ICTの活用を含む）、教科教育法（6単位以上）

履修資格

平成31～
令和4年度
の入学生

ウ、幼稚園で教育実習をする場合

- ・教職論、教育学概論、教育・学校心理学、教育方法論（ICTの活用を含む）、保育内容の指導法（6単位以上）

7. 実習へ行く前年度の所定の期日までに、「麻しん抗体検査報告書」の提出が完了している者（P.230参照）
8. 2月に実施する「筆順指導」を受講済みである者（幼稚園で教育実習を行う場合を除く。1度限りで可）
9. 本学宛の「実習に関する誓約書」の内容を理解し、期限内に提出の上、遵守できる者

〔副免許の教育実習〕

同じ年度で主免許と副免許の教育実習を履修するにあたり、主免許の教育実習が不可・放棄の場合、同年度の副免許の教育実習の履修を認めない場合があります。（放棄扱いとする）

下記ア～エの実習に行くためには、実習へ行く前年度末のGPAが2.0以上で、1～9の条件を満たしている者とします。

1. 将来確実に教育職員になる意志がある者
2. 心身ともに健康かつ実習施設の活動を妨げる恐れのない者
3. 予備指導、事前指導を履修した者（正当な理由（試験規程第10条）による欠席は除く）
4. 教育実習、事前事後指導の履修登録がされている者
5. 実習費が期限内に納入されている者
6. 実習へ行く前年度までに次の単位が修得済みであり、それらの科目の履修状況をもとに教職課程・保育士資格部会で認めた者

ただし、中・高（英語）で教育実習を行なう場合は、日本英語検定協会が実施する英検において、2級以上、もしくはTOEIC500点以上取得済みの者であることを原則とする。

〔英検などの取得期限〕

- ・3年次春学期実習希望者…2年次終了時（年度末）
- ・3年次秋学期実習希望者…3年次7月末日
- ・4年次実習希望者…3年次終了時（年度末）

ア、高等学校・中学校で教育実習をする場合

教職論、教育学概論、教育・学校心理学、該当する教科教育法（4単位以上）

イ、特別支援学校で教育実習をする場合

特別支援教育総論

ウ、小学校で教育実習をする場合

・教職論、教育学概論、教育・学校心理学、〔R3以前入学生〕教育方法学、〔R4入学生〕教育方法論（ICTの活用を含む）、教科教育法（6単位以上）

エ、幼稚園で教育実習をする場合

・教職論、教育学概論、教育・学校心理学、教育方法学、保育内容の指導法（6単位以上）

7. 実習へ行く前年度の所定の期日までに、「麻しん抗体検査報告書」の提出が完了している者 (P.230参照)
8. 2月に実施する「筆順指導」を受講済みである者 (幼稚園で教育実習を行う場合を除く。1度限りで可)
9. 本学宛の「実習に関する誓約書」の内容を理解し、期限内に提出の上、遵守できる者

〔副免許の教育実習〕

同じ年度で主免許と副免許の教育実習を履修するにあたり、主免許の教育実習が不可・放棄の場合、同年度の副免許の教育実習の履修を認めない。(放棄扱いとする)

実習教科

	国語	地理歴史	公民	宗教	英語	保健体育	数学	理科
高等学校	現代の国語 言語文化 倫理国語 文学国語 国語表現 古典探求(書道)	地理総合 地理探求 歴史総合 日本史探求 世界史探求	公 共 倫 理 政治・経済	宗 教	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅰ 論理・表現Ⅱ 論理・表現Ⅲ	保 健 体 育	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B 数学活用	物理基礎 物理 化学基礎 化学 生物基礎 生物 地学基礎 科学と人間生活
中学校	国語	社会		宗教	英語	保健体育	数学	理科
小学校	全科							
幼稚園	保育内容							

実施年次・
期間・時期

令和5~
8年度の
入学生

	文学部	教育学部 教育学科			
	神・文・史 コ ミ 学 科	初等教育 コース	幼児教育 コース	保健体育 コース	数理教育 コース
高等学校	3年次11月 (10日間)	/	/	3又は4年次11月 (15日間)	3年次11月 (10日間)
中学校	3年次11月 (15日間)※	4年次11月 (10日間)※	/	3又は4年次11月 (15日間)※	3年次11月 (15日間)
小学校	4年次9月 (10日間)※	3年次9月 (20日間)※	4年次9月 (10日間)	3又は4年次9月 (10日間)※	4年次9月 (10日間)
幼稚園	/	/	3年次9月 (20日間)	/	/

※必ず隣接した教育実習(小学校⇔中学校)の単位を修得すること。

注意) 実習時期については、実習校の都合により変更する場合があります。

中学校・高等学校の両免許を取得する場合は、中学校で実習を行います。

	現代日本社会学部 現代日本社会学科
高等学校	3年次11月 (10日間)

予備指導
事前指導
事後指導

予備指導・事前指導を履修しない者は、教育実習を行うことができません。これらの指導は、履修の方法、実習依頼の手續及び実習に臨む心構え、また人権問題等教育実習の基本的な重要事項についての指導がなされます。また教育実習を終えると事後指導を行い、実習の反省・指導がなされます。その履修について

実施年次・
期間・時期平成31～
令和4年度
の入学生

は、単位に含まれますので、欠席した場合は教育実習の評価を出すことができません。本学においては、特にその出欠を重視し、正当な理由（試験規程第10条 P.231）がなく無断で欠席及び5分以上の遅刻をした者については、教育実習の履修を放棄したものとみなします。

	文学部	教育学部 教育学科		
	神・文・史 コミ学科	学校教育コース	幼児教育コース	スポーツ健康 科学コース
高等学校	3年次11月 (10日間)			3又は4年次11月 (15日間)
中学校	3年次11月 (15日間)※	4年次11月 (10日間)※		3又は4年次11月 (15日間)※
小学校	4年次9月 (10日間)※	3年次9月 (20日間)※	4年次9月 (10日間)	3又は4年次9月 (10日間)※
幼稚園			3年次9月 (20日間)	

※必ず隣接した教育実習（小学校⇔中学校）の単位を修得すること。

注意）実習時期については、実習校の都合により変更する場合があります。
中学校・高等学校の両免許を取得する場合は、中学校で実習を行います。

	教育学部	現代日本社会学部
	特別支援教育コース	現代日本社会学科
高等学校	3年次11月 (15日間)	3年次11月 (10日間)
中学校	3年次11月 (15日間)	
小学校	3年次9月 (20日間)	
幼稚園		
特別支援 学校	4年次9月 (10日間)	

予備指導
事前指導
事後指導

予備指導・事前指導を履修しない者は、教育実習を行うことができません。これらの指導は、履修の方法、実習依頼の手続及び実習に臨む心構え、また人権問題等教育実習の基本的な重要事項についての指導がなされます。また教育実習を終えると事後指導を行い、実習の反省・指導がなされます。その履修については、単位に含まれますので、欠席した場合は教育実習の評価を出すことができません。本学においては、特にその出欠を重視し、正当な理由（試験規程第10条 P.231）がなく無断で欠席及び5分以上の遅刻をした者については、教育実習の履修を放棄したものとみなします。

高等学校
 中学校
 小学校
 履修手続

(※1)	(※2)	時期	内 容	備 考
一 年 次	二 年 次	3月	予備指導(成績通知書配付時)	関係書類受取
二 年 次	三 年 次	4月	教職支援担当に関係書類提出	実習生調書他
		4~6月	実習校へ実習依頼	実習校は出身校を原則とするので、各自実習校を訪問の上、依頼状等必要書類を添えて実習校に依頼する。依頼方法が一般と異なる学校や教育委員会があるので注意する。具体的には予備指導で説明。
		10月までに	実習校から教職支援担当へ承諾書(内諾書)返送	
		年度末までに	承諾書の内容を確認	教職支援担当へ返送されたものを各自で確認
		2月	健康診断	大学の定期健康診断を必ず受診
		3月	予備指導(成績通知書配付時)	関係書類受取
		三 年 次	四 年 次	4~7月
承諾書の内容を点検	内容に変更がないか実習校に確認し教職支援担当に報告(変更の有無にかかわらず報告)			
教育実習事前事後指導及び教育実習の履修登録	未登録の場合は実習ができない。			
大学の事前指導	全体、人権教育、校種別、教科別指導			
実習校の事前指導	指定された日時に授業があれば、授業担当教員に欠席届を提出する。			
実習費納入	期日を厳守し証明書発行機にて納入			
9~11月	教育実習実施			原則として9~11月であるが、実習校の都合で変更される場合がある。 ☆実習によって欠席する場合は、事前に授業担当教員に申し出て、指導を受ける。
	実習校の事後指導			指定された日時に授業があれば、授業担当教員に欠席届を提出する。
	大学の事後指導			教科別指導
11・12月	実習日誌(出勤表含)及び指導案を教職支援担当に提出			実習後、2週間以内に返送して頂くよう実習校に依頼する。
	年度末			成績評価

(※1) 文学部、教育学部教育学科学校教育/初等教育コース(小学校)、教育学部教育学科スポーツ健康科学/保健体育・数理教育コース(高等学校・中学校)、現代日本社会学部対象。

(※2) 教育学部教育学科学校教育/初等教育コース(高等学校・中学校)、教育学部教育学科幼児教育コース・スポーツ健康科学/保健体育・数理教育コース(小学校)

☆介護等体験実習については、予備指導で配布する日程表を確認してください。

【重要】 実習に関する事柄についてSNSやインターネットなどに投稿・掲載・発信することを一切禁止します。実習に関する物品や成果物、情報などを掲載することで、トラブルが起こりうるため、絶対に行わないこと。
その事実を確認した場合、実習の単位を不認定とします。
学生本人以外(家族等)が行っても同様となるため、実習に関する成果物や情報など適正な管理に努めること。

幼稚園
履修手続

	時期	内 容	備 考
一 年 次	3月	予備指導（成績通知書配付時）	関係書類受取
二 年 次	4月	実習園（指定園）へ依頼	大学から指定実習園へ実習依頼を行う。
		教職支援担当に関係書類提出	実習生調書他
	4～6月	実習園へ実習依頼（希望園）	大学の指定する幼稚園以外を希望する場合、各実習園を訪問の上、依頼状等必要書類を添えて依頼する。
	10月までに	実習園から教職支援担当へ承諾書（内諾書）返送（希望園）	
	年度末までに	全実習生実習園決定	掲示にて連絡する。
		承諾書の内容を確認（希望園）	教職支援担当へ返送されたものを各自で確認
三 年 次	2月	健康診断	大学の定期健康診断を必ず受診
	3月	予備指導（成績通知書配付時）	関係書類受取
	4～7月	幼稚園実習の履修登録	未登録の場合は実習ができない。
事前指導		実習日誌等配布。実習生個人票・誓約書等教職支援担当に提出。	
実習費納入		期日を厳守し証明書発行機にて納入	
実習園との打ち合わせ		事前指導終了後、直ちに全員揃って実習園を訪問し、挨拶と同時に事前指導を受ける。	
三 年 次	9月	幼稚園実習実施	原則として9月であるが、実習園の都合により変更される場合がある。 ☆実習によって欠席する場合は、事前に授業担当教員に申し出て、指導を受ける。
		実習日誌（出勤表含）及び指導案を教職支援担当に提出	実習後、2週間以内に返送して頂くよう実習園に依頼する。
	10月～	事後指導	実習日誌返却等
	年度末	成績評価	

* 指定園…大学が指定する私立の幼稚園。四日市市(4)、鈴鹿市(2)、津市(2)、名張市(1)、伊勢市(0)に所在する19園を指す。

* 希望園…指定園以外の幼稚園で、出身幼稚園、就職先として考えている幼稚園など自分が実習を希望する幼稚園を指す。

実 習 費

大学に納入する実習費と実習校へ納入する実習費があります。金額や納入方法は下記に示しましたので、確認してください。期限内に納入がない場合は、実習を放棄したものとみなします。

〈大学に支払う分〉

校 種	金 額	納入年次	納 入 日	納入方法
高 等 学 校	12,000 円	3・4年次 (履修手続きの 時期を参照して ください。)	4月中旬	証明書発行機で支 払い、申込書を各自 保管してください。
中 学 校			納入期日は事前指 導で連絡します。	
小 学 校				
幼 稚 園			5月下旬	

〈実習校に支払う分〉

実習校の事前指導時に必ず実習費の金額を確認し、必要である場合、各自で実習校に納入してください。

〔注 意〕

1) 実習生としての自覚

従来受け入れ校より教職に関する科目の学習不足という批判を受けています。教育職員を志す者として自覚をもち、このようなことがないように努力をしてもらわなければなりません。

なお、実習前に下記について、十分に準備学習してください。

- ①本学で作成し、各自に配布している「教育実習の手引」を熟読する。
- ②実習校（園）で使用している教科書に目を通す。
- ③指導案についての調査研究をする。
- ④生徒指導の手引きを読んでおく。

2) 健康管理

多数の生徒または児童・園児に接するため、心身ともに健康であることが必須です。健康診断は必ず受け、自分の健康状態を把握しておきましょう。なお集団生活にふさわしくない病気などは、あらかじめ治療し全治しておかなければなりません。

3) 守秘義務

実習により知り得た児童、生徒、教職員のプライバシーに関する情報については、決して外部へ漏らしてはいけません。

【重要】 実習に関する事柄についてSNSやインターネットなどに投稿・掲載・発信することを一切禁止します。実習に関する物品や成果物、情報などを掲載することで、トラブルが起こりうるため、絶対に行わないこと。その事実を確認した場合、実習の単位を不認定とします。学生本人以外（家族等）が行っても同様となるため、実習に関する成果物や情報など適正な管理に努めること。

教職履修 カルテ

4) 実習の取りやめ

実習校(園)決定後に実習を取りやめることは、単に個人的な問題ではなく、実習校(園)及び教育委員会に多大な迷惑をかけることになると同時に、大学の信用がなくなり、以後実習を受け入れてもらえなくなります。そのため、後輩の実習に支障をきたすことにもなりますので充分注意してください。一人の不注意や、怠慢が全体の迷惑になることを考えられない者は、実習を認めることができません。万一実習ができなくなった場合は、速やかに教職支援担当に届け出てください。ただし病気その他やむを得ない理由以外は「教育実習」の取り消しは認めません。

なお、教育実習期間中にクラブの試合や企業等の採用試験が重複した場合でも、原則、教育実習を優先することとします。

教職課程の履修を始めてから教員免許取得まで、免許取得に関する科目の学習成果や課題、学校支援ボランティアの活動状況などを継続して記録・整理し、自己の力量向上に役立てるものであり、教職課程履修者は全員作成が義務付けられています。

毎学期の成績が配付された後に記録していきますが、その作成方法や時期などの詳細は掲示されますので、よく確認してください。

なお、4年生の秋学期に開講される「教職実践演習(初等・中等)」を履修するにあたり、『教職履修カルテ』の提出が必須となります。この科目は教員として必要な知識技能を修得したことを確認するための総まとめとして位置づけられた科目(必修科目)となっています。

免許状の申請

教員免許状は、居住地の都道府県教育委員会が授与するものであり、本学では三重県教育委員会へ一括申請する方法をとり、免許状の交付を受けています。

ただし、一括申請するのは当年度卒業生のみです。

4年次の秋学期(10月予定)に説明会を開催し、各自で三重県教育委員会へ申請します。

期限までに申請しない場合は一括申請ができません。決められた時期に手続きをするよう心掛けてください。

※説明会において、申請方法及び書類の提出方法等の詳細について説明しますので、該当者は必ず出席してください。連絡のない欠席は、免許状の申請を放棄したものと見なします。

免許状の交付

学位記授与式当日

教員免許状取得のための早見表

取得を希望する免許種類について、下表で示す各ページを参照して、履修すること。

学部	免許の種類	令和5～8年度入学生参照ページ				平成31～令和4年度入学生参照ページ						
		教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	第66条の6に定める科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	第66条の6に定める科目			
文	宗教中学校一種	P.146	P.146	P.148	令和5年度 P.165	P.166	P.166	P.168	P.181			
	宗教高等学校一種			P.149				P.169				
	国語中学校一種			P.150				P.170				
	国語高等学校一種			P.151				P.171				
	書道高等学校一種			P.152				P.172				
	社会中学校一種			P.153				P.173				
	地理歴史高等学校一種			P.154				P.174				
	公民高等学校一種			P.155				P.175				
	英語中学校一種							P.184		P.184	P.185	
	英語高等学校一種			P.186							P.186	
	小学校一種	P.160	P.160	P.161	令和5年度 P.165	P.177	P.177	P.178	P.181			
	小学校二種			P.185				令和5～8年度 P.147		令和5～8年度 P.147	P.167	P.167
保健体育中学校一種	P.156			-								
保健体育高等学校一種	P.157			-								
数学中学校一種	P.158			-								
数学高等学校一種	P.159			-								
理科中学校一種	P.149			P.169								
理科高等学校一種	P.150			P.170								
国語中学校一種	P.152			P.172								
国語高等学校一種	P.153			P.173								
社会中学校一種	P.155			P.175								
地理歴史高等学校一種				P.166								
英語中学校一種	P.166	P.166	P.174									
英語高等学校一種			P.174									

学部	免許の種類	令和5～8年度入学生参照ページ			平成31～令和4年度入学生参照ページ		
		教育の基礎的理解に関する科目等	領域及び保育内容の指導法に関する科目	第66条の6に定める科目	教育の基礎的理解に関する科目等	領域及び保育内容の指導法に関する科目	第66条の6に定める科目
教育	幼稚園一種	P.162	P.163	令和5年度 P.165 令和6～8年度 P.164	P.179	P.180	P.181

学部	免許の種類	平成31～令和4年度入学生参照ページ	
		特別支援教育に関する科目	
教育	特別支援学校一種	P.182	

「中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状」取得要件

- 条件 文学部生又は教育学部生又は現代日本社会学部生であって卒業単位を修得していること。
 教育の基礎的理解に関する科目等、教科及び教科の指導法に関する科目を修得していること。
 規則第66条の6に定める科目を修得していること。
 中学校教諭一種免許状取得については、大学が独自に設定する科目を修得すること。

○教育の基礎的理解に関する科目等〈文学部・現代日本社会学部〉

施行規則に定める科目区分等			本学開設授業科目	セメスター	種別	単 位		備 考
科目	各科目に含めること が必要な事項	単 位				必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育学概論	1	講義	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）		教職論	3	講義	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の社会と制度	6	講義	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育・学校心理学	3	講義	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の基礎(中等)	4	講義	2		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論(中等)	5	講義	2		
生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳の理論及び指導法(中等)	5	講義	2		中一種免のみ 文学部のみ
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法(中等)	7	講義	1		
	特別活動の指導法		特別活動の指導法(中等)	5	講義	1		
	教育の方法及び技術		中等教育方法論 (ICTの活用を含む)	5	講義	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		-					「中等教育方法論 (ICTの活用を含む)」を履修
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導の理論及び方法	5	講義	2		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談(中等)	6	講義	2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		-					「生徒・進路指導の理論及び方法」を履修
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習事前事後指導(中等)	5-6	演習	1		隔週 「教育実習事前事後指導(中等)」については「教育実習Ⅰ」又は「教育実習Ⅱ」と同時履修すること。
			教育実習Ⅰ	5-6	実習	4		中免取得者は「教育実習Ⅰ」を高免取得者は「教育実習Ⅱ」を中高取得者は「教育実習Ⅰ」を履修すること。
			教育実習Ⅱ	5-6	実習	2		
	教職実践演習	2	教職実践演習(中等)	8	演習	2		
合計	中27単位以上 高23単位以上	合計			中29単位以上 高25単位以上			

(注) ○「道徳の理論及び指導法(中等)」を欠く場合は、中学校免許が取得できない。
 ○中学校・高等学校の免許と小学校の免許を併せて取得する場合は、中学校・高等学校免許の「教職実践演習(中等)」の単位を「教職実践演習(初等)」の単位に充当することができるので、「教職実践演習(初等)」を併せて履修する必要はない。
 (中学校・高等学校免許を主免許とする場合は、「教職実践演習(中等)」のみ履修登録すること。)

○大学が独自に設定する科目〈文学部〉

施行規則に定める科目区分等			本学開設授業科目	セメスター	種別	単 位		備 考
科目区分		必修				選択		
大学が独自に設定する科目	中4単位以上 高12単位以上	介護等体験実習	3-4	実習	1		隔週 中一種免のみ	

※施行規則に定める単位数より不足している単位については「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科及び教科の指導法に関する科目」より流用。

○教育の基礎的理解に関する科目等〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等			科目	各科目に含めることが必要な事項	単 位	本学開設授業科目	セメスター	種別	単 位		備 考
科目	単 位	必修							選択		
教育の基礎的理解に関する科目	10	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	1	講義	2			小一種免許単位充当		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。)	教 職 論	2	講義	2			小一種免許単位充当		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育の社会と制度	6	講義	2			小一種免許単位充当		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	2	講義	2			小一種免許単位充当		
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の基礎	3	講義	2			小一種免許単位充当		
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	5・6	講義	2			小一種免許単位充当		
生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	中10 高8	道徳の理論及び指導法	道徳の理論及び指導法	1	講義	2			中一種免のみ 小一種免許単位充当		
		総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	7	講義	1			小一種免許単位充当		
		特別活動の指導法	特別活動の指導法	6	講義	1			小一種免許単位充当		
		教育の方法及び技術	教育方法論(ICTの活用を含む)	4	講義	2			小一種免許単位充当		
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	-						「教育方法論(ICTの活用を含む)」を履修		
		生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導の理論及び方法	6	講義	2			小一種免許単位充当		
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教 育 相 談	5・6	講義	2			小一種免許単位充当		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	-						「生徒・進路指導の理論及び方法」を履修		
教育実践に関する科目	中5 高3	教育実習	教育実習事前事後指導(中等)	5-6	演習	1			隔週「教育実習事前事後指導(中等)」については「教育実習Ⅰ」又は「教育実習Ⅱ」と同時履修すること。		
			教 育 実 習 Ⅰ	5-6	実習		4		中免取得者は「教育実習Ⅰ」を高免取得者は「教育実習Ⅱ」を中高取得者は「教育実習Ⅰ」を履修すること。		
			教 育 実 習 Ⅱ	5-6	実習		2				
	2	教職実践演習	8	演習	2			「教職実践演習(初等)」の単位充当			
合計	中27単位以上 高23単位以上	合計	中29単位以上 高25単位以上								

(注) ○「道徳の理論及び指導法」を欠く場合は、中学校免許が取得できない。
 ○中学校・高等学校の免許と小学校の免許を併せて取得する場合は、中学校・高等学校免許の「教職実践演習(中等)」の単位を「教職実践演習(初等)」の単位に充当することができるので、「教職実践演習(初等)」を併せて履修する必要はない。
 (中学校・高等学校免許を主免許とする場合は、「教職実践演習(中等)」のみ履修登録すること。)
 ○初等教育コースの学生について、副免許である中学校実習は、小学校実習の2単位を流用するため、「教育実習Ⅰ(中学校)副免許 2単位」を履修することで、「教育実習Ⅰ 4単位」を修得できる。

○大学が独自に設定する科目〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等			科目	本学開設授業科目	セメスター	種別	単 位		備 考
科目区分	単 位	必修					選択		
大学が独自に設定する科目	中4単位以上 高12単位以上		介護等体験実習	3-4	実習	1		隔週 中一種免のみ	

※施行規則に定める単位数より不足している単位については「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科及び教科の指導法に関する科目」より流用。

○教科及び教科の指導法に関する科目

宗教（中学校一種・高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備考
科目区分	各科目に含めること が必要な事項				必修	選択	
カリキュラム (教免取得要件 宗教 中・高一種 R5~8) 教科及び教科の指導法に関する事項	教科	宗 教 学	宗 教 学 概 論 I	3	講義	2	集中
			宗 教 学 概 論 II	4	講義	2	
			仏 教 概 説	3	講義	2	
			神 道 概 論 I	3	講義	2	
			神 道 概 論 II	4	講義	2	
			宗 教 学 講 義 I	3	講義	2	
			宗 教 学 講 義 II	4	講義	2	
			神 道 文 献	1	講義	2	
			神 道 教 化 概 論 I	5	講義	2	
			神 道 教 化 概 論 II	6	講義	2	
	宗 教 史	世 界 宗 教 史 I	5	講義	2	集中	
		世 界 宗 教 史 II	6	講義	2	集中	
		日 本 宗 教 史	4	講義	2		
		神 道 史 I	3	講義	2		
		神 道 史 II	4	講義	2		
		近 代 神 道 史	3	講義	2		
		神 宮 史 I	3	講義	2		
		神 宮 史 II	4	講義	2		
	「教理学、哲学」	神 道 神 学 I	7	講義	2		
		神 道 神 学 II	8	講義	2		
		祭 祀 概 論 I	3	講義	2		
		祭 祀 概 論 II	4	講義	2		
		日 本 思 想 史	3	講義	2		
		東 洋 思 想 史	5	講義	2		
		西 洋 思 想 史	6	講義	2		
		神 道 思 想 史	4	講義	2		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	宗 教 科 教 育 法 I	3	講義	2		
		宗 教 科 教 育 法 II	4	講義	2		
		宗 教 科 教 育 法 III	5	講義	2		
		宗 教 科 教 育 法 IV	6	講義	2		
	各科目の単位を満たし (中)28単位以上、(高)24単位以上		合 計		(中) 30単位以上 (高) 34単位以上		

※中学校のみ免許取得及び中学校・高等学校の免許取得の場合は「宗教科教育法Ⅰ～Ⅳ」必修、高等学校のみ免許取得の場合は「宗教科教育法Ⅰ～Ⅱ」を必修とする。

国語（中学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 専 門 的 事 項 科 目	国 語 学 (音声言語及び文章表現 に関するものを含む。)	国語学概論Ⅰ《音声・語彙》	1	講義	2		国文学科のみ履修可
		国語学概論Ⅱ《文法・書記》	4	講義	2		
		言語表現学概論Ⅰ	6	講義	2		
		言語表現学概論Ⅱ	7	講義	2		
		国語学講読Ⅰ	2	演習		2	
		国語学講読Ⅱ	3	演習		2	
		国語史概説Ⅰ	4	講義		2	
	国語史概説Ⅱ	5	講義		2		
	国 文 学 (国文学史を含む。)	国文学概論Ⅰ《古典文学》	3	講義	2		不開講
		国文学概論Ⅱ《近代文学》	4	講義	2		
		国文学史概説Ⅰ 《上代・中古・中世》	1	講義	2		
		国文学史概説Ⅱ 《近世・近代・現代》	2	講義	2		
		古典文学講義ⅠA	4	講義		2	
		古典文学講義ⅠB	4	講義		2	
		古典文学講義ⅠC	4	講義		2	
		古典文学講義ⅠD	4	講義		2	
		近代文学講義ⅠA	4	講義		2	
		近代文学講義ⅠB	4	講義		2	
		古典文学講義ⅡA	5	講義		2	不開講
		古典文学講義ⅡB	5	講義		2	
		古典文学講義ⅡC	5	講義		2	
		古典文学講義ⅡD	5	講義		2	
		近代文学講義ⅡA	5	講義		2	
		近代文学講義ⅡB	5	講義		2	
		古典文学講読ⅠA	2	演習		2	
		古典文学講読ⅠB	2	演習		2	不開講
		古典文学講読ⅠC	2	演習		2	
		古典文学講読ⅠD	2	演習		2	
		近代文学講読Ⅰ	2	演習		2	
		古典文学講読ⅡA	3	演習		2	
		古典文学講読ⅡB	3	演習		2	
		古典文学講読ⅡC	3	演習		2	
		古典文学講読ⅡD	3	演習		2	
		近代文学講読Ⅱ	3	演習		2	
	国文学法概説Ⅰ	3	講義		2	不開講	
	国文学法概説Ⅱ	4	講義		2		
	漢 文 学	漢文学概論Ⅰ《中国思想》	3	講義	2		国文学科のみ履修可
		漢文学概論Ⅱ《中国文学》	4	講義	2		
		漢文学講読Ⅰ	2	演習		2	
		漢文学講読Ⅱ	3	演習		2	
	書 道 (書写を中心とする。)	書 道 Ⅰ	3	実技	1		国文学科のみ履修可 国文学科のみ履修可
		書 道 Ⅱ	4	実技	1		
		専門演習ⅠⅠ(書道史)	5	演習		2	
		専門演習ⅡⅠ(書道史)	6	演習		2	
各教科の指導法（情報通信技術 の活用を含む。)	国語科教育法Ⅰ	3	講義	2			
	国語科教育法Ⅱ	4	講義	2			
	国語科教育法Ⅲ	5	講義	2			
	国語科教育法Ⅳ	6	講義	2			
合 計	各科目の単位を満たし 合計28単位以上	合 計		30単位以上			

国語（高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択			
教科及び教科の指導法に関する事項	国 語 学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	国語学概論Ⅰ《音声・語彙》	1	講義	2		国文学科のみ履修可		
		国語学概論Ⅱ《文法・書記》	4	講義	2				
		言語表現学概論Ⅰ	6	講義	2				
		言語表現学概論Ⅱ	7	講義	2				
		国語学講読Ⅰ	2	演習		2			
		国語学講読Ⅱ	3	演習		2			
		国語史概説Ⅰ	4	講義		2			
		国語史概説Ⅱ	5	講義		2			
		国 文 学 (国文学史を含む。)	国文学概論Ⅰ《古典文学》	3	講義	2			不開講
			国文学概論Ⅱ《近代文学》	4	講義	2			
			国文学史概説Ⅰ《上代・中古・中世》	1	講義	2			
			国文学史概説Ⅱ《近世・近代・現代》	2	講義	2			
			古典文学講義ⅠA	4	講義			2	
			古典文学講義ⅠB	4	講義			2	
	古典文学講義ⅠC		4	講義		2			
	古典文学講義ⅠD		4	講義		2			
	近代文学講義ⅠA		4	講義		2			
	近代文学講義ⅠB		4	講義		2			
	不開講		古典文学講義ⅡA	5	講義		2		
			古典文学講義ⅡB	5	講義		2		
			古典文学講義ⅡC	5	講義		2		
			古典文学講義ⅡD	5	講義		2		
			近代文学講義ⅡA	5	講義		2		
			近代文学講義ⅡB	5	講義		2		
			不開講	古典文学講読ⅠA	2	演習		2	
				古典文学講読ⅠB	2	演習		2	
				古典文学講読ⅠC	2	演習		2	
				古典文学講読ⅠD	2	演習		2	
	近代文学講読Ⅰ			2	演習		2		
	古典文学講読ⅡA			3	演習		2		
	古典文学講読ⅡB			3	演習		2		
	古典文学講読ⅡC			3	演習		2		
	古典文学講読ⅡD			3	演習		2		
	近代文学講読Ⅱ			3	演習		2		
	漢 文 学	国文法概説Ⅰ	3	講義		2	不開講		
		国文法概説Ⅱ	4	講義		2			
		漢文学概論Ⅰ《中国思想》	3	講義	2				
		漢文学概論Ⅱ《中国文学》	4	講義	2				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	漢文学講読Ⅰ	2	講義		2	国文学科のみ履修可		
		漢文学講読Ⅱ	3	講義		2			
国語科教育法Ⅰ		3	講義	2					
国語科教育法Ⅱ		4	講義	2					
合 計	各科目の単位を満たし合計24単位以上	国語科教育法Ⅲ	5	講義		2	国文学科のみ履修可		
		国語科教育法Ⅳ	6	講義		2			
合 計		合 計		34単位以上					

カリキュラム

(教免取得要件

国語 高一種

R5~8)

書道（高等学校一種） 国文学科のみ

施行規則に定める科目区分等		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備考
							必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する専門的事項	書道 (書写を含む。)	書 I (漢字書法)	5	実技	1		隔週	2コマ	
		書 II (漢字書法)	6	実技	1		隔週	2コマ	
		書 III (金石書法)	5	実技	1				
		書 IV (金石書法)	6	実技	1				
		書 V (仮名書法)	7	実技	1				
		書 VI (仮名書法)	8	実技	1				
		書 VII (作品制作)	7	実技	1		隔週	2コマ	
		書 VIII (作品制作)	8	実技	1		隔週	2コマ	
		書道 I	3	実技		1			
		書道 II	4	実技		1			
	書道史	専門演習 I I (書道史)	5	演習	2				
		専門演習 II I (書道史)	6	演習	2				
		「書論、鑑賞」	書論・鑑賞	5	講義	2			
	「国文学、漢文学」	国文学概論 I 《古典文学》	3	講義	2				
		国文学概論 II 《近代文学》	4	講義	2				
		国文学史概説 I 《上代・中古・中世》	1	講義	2				
		国文学史概説 II 《近世・近代・現代》	2	講義	2				
		漢文学概論 I 《中国思想》	3	講義	2				
		漢文学概論 II 《中国文学》	4	講義	2				
		古典文学講義 I A	4	講義		2		不開講	
		古典文学講義 I B	4	講義		2		不開講	
		古典文学講義 I C	4	講義		2		不開講	
		古典文学講義 I D	4	講義		2		不開講	
		近代文学講義 I A	4	講義		2		不開講	
		近代文学講義 I B	4	講義		2		不開講	
		古典文学講読 I A	2	演習		2		不開講	
		古典文学講読 I B	2	演習		2		不開講	
		古典文学講読 I C	2	演習		2		不開講	
		古典文学講読 I D	2	演習		2		不開講	
		近代文学講読 I	2	演習		2		不開講	
		漢文学講読 I	2	演習		2		不開講	
		漢文学講読 II	3	演習		2		国文学科のみ履修可	
		国文法概説 I	3	講義		2			
	国文法概説 II	4	講義		2				
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	書道科教育法 I	3	講義	2					
	書道科教育法 II	4	講義	2					
合計	各科目の単位を満たし合計24単位以上	合計		34単位以上					

社会（中学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
カリキュラム (教免取得要件 社会 中一種 R5~8) 教科及び教科の指導法に 関する事項	日本史・外国史	国史概説 A《古代》	4	講義	2		
		国史概説 B《中世》	3	講義	2		
		国史概説 C《近世》	2	講義	2		
		国史概説 D《近現代》	1	講義	2		
		東洋史概説 I	3	講義	2		
		東洋史概説 II	4	講義		2	
		西洋史概説 I	3	講義	2		
		西洋史概説 II	4	講義		2	
		史学概論	4	講義		2	
		古文書学 I	3	講義		2	
		古文書学 II	4	講義		2	
		史料講読 A I《古代》	3	演習		2	
		史料講読 A II《古代》	4	演習		2	
		史料講読 B I《中世》	3	演習		2	
		史料講読 B II《中世》	4	演習		2	
		史料講読 C I《近世》	3	演習		2	
		史料講読 C II《近世》	4	演習		2	
		史料講読 D I《近代》	3	演習		2	
		史料講読 D II《近代》	4	演習		2	
		史料講読 E I《東洋史》	3	演習		2	
		史料講読 E II《東洋史》	4	演習		2	
		日本史学史	2	講義		2	
		考古学 I	3	講義		2	
		考古学 II	4	講義		2	
		美術史 I	3	講義		2	
		美術史 II	4	講義		2	
		東洋思想史	5	講義		2	
		西洋思想史	6	講義		2	
	地理学（地誌を含む。）	人文地理学 I	3	講義	2		集中
		人文地理学 II	4	講義		2	
		自然地理学	2	講義	2		
		歴史地理学 I	5	講義		2	
		歴史地理学 II	5	講義		2	
	地誌学	4	講義	2			
	「法学、政治学」	法学概論	4	講義		2	法学概論又は政治学概論の何れか選択必修
		法制史特講	8	講義		2	
		政治学概論	5	講義		2	
	「社会学、経済学」	社会学概論	3	講義		2	社会学概論又は経済学概論の何れか選択必修
		社会学特講	3	講義		2	
		経済学概論	3	講義		2	
	「哲学、倫理学、宗教学」	社会経済史	7	講義		2	集中
		哲学概論	7	講義		2	哲学概論又は宗教学概論 I・II の何れか選択必修
		日本思想史	3	講義		2	
宗教学概論 I		3	講義		2		
宗教学概論 II		4	講義		2		
日本宗教史		4	講義		2		
世界宗教史 I		5	講義		2		
世界宗教史 II	6	講義		2			
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	社会科・地理歴史科教育法 I	3	講義	2		集中 集中	
	社会科・地理歴史科教育法 II	4	講義	2			
	社会科・公民科教育法 I	3	講義	2			
	社会科・公民科教育法 II	4	講義	2			
合計	各科目の単位を満たし 合計28単位以上	合計		32単位以上			

地理歴史（高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		各科目に含めること が必要な事項	本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	必修					選択		
教科 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 事 項 目	日 本 史	国史概説 A《古 代》	4	講義	2			
		国史概説 B《中 世》	3	講義	2			
		国史概説 C《近 世》	2	講義	2			
		国史概説 D《近現代》	1	講義	2			
		史料講読 A I《古代》	3	演習		2		
		史料講読 A II《古代》	4	演習		2		
		史料講読 B I《中世》	3	演習		2		
		史料講読 B II《中世》	4	演習		2		
		史料講読 C I《近世》	3	演習		2		
		史料講読 C II《近世》	4	演習		2		
		史料講読 D I《近代》	3	演習		2		
		史料講読 D II《近代》	4	演習		2		
		古文書学 I	3	講義		2		
		古文書学 II	4	講義		2		
		日本史学史	2	講義		2		
		考古学 I	3	講義		2		
		考古学 II	4	講義		2		
	美術史 I	3	講義		2			
	美術史 II	4	講義		2			
	外 国 史	東洋史概説 I	3	講義	2			
		東洋史概説 II	4	講義		2		
		西洋史概説 I	3	講義	2			
		西洋史概説 II	4	講義		2		
		東洋思想史	5	講義		2		
		西洋思想史	6	講義		2		
		史学概論	4	講義		2		
		外国史特講《東洋史》	6	講義		2		
史料講読 E I《東洋史》		3	演習		2			
史料講読 E II《東洋史》	4	演習		2				
人 文 地 理 学・ 自 然 地 理 学	人文地理学 I	3	講義	2		集中		
	人文地理学 II	4	講義		2			
	自然地理学	2	講義	2				
	歴史地理学 I	5	講義		2			
	歴史地理学 II	5	講義		2			
地 誌	地 誌 学	4	講義	2				
各教科の指導法（情報通 信技術の活用を含む。）	社会科・地理歴史科教育法 I	3	講義	2				
	社会科・地理歴史科教育法 II	4	講義	2				
合 計	各科目の単位を満たし 合計24単位以上	合 計			34単位以上			

公民（高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む）」	法 律 学 概 論	4	講義	2		
		法 制 史 特 講	8	講義		2	
		政 治 学 概 論	5	講義	2		
		政 治 学 特 講	7	講義		2	
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社 会 学 概 論	3	講義	2		現日は2セメ
		社 会 学 特 講	3	講義		2	
		経 済 学 概 論	3	講義	2		
		社 会 経 済 史	7	講義		2	集中
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲 学 概 論	7	講義	2		
		日 本 思 想 史	3	講義		2	
		宗 教 学 概 論 I	3	講義	2		
		宗 教 学 概 論 II	4	講義	2		
		日 本 宗 教 史	4	講義		2	
		世 界 宗 教 史 I	5	講義		2	集中
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」	社会科・公民科教育法 I	3	講義	2			
	社会科・公民科教育法 II	4	講義	2			
合 計	各科目の単位を満たし合計24単位以上	合 計		34単位以上			

英語（中学校一種・高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		各科目に含めることが必要な事項	本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	必修					選択		
教科及び 関連する 指導的 事項 に関する 科目	教 科	英 語 学	英 語 学 概 論 I	1	講義	2		
			英 語 学 概 論 II	2	講義		2	
			英 語 音 声 学 I	3	演習	2		
			英 語 音 声 学 II	4	演習		2	
			英 文 法 I	1	講義	2		
			英 文 法 II	2	講義		2	
	英 語 文 学	英 文 学 概 論 I	3	講義	2			
		英 文 学 概 論 II	4	講義	2			
	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	プ ラ ク テ ィ カ ル ・ イ ン グ リ ッ シ ュ I	3	演習	2			
		プ ラ ク テ ィ カ ル ・ イ ン グ リ ッ シ ュ II	4	演習	2			
		リ ー デ ィ ン グ ・ ラ イ テ ィ ン グ ス キ ル I	3	演習		2		
		リ ー デ ィ ン グ ・ ラ イ テ ィ ン グ ス キ ル II	4	演習		2		
		英 会 話 中 級	5	演習		2		
		英 会 話 上 級	6	演習		2		
		時 事 英 語	7	演習		2		
	異 文 化 理 解	異文化間コミュニケーションI	1	講義	2			
		異文化間コミュニケーションII	2	講義	2			
		海 外 事 情 I	1	講義		2		
		海 外 事 情 II	2	講義		2		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	英 語 科 教 育 法 I	3	講義		2	※	
英 語 科 教 育 法 II		4	講義		2	※		
英 語 科 教 育 法 III		5	講義		2	※		
英 語 科 教 育 法 IV		6	講義		2	※		
各科目の単位を満たし (中)28単位以上、(高)24単位以上			合 計			(中) 30単位以上 (高) 34単位以上		

※中学校のみ免許取得及び中学校・高等学校の免許取得の場合は「英語科教育法Ⅰ～Ⅳ」必修、高等学校のみ免許取得の場合は「英語科教育法Ⅰ～Ⅱ」を必修とする。

保健体育（中学校一種・高等学校一種）〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目	体 育 実 技	体育実技(陸 上)	4	演習	2		集中
		体 育 実 技 (器械運動・体づくり運動)	3	演習	2		
		体育実技(ダンス・舞踊)	5	演習	2		
		体育実技(球 技)	3	演習	2		
		体育実技(水 泳)	3	演習	1		
		体育実技(柔 道)	3・4	演習	2		
		体育実技(野 外 活 動)	1-2	演習		1	
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)	体 育 原 理	1	講義	2		集中
		体 育 史	2	講義		2	
		体 育 心 理 学	4	講義		2	
		体 育 経 営 管 理 学	6	講義		2	
		体 育 社 会 学	5	講義		2	
		運 動 学 (運 動 方 法 学)	6	講義	2		
	生 理 学 (運動生理学を含む)	生 理 学	2	講義	2		隔週
		バ イ オ メ カ ニ ク ス	3	講義		2	
	衛 生 学 ・ 公 衆 衛 生 学	衛 生 学	3	講義	2		
		公 衆 衛 生 学	4	講義		2	
	学 校 保 健 (小 児 保 健、精 神 保 健、学 校 安 全 及 び 救 急 処 置 を 含 む。)	学 校 保 健	5	講義	2		
		子 ど も の 保 健	5	講義		2	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	保 健 体 育 科 教 育 法 I	3	講義		2	※
		保 健 体 育 科 教 育 法 II	4	講義		2	※
		保 健 体 育 科 教 育 法 III	5	講義		2	※
		保 健 体 育 科 教 育 法 IV	6	講義		2	※
	各科目の単位を満たし (中)28単位以上、(高)24単位以上		合 計		(中) 29単位以上 (高) 34単位以上		

※中学校のみ免許取得及び中学校・高等学校の免許取得の場合は「保健体育科教育法Ⅰ～Ⅳ」必修、高等学校のみ免許取得の場合は「保健体育科教育法Ⅰ～Ⅱ」を必修とする。

数学（中学校一種・高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する事項	代 数 学	代 数 学 序 論	2	講義	2		
		代 数 学 I	3	講義	2		
		代 数 学 II	4	講義	2		
		代 数 学 III	5	講義		2	
		代 数 学 IV	6	講義		2	
	幾 何 学	幾 何 学 序 論	2	講義	2		
		幾 何 学 I	3	講義	2		
		幾 何 学 II	4	講義	2		
		幾 何 学 III	5	講義		2	
		幾 何 学 IV	6	講義		2	
	解 析 学	解 析 学 序 論	2	講義	2		
		解 析 学 I	3	講義	2		
		解 析 学 II	4	講義	2		
		解 析 学 III	5	講義		2	
		解 析 学 IV	6	講義		2	
	「確率論、統計学」	確 率 ・ 統 計 学 I	5	講義	2		
		確 率 ・ 統 計 学 II	6	講義		2	
	コンピュータ	コ ン ピ ュ ー タ 概 論	5	講義	2		
		コ ン ピ ュ ー タ 演 習	6	演習		2	
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）	数 学 科 教 育 法 I	3	講義		2	※
数 学 科 教 育 法 II		4	講義		2	※	
数 学 科 教 育 法 III		5	講義		2	※	
数 学 科 教 育 法 IV		6	講義		2	※	
各科目の単位を満たし (中)28単位以上、(高)24単位以上		合 計			(中) 30単位以上 (高) 34単位以上		

※中学校のみ免許取得及び中学校・高等学校の免許取得の場合は「数学科教育法 I～IV」必修、高等学校のみ免許取得の場合は「数学科教育法 I～II」を必修とする。

理科（中学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
カリキュラム (教免取得要件 理科 中一種 R7・8) 教科及び教科の指導法に関する科目	物理学	物理学基礎	1	講義	2		
		物理学 I	3	講義	2		
		物理学 II	4	講義		2	
		物理学 III	5	講義		2	
		物理学 IV	6	講義		2	
	化学	化学基礎	2	講義	2		
		化学 I	3	講義	2		
		化学 II	4	講義		2	
		化学 III	5	講義		2	
		化学 IV	6	講義		2	
	生物学	生物学基礎	1	講義	2		
		生物学 I	3	講義	2		
		生物学 II	4	講義		2	
		生物学 III	5	講義		2	
		生物学 IV	6	講義		2	
	地学	地学基礎	1	講義	2		
		地学 I	3	講義	2		
		地学 II	4	講義		2	
		地学 III	5	講義		2	
		地学 IV	6	講義		2	
	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	物理学実験・地学実験	6	演習	2		
		化学実験・生物学実験	5	演習	2		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	理科教育法 I	3	講義	2		集中
		理科教育法 II	4	講義	2		
理科教育法 III		5	講義	2			
理科教育法 IV		6	講義	2			
各科目の単位を満たし28単位以上		合計		30単位以上			

理科（高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めること が必要な事項				必修	選択	
教科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目	物 理 学	物 理 学 基 礎	1	講義	2		
		物 理 学 I	3	講義	2		
		物 理 学 II	4	講義		2	
		物 理 学 III	5	講義		2	
		物 理 学 IV	6	講義		2	
	化 学	化 学 基 礎	2	講義	2		
		化 学 I	3	講義	2		
		化 学 II	4	講義		2	
		化 学 III	5	講義		2	
		化 学 IV	6	講義		2	
	生 物 学	生 物 学 基 礎	1	講義	2		
		生 物 学 I	3	講義	2		
		生 物 学 II	4	講義		2	
		生 物 学 III	5	講義		2	
		生 物 学 IV	6	講義		2	
	地 学	地 学 基 礎	1	講義	2		
		地 学 I	3	講義	2		
		地 学 II	4	講義		2	
		地 学 III	5	講義		2	
		地 学 IV	6	講義		2	
	「物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地学実験」	物理学実験・地学実験	6	演習	2		
		化学実験・生物学実験	5	演習	2		
	各教科の指導法（情報通 信技術の活用を含む。）	理 科 教 育 法 I	3	講義	2		集中
		理 科 教 育 法 II	4	講義	2		
理 科 教 育 法 III		5	講義		2		
理 科 教 育 法 IV		6	講義		2		
各科目の単位を満たし24単位以上		合 計		34単位以上			

「小学校教諭一種免許状」取得要件 教育学部

条件 教育学部生であって卒業単位を修得していること。

教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目、教科及び教科の指導法に関する科目を修得していること。

規則第66条の6に定める科目を修得していること。

○教育の基礎的理解に関する科目等〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等			本学開設授業科目	Semester	種別	単位		備考
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位				必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育学概論	1	講義	2		中一種免許単位充当
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）		教職論	2	講義	2		中一種免許単位充当
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の社会と制度	6	講義	2		中一種免許単位充当
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育・学校心理学	2	講義	2		中一種免許単位充当
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の基礎	3	講義	2		中一種免許単位充当
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	5・6	講義	2		中一種免許単位充当
生徒指導、総合的な学習の時間等の指導法及び	道徳の理論及び指導法	10	道徳の理論及び指導法	1	講義	2		中一種免許単位充当
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	7	講義	1		中一種免許単位充当
	特別活動の指導法		特別活動の指導法	6	講義	1		中一種免許単位充当
	教育の方法及び技術		教育方法論（ICTの活用を含む）	4	講義	2		中一種免許単位充当
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		-					「教育方法論（ICT活用を含む）」を履修
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導の理論及び方法	6	講義	2		中一種免許単位充当
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	5・6	講義	2		中一種免許単位充当
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	-					「生徒・進路指導の理論及び方法」を履修		
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習事前事後指導（小学校）	5-6	演習	1		隔週
			教育実習（小学校）	5-6	実習	4		
	教職実践演習	2	教職実践演習（初等）	8	演習	2		「教職実践演習（中等）」の単位充当
合計		27単位以上	合計		29単位以上			

(注) ○小学校免許を副免許とする場合、主免許の実習の2単位を流用するため「教育実習（小学校）副免許 2単位」を履修することで、「教育実習（小学校） 4単位」を修得できる。

○大学が独自に設定する科目〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等			本学開設授業科目	Semester	種別	単位		備考
科目区分	単位	必修				選択		
大学が独自に設定する科目	小2単位以上	介護等体験実習	3-4	実習	1		隔週	

*施行規則に定める単位数より不足している単位については「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科及び教科の指導法に関する科目」より流用。

○教科及び教科の指導法に関する科目〔小学校〕〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する専門的事項	国語 (書写を含む。)	児童国語	3	演習		2	書写を含む 10単位以上 選択必修
	社会	児童社会	4	演習		2	
	算数	児童算数	3	演習		2	
	理科	児童理科	3・4	演習		2	
	生活	児童生活	3	演習		2	
	音楽	児童音楽	3・4	演習		2	
	図画工作	児童造形	3・4	演習		2	
	家庭	児童家庭	3・4	演習		2	
	体育	児童体育	5・6	演習		2	
	外国語	児童英語	4	演習		2	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	国語 (書写を含む。)	国語科教育法	4	講義	2		
	社会	社会科教育法	3	講義	2		
	算数	算数科教育法	4	講義	2		
	理科	理科教育法	3	講義	2		
	生活	生活科教育法	6	講義	2		
	音楽	音楽科教育法	3・4	講義	2		
	図画工作	図画工作科教育法	5・6	講義	2		
	家庭	家庭科教育法	6	講義	2		
	体育	体育科教育法	4	講義	2		
	外国語	英語科教育法	5・6	講義	2		
合計	30単位以上	合計			30単位以上		

「幼稚園教諭一種免許状」取得要件

条件 教育学部生であって卒業単位を修得していること。

教育の基礎的理解に関する科目等、領域及び保育内容の指導法に関する科目を修得していること。

規則第66条の6に定める科目を修得していること。

注意 施行規則に定める「大学が独自に設定する科目」（14単位）については、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「領域及び保育内容の指導法に関する科目」より流用。

○教育の基礎的理解に関する科目等〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等			本学開設授業科目	Semester	種別	単 位		備 考
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位				必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育 学 概 論	1	講義	2		小一種免許単位充当
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教 職 論	2	講義	2		小一種免許単位充当
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の社会と制度	6	講義	2		小一種免許単位充当
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		子どもの心理学	3	講義	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		教育・学校心理学	2	講義	2		小一種免許単位充当
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の基礎	3	講義	2		小一種免許単位充当
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	5・6	講義	2		小一種免許単位充当
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	教育方法論（ICTの活用を含む）	4	講義	2		小一種免許単位充当
	幼児理解の理論及び方法		幼 児 理 解	4	演習	1		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育 相 談	5・6	講義	2		小一種免許単位充当
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習事前事後指導（幼稚園）	5-6	演習	1		隔週
			教育実習（幼稚園）	5-6	実習	4		
	教職実践演習	2	教職実践演習（初等）	8	演習	2		小一種免許単位充当
合 計		21単位以上	合 計		26単位以上			

○領域及び保育内容の指導法に関する科目〔幼稚園〕〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
領域に関する専門的事項	健康	幼児と健康	3	演習	2		
	人間関係	幼児と人間関係	3	演習	2		
	環境	幼児と環境	3	演習	2		
	言葉	幼児と言葉	3	演習	2		
	表現	幼児と表現(身体)	4	演習	2		
		幼児と表現(造形)	4	演習	2		
幼児と表現(音楽)		3・4	演習	2			
保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	保育内容の指導法	保育指導の方法	5	講義	2		
	保育内容の指導法 健康	健康(指導法)	4	演習	2		
	保育内容の指導法 人間関係	人間関係(指導法)	2	演習	2		
	保育内容の指導法 環境	環境(指導法)	4	演習	2		
	保育内容の指導法 言葉	言葉(指導法)	3	演習	2		集中
	保育内容の指導法 表現	身体表現(指導法)	5	演習	2		
		造形表現(指導法)	3	演習	2		
音楽表現(指導法)		5	演習	2			
合計	16単位以上	合計			30単位以上		

「教員免許状の取得要件」

○教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〈全教員免許共通〉

〈文学部・教育学部・現代日本社会学部〉

施行規則に定める 科目区分	単位	本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
					必修	選択	
日 本 国 憲 法	2単位	法 学 (日 本 国 憲 法)	3	講義	2		
体 育	2単位	ス ポ ー ツ I	1	実技		1	これら6科目より 2科目選択必修
		ス ポ ー ツ II	2	実技		1	
		アダプテッドスポーツ I	1	実技		1	
		アダプテッドスポーツ II	2	実技		1	
		武道 I 《柔道・剣道》	1	実技		1	
		武道 II 《柔道・剣道》	2	実技		1	
外国語 コミュニケーション	2単位	英 語 表 現 I 《初 級》	1	演習		1	これら6科目より 2科目選択必修
		英 語 表 現 II 《初 級》	2	演習		1	
		英 語 表 現 III 《中 級》	1	演習		1	
		英 語 表 現 IV 《中 級》	2	演習		1	
		英 語 表 現 V 《上 級》	1	演習		1	
		英 語 表 現 VI 《上 級》	2	演習		1	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2単位	データサイエンス入門	2	講義	2		
合 計	8単位	合 計			8単位以上		

「教員免許状の取得要件」

○教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〈全教員免許共通〉

〈文学部・教育学部・現代日本社会学部〉

施行規則に定める 科目区分	単位	本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備考
					必修	選択	
日本国憲法	2単位 以上	法学(日本国憲法)	3	講義	2		
体育	2単位 以上	スポーツⅠ	1	実技		1	これら6科目より 2科目選択必修
		スポーツⅡ	2	実技		1	
		アダプテッドスポーツⅠ	1	実技		1	
		アダプテッドスポーツⅡ	2	実技		1	
		武道Ⅰ《柔道・剣道》	1	実技		1	
		武道Ⅱ《柔道・剣道》	2	実技		1	
外国語 コミュニケーション	2単位 以上	英語表現Ⅰ《初級》	1	演習		1	これら6科目より 2科目選択必修
		英語表現Ⅱ《初級》	2	演習		1	
		英語表現Ⅲ《中級》	1	演習		1	
		英語表現Ⅳ《中級》	2	演習		1	
		英語表現Ⅴ《上級》	1	演習		1	
		英語表現Ⅵ《上級》	2	演習		1	
数理、データ活用及 び人工知能に関する 科目又は情報機器の 操作	2単位 以上	情報処理Ⅰ(基礎)	1	演習	1		
		情報処理Ⅱ(応用)	2	演習	1		
合計	8単位 以上	合計			8単位以上		

「中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状」取得要件

- 条件 文学部生又は教育学部生又は現代日本社会学部生であって卒業単位を修得していること。
 教育の基礎的理解に関する科目等、教科及び教科の指導法に関する科目を修得していること。
 規則第66条の6に定める科目を修得していること。
 中学校教諭一種免許状取得については、大学が独自に設定する科目を修得すること。

○教育の基礎的理解に関する科目等〈文学部・現代日本社会学部〉

施行規則に定める科目区分等			単 位	備考				
科目	各科目に含めること が必要な事項	単 位						
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育学概論	1	講義	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）		教職論	3	講義	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の社会と制度	6	講義	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育・学校心理学	3	講義	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の基礎（中等）	4	講義	2		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論（中等）	5	講義	2		
生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳の理論及び指導法（中等）	5	講義	2		中一種免のみ 文学部のみ
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法（中等）	7	講義	1		
	特別活動の指導法		特別活動の指導法（中等）	5	講義	1		
	教育の方法及び技術		R4入学生 中等教育方法論（ICTの活用を含む） R3以前入学生 教育方法学（中等）	5	講義	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		-					「中等教育方法論（ICTの活用を含む）」（R4入学生）、「教育方法学（中等）」（R3以前入学生）を履修
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導の理論及び方法	5	講義	2		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談（中等）	6	講義	2		
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	-					「生徒・進路指導の理論及び方法」を履修		
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習事前事後指導（中等）	5-6	演習	1		隔週 「教育実習事前事後指導（中等）」については「教育実習Ⅰ」又は「教育実習Ⅱ」と同時履修すること。
			教育実習Ⅰ	5-6	実習	4		中免取得者は「教育実習Ⅰ」を高免取得者は「教育実習Ⅱ」を中高取得者は「教育実習Ⅰ」を履修すること。
			教育実習Ⅱ	5-6	実習	2		
	教職実践演習	2	教職実践演習（中等）	8	演習	2		
合計	中27単位以上 高23単位以上	合計	中29単位以上 高25単位以上					

(注) ○「道徳の理論及び指導法（中等）」を欠く場合は、中学校免許が取得できない。
 ○中学校・高等学校の免許と小学校の免許を併せて取得する場合は、中学校・高等学校免許の「教職実践演習（中等）」の単位を「教職実践演習（初等）」の単位に充当することができるので、「教職実践演習（初等）」を併せて履修する必要はない。
 （中学校・高等学校免許を主免許とする場合は、「教職実践演習（中等）」のみ履修登録すること。）

○大学が独自に設定する科目〈文学部〉

施行規則に定める科目区分等			単 位	備考			
科目区分	単 位	備考					
大学が独自に設定する科目	中4単位以上 高12単位以上	介護等体験実習	3-4	実習	1		隔週 中一種免のみ

※施行規則に定める単位数より不足している単位については「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科及び教科の指導法に関する科目」より流用。

○教育の基礎的理解に関する科目等〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等			本学開設授業科目	セメスター	種別	単 位		備 考
科目	各科目に含めることが必要な事項	単 位				必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教 育 学 概 論	1	講義	2		小一種免許単位充当
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。)		教 職 論	2	講義	2		小一種免許単位充当
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育の社会と制度	6	講義	2		小一種免許単位充当
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育・学校心理学	2	講義	2		小一種免許単位充当
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の基礎	3	講義	2		小一種免許単位充当
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	5・6	講義	2		小一種免許単位充当
生徒指導、総合的な学習の時間等の指導法及び教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳の理論及び指導法	1	講義	2		中一種免のみ 小一種免許単位充当
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	7	講義	1		小一種免許単位充当
	特別活動の指導法		特別活動の指導法	6	講義	1		小一種免許単位充当
	教育の方法及び技術		R4入学生 教育方法論(ICTの活用を含む) R3以前入学生 教育方法学	4	講義	2		小一種免許単位充当
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		-					「教育方法論(ICTの活用を含む)(R4入学生)、「教育方法学」(R3以前入学生)を履修
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導の理論及び方法	6	講義	2		小一種免許単位充当
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教 育 相 談	5・6	講義	2		小一種免許単位充当
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		-					「生徒・進路指導の理論及び方法」を履修
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習事前事後指導(中等)	5-6	演習	1		隔週「教育実習事前事後指導(中等)」については「教育実習Ⅰ」又は「教育実習Ⅱ」と同時履修すること。
			教 育 実 習 Ⅰ	5-6	実習		4	中免取得者は「教育実習Ⅰ」を高免取得者は「教育実習Ⅱ」を中高取得者は「教育実習Ⅰ」を履修すること。
	教職実践演習		2	教 職 実 践 演 習 (中 等)	8	演習	2	「教職実践演習(初等)」の単位充当
合 計	中27単位以上 高23単位以上	合 計		中29単位以上 高25単位以上				

(注) ○「道徳の理論及び指導法」を欠く場合は、中学校免許が取得できない。
 ○中学校・高等学校の免許と小学校の免許を併せて取得する場合は、中学校・高等学校免許の「教職実践演習(中等)」の単位を「教職実践演習(初等)」の単位に充当することができるので、「教職実践演習(初等)」を併せて履修する必要はない。
 (中学校・高等学校免許を主免許とする場合は、「教職実践演習(中等)」のみ履修登録すること。)
 ○学校教育コースの学生について、副免許である中学校実習は、小学校実習の2単位を流用するため、「教育実習Ⅰ(中学校)副免許2単位」を履修することで、「教育実習Ⅰ4単位」を修得できる。

○大学が独自に設定する科目〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等			本学開設授業科目	セメスター	種別	単 位		備 考
科目区分						必修	選択	
大学が独自に設定する科目	中4単位以上 高12単位以上		介 護 等 体 験 実 習	3-4	実習	1		隔週 中一種免のみ

*施行規則に定める単位数より不足している単位については「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科及び教科の指導法に関する科目」より流用。

○教科及び教科の指導法に関する科目

宗教（中学校一種・高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する専門的事項	宗 教 学	宗 教 学 概 論 I	3	講義	2		集中
		宗 教 学 概 論 II	4	講義	2		
		仏 教 概 説	3	講義		2	
		神 道 概 論 I	3	講義	2		
		神 道 概 論 II	4	講義	2		
		宗 教 学 講 義 I	3	講義	2		
		宗 教 学 講 義 II	4	講義	2		
		神 道 文 献	1	講義		2	
		神 道 教 化 概 論 I	5	講義		2	
		神 道 教 化 概 論 II	6	講義		2	
	宗 教 史	世 界 宗 教 史 I	5	講義	2		集中
		世 界 宗 教 史 II	6	講義	2		集中
		日 本 宗 教 史	4	講義		2	
		神 道 史 I	3	講義		2	
		神 道 史 II	4	講義		2	
		近 代 神 道 史	3	講義		2	
		神 宮 史 I	3	講義		2	
		神 宮 史 II	4	講義		2	
	「教理学、哲学」	神 道 神 学 I	7	講義	2		
		神 道 神 学 II	8	講義	2		
		祭 祀 概 論 I	3	講義		2	
		祭 祀 概 論 II	4	講義		2	
		日 本 思 想 史	3	講義		2	
		東 洋 思 想 史	5	講義		2	
		西 洋 思 想 史	6	講義		2	
		神 道 思 想 史	4	講義		2	
		哲 学 概 論	7	講義	2		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	宗 教 科 教 育 法 I	3	講義		2	
		宗 教 科 教 育 法 II	4	講義		2	
		宗 教 科 教 育 法 III	5	講義		2	
		宗 教 科 教 育 法 IV	6	講義		2	
	各科目の単位を満たし (中)28単位以上、(高)24単位以上		合 計		(中) 30単位以上 (高) 34単位以上		

※中学校のみ免許取得及び中学校・高等学校の免許取得の場合は「宗教科教育法Ⅰ～Ⅳ」必修、高等学校のみ免許取得の場合は「宗教科教育法Ⅰ～Ⅱ」を必修とする。

国語（中学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 事 項 の 指 導 法 に 関 す る 事 項	国 語 学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	国語学概論Ⅰ《音声・語彙》	1	講義	2		
		国語学概論Ⅱ《文法・書記》	4	講義	2		
		言語表現学概論Ⅰ	6	講義	2		
		言語表現学概論Ⅱ	7	講義	2		
		国語学講読Ⅰ	2	演習		2	
		国語学講読Ⅱ	3	演習		2	
		国語史概説Ⅰ	4	講義		2	
		国語史概説Ⅱ	5	講義		2	
	国 文 学 (国文学史を含む。)	国文学概論Ⅰ《古典文学》	5	講義	2		
		国文学概論Ⅱ《近代文学》	6	講義	2		
		国文学史概説Ⅰ 《上代・中古・中世》	1	講義	2		
		国文学史概説Ⅱ 《近世・近代・現代》	2	講義	2		
		古典文学講義ⅠA	4	講義		2	不開講
		古典文学講義ⅠB	4	講義		2	不開講
		古典文学講義ⅠC	4	講義		2	不開講
		古典文学講義ⅠD	4	講義		2	不開講
		近代文学講義ⅠA	4	講義		2	不開講
		近代文学講義ⅠB	4	講義		2	不開講
		古典文学講義ⅡA	5	講義		2	不開講
		古典文学講義ⅡB	5	講義		2	不開講
		古典文学講義ⅡC	5	講義		2	不開講
		古典文学講義ⅡD	5	講義		2	不開講
		近代文学講義ⅡA	5	講義		2	不開講
		近代文学講義ⅡB	5	講義		2	不開講
		古典文学講読ⅠA	2	演習		2	不開講
		古典文学講読ⅠB	2	演習		2	不開講
		古典文学講読ⅠC	2	演習		2	不開講
		古典文学講読ⅠD	2	演習		2	不開講
		近代文学講読ⅠA	2	演習		2	不開講
		近代文学講読ⅠB	2	演習		2	不開講
		古典文学講読ⅡA	3	演習		2	不開講
		古典文学講読ⅡB	3	演習		2	不開講
		古典文学講読ⅡC	3	演習		2	不開講
		古典文学講読ⅡD	3	演習		2	不開講
		近代文学講読ⅡA	3	演習		2	不開講
		近代文学講読ⅡB	3	演習		2	不開講
	国文法概説Ⅰ	3	講義		2		
	国文法概説Ⅱ	4	講義		2		
	漢 文 学	漢文学概論Ⅰ《春秋戦国～漢代》	3	講義	2		
		漢文学概論Ⅱ《六朝～明清》	4	講義	2		
		漢文学講読Ⅰ	2	演習		2	
		漢文学講読Ⅱ	3	演習		2	
書 道 (書写を中心とする。)	書道Ⅰ	3	実技	1			
	書道Ⅱ	4	実技	1			
	専門演習ⅠⅠ(書道史)	5	演習		2	国文学科のみ履修可	
	専門演習ⅡⅠ(書道史)	6	演習		2	国文学科のみ履修可	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法Ⅰ	3	講義	2			
	国語科教育法Ⅱ	4	講義	2			
	国語科教育法Ⅲ	5	講義	2			
	国語科教育法Ⅳ	6	講義	2			
合 計	各科目の単位を満たし 合計28単位以上	合 計		30単位以上			

カリキュラム

(教免取得要件

国語

中一種

H31~R4)

国語（高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めること が必要な事項				必修	選択	
教科 科 に 関 す る 指 導 法 に 関 す る 科 目	国 語 学 (音声言語及び文章表現 に関するものを含む。)	国語学概論Ⅰ《音声・語彙》	1	講義	2		
		国語学概論Ⅱ《文法・書記》	4	講義	2		
		言語表現学概論Ⅰ	6	講義	2		
		言語表現学概論Ⅱ	7	講義	2		
		国語学講読Ⅰ	2	演習		2	
		国語学講読Ⅱ	3	演習		2	
		国語史概説Ⅰ	4	講義		2	
		国語史概説Ⅱ	5	講義		2	
	国 文 学 (国文学史を含む。)	国文学概論Ⅰ《古典文学》	5	講義	2		
		国文学概論Ⅱ《近代文学》	6	講義	2		
		国文学史概説Ⅰ 《上代・中古・中世》	1	講義	2		
		国文学史概説Ⅱ 《近世・近代・現代》	2	講義	2		
		古典文学講義ⅠA	4	講義		2	不開講
		古典文学講義ⅠB	4	講義		2	
		古典文学講義ⅠC	4	講義		2	
		古典文学講義ⅠD	4	講義		2	
		近代文学講義ⅠA	4	講義		2	不開講
		近代文学講義ⅠB	4	講義		2	
		古典文学講義ⅡA	5	講義		2	
		古典文学講義ⅡB	5	講義		2	
		古典文学講義ⅡC	5	講義		2	不開講
		古典文学講義ⅡD	5	講義		2	
		近代文学講義ⅡA	5	講義		2	
		近代文学講義ⅡB	5	講義		2	
		古典文学講読ⅠA	2	演習		2	不開講
		古典文学講読ⅠB	2	演習		2	
		古典文学講読ⅠC	2	演習		2	
		古典文学講読ⅠD	2	演習		2	
		近代文学講読ⅠA	2	演習		2	不開講
		近代文学講読ⅠB	2	演習		2	
		古典文学講読ⅡA	3	演習		2	
		古典文学講読ⅡB	3	演習		2	
	古典文学講読ⅡC	3	演習		2	不開講	
	古典文学講読ⅡD	3	演習		2		
近代文学講読ⅡA	3	演習		2			
近代文学講読ⅡB	3	演習		2			
国文法概説Ⅰ	3	講義		2			
国文法概説Ⅱ	4	講義		2			
漢 文 学	漢文学概論Ⅰ《春秋戦国～漢代》	3	講義	2			
	漢文学概論Ⅱ《六朝～明清》	4	講義	2			
	漢文学講読Ⅰ	2	講義		2		
	漢文学講読Ⅱ	3	講義		2		
各教科の指導法（情報通信技術 の活用を含む。)	国語科教育法Ⅰ	3	講義	2			
	国語科教育法Ⅱ	4	講義	2			
	国語科教育法Ⅲ	5	講義		2		
	国語科教育法Ⅳ	6	講義		2		
合 計	各科目の単位を満たし 合計24単位以上	合 計		34単位以上			

カリキュラム

(教免取得要件

国語 高一種

H31~R4)

書道（高等学校一種） 国文学科のみ

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めること が必要な事項				必修	選択	
教科 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 事 項 科 目	書 道 (書写を含む。)	書 I (漢 字 書 法)	5	実技	1		隔週 2コマ
		書 II (漢 字 書 法)	6	実技	1		隔週 2コマ
		書 III (金 石 書 法)	5	実技	1		
		書 IV (金 石 書 法)	6	実技	1		
		書 V (仮 名 書 法)	7	実技	1		
		書 VI (仮 名 書 法)	8	実技	1		
		書 VII (作 品 制 作)	7	実技	1		隔週 2コマ
		書 VIII (作 品 制 作)	8	実技	1		隔週 2コマ
		書 道 I	3	実技		1	
		書 道 II	4	実技		1	
	書 道 史	専門演習 I I (書道史)	5	演習	2		
		専門演習 II I (書道史)	6	演習	2		
	「書論、鑑賞」	書 論 ・ 鑑 賞	5	講義	2		
	「国文学、漢文学」	国文学概論 I 《古典文学》	5	講義	2		
		国文学概論 II 《近代文学》	6	講義	2		
		国 学 史 概 説 I 《上代・中古・中世》	1	講義	2		
		国 学 史 概 説 II 《近世・近代・現代》	2	講義	2		
		漢文学概論 I 《春秋戦国～漢代》	3	講義	2		
		漢文学概論 II 《六朝～明清》	4	講義	2		
		古典文学講義 I A	4	講義		2	不開講
		古典文学講義 I B	4	講義		2	
		古典文学講義 I C	4	講義		2	
		古典文学講義 I D	4	講義		2	
		近代文学講義 I A	4	講義		2	
		近代文学講義 I B	4	講義		2	
		古典文学講読 I A	2	演習		2	不開講
		古典文学講読 I B	2	演習		2	
		古典文学講読 I C	2	演習		2	
		古典文学講読 I D	2	演習		2	
		近代文学講読 I A	2	演習		2	不開講
		近代文学講読 I B	2	演習		2	
		漢 文 学 講 読 I	2	演習		2	
		漢 文 学 講 読 II	3	演習		2	
	国 文 法 概 説 I	3	講義		2		
国 文 法 概 説 II	4	講義		2			
各教科の指導法（情報通信 技術の活用を含む。）	書道科教育法 I	3	講義	2			
	書道科教育法 II	4	講義	2			
合 計	各科目の単位を満たし 合計24単位以上	合 計		34単位以上			

社会（中学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 事 項 目	日本史・外国史	国史概説 A《古代》	4	講義	2		
		国史概説 B《中世》	3	講義	2		
		国史概説 C《近世》	2	講義	2		
		国史概説 D《近現代》	1	講義	2		
		東洋史概説 I	3	講義	2		
		東洋史概説 II	4	講義		2	
		西洋史概説 I	3	講義	2		
		西洋史概説 II	4	講義		2	
		史学概論	4	講義		2	
		古文書学 I	3	講義		2	
		古文書学 II	4	講義		2	
		史料講読 A I《古代》	3	演習		2	
		史料講読 A II《古代》	4	演習		2	
		史料講読 B I《中世》	3	演習		2	
		史料講読 B II《中世》	4	演習		2	
		史料講読 C I《近世》	3	演習		2	
		史料講読 C II《近世》	4	演習		2	
		史料講読 D I《近代》	3	演習		2	
		史料講読 D II《近代》	4	演習		2	
		史料講読 E I《東洋史》	3	演習		2	
		史料講読 E II《東洋史》	4	演習		2	
		日本史学史	2	講義		2	
		考古学 I	3	講義		2	
		考古学 II	4	講義		2	
		美術史 I	3	講義		2	
		美術史 II	4	講義		2	
		東洋思想史	5	講義		2	
		西洋思想史	6	講義		2	
地理学（地誌を含む。）	人文地理学 I	3	講義	2		集中	
	人文地理学 II	4	講義		2		
	自然地理学	2	講義	2			
	歴史地理学 I	5	講義		2		
	歴史地理学 II	5	講義		2		
地誌学	4	講義	2				
「法学、政治学」	法律学概論	4	講義		2	法学概論又は政治学概論の何れか選択必修	
	法制史特講	8	講義		2		
	政治学概論	5	講義		2		
「社会学、経済学」	社会学概論	3	講義		2	社会学概論又は経済学概論の何れか選択必修	
	社会学特講	3	講義		2		
	社会学概論	3	講義		2		
「哲学、倫理学、宗教学」	社会学経済史	7	講義		2	集中	
	哲学概論	7	講義		2	哲学概論又は宗教学概論 I・IIの何れか選択必修	
	日本思想史	3	講義		2		
	宗教学概論 I	3	講義		2		
	宗教学概論 II	4	講義		2		
	日本宗教史	4	講義		2		
世界宗教史 I	5	講義		2			
世界宗教史 II	6	講義		2	集中		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	社会科・地理歴史科教育法 I	3	講義	2			
	社会科・地理歴史科教育法 II	4	講義	2			
	社会科・公民科教育法 I	3	講義	2			
	社会科・公民科教育法 II	4	講義	2			
合 計	各科目の単位を満たし 合計28単位以上	合 計		32単位以上			

カリキュラム

（教免取得要件 社会 中一種 H31~R4）

地理歴史（高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	日本史	国史概説 A《古代》	4	講義	2		
		国史概説 B《中世》	3	講義	2		
		国史概説 C《近世》	2	講義	2		
		国史概説 D《近現代》	1	講義	2		
		史料講読 A I《古代》	3	演習		2	
		史料講読 A II《古代》	4	演習		2	
		史料講読 B I《中世》	3	演習		2	
		史料講読 B II《中世》	4	演習		2	
		史料講読 C I《近世》	3	演習		2	
		史料講読 C II《近世》	4	演習		2	
		史料講読 D I《近代》	3	演習		2	
		史料講読 D II《近代》	4	演習		2	
		古文書学 I	3	講義		2	
		古文書学 II	4	講義		2	
		日本史学史	2	講義		2	
		考古学 I	3	講義		2	
		考古学 II	4	講義		2	
		美術史 I	3	講義		2	
	美術史 II	4	講義		2		
	外国史	東洋史概説 I	3	講義	2		
		東洋史概説 II	4	講義		2	
		西洋史概説 I	3	講義	2		
		西洋史概説 II	4	講義		2	
		東洋思想史	5	講義		2	
		西洋思想史	6	講義		2	
		史学概論	4	講義		2	
		外国史特講《東洋史》	6	講義		2	
		史料講読 E I《東洋史》	3	演習		2	
		史料講読 E II《東洋史》	4	演習		2	
	人文地理学・自然地理学	人文地理学 I	3	講義	2		集中
		人文地理学 II	4	講義		2	
		自然地理学	2	講義	2		
		歴史地理学 I	5	講義		2	
歴史地理学 II		5	講義		2		
地誌	地誌学	4	講義	2			
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	社会科・地理歴史科教育法 I	3	講義	2			
	社会科・地理歴史科教育法 II	4	講義	2			
合計	各科目の単位を満たし合計24単位以上	合計		34単位以上			

公民（高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する専門的事項	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む）」	法 律 学 概 論	4	講義	2		
		法 制 史 特 講	8	講義		2	
		政 治 学 概 論	5	講義	2		
		政 治 学 特 講	7	講義		2	
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社 会 学 概 論	3	講義	2		現日は2セメ
		社 会 学 特 講	3	講義		2	
		経 済 学 概 論	3	講義	2		
		社 会 経 済 史	7	講義		2	集中
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲 学 概 論	7	講義	2		
		日 本 思 想 史	3	講義		2	
		宗 教 学 概 論 I	3	講義	2		
		宗 教 学 概 論 II	4	講義	2		
		日 本 宗 教 史	4	講義		2	
		世 界 宗 教 史 I	5	講義		2	集中
世 界 宗 教 史 II		6	講義		2	集中	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」	心理学 概 論 I	1	講義	2			
	社会科・公民科教育法 I	3	講義	2			
合 計	各科目の単位を満たし合計24単位以上	社会科・公民科教育法 II	4	講義	2		
		合 計			34単位以上		

英語（中学校一種・高等学校一種）

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科及び 関連する 教科の指導 法に関する 事項	英 語 学	英 語 学 概 論 I	1	講義	2		
		英 語 学 概 論 II	2	講義		2	
		英 語 音 声 学 I	3	演習	2		
		英 語 音 声 学 II	4	演習		2	
		英 文 法 I	1	講義	2		
		英 文 法 II	2	講義		2	
	英 語 文 学	英 文 学 概 論 I	3	講義	2		
		英 文 学 概 論 II	4	講義	2		
	英語コミュニケーション	プラクティカル・ イングリッシュ I	3	演習	2		
		プラクティカル・ イングリッシュ II	4	演習	2		
		リーディング・ ライティングスキル I	3	演習		2	
		リーディング・ ライティングスキル II	4	演習		2	
		英 会 話 中 級	5	演習		2	
		英 会 話 上 級	6	演習		2	
		時 事 英 語	7	演習		2	
	異文化理解	異文化間コミュニケーション I	3	講義	2		
		異文化間コミュニケーション II	4	講義	2		
		海 外 事 情 I	1	講義		2	
		海 外 事 情 II	2	講義		2	
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	英 語 科 教 育 法 I	3	講義		2	※
		英 語 科 教 育 法 II	4	講義		2	※
		英 語 科 教 育 法 III	5	講義		2	※
		英 語 科 教 育 法 IV	6	講義		2	※
	各科目の単位を満たし (中)28単位以上、(高)24単位以上		合 計			(中) 30単位以上 (高) 34単位以上	

※中学校のみ免許取得及び中学校・高等学校の免許取得の場合は「英語科教育法Ⅰ～Ⅳ」必修、高等学校のみ免許取得の場合は「英語科教育法Ⅰ～Ⅱ」を必修とする。

保健体育（中学校一種・高等学校一種）〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する事項	体育実技	体育実技(陸上)	4	演習	2		集中
		体育実技(器械運動・体づくり運動)	3	演習	2		
		体育実技(ダンス・舞踊)	5	演習	2		
		体育実技(球技)	3	演習	2		
		体育実技(水泳)	3	演習	1		
		体育実技(柔道)	3・4	演習	2		
		体育実技(スキー・スノーボード)	4	演習		1	
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)	体育原理	1	講義	2		集中
		体育史	2	講義		2	
		体育心理学	4	講義		2	
		体育経営管理学	6	講義		2	
		体育社会学	5	講義		2	
		運動学(運動方法学)	6	講義	2		
	生理学(運動生理学を含む)	生理学	2	講義	2		隔週
		バイオメカニクス	3	講義		2	
	衛生学・公衆衛生学	衛生学	3	講義	2		
		公衆衛生学	4	講義		2	
	学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健	5	講義	2		
		子どもの保健	5	講義		2	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	保健体育科教育法Ⅰ	3	講義		2	※
		保健体育科教育法Ⅱ	4	講義		2	※
		保健体育科教育法Ⅲ	5	講義		2	※
		保健体育科教育法Ⅳ	6	講義		2	※
各科目の単位を満たし (中)28単位以上、(高)24単位以上		合 計		(中)29単位以上 (高)34単位以上			

※中学校のみ免許取得及び中学校・高等学校の免許取得の場合は「保健体育科教育法Ⅰ～Ⅳ」必修、高等学校のみ免許取得の場合は「保健体育科教育法Ⅰ～Ⅱ」を必修とする。

「小学校教諭一種免許状」取得要件 教育学部

- 条件 教育学部生であって卒業単位を修得していること。
- 教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目、教科及び教科の指導法に関する科目を修得していること。
- 規則第66条の6に定める科目を修得していること。

○教育の基礎的理解に関する科目等〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等			本学開設授業科目	セメスター	種別	単 位		備 考
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位				必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育学概論	1	講義	2		中一種免許単位充当
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。)		教職論	2	講義	2		中一種免許単位充当
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育の社会と制度	6	講義	2		中一種免許単位充当
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育・学校心理学	2	講義	2		中一種免許単位充当
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の基礎	3	講義	2		中一種免許単位充当
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	5・6	講義	2		中一種免許単位充当
生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳の理論及び指導法	1	講義	2		中一種免許単位充当
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	7	講義	1		中一種免許単位充当
	特別活動の指導法		特別活動の指導法	6	講義	1		中一種免許単位充当
	教育の方法及び技術		R4入学生 教育方法論(ICTの活用を含む) R3以前入学生 教育方法学	4	講義	2		中一種免許単位充当
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		-					「教育方法論(ICT活用を含む)」(R4入学生)、「教育方法学」(R3以前入学生)を履修
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導の理論及び方法	6	講義	2		中一種免許単位充当
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談	5・6	講義	2		中一種免許単位充当
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	-					「生徒・進路指導の理論及び方法」を履修		
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習事前事後指導(小学校)	5-6	演習	1		隔週
			教育実習(小学校)	5-6	実習	4		
	教職実践演習	2	教職実践演習(初等)	8	演習	2		「教職実践演習(中等)」の単位充当
合 計		27単位以上	合 計		29単位以上			

(注) ○小学校免許を副免許とする場合、主免許の実習の2単位を流用するため「教育実習(小学校)副免許2単位」を履修することで、「教育実習(小学校)4単位」を修得できる。

○大学が独自に設定する科目〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等			本学開設授業科目	セメスター	種別	単 位		備 考
科目区分	単位	必修				選択		
大学が独自に設定する科目	小2単位以上	介護等体験実習	3-4	実習	1		隔週	

*施行規則に定める単位数より不足している単位については「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科及び教科の指導法に関する科目」より流用。

○教科及び教科の指導法に関する科目〔小学校〕〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する専門的事項	国 語 (書写を含む。)	児 童 国 語	3	演習		2	書写を含む 10単位以上 選択必修
	社 会	児 童 社 会	4	演習		2	
	算 数	児 童 算 数	3	演習		2	
	理 科	児 童 理 科	3・4	演習		2	
	生 活	児 童 生 活	3	演習		2	
	音 楽	児 童 音 楽	3・4	演習		2	
	図画工作	児 童 造 形	3・4	演習		2	
	家 庭	児 童 家 庭	3・4	演習		2	
	体 育	児 童 体 育	5・6	演習		2	
	外 国 語	児 童 英 語	4	演習		2	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	国 語 (書写を含む。)	国 語 科 教 育 法	4	講義	2		
	社 会	社 会 科 教 育 法	3	講義	2		
	算 数	算 数 科 教 育 法	4	講義	2		
	理 科	理 科 教 育 法	3	講義	2		
	生 活	生 活 科 教 育 法	6	講義	2		
	音 楽	音 楽 科 教 育 法	3・4	講義	2		
	図画工作	図 画 工 作 科 教 育 法	5・6	講義	2		
	家 庭	家 庭 科 教 育 法	6	講義	2		
	体 育	体 育 科 教 育 法	4	講義	2		
	外 国 語	英 語 科 教 育 法	5・6	講義	2		
合 計	30単位以上	合 計			30単位以上		

「幼稚園教諭一種免許状」取得要件

- 条件 教育学部生であって卒業単位を修得していること。
 教育の基礎的理解に関する科目等、領域及び保育内容の指導法に関する科目を修得していること。
 規則第66条の6に定める科目を修得していること。

注意 施行規則に定める「大学が独自に設定する科目」(14単位)については、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「領域及び保育内容の指導法に関する科目」より流用。

○教育の基礎的理解に関する科目等〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等			本学開設授業科目	セメスター	種別	単 位		備 考
科目	各科目に含めること が必要な事項	単位				必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育学概論	1	講義	2		小一種免許単位充当
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2	講義	2		小一種免許単位充当
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育の社会と制度	6	講義	2		小一種免許単位充当
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		子どもの心理学	3	講義	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		教育・学校心理学	2	講義	2		小一種免許単位充当
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		特別支援教育の基礎	3	講義	2		小一種免許単位充当
			教育課程論	5・6	講義	2		小一種免許単位充当
道徳、総合的な学習の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	R4入学生 教育方法論(ICTの活用を含む) R3以前入学生 教育方法学	4	講義	2		小一種免許単位充当
	幼児理解の理論及び方法		幼児理解	4	演習	1		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談	5・6	講義	2		小一種免許単位充当
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習事前事後指導(幼稚園)	5-6	演習	1		隔週
			教育実習(幼稚園)	5-6	実習	4		
	教職実践演習	2	教職実践演習(初等)	8	演習	2		小一種免許単位充当
合 計		21単位以上	合 計		26単位以上			

○領域及び保育内容の指導法に関する科目〔幼稚園〕〈教育学部〉

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項				必修	選択	
領域に関する専門的事項	国 語	児 童 国 語	3	演習	2		
	算 数	児 童 算 数	3	演習	2		
	生 活	児 童 生 活	3	演習	2		
	音 楽	児 童 音 楽	3・4	演習	2		
	図画工作	児 童 造 形	3・4	演習	2		
	体 育	児 童 体 育	5・6	演習	2		
保育内容の指導法の活用を含む。	保育内容の指導法	保 育 指 導 の 方 法	5	講義	2		
	保育内容の指導法 健 康	健 康 (指 導 法)	4	演習	2		
	保育内容の指導法 人 間 関 係	人 間 関 係 (指 導 法)	2	演習	2		
	保育内容の指導法 環 境	環 境 (指 導 法)	4	演習	2		
	保育内容の指導法 言 葉	言 葉 (指 導 法)	3	演習	2		集中
	保育内容の指導法 表 現	身 体 表 現 (指 導 法)	5	演習	2		
造 形 表 現 (指 導 法)		3	演習	2			
合計	16単位以上	合 計			26単位以上		

「教員免許状の取得要件」

○教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〈全教員免許共通〉

〈文学部・教育学部・現代日本社会学部〉

施行規則に定める 科目区分	単位	本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
					必修	選択	
日 本 国 憲 法	2単位 以上	法 学 (日 本 国 憲 法)	3	講義	2		
体 育	2単位 以上	ス ポ ー ツ I	1	実技		1	これら6科目より 2科目選択必修
		ス ポ ー ツ II	2	実技		1	
		アダプテッドスポーツ I	1	実技		1	
		アダプテッドスポーツ II	2	実技		1	
		武道 I 《柔道・剣道》	1	実技		1	
		武道 II 《柔道・剣道》	2	実技		1	
外国語 コミュニケーション	2単位 以上	英 語 表 現 I 《初 級》	1	演習		1	これら6科目より 2科目選択必修
		英 語 表 現 II 《初 級》	2	演習		1	
		英 語 表 現 III 《中 級》	1	演習		1	
		英 語 表 現 IV 《中 級》	2	演習		1	
		英 語 表 現 V 《上 級》	1	演習		1	
		英 語 表 現 VI 《上 級》	2	演習		1	
数理、データ活用及 び人工知能に関する 科目又は情報機器の 操作	2単位 以上	情 報 処 理 I (基 礎)	1	演習	1		
		情 報 処 理 II (応 用)	2	演習	1		
合 計	8単位 以上	合 計			8単位以上		

「特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）」取得要件

- 条件 ア. 教育学部教育学科特別支援教育コース生であって卒業単位及び小学校または中・高保健体育の基礎免許状を修得していること。
- イ. 特別支援教育に関する科目の単位を修得していること。
- ウ. 小学校実習または中・高（保健体育）実習を履修済または同時履修であること。
- エ. 規則第66条の6に定める科目を修得していること。

○特別支援教育に関する科目〔特別支援学校〕〈教育学部〉

免許法施行規則に規定する科目名	単位	本学開設授業科目	中心となる領域	含む領域	Semester	種別	単位		備考
							必修	選択	
特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育総論			3	講義	2		
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害児の心理・生理・病理	知的障害者		4	講義	2		不開講
		肢体不自由児の心理・生理・病理	肢体不自由者	知的障害者 病弱者	4	講義	2		不開講
		病弱児の心理・生理・病理	病弱者	知的障害者 肢体不自由者	5	講義	2		不開講
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	特別支援教育課程論	知的障害者	肢体不自由者 病弱者	4	講義	2		
		障害児療育論	肢体不自由者	知的障害者 病弱者	3	講義	2		
		病弱児教育方法	病弱者	肢体不自由者 視覚障害者 聴覚障害者	5	講義	2		
		障害児心理学	知的障害者	肢体不自由者	4	講義	2		
		知的障害教育Ⅰ	知的障害者	肢体不自由者 病弱者	3	講義	2		不開講
知的障害教育Ⅱ	知的障害者	肢体不自由者 病弱者	5	講義	2	2	不開講		
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	障害児指導法Ⅱ（心理等）	視覚障害者		6	講義	1		不開講
		障害児指導法Ⅲ（心理等）	聴覚障害者		6	講義	1		不開講
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	障害児指導法Ⅱ（教育課程等）	視覚障害者		6	講義	1		不開講
		障害児指導法Ⅲ（教育課程等）	聴覚障害者		6	講義	1		不開講
		特別支援教育授業論	重複・LD等領域		6	講義	2		不開講
		障害児指導法Ⅰ	重複・LD等領域		5	講義	2		不開講 言語・情緒・LD・ADHD
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援教育実習事前事後指導			7-8	演習	1		不開講
		特別支援教育実習			7-8	実習	2		不開講
合計	26単位以上	合計				28単位以上			

カリキュラム

（教免取得要件

特支一種〈教育学部〉

H31~4

小学校教諭一種・二種免許状について (文学部 国文・国史・コミュニケーション学科生対象)

対象学生	文学部国文・国史・コミュニケーション学科学生
免許状の種類 条件	小学校教諭一種、小学校教諭二種 小学校教諭一種または二種免許状を取得するためには、中学校教諭一種免許状の取得が条件となります。
教育実習	中学校での3週間の実習及び実習指導（5単位）が、小学校の必要単位数5単位中の3単位まで充当できます。したがって不足する単位については小学校で2週間の教育実習（2単位）及び事前事後指導（1単位）をもって充てます。
実習年次・ 期間・時期	実施時期は4年次の9月となります。 また、事前事後指導は教育学部の小学校教諭一種履修者と同時に行います。
成績評価	成績評価は、実施年度の年度末に、実習校の評価と、実習日誌等実習中の資料、事前・事後指導の出席をあわせて総合評価します。 ただし、履修登録がされていない場合は、実習を行っても成績の評価は出ませんので必ず登録してください。
履修資格	1年次（10月）に実施される「小学校免許取得希望者説明会」へ必ず出席してください。 履修資格は、3年次終了までに次の科目が修得済みであり、それぞれの履修状況もとに教職課程・保育士資格部会で認めたとします。 なお、事前事後指導について、正当な理由（試験規程第10条P.231）なしに無断欠席した者については、教育実習を放棄したものとみなします。 ※実習の手続き及び実習費については、別途教職支援担当が実施する「予備指導」で説明します。期限内に手続き及び実習費の納入がない場合は、教育実習を放棄したものとみなします。
免許状の申請	4年間で必要単位が修得できた場合、中学校教諭一種免許状と同時に申請します。
免許状の交付	※一種免許状の「免許状の申請」の欄を参照してください。 学位記授与式当日の交付となります。
科目・単位	中学校教諭一種免許状を取得するのに必要な科目の単位が、小学校教諭一種、小学校教諭二種免許状で必要な科目の単位の一部に充てることができます。詳しくは、次ページからのカリキュラム表を参照してください。
その他	時間割の都合上、4年間で必要単位が修得できない場合があります。その場合は卒業後科目等履修生で不足単位を修得して、教育委員会に個人申請すれば小学校教諭一種または二種免許状が交付されます。

「小学校教諭一種及び二種免許状」取得要件 文学部

- 条件 文学部生であって卒業単位を修得していること。
 教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目、教科及び教科の指導法に関する科目を修得していること。
 規則第66条の6に定める科目を修得していること。

○教育の基礎的理解に関する科目等〈文学部〉

施行規則に定める科目区分等			科目	各科目に含めること が必要な事項	単 位 ()は二種免	本学開設授業科目	セメスター	種別	単 位		備 考
		必修							選択		
教育の基礎的理解に関する科目			教育学概論	1	講義	2				中一種免許単位充当	
			教職論	3	講義	2				中一種免許単位充当	
			教育の社会と制度	6	講義	2				中一種免許単位充当	
			教育・学校心理学	3	講義	2				中一種免許単位充当	
			特別支援教育の基礎	3	講義	2					
			教育課程論	5・6	講義	2					
生徒指導、総合的な学習の時間等の指導法及び教育相談等に関する科目			道徳の理論及び指導法	1	講義	2				中一種免許単位充当	
			総合的な学習の時間の指導法	7	講義	1					
			特別活動の指導法	6	講義	1					
			教育の方法及び技術	4	講義	2					
			情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	-						「教育方法論(ICT活用を含む)」「R4以降入学生」「教育方法学」(R3以前入学生)を履修	
			生徒指導の理論及び方法	6	講義	2				中一種免許単位充当	
			教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	6	講義	2					
			進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	-						「生徒・進路指導の理論及び方法」を科目流用	
関する科目に			教育実習(小学校)	5-6	演習	1				※	
			教育実習(小学校)	5-6	実習	4					
			教職実践演習	8	演習	2				「教職実践演習(中等)」の単位充当	
合 計		27単位以上 (19単位以上)	合 計		29単位以上						

(注)「教育実習事前事後指導(小学校)」及び「教育実習(小学校)」について、小学校教諭一種及び二種免許取得予定者は、7-8セメスターにて履修すること。

※教育実習必要5単位の内訳

小一・二種免：「教育実習事前事後指導(小学校)1単位」+「教育実習(小学校)4単位(うち中一種免許取得単位流用2単位)」
 よって、「教育実習(小学校)副免許2単位」を履修することで、「教育実習(小学校)4単位」を修得できる。

○大学が独自に設定する科目〈文学部〉

施行規則に定める科目区分等			科目区分	単 位	本学開設授業科目	セメスター	種別	単 位		備 考
		必修						選択		
大学が独自に設定する科目		小2単位以上	介護等体験実習	3-4	実習	1			隔週	

※施行規則に定める単位数より不足している単位については「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科及び教科の指導法に関する科目」より流用。

○教科及び教科の指導法に関する科目〔小学校一種〕〈文学部〉

施行規則に定める科目区分等		本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考	
科目区分	各科目に含めること が必要な事項				必修	選択		
教科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目	教科に関する専門的 事項	国 語 (書写を含む。)	児 童 国 語	3	演習		2	書写を含む。 10単位以上 選択必修
		社 会	児 童 社 会	4	演習		2	
		算 数	児 童 算 数	3	演習		2	
		理 科	児 童 理 科	3・4	演習		2	
		生 活	児 童 生 活	3	演習		2	
		音 楽	児 童 音 楽	3・4	演習		2	
		図画工作	児 童 造 形	3・4	演習		2	
		家 庭	児 童 家 庭	3・4	演習		2	
		体 育	児 童 体 育	5・6	演習		2	
		外 国 語	児 童 英 語	4	演習		2	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	国 語 (書写を含む。)	国 語 科 教 育 法	4	講義	2			
	社 会	社 会 科 教 育 法	3	講義	2			
	算 数	算 数 科 教 育 法	4	講義	2			
	理 科	理 科 教 育 法	3	講義	2			
	生 活	生 活 科 教 育 法	6	講義	2			
	音 楽	音 楽 科 教 育 法	3・4	講義	2			
	図画工作	図 画 工 作 科 教 育 法	5・6	講義	2			
	家 庭	家 庭 科 教 育 法	6	講義	2			
	体 育	体 育 科 教 育 法	4	講義	2			
	外 国 語	英 語 科 教 育 法	5・6	講義	2			
合 計	30単位以上	合 計			30単位以上			

○教科及び教科の指導法に関する科目〔小学校二種〕〈文学部〉

施行規則に定める科目区分等		各科目に含めること が必要な事項	本学開設授業科目	セメスター	種別	単位数		備 考
科目区分	必修					選択		
教科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目	教科に関する専門的事項	国 語 (書写を含む。)	児 童 国 語	3	演習		2	書写を含む。 4単位以上 選択必修
		社 会	児 童 社 会	4	演習		2	
		算 数	児 童 算 数	3	演習		2	
		理 科	児 童 理 科	3・4	演習		2	
		生 活	児 童 生 活	3	演習		2	
		音 楽	児 童 音 楽	3・4	演習		2	
		図画工作	児 童 造 形	3・4	演習		2	
		家 庭	児 童 家 庭	3・4	演習		2	
		体 育	児 童 体 育	5・6	演習		2	
		外 国 語	児 童 英 語	4	演習		2	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		国 語 (書写を含む。)	国 語 科 教 育 法	4	講義		2	国語科教育法・社会 科教育法・生活科教 育法・英語科教育法 から4単位、算数科 教育法・理科教育法・ 家庭科教育法から4 単位、音楽科教育法・ 図画工作科教育法・ 体育科教育法から4 単位、計12単位以上 修得のこと。
		社 会	社 会 科 教 育 法	3	講義		2	
		算 数	算 数 科 教 育 法	4	講義		2	
		理 科	理 科 教 育 法	3	講義		2	
		生 活	生 活 科 教 育 法	6	講義		2	
		音 楽	音 楽 科 教 育 法	3・4	講義		2	
		図画工作	図 画 工 作 科 教 育 法	5・6	講義		2	
		家 庭	家 庭 科 教 育 法	6	講義		2	
		体 育	体 育 科 教 育 法	4	講義		2	
		外 国 語	英 語 科 教 育 法	5・6	講義		2	
合 計	16単位以上	合 計			16単位以上			

カリキュラム

(教免取得要件

小学校二種〈文学部〉

H31~R8)

図書館司書課程

地域における社会教育の充実と強化が求められる今日において、地域住民の身近にあって生涯学習を積極的に支援する公共施設が図書館です。その図書館に勤める司書は、資料の収集・分類・整理をするとともに、情報提供や読書推進等の業務に従事するスペシャリストです。

昨今の情報化、国際化、高齢化、少子化等の進展による急速な社会変化の要求に対応し、図書館利用者のニーズに応え得る司書の育成を目的としています。

資格取得要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学士の学位を有すること。 2. 図書館司書課程に関する所定科目の単位を修得していること。 3. 1年次に課程費を納めていること。
単 位	必修13科目26単位、選択2科目4単位
課 程 費	20,000円 1年次の履修登録と同時に所定の方法により納入してください。
資格証の授与	所定科目の単位を修得した者に対して、学位記授与式当日に資格証を交付します。
卒業後の資格取得における注意事項	<p>図書館司書課程履修者において、所定科目の単位を修得できずに卒業した場合でも、不足した単位を科目等履修生で修得した場合は、資格を取得することができます。</p> <p>ただし、以下の点に注意してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 資格証の発行はできませんが、卒業証明書及び単位成績証明書を揃えることで、図書館司書に関する科目を取得したことを証明できます。 (参照：文部省「司書資格証明書交付のとり止めについて」昭和42年1月24日文社社第47号社会教育局長通知準拠) 2) 経年によって法改正等で科目の改定がなされた場合、旧図書館司書課程にて修得済みの所定科目の単位は、新図書館司書課程科目の単位に配当できずに失効する場合があります。 (参照：「図書館法施行規則」昭和25年9月6日文部省令第27号・最終改正：令和4年9月30日文部科学省令第34号)

図書館司書課程科目
文学部（国文学科・国史学科）

カリキュラム

(図書館司書課程科目 H31~R8)

法定基準		本学基準		種別	単位	配当年次・セメスター								備考
科目名		科目名				1年次		2年次		3年次		4年次		
						1	2	3	4	5	6	7	8	
必	生涯学習概論	2	生涯学習論	講義	2		○							2クラス、必ずaクラスまたはbクラスを履修すること
	図書館概論	2	図書館概論	講義	2	○								▲
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	講義	2				○					△▲
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	講義	2				○					△▲
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	講義	2			○						△▲
	情報サービス論	2	情報サービス論	講義	2				○					△▲
	児童サービス論	2	子どもの本と児童サービス	講義	2				○					▲
	情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ	演習	2					○				△▲
				情報サービス演習Ⅱ	演習	2					○			△▲
				図書館情報資源概論	講義	2	○							▲
修	情報資源組織論	2	情報資源組織論	講義	2			○					▲	
	情報資源組織演習Ⅰ	2	情報資源組織演習Ⅰ	演習	2				○				△▲	
	情報資源組織演習Ⅱ	2	情報資源組織演習Ⅱ	演習	2					○			△▲	
選	図書館基礎特論	1												
	図書館サービス特論	1												
	図書館情報資源特論	1												
	図書・図書館史	1	書物と図書館の文化史	講義	2			○					▲	
	図書館施設論	1	図書館施設論	講義	2						○		△▲	
	図書館総合演習	1												
図書館実習	1													

(必修13科目26単位、選択2科目4単位修得のこと)

【令和5～8年度の入学生】

△は課程科目となるため、卒業進級単位には加算されません。

【平成31年度～令和4年度の入学生】

▲は課程科目となるため、卒業進級単位には加算されません。

司書教諭課程

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における学校図書館に従事する教育職員を司書教諭といいます。図書や資料を収集・整理・保存し、児童生徒及び教員の図書館利用の指導・援助することを目的としています。

本学では、司書教諭の育成を目的に、学校図書館法第5条及び学校図書館司書教諭講習規程に基づくカリキュラムによって、司書教諭課程を設置しています。

資格取得要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学士の学位を有すること。 2. 教員免許状（小・中・高・特支）を有すること。 3. 司書教諭に関する所定科目の単位を修得していること。 したがって、司書教諭資格を取得するには、教職課程と司書教諭課程の両方を履修し、所定科目の単位を修得した上で卒業しなければなりません。 4. 2年次に課程費を納めていること。
単 位	必修5科目10単位
課 程 費	15,000円 2年次の履修登録と同時に所定の方法により納入してください。
資格申請手続	<p>4年次に下記の書類を学生支援部（教務担当）に提出してください。</p> <p>3年次終了までに所定科目の単位を修得した場合は4年次の5月の説明会に出席。</p> <p>4年次に単位を修得する予定の場合は11月の説明会に出席。</p> <p>①教育職員免許状授与証明書交付願 …… 1通 (資格取得要件の2に基づき、県教育委員会より証明書を受ける必要があるためです。)</p> <p>②学校図書館司書教諭講習申込書 …… 1通</p> <p>司書教諭の資格は、教員免許状を有するものが、文部科学省指定大学の開催する講習を受けて取得することとされていますが、本学では在学中に修得した関係単位で認定されるので、実際に講習を受ける必要はありません。しかし、講習受講の形式を取ることが必要とされているため、4年次に講習申込書を提出しておきます。</p>
修了証の授与	<p>3年次までに司書教諭に関する所定科目の単位を修得した場合は、4年次に講習を受ける形式となり、卒業年度の交付となります。</p> <p>4年次に単位を修得した場合は、卒業後講習を受ける形式をとるため、翌年度の交付となります。卒業1年後に、各自の自宅に郵送しますので、確実に届くよう、卒業後の住所を必ず報告してください。卒業後の住所は、就職担当に報告することになっていますので、その手続きを怠らないようにしてください。住所が不明の場合は、修了証が届かないことがあります。</p>

司書教諭課程科目〈文学部※・教育学部共通〉

法定基準		本学基準		種別	単位	配当年次・semester								備考	
科目名		単位	科目名			1年次		2年次		3年次		4年次			
						1	2	3	4	5	6	7	8		
必修	学校経営と学校図書館	2	必修	学校経営と学校図書館	講義	2			○						3クラス 隔週 3クラス
	学校図書館メディアの構成	2		学校図書館メディアの構成	講義	2			○						
	読書と豊かな人間性	2		読書と豊かな人間性	講義	2				○					
	学習指導と学校図書館	2		学習指導と学校図書館	講義	2					○				
	情報メディアの活用	2		情報メディアの活用	講義	2						○			

(全5科目10単位必修のこと)

※国文学科と国史学科のみ取得可能。

「読書と豊かな人間性」以外の科目は課程科目となるため、卒業進級単位には加算されません。

博物館学芸員課程

博物館には学芸員を置くことが「博物館法」によって定められており、学芸員は資料収集、保管、展示及び調査研究、その他これに関する事業について専門事項をつかさどるのが職務です。

図書館と並んで社会教育機関のひとつである博物館において、生涯学習の支援を行うことも職務のひとつです。このような施設で活躍できる人材を育成するために、博物館法に基づくカリキュラムによって博物館学芸員課程を設置しています。

資格取得要件	1. 卒業単位を修得していること。 2. 本学所定の博物館に関する科目の単位を修得した者。
単 位	必修19単位 選択必修4単位以上

博物館実習

履 修 条 件	① 「博物館実習Ⅰ」は「博物館概論」、「博物館資料論」を修得済みである者で、課程費を納入した者 ② 「博物館実習Ⅱ」を履修するには、履修前年度春学期までのGPAが2.0以上で、「博物館実習Ⅰ」が修得済み（採拓実習及び実測実習が原則受講済み）である者。ただし、令和5年度以降入学生より適用。
単 位	3単位 …… 博物館実習Ⅰ（3年次）2単位 博物館実習Ⅱ（4年次）1単位
実 習 種 別	博物館実習Ⅰ（3年次） ・ 神道博物館等での基礎実習 本学付属の施設である神道博物館等において、学芸員としての基礎的な技術を習得することを目的とし、保存科学の基礎・資料の取り扱い方法、写真撮影など学芸員としての基礎能力を養う。 ・ 展示案内実習 神道博物館等で入館者に対し展示解説と案内の業務を行う。 ・ 神道博物館・三重県総合博物館（MieMu）等における館務実習 神道博物館あるいは三重県総合博物館等において実際の館務に従事あるいは展示補助等の実習を行う。 ・ 採拓実習（原則として3年次に受講のこと） 資料の採拓方法についての指導を受け、実技（拓本の方法と基礎）を行う。 ・ 梱包実習 博物館資料の梱包と留意点について、日本通運美術梱包作業員等による技術指導も含め、実際に資料の梱包を行う。 ・ 神宮徴古館・農業館及び式年遷宮記念神宮美術館、せんぐう館、熱田神宮宝物館における実習 神社が設置する代表的な博物館を訪ね、館務の実際を見学し、神社博物館の活動状況と諸問題について臨地学習する。 ・ 博物館・美術館・資料館等施設の見学実習 各地の博物館を訪ね、さまざまな博物館の実態を見学する。

- ・実測実習（原則として3年次に受講のこと）
資料実測の方法と実技について学習する。
- 博物館実習Ⅱ（4年次）
 - ・展示案内実習
神道博物館等で入館者に対し展示解説と案内の業務を行う。
 - ・神道博物館・三重県総合博物館（MieMu）等における館務実習
神道博物館あるいは三重県総合博物館等において実際の館務に従事あるいは展示補助等の実習を行う。
 - ・学外館務実習
他の博物館施設へ数日出向き、実務を習得する。実習の前に一度事前指導を行う。また、帰学後、秋学期にレポートまたは、毎週演習形式による実習生の報告に基づき、博物館の諸問題及び現状と課題等につき討論を行う。
なお、実習の受け入れ先については、3年次に実習生各自が博物館と受け入れ交渉を行い、実習館を確保すること。
 - ・展示実習
展示の企画案、資料の調査・研究、図面作成、書類作成、広報の仕方など、展覧会開催に関連する業務全般を学習する。また、実際の企画展において展示替作業等を行う。

実習日誌

- ① 博物館実習Ⅰの授業で配付。
- ② 各種実習においてその都度実習記録をつけてください。
- ③ 担当教員の指示により提出し、年度毎に実習の確認を受けてください。
- ④ 実習は通常講義時間以外にも日曜・祭日に実施されることが多い。したがってスケジュールの調整には十分留意すること。病気以外の理由による指定学年以外の実習は原則、受講出来ないの注意してください。
なお、不明な点については、担当教員に相談してください。

課程費

30,000円
「博物館概論」「博物館資料論」修得済みの学生は、2年次以降に配当されている、課程科目を履修する年度当初に、学生支援部（教務担当）の指定する期日までに所定の方法により納入してください。
ただし、神道博物館の基礎実習での梱包実習・採拓実習並びに学外博物館実習の実習費等については必要に応じて別に徴収します。
費用及び納入期日は掲示によって知らせます。

資格証の授与

所定の単位を修得した者に対して、学位記授与式当日に資格証を交付します。

卒業後の資格取得における注意事項

博物館学芸員課程履修者において、所定の単位を修得できず卒業し、不足した単位を科目等履修生で修得した場合は資格取得ができません。
この場合、資格証の発行はできませんが、卒業証明書及び単位成績証明書で、博物館に関する科目を取得したことを証明できます。
（参照：文部省「学芸員資格証明書交付のとり止めについて」昭和42年1月24日文社社第48号社会教育局長通知準拠）

博物館学芸員課程科目〈文学部（神道・国史）〉

平成31～令和8年度の入学生に適用

法定基準		授業科目	種別	単位	配当年次・セメスター								備考		
科目名	単位				1年次	2年次	3年次	4年次							
					1	2	3	4	5	6	7	8			
必修	生涯学習概論	2	生涯学習論	講義	2		○								2クラス、必ずaクラスまたはbクラスを履修すること
	博物館概論	2	博物館概論	講義	2	○									
	博物館経営論	2	博物館経営論	講義	2					○	○				6セメへ変更 △
	博物館資料論	2	博物館資料論	講義	2		○								
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	講義	2					○	○				5セメに変更
	博物館展示論	2	博物館展示論	講義	2							○			△
	博物館教育論	2	博物館教育論	講義	2			○							△
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	講義	2				○						△
	博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	実習	2						○				2クラス △
		博物館実習Ⅱ	実習	1							○			2クラス △	
选修			美術史Ⅰ	講義	2			○						美術史Ⅰ・Ⅱ または 考古学Ⅰ・Ⅱ または 古文書学Ⅰ・Ⅱ より 4単位必修	
			美術史Ⅱ	講義	2				○						
			考古学Ⅰ	講義	2			○							
			考古学Ⅱ	講義	2				○						
			古文書学Ⅰ	講義	2				○						
			古文書学Ⅱ	講義	2					○					

(必修科目19単位、選択必修科目4単位以上修得のこと)

△は課程科目となるため、卒業進級単位には加算されません。

保育士資格

保育士とは、「児童福祉法（昭和22年法律第146号）」で規定されているように、児童福祉の専門的知識と技術をもって、児童の保育や児童の保護者に保育に関する指導を行う専門職のことをさしています。保育士になるには、指定保育士養成施設を卒業するか、都道府県知事が行う保育士試験に合格した上で、都道府県理事の登録を受け、保育士証の交付を受ける必要があります。なお、保育士でない者が、保育士又はこれに紛らわしい名称を使用することは禁止されています（名称独占規程）。保育士は保育所その他の児童福祉施設に配置され、重要な役割を担っています。

児童は発達主体ですが、実際には自分たちの立場を社会に向かって主張したり自らを守るという点において弱い立場にあります。保育とは、児童の最善の利益を守り、養護と教育（CARE and EDUCATION）を行うことをいいます。したがって、保育士は一人ひとりの子どもの権利を守り、その発達を保障するために、保育の本質や目的、児童の発達について、さらに、そのための具体的な方法や技術について総合的に学習することが必要です。また、学んだことを確かな実践につなげていけるような高い専門性や豊かな人間性を備えた人として成長していくことが求められています。

指定科目の履修

教育学部において保育士資格を取得するためには、別表1～3に定める科目を履修し、その単位を修得しなければなりません。

保育実習の履修条件

保育実習を履修するためには、実習へ行く前年度に実習園へ依頼を行い、実習園の承諾を得る必要があります。（令和7年度以降入学生については、実習園へ依頼を行う前年度末のGPAが2.0以上でないと、実習園へ依頼することができません）また、実習へ行く前年度末のGPAが2.0以上で、1～7の条件を満たしている者としてします。

1. 将来確実に保育士職につく意志がある者
2. 心身ともに健康かつ実習施設の活動を妨げる恐れのない者
3. 予備指導を履修した者（正当な理由（試験規定第10条）による欠席は除く）
4. 麻しん抗体の本学基準を満たしている者（P.230参照）
5. 各実習別（下記①～③）に設定された条件を満たしている者であり、教職課程・保育士資格部会で認めた者
6. 実習費が期限内に納入されている者
7. 本学宛の「実習に関する誓約書」の内容を理解し、期限内に提出の上、遵守できる者

①保育所実習Ⅰ（平成31～令和4年度の入学生）

保育所実習Ⅰ及び保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修すること。併せて、教科目（必修）のうち教職論、教育学概論、子どもの心理学、健康（指導法）、人間関係（指導法）、環境（指導法）、言葉（指導法）、造形表現（指導法）、児童国語、児童音楽、児童造形のうち14単位以上を修得済もしくは履修中であること。

①保育所実習Ⅰ（令和5年度以降の入学生）

保育所実習Ⅰ及び保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修すること。併せて、教科目（必修）のうち教職論、教育学概論、子どもの心理学、健康（指導法）、人間関係（指導法）、環境（指導法）、言葉（指導法）、造形表現（指導法）、幼児と言葉、幼児と表現（音楽）、幼児と表現（造形）のうち14単位以上を修得済もしくは履修中であること。

②児童福祉施設等実習

児童福祉施設等実習及び保育実習指導Ⅰ（児童福祉施設等）を履修すること。併せて①に定める科目履修単位並びに社会的養護Ⅰ、社会的養護Ⅱを修得済もしくは履修中であること。

保 育 所
履 修 手 続

③保育所実習Ⅱ

保育所実習Ⅰを修得済であること。また、保育所実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱを履修すること。併せて①、②に加えて子どもの保健、子どもの健康と安全、乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、子どもの食と栄養を修得済もしくは履修中であること。

※①～③の実習について、1単位当たりの時間数は30時間とする。

※①～③の事前事後指導について、正当な理由（試験規程第10条P.231）がないのに、無断で欠席した者については、実習を放棄したものとみなします。

科目名	年次	実施時期	期間	実習費（予定）
保育所実習Ⅰ	2	2月	12日間	20,000円
児童福祉施設実習	3	8月・12月（注1）	10日間	25,000円
保育所実習Ⅱ	4	6月	12日間	20,000円

（注1）実施施設の都合により実習時期は異なります。

時期	内容	備 考	
一 年 次	4月	履修指導	
	2月	健康診断	大学の定期健康診断を必ず受診
	3月	予備指導（成績通知書配付時）	
二 年 次	4月	保育所実習Ⅰ及び事前事後指導の履修登録	未登録の場合は実習ができません。
	1月	実習費納入	期日を厳守し証明書発行機にて納入
		関係書類の提出	期日を厳守し教職支援担当へ提出
	2月	保育所実習Ⅰ事前指導	事前事後指導を正当な理由なく無断で欠席した場合は、当該科目を放棄したものとみなし、実習は中止する。
		保育所実習Ⅰ	
	3月	健康診断（次年度分）	大学の定期健康診断を必ず受診
保育所実習Ⅰ事後指導		事前指導に同じ。	
成績評価			
三 年 次	4月	児童福祉施設等実習の履修登録	未登録の場合は実習ができません。
	4～6月	保育所実習Ⅱ各自依頼	希望する保育所に必要書類を添えて依頼に行く。
	7～1月	実習費納入	期日を厳守し証明書発行機にて納入
		関係書類の提出	期日を厳守し教職支援担当へ提出
		児童福祉施設等事前指導	事前事後指導を正当な理由なく無断で欠席した場合は、当該科目を放棄したものとみなし、実習は中止する。
	2月	児童福祉施設等実習	
児童福祉施設等事後指導			
健康診断（次年度分）		大学の定期健康診断を必ず受診	
3月	成績評価		
	予備指導（成績通知書配付時）	必要書類配布	
四 年 次	4月	保育所実習Ⅱの履修登録	未登録の場合は実習ができません。
	5月	実習費納入	期日を厳守し証明書発行機にて納入
		関係書類の提出	期日を厳守し教職支援担当へ提出
	4～6月	保育所実習Ⅱ事前指導	事前事後指導を正当な理由なく無断で欠席した場合は、当該科目を放棄したものとみなし、実習は中止する。
	6月	保育所実習Ⅱ	
	7月	保育所実習Ⅱ事後指導	
1月	成績評価		

【重要】 実習に関する事柄についてSNSやインターネットなどに投稿・掲載・発信することを一切禁止します。実習に関する物品や成果物、情報などを掲載することで、トラブルが起こりうるため、絶対に行わないこと。その事実を確認した場合、実習の単位を不認定とします。学生本人以外（家族等）が行っても同様となるため、実習に関する成果物や情報など適正な管理に努めること。

「保育士資格」取得要件

○教科目：必修〔保育士資格〕〈教育学部〉

別表1

法定基準				本学基準				
系列	告示による科目	授業形態	単位	教育学部開設科目	セメスター	授業形態	単位	備考
教育の本質・目的に 関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	1	講義	2	
	教育原理	講義	2	教育学概論	1	講義	2	
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	3	講義	2	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	2	講義	2	
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	8	講義	2	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	4	講義	2	
	保育者論	講義	2	教職論	2	講義	2	
保育の対象の理解 に関する科目	保育の心理学	講義	2	子どもの心理学	3	講義	2	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	6	講義	2	
	子どもの理解と援助	演習	1	幼児理解	4	演習	1	隔週
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	5	講義	2	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	5	演習	2	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	教育課程論	5・6	講義	2	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	6	演習	1	
	保育内容演習	演習	5	健康(指導法)	4	演習	2	集中
				人間関係(指導法)	2	演習	2	
				環境(指導法)	4	演習	2	
				言葉(指導法)	3	演習	2	
				身体表現(指導法)	5	演習	2	
				造形表現(指導法)	3	演習	2	
				音楽表現(指導法)	5	演習	2	
	保育内容の理解と方法	演習	4	幼児と言葉	3	演習	2	
				幼児と表現(音楽)	3・4	演習	2	
				幼児と表現(造形)	4	演習	2	
				幼児と表現(身体)	4	演習	2	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	5	講義	2	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	5	演習	1	隔週
子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	6	演習	1	隔週	
障害児保育	演習	2	障害児保育	7	演習	2		
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	5	演習	1	隔週	
子育て支援	演習	1	子育て支援	7	演習	1	隔週	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育所実習Ⅰ	4	実習	2	
				児童福祉施設等実習	5-6	実習	2	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ(保育所)	4	演習	1	
				保育実習指導Ⅰ(児童福祉施設等)	5-6	演習	1	
演習総合	保育実践演習	演習	2	教職実践演習(初等)	8	演習	2	
合計			51単位	合計			64単位	

○選択必修科目〔保育士資格〕〈教育学部〉

別表2

法定基準				本学基準					
系列	告示による 科目	授業 形態	単位	教育学部開設科目	セメスター	授業 形態	単 位		備 考
							必修	選択	
保育の本質・目的に 関する科目 解に関する科目 法に関する科目	各指定保育士養成施設に おいて設定		6単位以上	生涯学習論	2	講義		2	必ずcクラスを 履修すること
				教育史	2	講義		2	
				特別支援教育の基礎	3	講義		2	
				教育社会学	2	講義		2	
				教育の社会と制度	6	講義		2	
				教育相談	5・6	講義		2	
				教育方法論 (ICTの活用を含む)	4	講義		2	
保育実習	保育実習Ⅱ又はⅢ	実習	2	保育所実習Ⅱ	7	実習	2		
	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	7	演習	1	隔週	
合 計			9単位以上	合 計			9単位以上		

○教養科目〔保育士資格〕〈教育学部〉

別表3

法定基準				本学基準					
系列	告示による科目	授業形態	単位	教育学部開設科目	セメスター	授業形態	単位		備考
							必修	選択	
基	外国語・体育以外の基礎科目	不問		日本語表現	1・2	演習	2		
				法学(日本国憲法)	3	講義	2		
				データサイエンス入門	2	講義	2		
礎	外国語	演習	6	英語表現Ⅰ《初級》	1	演習		1	6科目より2科目以上選択必修
				英語表現Ⅱ《初級》	2	演習		1	
				英語表現Ⅲ《中級》	1	演習		1	
				英語表現Ⅳ《中級》	2	演習		1	
				英語表現Ⅴ《上級》	1	演習		1	
				英語表現Ⅵ《上級》	2	演習		1	
科	体育	講義	1	体育原理	1	講義	2		6科目より1科目選択必修
		実技	1	スポーツⅠ	1	実技		1	
				スポーツⅡ	2	実技		1	
				武道Ⅰ《柔道・剣道》	1	実技		1	
				武道Ⅱ《柔道・剣道》	2	実技		1	
				アダプテッドスポーツⅠ	1	実技		1	
				アダプテッドスポーツⅡ	2	実技		1	
合計			8単位	合計			11単位以上		

○教養科目〔保育士資格〕〈教育学部〉

別表3

法定基準				本学基準					
系列	告示による科目	授業形態	単位	教育学部開設科目	セメスター	授業形態	単位		備考
							必修	選択	
基	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	日本語表現	1・2	演習	2		
				法学(日本国憲法)	3	講義	2		
				情報処理Ⅰ(基礎)	1	演習	1		
				情報処理Ⅱ(応用)	2	演習	1		
礎	外国語	演習	2以上	英語表現Ⅰ《初級》	1	演習		1	6科目より2科目以上選択必修
				英語表現Ⅱ《初級》	2	演習		1	
				英語表現Ⅲ《中級》	1	演習		1	
				英語表現Ⅳ《中級》	2	演習		1	
				英語表現Ⅴ《上級》	1	演習		1	
				英語表現Ⅵ《上級》	2	演習		1	
科	体育	講義	1	体育原理	1	講義	2		6科目より1科目選択必修
		実技	1	スポーツⅠ	1	実技		1	
				スポーツⅡ	2	実技		1	
				武道Ⅰ《柔道・剣道》	1	実技		1	
				武道Ⅱ《柔道・剣道》	2	実技		1	
				アダプテッドスポーツⅠ	1	実技		1	
				アダプテッドスポーツⅡ	2	実技		1	
合計		10単位以上	合計			11単位以上			

カリキュラム

(保育士資格取得要件

教科目〈教育学部〉

R5)

「保育士資格」取得要件

○教科目：必修〔保育士資格〕〈教育学部〉

別表1

法定基準				本学基準					
系列	告示による科目	授業形態	単位	教育学部開設科目	セメスター	授業形態	単位	備考	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	1	講義	2		
	教育原理	講義	2	教育学概論	1	講義	2		
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	3	講義	2		
	社会福祉	講義	2	社会福祉	2	講義	2		
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	8	講義	2		
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	4	講義	2		
	保育者論	講義	2	教職論	2	講義	2		
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	子どもの心理学	3	講義	2	隔週	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	6	講義	2		
	子どもの理解と援助	演習	1	幼児理解	4	演習	1		
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	5	講義	2		
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	5	演習	2		
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	教育課程論	5・6	講義	2	集中	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	6	演習	1		
	保育内容演習	演習	5	健康(指導法)	4	演習	2		
				人間関係(指導法)	2	演習	2		
				環境(指導法)	4	演習	2		
				言葉(指導法)	3	演習	2		
				身体表現(指導法)	5	演習	2		
				造形表現(指導法)	3	演習	2		
	保育内容の理解と方法	演習	4	児童国語	3	演習	2		
				児童音楽	3・4	演習	2		
				児童造形	3・4	演習	2		
				児童体育	5・6	演習	2		
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	5	講義	2		隔週
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	5	演習	1		
子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	6	演習	1	隔週		
障害児保育	演習	2	障害児保育	7	演習	2	隔週		
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	5	演習	1			
子育て支援	演習	1	子育て支援	5	演習	1	隔週		
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育所実習Ⅰ	4	実習	2	隔週	
				児童福祉施設等実習	5-6	実習	2		
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ(保育所)	4	演習	1		
				保育実習指導Ⅰ(児童福祉施設等)	5-6	演習	1	隔週	
総合演習	保育実践演習	演習	2	教職実践演習(初等)	8	演習	2		
合計			51単位	合計			62単位		

○選択必修科目〔保育士資格〕〈教育学部〉

別表2

法定基準				本学基準					
系列	告示による科目	授業形態	単位	教育学部開設科目	セメスター	授業形態	単位		備考
							必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		6 単 位 以 上	生涯学習論	2	講義		2	必ずcクラスを履修すること
				教育社会学	2	講義		2	
保育の対象の理解に関する科目				教育相談	5・6	講義		2	
保育の内容・方法の理解に関する科目				R4入学生 教育方法論 (ICTの活用を含む)	4	講義		2	
				R3以前入学生 教育方法学					
				保育内容の研究 (身体表現)	6	演習		2	
				保育内容の研究 (造形表現)	6	演習		2	
	保育指導の方法	5	講義		2				
		子どもの表現技術	5	演習		2			
保育実習	保育実習Ⅱ又はⅢ	実習	2	保育所実習Ⅱ	7	実習	2		
	保育実習指導Ⅱ 又はⅢ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	7	演習	1	隔週	
合計			18単位以上	合計			9単位以上		

○教養科目〔保育士資格〕〈教育学部〉

別表3

法定基準				本学基準					備考
系列	告示による科目	授業形態	単位	教育学部開設科目	セメスター	授業形態	単位		
							必修	選択	
基	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	日本語表現	1・2	演習	2		
				法学(日本国憲法)	3	講義	2		
				情報処理Ⅰ(基礎)	1	演習	1		
				情報処理Ⅱ(応用)	2	演習	1		
礎	外国語	演習	2以上	英語表現Ⅰ《初級》	1	演習		1	6科目より 2科目選択必修
				英語表現Ⅱ《初級》	2	演習		1	
				英語表現Ⅲ《中級》	1	演習		1	
				英語表現Ⅳ《中級》	2	演習		1	
				英語表現Ⅴ《上級》	1	演習		1	
				英語表現Ⅵ《上級》	2	演習		1	
科 目	体育	講義	1	体育原理	1	講義	2		6科目より 1科目選択必修
		実技	1	スポーツⅠ	1	実技		1	
				スポーツⅡ	2	実技		1	
				武道Ⅰ 《柔道・剣道》	1	実技		1	
				武道Ⅱ 《柔道・剣道》	2	実技		1	
				アダプテッドスポーツⅠ	1	実技		1	
				アダプテッドスポーツⅡ	2	実技		1	
合計		10単位以上	合計			11単位以上			

スポーツ指導者資格（受験資格）

公益財団法人日本スポーツ協会（以下、日本スポーツ協会）及び加盟団体等は、日本スポーツ協会が定める公認スポーツ指導者制度に基づき、養成講習会の受講等によって所定のカリキュラムを修了・検定試験合格者に対し、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者として資格を認定しています。

本学の所定の科目（授業）を履修し、単位を修得することで、日本スポーツ協会及び加盟団体が主催する養成講習会（共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）を受講したことになります。

【公認スポーツ指導者の役割】

- ・スポーツの価値や本質的な楽しさ、素晴らしさを伝えること
- ・スポーツの医・科学的知識を活かし、スポーツを安全に、正しく、楽しく指導すること
- ・スポーツプレイヤーの成長を、反倫理的・反社会的行為に頼ることなく支援し、豊かなスポーツ文化の創造とスポーツの社会的価値を高めること etc

取得可能な資格

スポーツコーチングリーダー資格取得、共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの修了認定までの流れ

- ①スポーツコーチングリーダー（旧コーチングアシスタント資格）
- ②共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの講習免除資格
- ③日本スポーツ協会へマイページ登録（MyJSPO アカウントを取得する）・指導者マイページの作成をする
登録用URL <https://my.japan-sports.or.jp/login>
本学の学校コード【AWFV1726】
- ④リファレンスブック（養成講習会用テキスト）を購入する（紙版：4,840円、電子版：3,520円・税込）
注文はMyJSPOにログインし、指導者マイページから
テキスト購入に関する案内ページ <https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid677.html>
- ⑤本学所定の科目（授業）を履修し、単位を取得する
- ⑥共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ検定試験（オンラインテスト）の受験申請をする
【受験申請期間】4年次の①8～9月末（予定）②2～3月末（予定）のいずれか
- ⑦共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの共通科目検定試験（オンラインテスト）を受験する
【試験日・期間】4年次の①10～11月末（予定）②卒業直後の4～5月末のいずれか
※不合格の場合、4年間は何度も再受験が可能です
※詳細は日本スポーツ協会のHPやマイページの情報を確認してください
- ⑧共通科目Ⅰの合格
スポーツコーチングリーダー資格認定手続き（個人で日本スポーツ協会へ）
必要経費：スポーツコーチングリーダー（資格有効期間：4年）
公認スポーツ指導者基本登録料として 10,000円（4年分・税込）
初期登録料として 3,300円（1資格・税込） 計13,300円
- ⑨共通科目ⅡやⅢの合格
共通科目Ⅱ・Ⅲの修了認定手続き（個人で日本スポーツ協会へ）

注意

大学に書類を提出するなどの手続きはありません。各自で①～⑦の手続きを行ってください。

スポーツコーチングリーダー以外の資格（競技別指導者資格など）は、日本スポーツ協会や加盟団体が定める講習に参加し、受験資格を得る必要があります。また、資格によって講習内容や単位数が異なります。詳しくは、日本スポーツ協会のHP <https://www.japan-sports.or.jp/>を参考にしてください。

スポーツ指導者資格科目（必修）〈教育学部〉【共通科目Ⅲコース】

別表

本学教育学部開設科目			含まれる公益財団法人日本スポーツ協会の共通科目内容
講義名	単位	セメスター	A-コーチングを理解しよう B-グッドコーチに求められる医・科学的知識 C-現場・環境に応じたコーチング
体育史	2	2	A- 6. スポーツの意義と価値
体育実技（水泳）	1	3	A- 3. コーチに求められる知識とスキル
			B- 3. スキルトレーニング B- 6. スポーツに関連する医学的知識
体育実技（陸上）	2	4	A- 1. コーチングとは
			A- 2. コーチに求められる役割
			A- 3. コーチに求められる知識とスキル
			B- 3. スキルトレーニング
体育経営管理学	2	6	A- 8. スポーツの自治ーガバナンスとコンプライアンスー
			A- 9. 暴力・ハラスメントの根絶
			A-10. スポーツのインテグリティ
			A-11. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
			C- 3. スポーツ組織のマネジメント
スポーツ健康科学演習	2	2	A- 4. 对他者力を磨こう
			A- 5. 対自己力を磨こう
			A-14. 時代をリードするコーチング
			B- 4. 心のトレーニング
			B- 5. スポーツと栄養
			B- 6. スポーツに関連する医学的知識
			C- 2. ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング
体育原理	2	1	A- 2. コーチに求められる役割
			A- 6. スポーツの意義と価値
			B- 1. スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系
			C- 1. コーチング環境の特徴
体育社会学	2	5	A- 6. スポーツの意義と価値
			A- 7. スポーツの価値を守るスポーツ権
			A-10. スポーツのインテグリティ
			A-12. スポーツ仲裁
			A-13. スポーツ倫理
			B- 7. アンチ・ドーピング
			C- 3. スポーツ組織のマネジメント
			C- 4. 障がい者とスポーツ
体育心理学	2	4	A- 6. スポーツの意義と価値
			A- 9. 暴力・ハラスメントの根絶
			B- 3. スキルトレーニング
			B- 4. 心のトレーニング
			C- 4. 障がい者とスポーツ
運動学（運動方法学）	2	6	B- 1. スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系
学校保健	2	5	B- 6. スポーツに関連する医学的知識
			B- 7. アンチ・ドーピング
公衆衛生学	2	4	B- 5. スポーツと栄養
			B- 6. スポーツに関連する医学的知識
子どもの保健	2	5	B- 6. スポーツに関連する医学的知識
体育実技（柔道）	2	$\frac{3}{4}$	B- 3. スキルトレーニング
生理学	2	2	B- 2. 体力のトレーニング
			B- 5. スポーツと栄養
			B- 7. アンチ・ドーピング
			C- 1. コーチング環境の特徴
合計	27		

初級パラスポーツ指導員

パラスポーツ
指 導 員
と は

パラスポーツ指導員とは、公益財団法人日本パラスポーツ協会が認定する資格で、障がいのある方の体力づくりやスポーツをサポートするために、障がいに応じた適切な指導をすることができる専門家に対して認定される資格です。

スポーツ基本法が制定されて、すべての人がスポーツをする権利が示されました。すべての人の中には障がいのある方も含まれています。障がいのある方も運動やスポーツを実施することを通して、心身の健康維持・増進、体力づくり、身体を動かすことの楽しさを理解しながら運動に親しんでいく態度を育てていき、明るい生活を営んでいくことが大切になります。教育学や体育学を修めていこうとする学生や社会福祉学を修めていこうとする学生は、障がいのある方が運動やスポーツを通して、明るい生活が送れるような土台作りに貢献することが必要になります。

障がい者スポーツの基礎知識を知り実践経験を積むことで、積極的に障がい者レクリエーションや障がい者スポーツに取り組むようになってもらいたい。そして、地域の障がいのある方のサポートや障がい者スポーツの発展に寄与してもらうことを目的として、初級パラスポーツ指導員の資格があります。本学は認定校として公益財団法人日本パラスポーツ協会より指定を受けて指導員養成に貢献しています。履歴書の資格欄に「初級パラスポーツ指導員」と記載できるので、教員採用試験や就職活動の際にも役立ちます。

在学中に「障害者スポーツ論」を修得すること。

資格取得
申請要件

資格の認定
について

公益財団法人日本パラスポーツ協会公認の初級パラスポーツ指導員として認定を受けるには、在学中に以下の基準のカリキュラムを履修する必要があります。資格申請は本学より協会に対して行います。

必要経費（令和8年3月31日現在）

申請料 5,500円

登録料 3,800円 計9,300円

所定の期日内に証明書発行機で支払い、申込書を各自保管してください。

初級パラスポーツ指導員指定科目〈教育学部・現代日本社会学部〉

日本パラスポーツ協会が定める 基準カリキュラム	本学開設 授業科目	単位	配当 セメスター
障がい者スポーツに関する諸施策：1.5時間	障害者 スポーツ論※	2	5
障がい者スポーツの意義と理念：1.5時間			
安全管理：1.5時間			
各障がいの理解：身体障がい：3時間 知的障害・精神障害：3時間			
スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質：1.5時間			
コミュニケーションスキルの基礎：1.5時間			
障がい者スポーツ推進の取り組み：1.5時間			
全国障害者スポーツ大会の概要：1.5時間			
各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫：4.5時間			
障がいのある人との交流：1.5時間			

※教育学科及び現代日本社会学科の福祉展開コース（H31～R8入学）のみ履修可

自然体験活動指導者（NEALリーダー）資格

自然体験活動指導者（NEALリーダー）とは

自然体験活動指導者（NEALリーダー）は、自然体験活動の楽しさやすばらしさを伝えられる指導者などを養成するため、平成24年に官民一体となって創設した資格制度です。自然体験に関する専門的な知識と技術を学び、自然体験活動の普及や振興に貢献することを目的としています。履歴書の資格欄に「自然体験活動指導者（NEALリーダー）取得」と記載できるので、教員採用試験や就職活動の際にも役立ちます。

資格取得申請要件

令和6年度以降に「体育実技（野外活動）」を修得すること。

資格の認定について

自然体験活動指導者（NEALリーダー）は「体育実技（野外活動）」（1-2 Semester開講）の修得をもって、資格認定要件を満たします。資格取得希望者は「体育実技（野外活動）」修得後すぐに資格取得の申請を行います。資格申請は本学より協会に対して行います。

必要経費

登録料 3,000円

所定の期日内に証明書発行機で支払い、申込書を各自保管してください。

自然体験活動指導者（NEALリーダー）指定科目（教育学部）

自然体験活動指導者養成カリキュラム	本学開設授業科目	単位	担当 Semester
ガイダンス：1時間	体育実技(野外活動)	1	1-2
青少年教育における体験活動：1.5時間			
自然体験活動の特質：3時間			
対象者理解：1.5時間			
自然体験活動の指導：1.5時間			
自然体験活動の技術：6時間			
自然体験活動の安全管理：3時間			
認定試験：0.5時間			

社会福祉士（国家試験受験資格）

社会福祉士
とは

社会福祉士は、昭和62年に制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」第2条第1項により、次のように定義されています。

「社会福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うことを業とする者をいう」

具体的な社会福祉士の業務は、以下のとおりです。

- ・地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成を図るなど、地域福祉を推進する
- ・福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、必要に応じてサービス利用を支援するなど、その解決を支援する
- ・利用者が尊厳を持った自立生活を営むことができるよう、関係するさまざまな専門職や事業者、ボランティア等との連携を図り、総合的かつ包括的に援助する

こうした業務を遂行するため、以下のような知識や技術の習得が求められます。

- ・専門職としての自覚と倫理の確立
- ・福祉課題を抱えた者からの相談に対応できる専門的なソーシャルワークの理論と技術
- ・虐待防止、就労支援、権利擁護、更生保護、孤立防止、生きがい創出、健康維持等の関連サービスに関する基礎的知識
- ・利用者の自立支援の観点から、適切なサービスの選択・計画を支援する技術
- ・利用者に関係する他の職種との連携を図る技術
- ・地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術

社会福祉士が対応する福祉課題は、介護、養護、虐待、失業、貧困、社会的孤立、ホームレス、権利擁護など広範囲にわたっています。主たる活動の場は、福祉事務所、児童相談所、更生相談所などの行政機関、社会福祉協議会、社会福祉施設、福祉事業所、地域包括支援センター・障害者地域生活支援センターなどの相談対応機関、医療機関、福祉関連企業などです。また現在では、上記に加え、不登校・いじめ・低学力などの教育問題や、知的障害者や高齢者の累犯問題への対応といった司法領域も含まれるようになりました。

社会問題が多様化・深刻化し、地域や家庭内の疎遠化が進む現代社会だからこそ、幅広い分野で必要とされる専門資格となっています。

社会福祉士指定科目〈現代日本社会学部〉

指 定 科 目		本 学 開 設 科 目	単 位	配 当 セメスター	備 考
1	医学概論	医学概論	2	3	※
2	心理学と心理的支援	心理学と心理的支援	2	5	※
3	社会学と社会システム	社会学概論	2	2	※
4	社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策	4	2	※
5	社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎	2	5	※
6	ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	2	※
7	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2	3	
8	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法	4	3	※
9	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法（専門） I	4	4	
10	地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制	4	4	※
11	福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	2	5	
12	社会保障	社会保障	4	3	※
13	高齢者福祉	高齢者福祉	2	4	
14	障害者福祉	障害者福祉	2	4	※
15	児童・家庭福祉	児童・家庭福祉	2	3	
16	貧困に対する支援	貧困に対する支援	2	4	
17	保健医療と福祉	保健医療と福祉	2	5	
18	権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	2	6	※
19	刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	2	7	※
20	ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習	1	4	※
21	ソーシャルワーク演習（専門）	ソーシャルワーク演習（専門） I	2	5	
		ソーシャルワーク演習（専門） II	2	6	
22	ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導 I	1	3-4	
		ソーシャルワーク実習指導 II	2	5-6	
23	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習 I	1 (60時間)	4	
		ソーシャルワーク実習 II	4 (180時間)	5-6	

※は精神保健福祉士との共通科目です。

ソーシャルワーク実習Ⅰ及びⅡ

ソーシャルワーク 実習の目的

支援を必要とする人や地域の状況、社会福祉施設・機関等が地域社会の中で果たす役割、多職種・多機関・地域住民との連携のあり方等について、各現場での配属実習から学びます。そしてこれらを通じて、ソーシャルワーク実践に関する知識と技術の統合を図ると共に、専門職として必要な資質、能力を高め、職業倫理の確立をめざします。

なお、ソーシャルワーク実習は、社会福祉士国家試験の受験資格を得るために必要な科目ですので、社会福祉士をめざす学生は、必ず履修してください。

ソーシャルワーク 実習の構成・内容

ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱを履修する場合には、ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事前・事後の指導科目であるソーシャルワーク実習指導（以下、実習指導）Ⅰ・Ⅱも履修することになります。ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）、ソーシャルワークの理論と方法、ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰなどの援助技術の学びをふまえて、自ら実習する施設・機関の目的、機能、利用者の生活実態、実際の援助内容などについての理解を深め、具体的な実習課題を設定し、その達成方法を明らかにする実習計画書を作成していきます。

ソーシャルワーク実習Ⅰは60時間以上、ソーシャルワーク実習Ⅱは180時間以上の配属実習となります。「現代日本社会学部社会福祉士国家試験受験資格取得に関する履修内規」にもあるように、これらの実習を履修するにあたっては、施設・機関の実習指導担当職員の指導を受けながら所定の実習プログラムに従って進めていきます。配属実習の期間中、学内教員による巡回指導や帰校日における指導を通じて、事前に自ら設定した実習課題の達成評価を含め、実習内容について多面的な検討を行います。配属実習の終了後は、実習課題の達成状況をふまえ、各自の実習報告を行い、実習の意義と問題点を整理し、実習総括レポート作成につなげていきます。

履修条件

ソーシャルワーク実習Ⅰ及びソーシャルワーク実習Ⅱについては、下記の通り履修条件が設定されています。（編入学生、転入学生及び転学部生は除く）

- ソーシャルワーク実習Ⅰを履修するには、前年度までのGPAが2.0以上で、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）、ソーシャルワークの理論と方法、ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ、ソーシャルワーク演習及び実習指導Ⅰを修得済又は同時履修でなければならない。
- ソーシャルワーク実習Ⅱを履修するには、前年度までのGPAが2.0以上で、前項に掲げた科目のほか、実習指導Ⅰ及びソーシャルワーク実習Ⅰを修得済で、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ及びソーシャルワーク演習（専門）Ⅱが同時履修でなければならない。また病院等の医療機関でソーシャルワーク実習Ⅱを行う場合は、これらのほか、保健医療と福祉を修得済又は同時履修でなければならない。
- ソーシャルワーク実習Ⅰと実習指導Ⅰ、及びソーシャルワーク実習Ⅱと実習指導Ⅱは同時履修とし、同時に単位を修得しなければならない。

（P.231「現代日本社会学部 社会福祉士国家試験受験資格取得に関する履修内規」参照）

実習にあつての注意事項

配属実習に協力してくださる施設・機関には、格別の配慮をいただいています。よって、その期待に応えることが出来るよう、真摯な態度で臨んでください。施設の利用者や職員の方々のご厚意の上に教育の機会を与えられていることを強く自覚し、貴重な時間を有意義なものとするよう努めてください。

実習に関する事柄についてSNSやインターネットなどに投稿・掲載・発信することを一切禁止します。実習に関する物品や成果物、情報などを掲載することで、トラブルが起りうるため、絶対に行わないこと。その事実を確認した場合、実習の単位を不認定とします。

学生本人以外（家族等）が行っても同様となるため、実習に関する成果物や情報など適正な管理に努めること。

現場での配属実習にあたり、健康診断書、通学証明書の発行などさまざまな手続きが必要になりますので、『実習の手引』やそのつど配付するプリント等を熟読し、常に留意しておいてください。また配属にあたり麻しん抗体の本学基準を満たしている必要があります（P.230参照）。

なお、正当な理由なく無断の遅刻・欠席をした場合は、科目担当者の判断により、実習及び実習指導を中止にすることがあります。

実 習 費

金 額	納 入 方 法	経 費 内 訳
85,000 円	学生支援部(教務担当)の指示により、証明書発行機にて指定する期間内に納入すること	実習施設への委託料、巡回指導等の教員旅費、実習施設との通信費、実習の手引・実習日誌等の印刷製本費、他

精神保健福祉士（国家試験受験資格）

精神保健福祉士とは

精神保健福祉士は平成9年の精神保健福祉士法によって誕生した精神科ソーシャルワーカーの国家資格です。精神保健福祉士法第2条では「精神保健福祉士の名称を用いて、精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識及び技術をもって、精神科病院その他の医療施設において精神障害の医療を受け、若しくは精神障害者の社会復帰の促進を図ることを目的とする施設を利用している者の地域相談支援の利用に関する相談その他の社会復帰に関する相談又は精神障害者及び精神保健に関する課題を抱える者の精神保健に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行うことを業とする者」と定義されています。具体的な精神保健福祉士の業務は、統合失調症やうつ病といった精神疾患の治療を受けている人、精神障害のために社会生活上に困難を抱えた人やその家族を対象に、相談支援を行ったり、社会資源に関する情報提供、自己実現を支援するための助言や指導を行います。また、精神障害当事者に対して、社会生活をしていくために必要な技能訓練等を実施します。精神保健福祉士の実践の場としては、精神科病院や他の医療施設、精神障害者が利用する社会復帰のための施設、保健所、精神保健福祉センター、小中学校といった教育現場、保護観察所や家庭裁判所といった司法現場などがあげられます。

精神保健福祉士の資格を得るためには、まず受験資格を取得して、毎年1月下旬から2月上旬に実施される国家試験を受験し、合格しなければなりません。精神保健福祉士国家試験受験資格を取得するためには、次ページの厚生労働大臣が指定する精神障害者の保健及び福祉に関する科目（指定科目）の単位を在学中に修得する必要があります。

ただし、次にあげる基礎科目※を修得しているが指定科目の一部を修得せずに卒業した学生は、精神保健福祉士短期養成施設にて指定科目の欠ける科目を修得することで、受験資格を得ることができます。

令和3年度以降の入学生

- ※社会福祉の原理と政策
- ※刑事司法と福祉
- ※社会保障
- ※地域福祉と包括的支援体制
- ※心理学と心理的支援
- ※社会学概論
- ※権利擁護を支える法制度
- ※医学概論
- ※社会福祉調査の基礎
- ※ソーシャルワークの基盤と専門職
- ※ソーシャルワーク演習
- ※障害者福祉

または、社会福祉士国家資格を取得し、精神保健福祉士短期養成施設にて指定科目の欠ける科目を修得することで、受験資格を得ることができます。

精神保健福祉士指定科目〈現代日本社会学部〉

指 定 科 目		本 学 開 設 科 目	単 位	配 当 セメスター	備 考
1	医学概論	医学概論	2	3	※
2	心理学と心理的支援	心理学と心理的支援	2	5	※
3	社会学と社会システム	社会学概論	2	2	※
4	社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策	4	2	※
5	地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制	4	4	※
6	社会保障	社会保障	4	3	※
7	障害者福祉	障害者福祉	2	4	※
8	権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	2	6	※
9	刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	2	7	※
10	社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎	2	5	※
11	精神医学と精神医療	精神医学と精神医療Ⅰ	2	5	
		精神医学と精神医療Ⅱ	2	6	
12	現代の精神保健の課題と支援	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2	5	
		現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2	6	
13	ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	2	※
14	精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理Ⅰ	2	4	
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2	5	
15	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法	4	3	※
16	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ	2	5	
		ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅲ	2	6	
17	精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論	2	7	
18	精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論	2	6	
19	ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習	1	4	※
20	ソーシャルワーク演習（専門）	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	1	6	
		ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	1	7	
		ソーシャルワーク演習（専門）Ⅴ	1	8	
21	ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	6	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	1	7	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅴ	1	8	
22	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習Ⅲ	4 (210時間)	7-8	※※

※は社会福祉士との共通科目です。

※※ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱを修得している場合は、210時間のうち60時間をそれらに読み替えます。

ソーシャルワーク実習Ⅲ

現場実習の 目的

講義科目の知識をふまえた上で、精神保健福祉領域における福祉専門職としての機能、精神保健福祉従事者の実践内容、利用者の福祉課題、精神保健福祉援助活動と地域社会との関連性について理解を深めていきます。それにより講義等で学習した知識・技術が実際の援助に生かされるよう、精神保健福祉の援助活動ができる資質を培います。特に地域社会の中において精神保健福祉従事者が果たす役割、専門職としての業務を学ぶことを重視しつつ、精神障害者の生活実態の理解を目標としています。

現場実習の 構成・内容

実習の事前指導では実習先の理解のため、精神科病院、精神科診療所、保健所、精神保健福祉センター、精神障害者の通所、入所施設等の概要について学習します。また、精神保健福祉士の実践の場を観察し理解するため、病院や施設等で生活する精神障害者の生活の実態を把握するために必要な価値、知識、技術の確認を行います。以上の事前学習から各自問題意識を整理し、ソーシャルワーク実習Ⅲにおいての課題や目標を設定してもらい、実習プログラムを計画してもらいます。

現場実習では、実習先である精神科病院等において、日々の業務活動のなかから精神科ソーシャルワーカーの実践を観察し、相談援助や社会生活技能訓練をはじめとした技術の理解に努めます。また、実習先の患者や利用者とのコミュニケーションを図り、精神障害者の障害特性や社会生活上の困難、利用者個々人のニーズ把握に努めます。

実習の事後指導では現場実習の反省とともに、講義で学習してきた精神科ソーシャルワークの技術や知識、精神障害者の特性や生活実態と、各自が現場実習において観察し理解してきたこと、学んできたこととをリンクさせることを目的として総括レポートを作成してもらいます。

履修条件

- ソーシャルワーク実習Ⅲについては、下記のとおり履修条件が設定されています。
- ソーシャルワーク実習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導（以下「実習指導」という。）Ⅳ及び実習指導Ⅴは、同時履修でなければならない。
 - ソーシャルワーク演習（以下「演習」という。）（専門）Ⅲを履修するには、精神医学と精神医療Ⅰ・Ⅱ、現代の精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ（P.208社会福祉士指定科目参照）を修得済又は同時履修でなければならない。
 - 演習（専門）Ⅳ及び演習（専門）Ⅴを履修するためには、演習（専門）Ⅲを修得済でなければならない。
 - 前項の規定にかかわらず、履修希望者が10名を超えた場合は、学業成績及びその適性を考慮して選考する。
 - ソーシャルワーク実習Ⅲを履修するには、前年度までのGPAが2.0以上で、実習指導Ⅲ及び演習（専門）Ⅲを修得済で、演習（専門）Ⅳ及び演習（専門）Ⅴを修得済又は同時履修でなければならない。

（P.231「現代日本社会学部 精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関する履修内規」参照）

実習にあたっての注意事項

精神保健福祉士国家試験受験資格を得るためには厚生労働大臣が指定する科目を履修しなければなりません。その中でも実習は、精神科病院等において精神障害のある当事者に対して直接的に関わっていくなかで、それまで学習してきたことが実際の援助場面において試されるため、自らに厳しい態度で臨まなければ4週間の実習を最後まで終えることすら困難でしょう。これらのことから、単に資格の取得のためだけに履修することや興味や関心だけの理由で履修することは原則として認めるわけにはいきません。履修する学生に対しては、事前指導から現場実習、事後指導を通して、将来精神科ソーシャルワーカーとして働く意思を持っているということを前提に指導を行っていきます。

以上のことから実習に行く前に援助者となる姿勢の有無、利用者と接することから学ぼうとする場合の心構えをみるため、必要に応じて個別面接を実施することがあります。

実習に関する事柄についてSNSやインターネットなどに投稿・掲載・発信することを一切禁止します。実習に関する物品や成果物、情報などを掲載することで、トラブルが起りうるため、絶対に行わないこと。その事実を確認した場合、実習の単位を不認定とします。

学生本人以外（家族等）が行っても同様となるため、実習に関する成果物や情報など適正な管理に努めること。

また、実習に行くにあたり麻しん抗体の本学基準を満たしている必要があります（P.230参照）。

なお、正当な理由なく無断の遅刻・欠席をした場合は、科目担当者の判断により、実習及び実習指導を中止することがあります。

実 習 費

金 額	納 入 方 法	経 費 内 訳
80,000 円	学生支援部(教務担当)の指示により、証明書発行機にて指定する期間内に納入すること	実習施設への委託料、実習施設、見学実習施設への手土産代等、事前訪問・巡回指導等の教員旅費、実習施設との通信費、実習日誌・実習出勤簿等の印刷製本費、他

社会調査士資格

社会調査士 とは

社会調査士は、一般社団法人社会調査協会が認定する資格です。
社会調査協会は、主として日本の大学等における社会調査教育の水準を高め、もって社会調査に関する優れた能力を備えた人材を育成することを目的としており日本における社会調査の質の向上と社会的信頼の確立をめざして活動しています。

「社会調査士」資格は、大学の学部課程において社会調査に関する基本的知識を学習し、調査企画から報告書作成までの実践的過程の技能を身につけることによって、社会的データの収集や分析に関する理解と活用を可能とする統計マインドを身につけた人材の育成を目的としています。

ビジネスや行政、社会福祉の領域でも、社会情勢の変化をすばやく的確にデータとして得て分析することの重要性が高まっています。どの領域でも、今後ますますそういった能力をもった社会調査のエキスパートが求められることになるでしょう。本学は平成17年から社会調査士資格制度参加校として社会調査士カリキュラムを設置し、令和2年から教育組織会員校として社会調査教育に一層力を入れています。

資格の認定に ついて

一般社団法人社会調査協会が認定した各機関（大学等）で標準カリキュラムに対応した科目を履修し、単位認定を受けることが必要です。資格取得希望者は卒業後、各自で書類を準備して、大学を通じて申請してください（認定審査手数料16,500円）。

正規資格は学部卒業が要件になります。在学中に、就職活動等に活用したい希望者には正規資格ではなく、社会調査士（キャンディデイト）資格認定証が発行されます。次ページにあげる指定科目を3科目以上修得し、かつ2科目以上履修中であることが条件です（認定審査手数料14,300円）。社会調査士（キャンディデイト）資格から正規資格への変更は別に手続きが必要です。資格変更希望者は卒業後、各自で書類を準備して、大学を通じて申請してください。（資格変更手数料5,500円）。

社会調査士指定科目〈現代日本社会学部〉

社会調査協会が定める標準カリキュラム		授業時間数	本学開設科目	単 位	配当 セメスター	備 考
A	社会調査の基本的事項に関する科目	90分×15週	社会情報学	2	3	
B	調査設計と実施方法に関する科目	90分×15週	社会調査法	2	4	
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	90分×15週	社会情報分析	2	4	
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	90分×15週	社会統計学Ⅰ(基礎統計)	2	5	
E	多変量解析の方法に関する科目	90分×15週	社会統計学Ⅱ(多変量解析)	2	6	※
F	質的な調査と分析の方法に関する科目	90分×15週	質的調査論	2	6	
G	社会調査を実際に経験し学習する科目	90分×15週	社会調査実習Ⅰ	1	5	
		90分×15週	社会調査実習Ⅱ	1	6	

※ E、Fは、いずれか1科目必修。

社会調査実習

履 修 条 件

社会調査実習Ⅰを履修するには、社会情報学、社会調査法及び社会情報分析を修得済で、社会統計学Ⅰ(基礎統計)を修得済または同時履修でなければならぬ。また、社会調査実習Ⅱを履修するには、社会調査実習Ⅰを修得済でなければならない。

実 習 経 費

社会調査実習Ⅰを履修する場合は、下表の実習経費の納入が必要です。

金 額	納 入 方 法	経 費 内 訳
2,000 円	学生支援部(教務担当)の指示により、証明書発行機にて指定する期間内に納入すること	実習報告書の印刷製本費、他

認定心理士資格

認定心理士 とは

心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得していることを日本心理学会が認定する資格です。一度資格を取得すると更新の必要はありません。なお、認定心理士はあくまでも学会が認定する民間資格です。国が法律に基づいて与える「免許」ではありませんし、特定の職能を保証するものでもありません。

資格を取得するには、別表「認定心理士資格取得要件」に示した科目群の中から所定の36単位以上を修得することが必要となります。

資格の申請に ついて

資格認定の申請は、大学卒業後に希望者が個人で行うことを原則としています。申請時には、申請書類を提出するとともに審査料（11,000円）を振り込みます。審査に合格すると事務局から「認定の通知」と郵便振替用紙が送付されてきますので、認定料（33,000円）を郵便振替で入金します。入金が確認された後、「認定心理士認定証」と「認定心理士証（IDカード）」が送られてきます。Web上での資格申請も可能です。

資格審査が行われる認定委員会は年間6回程度開催されますので、通常は申請後2～3か月以内に判定結果が出ます。しかし、再審査になると最終審査結果が得られるまでにさらに2～3か月かかることになります。

仮認定の申請 について

卒業前に仮認定を受けて、条件付きの仮認定証を受領できる「仮認定制度」があります。申請書提出時に卒業見込証明書が発行される場合には、在学中でも仮認定審査を申請することができます。

認定心理士 （心理調査） について

平成29年度から申請・認可がはじまった認定心理士（心理調査）については、コミュニケーション学科のカリキュラムでは対応していません。

認定心理士資格取得要件〈文学部コミュニケーション学科〉

日本心理学会 単位認定基準			本学開設科目	種別	配当 セメス ター	単 位			備 考
領 域	単 位	必修				選択 必修	選択		
基 礎 科 目	a：心理学概論	4単位 以上	心理学概論Ⅰ	講義	1	2			
			心理学概論Ⅱ	講義	2	2			
	b：心理学研究法	8単位 以上	心理学研究法	講義	2	2			
			心理学統計法	講義	3	2			
			心理学実験Ⅰ	実習	3	2			
			心理学実験Ⅱ	実習	4	2			
c：心理学実験実習		12単位以上							
選 択 科 目	d：知覚心理学・ 学習心理学	dからhの 5領域のうち、3領域 以上で、それ ぞれが少 なくとも4 単位以上	知覚・認知心理学	講義	6		2		
			学習・言語心理学	講義	3		2		
	e：生理心理学・ 比較心理学		神経・生理心理学	講義	5		2		
			教育・学校心理学	講義	3		2		
	f：教育心理学・ 発達心理学		発達心理学	講義	1		2		
			臨床心理学概論	講義	3		2		
			感情・人格心理学	講義	2		2		
			障害者・障害児心理学	講義	4		2		
			心理的アセスメント	講義	5		2		
			心理学的支援法	講義	6		2		
			健康・医療心理学	講義	5		2		
	g：臨床心理学・ 人格心理学		福祉心理学	講義	4		2		
			司法・犯罪心理学	講義	4		2		
社会・集団・家族心理学		講義	1		2				
産業・組織心理学		講義	4		2				
h：社会心理学・ 産業心理学		5領域計16単位以上							
そ の 他	i：心理学関連科目 卒業論文・卒業研究	(注) 4単位	心理学講読演習	演習	4			2	
			卒業研究※心理系	演習	7-8			4	
総 計		36単位 以上				36単位 以上			

(注) 日本心理学会の単位認定基準において、a～hの領域での修得単位が36単位以上の場合、資格申請上、i領域の単位は必ずしも必要ではありません。

〈参 考〉

心理学検定

心理学検定とは 心理学関連56学会が加盟している一般社団法人日本心理学諸学会連合が主催する検定試験で、学歴・年齢問わず受検することができます。資格には特1級、1級、2級の3種類があり、1級は大学学部レベルの心理学の実力を証明し、2級は限られた領域での心理学の実力を証明します。いずれの級も更新の必要はありません。

検定試験の概要 検定試験は1年に2期間、CBT (Computer Based Testing) 方式で行われます。試験問題は、A領域5科目とB領域5科目に分類されています。A領域の2科目を含む合計3科目に合格すると2級、A領域の4科目を含む合計6科目に合格すると1級、A・B2領域の10科目すべてに合格すると特1級が取得できます(特1級は申請が必要)。合格科目は5年間累積されますので、段階的に特1級をめざすことも可能です。

A領域：原理・研究法・歴史・学習・認知・知覚、発達・教育、社会・感情・性格、臨床・障害
B領域：神経・生理、統計・測定・評価、産業・組織、健康・福祉、犯罪・非行

受検について 試験会場は全国各地に設置され、希望の会場を選ぶことができます。令和6年度時点での受験料は、A領域5科目受検で7,700円、B領域5科目で7,700円、A・B領域10科目で12,100円です(いずれも税込)。詳しくは、日本心理学諸学会連合のホームページを参照してください。

認定心理士資格取得要件〈文学部コミュニケーション学科〉

日本心理学会 単位認定基準			本学開設科目	種別	配当 セメス ター	単 位		備 考
領 域	単 位	必修				選択 必修		
基 礎 科 目	a：心理学概論	4単位 以上	心理学概論Ⅰ	講義	1	2		
			心理学概論Ⅱ	講義	2	2		
	b：心理学研究法	8単位 以上	心理学研究法	講義	2	2		最低4単位分は「c：心理学 実験実習」の単位
			心理学統計法	講義	3	2		
	c：心理学実験実習		心理学実験Ⅰ	実習	3	2		
			心理学実験Ⅱ	実習	4	2		
		12単位以上						
選 択 科 目	d：知覚心理学・ 学習心理学	dからhの 5領域のうち、3領域 以上で、それ ぞれが少 なくとも4 単位以上。	知覚・認知心理学	講義	6		2	
			学習・言語心理学Ⅰ	講義	3		2	
			学習・言語心理学Ⅱ	講義	4		2	不開講
	e：生理心理学・比較心理学		神経・生理心理学	講義	5		2	
			教育・学校心理学	講義	3		2	
	f：教育心理学・ 発達心理学		発達心理学Ⅰ	講義	1		2	
			発達心理学Ⅱ	講義	1		2	不開講
	g：臨床心理学 人格心理学		臨床心理学概論Ⅰ	講義	3		2	
			臨床心理学概論Ⅱ	講義	4		2	不開講
			感情・人格心理学	講義	2		2	
			障害者・障害児心理学	講義	4		2	
			心理的アセスメント	講義	5		2	
			心理学的支援法	講義	6		2	
			健康・医療心理学	講義	5		2	
			福祉心理学	講義	4		2	
	h：社会心理学・ 産業心理学		司法・犯罪心理学	講義	4		2	
社会・集団・家族心理学		講義	1		2			
産業・組織心理学		講義	4		2			
		5領域計16単位以上						
そ の 他	i：心理学関連科目 卒業論文・卒業研究	(注) 4単位	卒業研究※心理系	演習	7-8		4	
総 計		36単位 以上					36単位 以上	

(注) 日本心理学会の単位認定基準において、a～hの領域での修得単位が36単位以上の場合には、資格申請上、i領域の単位は必ずしも必要ではありません。

(参 考)

心理学検定	
心理学 検定とは	心理学関連56学会が加盟している一般社団法人日本心理学諸学会連合が主催する検定試験で、学歴・年齢問わず受検することができます。資格には特1級、1級、2級の3種類があり、1級は大学学部レベルの心理学の実力を証明し、2級は限られた領域での心理学の実力を証明します。いずれの級も更新の必要はありません。
検定試験の 概 要	検定試験は1年に2期間、CBT (Computer Based Testing) 方式で行われます。試験問題は、A領域5科目とB領域5科目に分類されています。A領域の2科目を含む合計3科目に合格すると2級、A領域の4科目を含む合計6科目に合格すると1級、A・B2領域の10科目すべてに合格すると特1級が取得できます(特1級は申請が必要)。合格科目は5年間累積されますので、段階的に特1級をめざすことも可能です。 A領域：原理・研究法・歴史、学習・認知・知覚、発達・教育、社会・感情・性格、臨床・障害 B領域：神経・生理、統計・測定・評価、産業・組織、健康・福祉、犯罪・非行
受 検 に つ い て	試験会場は全国各地に設置され、希望の会場を選ぶことができます。令和6年度時点での受験料は、A領域5科目受検で7,700円、B領域5科目で7,700円、A・B領域10科目で12,100円です(いずれも税込)。詳しくは、日本心理学諸学会連合のホームページを参照してください。

公認心理師（国家試験受験資格）

公認心理師
とは

公認心理師は、平成27年9月9日に成立し、平成29年9月15日に施行された公認心理師法によって誕生した、わが国初の心理職の国家資格です。公認心理師法第2条には、公認心理師が保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識と技術をもって行う行為として以下の4つが挙げられています。

- ①心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- ②心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- ③心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- ④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

この国家資格制度により、高度な能力を有した専門職者が多く生まれ、現代社会におけるこころの問題や発達・健康上の問題に対応すべく活躍することが期待されています。具体的な活躍の場としては、保健医療分野（病院やクリニック）、教育分野（学校）、産業・労働分野（企業内相談室、就業支援）、福祉分野（児童福祉施設、老人福祉施設）、司法・犯罪分野（裁判所、少年院）などが考えられます。

公認心理師
の受験資格

公認心理師の資格を得るためには、まず受験資格を取得して、毎年1回実施される国家試験を受験し、合格しなければなりません。公認心理師の受験資格を取得するためには、4年制大学において公認心理師法施行規則（以下「施行規則」）第1条に定められた科目を履修した後に、大学院において施行規則第2条に定められた科目を履修するか、施行規則第5条で定められた施設において施行規則第6条で定められた期間以上実務経験を積むことが必要となります。このように公認心理師をめざすことは大変厳しい道のりとなります。

本学文学部コミュニケーション学科のカリキュラムには、施行規則第1条に定められた科目がすべて含まれています。しかし、本学在学中、または卒業直後に公認心理師の国家試験を受験することはできません。受験資格を得るためには、本学科卒業後に公認心理師対応カリキュラムがある他大学の大学院に進学するのが、もっとも現実的な進路となります。

大学4年間で履修する科目

将来他大学の大学院に進学して公認心理師の受験資格を得ようと考えている学生は本学文学部コミュニケーション学科在籍時に以下に示す25科目（別表 公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定された公認心理師となるために必要な科目（大学における必要な科目））をすべて履修し、卒業と同時に単位を修得しておく必要があります。卒業後に科目等履修生等で単位を修得しても、受験資格は得られません。

別表 公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定された公認心理師となるために必要な科目（大学における必要な科目）

令和5～8年度の入学生

公認心理師法施行規則に規程された科目	本学開設授業科目	単位	配当 セメスター	備考
公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	2	
心理学概論	心理学概論 I	2	1	
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	3	
心理学研究法	心理学研究法	2	2	
心理学統計法	心理学統計法	2	3	
心理学実験	心理学実験 I	2	3	
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	6	
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	3	
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	2	
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	5	
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	1	
発達心理学	発達心理学	2	1	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	4	
心理的アセスメント	心理的アセスメント	2	5	
心理学的支援法	心理学的支援法	2	6	
健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	5	
福祉心理学	福祉心理学	2	4	
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	3	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	4	
産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	4	
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	5	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	6	
関係行政論	関係行政論	2	5	
心理演習	心理演習	2	6	
心理実習	心理実習	2	7 - 8	80 時間以上

平成31～令和4年度の入学生

公認心理師法施行規則に規定された科目	本学開設授業科目	単位	配当 セメスター	備考
公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	6	
心理学概論	心理学概論 I	2	1	
臨床心理学概論	臨床心理学概論 I	2	3	
心理学研究法	心理学研究法	2	2	
心理学統計法	心理学統計法	2	3	
心理学実験	心理学実験 I	2	3	
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	6	
学習・言語心理学	学習・言語心理学 I	2	3	
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	2	
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	5	
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	1	
発達心理学	発達心理学 I	2	1	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	4	
心理的アセスメント	心理的アセスメント	2	5	
心理学的支援法	心理学的支援法	2	6	
健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	5	
福祉心理学	福祉心理学	2	4	
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	3	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	4	
産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	4	
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	5	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	6	
関係行政論	関係行政論	2	5	
心理演習	心理演習	2	6	
心理実習	心理実習	2	7 - 8	80 時間以上

心理演習と心理実習

心理演習と心理実習の目的と内容

心理演習は、知識及び技能の基本的な水準の修得をめざします。(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能(コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援など)の修得、(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(ウ) 心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、(エ) 多職種連携及び地域連携、(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、の5事項について、具体的な場面を想定した役割演技ロールプレイングを行い、かつ、事例検討で取り上げます。

心理実習は、(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(イ) 多職種連携及び地域連携、(ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、の3事項について、医療機関における実習を必須とし、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要5分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受けます。

心理演習と心理実習の履修条件

心理演習と心理実習については、以下の通り履修条件が設定されています(「文学部コミュニケーション学科 公認心理師国家試験受験資格取得に関する履修内規」参照)。ただし、編入学生、転入学生及び転学部生は除きます。

- 心理演習と心理実習の履修者数は、1学年15名以内とする。
- 心理演習と心理実習を履修するためには、以下に示す科目の履修・修得、GPA、事前審査の各種条件を満たす必要がある。
(入学年度により異なりますので、注意してください)

令和5～8年度の入学生

心理演習(6 Semester)

前年度までのGPAが2.0以上で、心理学概論Ⅰ、社会・集団・家族心理学、発達心理学、心理学研究法、公認心理師の職責、感情・人格心理学の6科目の単位を修得済、臨床心理学概論、心理学統計法、心理学実験Ⅰ、学習・言語心理学、教育・学校心理学、障害者・障害児心理学、福祉心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学の単位を修得済又は同時履修し、かつ、神経・生理心理学、心理的アセスメント、健康・医療心理学、人体の構造と機能及び疾病、知覚・認知心理学、心理学的支援法、精神疾患とその治療、関係行政論とともに履修し、担当教員による履修登録前の事前審査で認められなければならない。

心理実習(7・8 Semester)

前年度までのGPAが2.0以上で、公認心理師国家試験受験資格取得に係るその他全ての指定科目を修得済で、担当教員による履修登録前の事前審査で認められなければならない。

平成31～令和4年度の入学生

心理演習(6 Semester)

前年度までのGPAが2.0以上で、心理学概論Ⅰ、社会・集団・家族心理学、発達心理学Ⅰ、心理学研究法、感情・人格心理学の5科目の単位を修得済、臨床心理学概論Ⅰ、心理学統計法、心理学実験Ⅰ、学習・言語心理学Ⅰ、教育・学校心理学、障害者・障害児心理学、福祉心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学の単位を修得済又は同時履修し、かつ、公認心理師の職責、神経・生理心理学、心理的アセスメント、健康・医療心理学、人体の構造と機能及び疾病、知覚・認知心理学、心理学的支援法、精神疾患とその治療、関係行政論とともに履修し、担当教員による履修登録前の事前審査で認められなければならない。

公認心理師と教員
免許取得について心理実習に
あたっての
注意事項心理実習
の実習費

心理実習（7・8 Semester）

前年度までのGPAが2.0以上で、公認心理師国家試験受験資格取得に係るその他全ての指定科目を修得済で、担当教員による履修登録前の事前審査で認められなければならない。

- 心理実習を履修しようとする者は、定められた期間内に、別に定める実習費を納入しなければならない。
- 事前指導において、担当教員が心理実習を行うことが不適切と判断した場合は、心理実習を中止することがある。
- 心理演習と心理実習は、特別の事情のない限り、再履修を認めない。

公認心理師をめざす場合には、公認心理師カリキュラムの学修が優先されるため、時間割の都合上、教員免許を同時に取得できる保証はありません。

心理実習は、学外の施設に赴き、当該施設の実習担当者から指導を受けることとなります。また、施設利用者や職員の方々とコミュニケーションをとる機会も数多く設けられます。したがって、それらの方々に迷惑をかけることなく、真摯かつ能動的な態度で臨むことが必要とされます。心理実習の履修を希望する学生については、以下に示す3つの条件を満たしていることを、担当教員による履修登録前の事前審査で確認します。

- 公認心理師になりたいという明確な意志をもっている者
- 実習の意義を理解し、実習に臨む心構えができている者
- 本学の実習担当教員及び実習現場の担当者の指示にしたがうことができる者

また、実習施設を訪れる前に、必要書類の提出などの手続きが必要となりますので、指導教員や学生支援部からの連絡や指示に気をつけておいてください。

なお、実習に行く前に麻しん抗体の本学規準を満たしている必要があります（P.230参照）。実習先に応じて、抗体価報告書は、異なった書式があります。その都度、書類作成のために費用が必要となります。

公認心理師は、公認心理師法において、正当な理由がなく、その業務に関して知り得た人の秘密を漏らしてはならないと定められています。実習生にも、実習先職員と同様の守秘義務が課せられます。したがって、施設利用者やその家族、職員の個人情報について、実習以外の場で他言しないこと（友人や家族に情報を漏らす）、SNS等に投稿しないこと、個人が特定できるような形で文書作成や発表をしないことが求められます。情報を漏洩させた場合、心理実習の単位は不認定となります。個人情報の取り扱いについて不明な点がある場合は、実習担当教員、実習指導者に必ず相談するようにしてください。

金額	納入方法	経費内訳
30,000円	学生支援部(教務担当)の指示により、証明書発行機にて指定する期間内に納入すること	実習施設への委託料、事前訪問・巡回指導の教員旅費、実習施設との通信費、実習の手引き、実習日誌などの印刷製本費など

その他

- 病院での実習がありますので、白衣を購入する必要があります。
- 実習先までの交通費は各自別途必要です。

GIS 学術士 資格

GIS 学術士とは

GIS（地理情報システム・地理情報科学）とは、地理情報をコンピューターで系統的に取得・構築、管理、分析、統合、表示、伝達することに係わるシステム及び科学です。GISは、地理的なビッグデータを処理するための基盤技術であり、社会のさまざまな場面で活用されています。地理教育や環境教育、体験型学習などの教育分野や、建設、環境、防災、農林、福祉、観光、市民参加活動などの公共分野、マーケティングやコンサルタントなどの民間分野での活用が代表的です。また、令和4年度からの高等学校学習指導要領で必修科目となった「地理総合」では、GISが重要なテーマとして取り扱われています。

GISの知識と技術の向上をはかり、適正なGIS学術を普及させるために、公益社団法人日本地理学会がGIS学術士資格を設けています。GIS学術士とは、GISの技術と知識を身につけた専門家であり、GISを活用する能力があることを示す民間資格です。GISの活用能力は、「地理総合」を教える必要がある高等学校の社会科（地歴）教員に必要不可欠であり、地歴教員をめざす場合にも役に立つ資格です。GIS関連の資格として、一般社団法人地理情報システム学会が認定するGIS上級技術者資格もありますが、こちらの取得には一定の実務経験などが必要になります。

資格の認定 について

GIS学術士資格の認定のためには、修得すべき科目の単位を修得するとともに、GISを利用した卒業研究を行って、文学部コミュニケーション学科を卒業する必要があります。

GIS学術士資格の認定のための申請は各自で行う必要があります。認定手数料として6,600円（税込）を日本地理学会に支払う必要があります。また、GIS学術士（見込み）の認定の場合には、認定手数料として1,320円（税込）を日本地理学会に支払う必要があります。詳細は日本地理学会資格専門委員会のウェブサイト（<http://ajg-certi.jp/>）を確認してください。申請に必要な書類についても同委員会のウェブサイトを確認してください。なお、専門演習（コース及びクラスは問いません）とプロジェクト研究のいずれを履修しても構いませんが、GISによる空間分析を行ったことを示すための主題図を含めた卒業研究要旨の提出が必要になります。

申請の受付期間は年に3回程度設けられていますので、同委員会のウェブサイトで日程を確認のうえ、期間内に申請してください。GIS学術士（見込み）については随時受付が行われていますが、認定見込み証明書の発行までに1か月程度を要することがあります。

GIS学術士資格取得要件〈文学部コミュニケーション学科〉

令和5～8年度の入学生

日本地理学会が定める科目		必要 単位数		本学開設科目	単位数	配当 セメスター	備考
A	B						
A	GISに関連する情報処理を中心とする科目	1	必 修	情報処理Ⅰ（基礎）	1	1	
				情報処理Ⅱ（応用）	1	2	
B	GISの基本的機能と空間データの講義を中心とする科目	2		自然地理学	2	2	※1 ※2
C	GISによる地図作成・空間分析の実習を中心とする科目	2		伊勢志摩定住自立圏 共生学Ⅲ《GIS》	2	5	※3
				伊勢志摩定住自立圏 共生学Ⅳ《GIS》	2	6	
D	GISを利用した卒業論文の執筆（または、それに相当する科目）	4		卒業研究	4	7-8	

※1 令和5年度開講の「自然地理学」はGIS学術士資格取得要件科目の対象外。

※2 令和6年度開講の「自然地理学」は《GIS》クラスを履修することが条件となる。

※3 伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅲ・Ⅳは必ず《GIS》クラスを履修すること。

平成31～令和4年度の入学生

日本地理学会が定める科目		必要 単位数		本学開設科目	単位数	配当 セメスター	備考
A	B						
A	GISに関連する情報処理を中心とする科目	1	必 修	情報処理Ⅰ（基礎）	1	1	
				情報処理Ⅱ（応用）	1	2	
B	GISの基本的機能と空間データの講義を中心とする科目	2		地域情報論	2	2	
C	GISによる地図作成・空間分析の実習を中心とする科目	2		GIS実習Ⅰ	2	5	
				GIS実習Ⅱ	2	6	
D	GISを利用した卒業論文の執筆（または、それに相当する科目）	4		卒業研究	4	7-8	※4

※4 専門演習・プロジェクト研究のコース及びクラスは問わない。

任用資格

任用資格とは

任用資格とは、公務員等として採用された後で、特定の業務に任用されるときに必要な資格で、任用されて初めてその資格を名乗ることができます。

現代日本社会学科では、指定科目を修得することにより、以下の任用資格を取得できます。

社会福祉主事 (任用資格)

社会福祉主事は、福祉事務所において生活保護の実務を担当する職種です。これらの人々は公的扶助ケースワーカー、またはケースワーカーともよばれ、その仕事は面接・訪問・調査・関係機関との連絡、生活指導等を通じて、対象者の最低生活を保障する事務を行うとともに、自立を促すケースワークに従事します。

(関連法令：社会福祉法第18条・第19条)

身体障害者福祉司 知的障害者福祉司 (任用資格)

身体障害者福祉司及び知的障害者福祉司は、都道府県の身体（知的）障害者更生相談所や市町村の障害福祉課等の行政機関で、障害者福祉に関するサービスや福祉用具を紹介したり、介護等の相談に応じたりします。

(関連法令：身体障害者福祉法第11条の2・知的障害者福祉法第13条)

児童指導員 (任用資格)

児童指導員は、児童福祉施設などにおいて、児童の成長を援助するとともに基本的な生活習慣や学習の指導、生活上のアドバイスなどを行います。主な就職先としては、児童養護施設、母子生活支援施設、児童発達支援センター、放課後等デイサービス等があります。

(関連法令：児童福祉施設の設備及び運営に関する基準 第43条)

履修にあたっての 注意事項

これらの資格は、必要科目を修得して卒業することが条件であるため、卒業後に不足科目を科目等履修生制度により補うことはできません。

各任用資格指定科目〈現代日本社会学部〉

①社会福祉主事任用資格

告示に基づく以下の指定科目のうち、3科目以上に該当する本学開設授業科目を修得すること。

告示による指定科目	令和3年度以降の入学生に適用		平成31・令和2年度の入学生に適用	
	本学開設授業科目	配当 セメスター	本学開設授業科目	配当 セメスター
社会福祉概論	社会福祉の原理と政策	2	社会福祉原論	2
社会福祉事業史	—	—	—	—
社会福祉援助技術論	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	相談援助の基盤と専門職 相談援助の理論と方法Ⅰ *上記2科目の修得	2 3
	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	3		
社会福祉調査論	社会福祉調査の基礎	5	—	—
社会福祉施設経営論	福祉サービスの組織と経営	5	社会福祉経営論	5
社会福祉行政論	—	—	福祉行財政と福祉計画	6
社会保障論	社会保障	3	社会保障論	3
公的扶助論	貧困に対する支援	4	公的扶助論	4
児童福祉論	児童・家庭福祉	3	児童・家庭福祉論	3
家庭福祉論	—	—	—	—
保育理論	—	—	—	—
身体障害者福祉論	障害者福祉	4	障害者福祉論	4
知的障害者福祉論	—	—	—	—
精神障害者保健福祉論	精神保健福祉の原理Ⅰ	4	精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ *上記2科目の修得	5 6
	精神保健福祉の原理Ⅱ	5		
老人福祉論	高齢者福祉	4	高齢者福祉サービス論	4
医療社会事業論	保健医療と福祉	5	医療福祉論	5
地域福祉論	地域福祉と包括的支援体制	4	地域福祉論	4
法学	法学(日本国憲法)	3	法学(日本国憲法)	3
民法	—	—	—	—
行政法	—	—	—	—
経済学	経済学概論《国史学科専門科目》	4	経済学概論《国史学科専門科目》	4
社会政策	—	—	—	—
経済政策	経済政策論《令和3・4年生のみ》	4	経済政策論	4
心理学	心理学と心理的支援	5	心理学	5
社会学	社会学概論	2	社会学概論	2
教育学	教育学概論《教育学科専門科目》	1	教育学概論《教育学科専門科目》	1
倫理学	—	—	—	—
公衆衛生学	—	—	—	—
医学一般	医学概論	3	医学概論	3
リハビリテーション論	—	—	—	—
看護学	—	—	—	—
介護概論	—	—	介護概論	3
栄養学	—	—	—	—
家政学	—	—	—	—

②身体障害者福祉司・知的障害者福祉司任用資格

告示に基づく以下の指定科目のうち、1科目以上に該当する本学開設授業科目を修得すること。ただし、必要とする指定科目は各行政機関によって異なる（※1）。

告示による指定科目	令和3年度以降の入学生に適用		平成31・令和2年度の入学生に適用	
	本学開設授業科目	配当 セメスター	本学開設授業科目	配当 セメスター
社会事業概論	社会福祉の原理と政策	2	社会福祉原論	2
社会事業史	—	—	—	—
社会事業施設論	福祉サービスの組織と経営	5	社会福祉経営論	5
社会事業行政	—	—	福祉行財政と福祉計画	6
社会事業の方法	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	相談援助の基盤と専門職	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	3	相談援助の理論と方法Ⅰ	3
	ソーシャルワークの理論と方法	3	相談援助の理論と方法Ⅱ	4
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ	4	*上記3科目の修得	
社会立法	法律学概論	4	法律学概論	4
社会政策	公共政策論	4	公共政策論	4
社会病理または社会問題	現代社会論	1	現代社会論	1
社会調査	社会福祉調査の基礎	5	社会調査法	4
社会統計	社会統計学Ⅰ（基礎統計）	5	社会統計学Ⅰ（基礎統計）	5
	社会統計学Ⅱ（多変量解析）	6	社会統計学Ⅱ（多変量解析）	6
	*上記2科目の修得		*上記2科目の修得	
社会衛生	—	—	—	—
精神衛生	精神保健福祉の原理Ⅰ	4	精神保健学Ⅰ	5
	精神保健福祉の原理Ⅱ	5	精神保健学Ⅱ	6
	*上記2科目の修得		*上記2科目の修得	
身体障害者の心理補装具知識	障害者福祉	4	障害者福祉論	4
社会教育	—	—	—	—
職業指導	—	—	雇用政策	4

※1. 各行政機関が必要とする告示による指定科目については、現代日本社会学科福祉展開コース・社会福祉分野の担当教員に確認すること。

③児童指導員任用資格

現代日本社会学科の専門科目を履修することで取得可能であるが、令和3年度以降の入学生は「社会福祉の原理と政策」「社会保障」「児童・家庭福祉」、平成31・令和2年度の入学生は「社会福祉原論」「社会保障論」「児童・家庭福祉論」を履修することが望ましい。

麻しん抗体検査

平成19年度の麻しんの流行により、文部科学省からの指導によって、教育・保育関係などの職業に就くために必要な実習への参加の際に、自らが感染源とならないよう、また麻しんに罹患すると重症化しやすい方々と接する可能性が高いため、免疫を持っていることが求められています。

したがって、本学学生は実習に参加する前に、「麻しんの免疫を持っていると認められる」者であるかを確認する必要があります。

以上のことから、本学が実習を許可する麻しん抗体値の検査方法及び基準にて実習生の麻しん抗体の有無を調べる必要がありますので、実習を予定している学生は、各自で医療機関を受診し、麻しん抗体検査を受け、「麻しん抗体検査報告書」(本学様式)を提出してください。

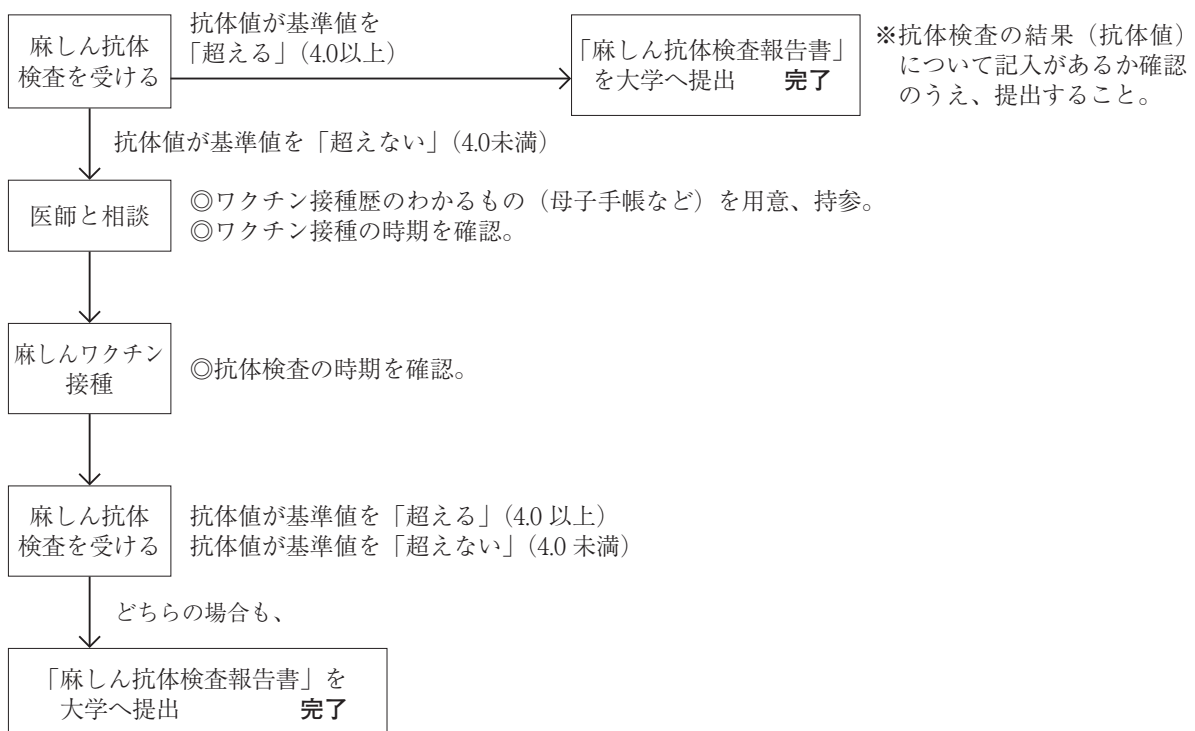
対象となる実習：介護等体験実習・教育実習・保育所実習・児童福祉施設等実習
ソーシャルワーク実習・心理実習

抗体値検査方法及び基準値：EIA法-IgG 4.0以上

検査から報告書提出までの流れ

◎各自の麻しんワクチンの接種歴がわかるもの(母子手帳など)を確認し、医療機関へ持参のうえ、抗体検査を受ける。下記の手順に従い、検査後は報告書を大学※へ提出する。

※教員・保育士関係(教職支援担当)、社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師(教務担当)



※2回の抗体検査の結果(抗体値)と、ワクチン接種歴について記入があるか確認のうえ、提出すること。
※抗体値が4.0未満の者は「抗体値が上がらない体質」と判断して実習を許可する。

麻しん抗体検査における手続きを完了する期限

対象となる実習前年度の3月末日 **※厳守** (ただし、ソーシャルワーク実習及び心理実習については別途追加指示あり)

12. 関係規程

- 皇學館大学教務規程
- 皇學館大学授業科目履修規程
- 皇學館大学試験規程
- 文学部神職課程に関する履修内規
- 文学部教職課程に関する履修内規
- 教育学部教職課程に関する履修内規
- 保育士資格取得に関する履修内規
- 現代日本社会学部 社会福祉士国家試験受験資格取得に関する履修内規
- 現代日本社会学部 精神保健福祉士国家試験受験資格に関する履修内規
- 現代日本社会学部 社会調査士資格取得に関する履修内規
- 文学部コミュニケーション学科 公認心理師国家試験受験資格取得に関する履修内規

その他の規程は以下の2次元コードから
大学公式ホームページにアクセスして確認してください。



大学院について

目的

1. 本大学院は、神宮皇學館大學の建学の精神を継承して、わが国の歴史と伝統に基づく文化を究明し、洋の東西に通ずる道義の確立を図り、祖国愛の精神を涵養するとともに、社会有為の人材を育成することを使命としています。
2. 博士前期課程及び修士課程においては、広い視野に立って精深な学識を受け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的としています。
3. 博士後期課程においては、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としています。

特色

1. 文学研究科は神道学専攻・国文学専攻・国史学専攻によって構成されている研究科であって、わが国の伝統的文化の究明とその発揚に主眼がおかれています。
2. 教育学研究科には教育学専攻を置き、高度職業人としての教員、実践的な教育研究者及び指導的教員の養成をめざします。
3. 校地は神宮の鎮まります清浄閑静の地にあり、かつ神宮と本学とは特別の関係があるので、国文・国史学及び神道の研究には絶好の位置と環境にあります。
4. 学会の碩学と中堅の教授が、緊密な協力のもとに研究と教育を進め、学生の指導については専門分野に応じて各教授が分担して、徹底した個人教育を期しています。
5. 国文学・国史学及び神道の分野における、おびただしい貴重な文献・資料を所蔵し、わが国学界の至宝とされている神宮文庫及び徴古館を自由に利用することができます。
6. 教育学専攻においては、現職教員などの社会人受入れのため昼夜開講制とし、現代の教育上の諸問題に対する臨床的実践力を身に付けるための教育研究を行って、総合力、応用力を有する高度な専門職業人及び教育学の研究者を育成します。

長期履修について

本大学院の学生が、職業を有する等の理由により入学後に長期履修を申請する場合は、各年度の1月31日（秋学期入学者は7月10日）までに「長期履修申請書」及び「在職証明書」を当該研究科長に提出してください。

また、長期履修を許可されている学生が、その期間の短縮を希望する場合は、「長期履修期間の短縮申請書」を4月28日（秋学期入学者は10月30日）までに当該研究科長へ提出してください。

なお、期間短縮を許可された場合は、支払うべき残りの学費をまとめて支払うこととなります。

9月修了について

「皇學館大学大学院教務内規」第3条（P.276）を参照。

学部科目の履修について

本大学院の学生が、資格取得を目的として本学学部授業の履修を希望する場合は、学生支援部（教務担当）にて相談の上、科目等履修生（この場合の検定料・登録料・履修料不要）の申請を行ってください。

大学院文学研究科の3つのポリシー

教育研究上の目的

本研究科は、わが国の歴史と伝統に基づく文化を究明することを教育研究上の目的とする。

その教育研究上の目的を達成するために、神道学専攻・国文学専攻・国史学専攻を置き、次に述べるような人材を育成する。

神道学専攻

神道精神を身につけ、日本文化の歴史と伝統を研究することにより、神道に関わる深い造詣を有する神職及び広い視野から神道を研究する能力を有する人材を育成する。

国文学専攻

国語や国文学の文献・現象を適切かつ深く解釈する能力と、広い視野から独自の問題を見出してその研究を行う能力を有する人材を育成する。

国史学専攻

国史に関する史資料の正確な読解能力を鍛えるとともに、中正な歴史観の養成を通して、高度な研究能力と、深い歴史的洞察力を有する人材を育成する。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科は、その教育研究上の目的を達成するために、次のとおり課程の修了時点において学生が身につけるべき能力を定める。

これらの能力の獲得は、研究科の定める必要単位の修得と学位論文の評価基準にもとづく審査に合格したときに、達成したとみなされ、博士前期課程においては修士の学位、博士後期課程においては博士の学位を授与する。

神道学専攻

博士前期課程

1. 神道学を構成する祭祀、神道古典、神道史、神道神学、宗教学の5分野に関する概括的な知識を有している。
2. 神道学に関する基本的文献を独力で精確に読解することができる。
3. 神道学に関する研究課題を設定し、学問的考察をおこない、発表することができる。
4. 神職資格を持つ院生にあっては学部学生を指導しつつ、神社への奉仕という実践を通じて神社界についての幅広い知識を有している。
5. 日本の宗教に関する幅広い知識を有し、日本における神道の存在意義を考究できる。

博士後期課程

1. 神道学を構成する祭祀、神道古典、神道史、神道神学、宗教学の5分野の何れかに関する専門的な知識を有している。
2. 神道学の何れかの専門分野に関する研究課題を設定し、関連する文献を精確に読解することができる。
3. 設定した研究課題について、独創的で精緻な研究を行い、論文形式で、または口頭で発表できる。

4. 神職資格をもつ院生にあっては神職としての自覚と責任のもと、種々の活動を通じて神道教化を実践することができる。
5. 神道と日本の宗教に関する高い識見を有し、社会の諸課題に対処する能力を有している。

国文学専攻

博士前期課程

1. 日本の言語文化に関する幅広く、柔軟な識見を有し、社会の諸課題に積極的に対処する意欲を持つ。
2. 国語・国文学に関する概括的な知識を有する。
3. 国語・国文学に関する基本的な文献を独力で読解し、味読できる。
4. 自ら国語・国文学に関する問題を設定し、学問的考察をおこない、その結果を発表できる。
5. 中等教育機関や文化行政の現場において専門的能力を活かすことができる。

博士後期課程

1. 日本の文化に関する高い見識を有し、社会の諸課題に対処しうる能力を持つ。
2. 国語・国文学に関する専門的な知識を有する。
3. 国語・国文学に関する文献を独自の観点から読解し、問題点を見出すことができる。
4. 国語・国文学について独創的な研究をおこない、口頭または論文形式で発表できる。
5. 高等教育機関において国語・国文学に関する基礎的な教育をおこなうことができる。

国史学専攻

博士前期課程

1. 国史学に関する概括的な知識を有する。
2. 国史学に関する基本文献や史料を独力で読解できる。
3. 国史学に関する研究課題を設定し、史料蒐集をして学問的な考察を行い、その結果を発表できる。
4. 中等教育機関や博物館施設、文化行政の現場で学問的能力を活かすことができる。
5. わが国の歴史や文化、伝統を正しく理解し、現代社会の諸問題を見つめなおすことができる。

博士後期課程

1. 国史学に関する専門的な知識を有する。
2. 史料を独自の観点から分析し、問題点を見出すことができる。
3. 歴史学について独創的な研究を行い、論文、または口頭で発表できる。
4. 高等教育機関や博物館施設などにおいて、国史学に関する教育・研究などの活動ができる。
5. わが国の歴史や文化、伝統に関する高い見識を有し、現代社会の諸問題に対処できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科の科目は、複数の科目を体系的に履修する「コースワーク」と、個別の課題研究を行う「リサーチワーク」で構成される。

神道学専攻

博士前期課程

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 授業科目については、「基幹」「展開」の2科目を階梯的に配置する。
2. 基幹として、「神道思想」「祭祀学」「神道史」「神道古典」「宗教学」の各分野に科目を設置し、関連する分野の概括的な知識を学修することができるようにする。
3. 展開として、神道学に関する個別の課題研究を行う科目を設置する。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 学生の研究指導については、複数の教員（主・副）が指導にあたる。
2. 学生の研究指導については、学生個別のそれとともに、担当教員と専攻学生が全員参加する研究発表会を設ける。
3. 修士論文作成については、各学年において研究計画書・研究報告書の作成を義務づけ、研究の進捗状況に合わせた指導を行う。
4. 神職資格の取得に必要な科目を、専攻課程Ⅱ類として配置し、高度な専門知識・技能を修得するための指導を行う。

博士後期課程

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 授業科目については、「基幹」「展開」の2科目を階梯的に配置する。
2. 基幹として、「神道思想」「祭祀学」「神道史」「神道古典」「宗教学」の各分野に科目を設置し、関連する分野の専門的な知識を学修することができるようにする。
3. 展開として、神道学に関する専門的な個別の課題研究を行う科目を設置する。研究成果として、3編（うち査読論文1編以上）学術論文を發表することを必要とする。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 学生の研究指導については、複数の教員（主・副）が指導にあたる。
2. 学生の研究指導については、学生個別のそれとともに、担当教員と専攻学生が全員参加する研究発表会を設ける。
3. 学生の研究指導については、各学年において研究計画書・研究報告書の作成を義務づけ、研究の進捗状況に合わせた指導を行う。
4. 博士論文作成に関しては、各学年において構想・中間報告をおこなう。

国文学専攻

博士前期課程

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 授業科目については、「基幹」「展開」の2科目を階梯的に配置する。
2. 基幹として、「国文学（古典文学・近代文学）」「国語学」「漢文学」の各分野に科目を設置し、関連する分野の概括的な知識を学修することができるようにする。
3. 展開として、国語・国文学に関する個別の課題研究を行う科目を設置する。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 学生の研究指導については、複数の教員（主・副）が指導にあたる。
2. 学生の研究指導については、学生個別のそれとともに、担当教員と専攻学生が全員参加する研究発表会を設ける。
3. 修士論文作成については、各学年において研究計画書・研究報告書の作成を義務づけ、研究の進捗状況に合わせた指導を行う。
4. 国語の中学校・高等学校教員の資格取得に必要な科目を、適宜国文学専攻の専門科目として配置し、その分野の高度な専門職業人としての実践に役立つ指導を行う。

博士後期課程

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 授業科目については、「基幹」「展開」の2科目を階梯的に配置する。
2. 基幹として、「国文学（古典文学・近代文学）」「国語学」「漢文学」の各分野に科目を設置し、関連する分野の専門的な知識を学修することができるようにする。
3. 展開として、国語・国文学に関する専門的な個別の課題研究を行う科目を設置する。研究成果として、3編（うち査読論文1編以上）学術論文を发表することを必要とする。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 学生の研究指導については、複数の教員（主・副）が指導にあたる。
2. 学生の研究指導については、学生個別のそれとともに、担当教員と専攻学生が全員参加する研究発表会を設ける。
3. 学生の研究指導については、各学年において研究計画書・研究報告書の作成を義務づけ、研究の進捗状況に合わせた指導を行う。
4. 博士論文作成に関しては、各学年において構想・中間報告をおこなう。

国史学専攻

博士前期課程

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 授業科目については、「基幹」「展開」の2科目を階梯的に配置する。
2. 基幹として、「国史学特殊講義」「特殊文献講義」「国史学特殊演習」「特殊文献演習」を設置し、分野の概括的知識を学修することができるようにする。
3. 展開として、国史学に関する個別の課題研究を行う科目と、関係外国史の科目を設置する。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 学生の研究指導については、複数の教員（主・副）が指導にあたる。
2. 学生の研究指導については、学生個別のそれとともに、担当教員と専攻学生が全員参加する研究発表会を設ける。
3. 修士論文作成については、各学年において研究計画書・研究報告書の作成を義務づけ、研究の進捗状況に合わせた指導を行う。
4. 中学校の社会・高等学校の地歴科教員の専修免許状取得に必要な科目を、適宜国史学専攻の専門科目として配置し、その分野の高度な専門職業人としての実践に役立つ指導を行う。

博士後期課程

- 【1】教育内容については、次のとおり定める。
1. 授業科目については、「基幹」「展開」の2科目を段階的に配置する。
 2. 基幹として、「国史学特殊研究」「国史学特殊文献研究」を設置し、関連する分野の専門的な知識を学修することができるようにする。
 3. 展開として、「特殊課題研究」を設置する。研究成果として、3編（うち査読論文1編以上）学術論文を發表することを必要とする。
- 【2】教育方法については、次のとおり定める。
1. 学生の研究指導については、複数の教員（主・副）が指導にあたる。
 2. 学生の研究指導については、学生個別のそれとともに、担当教員と専攻学生が全員参加する研究発表会を設ける。
 3. 学生の研究指導については、各学年において研究計画書・研究報告書の作成を義務づけ、研究の進捗状況に合わせた指導を行う。
 4. 博士論文作成に関しては、各学年において構想・中間報告をおこなう。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本研究科は、教育研究上の目的を実現するにふさわしい、次のような資質・能力・意欲を有する者を求める。

神道学専攻

博士前期課程

1. 専門性を備えた職業人をめざす学生・社会人で、神道学に関する専門知識とその研究方法を身に付けて、現場においてそれを実践しようとする意欲を有する者。
2. 研究者をめざす学生・社会人で、神道学の領域に関する問題意識を有し、研究活動を遂行するための基本的能力を身に付けようとする者。
3. 社会人で、改めて神道学に関する専門的知識と研究方法を学ぶことによって、生涯にわたって自らの見識と教養を高めてゆこうとする者。
4. 外国人留学生で、神道学を専門的に学ぼうとする者。
5. 神道学に関連する学士課程修了者、またはそれと同等の学力を有する者。

博士後期課程

1. 神道学に関する強い問題意識を有し、専門的な研究活動を遂行しうる能力をもって社会に貢献しようとする意欲を有する者。
2. 神道学に関する強い問題意識を有するとともに、研究活動を遂行するための基本的能力を身につけており、将来自立した研究者をめざす者。

国文学専攻

博士前期課程

1. 専門性を備えた職業人をめざす学生・社会人で、国語・国文学に関する専門知識とその研究方法を身に付けて、現場においてそれを実践しようとする意欲を有する者。
2. 研究者をめざす学生・社会人で、国語・国文学の領域に関する問題意識を有し、研究活動を遂行するための基本的能力を身に付けようとする者。

3. 社会人で、改めて国語・国文学に関する専門的知識と研究方法を学ぶことによって、生涯にわたって自らの見識と教養を高めてゆこうとする者。
4. 外国人留学生で、国語・国文学を専門的に学ぼうとする者。
5. 国語・国文学に関する学士課程修了者、またはそれと同等の学力を有する者。

博士後期課程

1. 国語・国文学に関する強い問題意識を有し、専門的な研究活動を遂行しうる能力をもって社会に貢献しようとする意欲を有する者。
2. 国語・国文学に関する強い問題意識を有するとともに、研究活動を遂行するための基本的能力を身につけており、将来自立した研究者をめざす者。

国史学専攻

博士前期課程

1. 専門性を備えた職業人をめざす学生・社会人で、国史学に関する専門知識とその研究方法を身に付けて、現場においてそれを実践しようとする意欲を有する者。
2. 研究者をめざす学生・社会人で、国史学の領域に関する問題意識を有し、研究活動を遂行するための基本的能力を身に付けようとする者。
3. 社会人で、改めて国史学に関する専門的知識と研究方法を学ぶことによって、生涯にわたって自らの見識と教養を高めてゆこうとする者。
4. 外国人留学生で、国史学を専門的に学ぼうとする者。
5. 国史学に関する学士課程修了者、またはそれと同等の学力を有する者。

博士後期課程

1. 国史学に関する強い問題意識を有し、専門的な研究活動を遂行しうる能力をもって社会に貢献しようとする意欲を有する者。
2. 国史学に関する強い問題意識を有するとともに、研究活動を遂行するための基本的能力を身につけており、将来自立した研究者をめざす者。

大学院教育学研究科の3つのポリシー

教育研究上の目的

本研究科は、広い視野に立って教育諸科学の専門的知識を授け、教育学分野における研究能力を培い、また 教育分野における高度な専門性が求められる職業を担うための専門的実践力を培うことを目的とする。具体的には、(1)高度職業人としての教員の養成、(2)実践的な教育研究者の養成、(3)指導的教員の養成をめざす。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科は、その教育研究上の目的を達成するために、次のとおり課程の修了時点において学生が身につけるべき能力を定める。

これらの能力の獲得は、研究科の定める必要単位の修得と学位論文の評価基準にもとづく審査に合格したときに、達成したとみなされ、修士の学位を授与する。

1. 教育学・教科教育学等の教育諸科学に関する概括的な知識を有し、激しく変化する社会の教育課題に的確に対応できる高度な技術を身につけている。
2. 教育諸科学における専門分野に関する研究課題を自ら設定し、それを学問的に検討・考察し、その結果を発表できる。
3. 修得した高度な専門的能力を、初等及び中等教育機関において活かすことができる。
4. 日本の歴史と伝統そして文化に対する深い見識を持ち、それを子どもに伝え、教育を通してよりよい社会の実現に寄与することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科の科目は、複数の科目を体系的に履修する「コースワーク」と、個別の課題研究を行う「リサーチワーク」で構成される。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 授業科目については、「基礎」「専門」「演習・研究」「実習」の4科目を階梯的に配置する。
2. 専門科目については、「教育科学分野」「個別教育分野」「教育課題分野」の3つの分野から構成され、学生は自らの選択によって、その内の一つの分野を重点的に学修する。
3. 現職教員又は社会人入学者には、修士論文に代えて「特定の課題についての研究の成果」を設定する。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 学生の研究指導に関しては、主研究指導教員と副研究指導教員の複数指導体制をとり、修士論文ないし「特定の課題についての研究の成果」の指導に当たる。
2. 学生は、修了年次の秋季に、本研究科担当教員参加の修士論文ないし「特定の課題についての研究の成果」の中間報告会を行い、指導教員以外の教員による指導を受ける。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本研究科は教育研究上の目的を実現するに、学生、社会人、現職教員、外国人の中から、次のような資質・能力・意欲を有する者を求める。

1. 幅広い教養と高度な専門的知識を基に、現代の教育諸課題を解決する高度専門職業人としての幼稚園、小学校、中学校、高等学校における教員、保育・福祉関係職員になろうとする意欲のある者。
2. 教育諸科学の学修を基に、教育現場における実践と理論を統合する研究に携わりたいと意欲を持つ者。
3. 現代の教育諸科学を多面的に理解し、理論的に裏打ちされた対応の仕方や解決の方策を提示できる、指導的教員、保育・福祉関係職員になりたいと意欲を持つ者。

▶ 学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー） ◀

皇學館大学では、ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーに基づき、大学全体レベル（機関レベル）、学部・研究科レベル（教育課程レベル・授業科目レベル）の2段階で、次の検証ツールを用いて学修成果を検証します。

検証ツール（大学院全体）

	入学前・入学直後	在学中 (単位認定)	修了時 (修了後)
	アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの検証	カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかどうかの検証	ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうかの検証
大学全体レベル (機関レベル)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各種入学試験 ◆ 面接、推薦書 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ GPA ※ ◆ 資格・免許取得者 ◆ 退学・除籍率 ◆ 休学率 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学位授与数 ◆ 修士論文・博士論文 ◆ 就職率・進学率 ◆ 退学・除籍率 ◆ 休学率 ◆ 資格・免許取得者

検証ツール（文学研究科）

	入学前・入学直後	在学中 (単位認定)	修了時 (修了後)
	アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの検証	カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかどうかの検証	ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうかの検証
教育課程レベル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各種入学試験 ◆ 面接、推薦書 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ GPA ※ ◆ 資格・免許取得者 ◆ 退学・除籍率 ◆ 休学率 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学位授与数 ◆ 修士論文・博士論文 ◆ 就職率・進学率 ◆ 退学・除籍率 ◆ 休学率 ◆ 資格・免許取得者
授業科目レベル		◆ 成績評価	

検証ツール（教育学研究科）

	入学前・入学直後	在学中 (単位認定)	修了時 (修了後)
	アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの検証	カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかどうかの検証	ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうかの検証
教育課程レベル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各種入学試験 ◆ 面接、推薦書 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ GPA ※ ◆ 資格・免許取得者 ◆ 退学・除籍率 ◆ 休学率 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学位授与数 ◆ 修士論文 ◆ 就職率・進学率 ◆ 退学・除籍率 ◆ 休学率 ◆ 資格・免許取得者
授業科目レベル		◆ 成績評価	

※ GPA

GPAとは「Grade Point Average」の略で、科目の評価をグレードポイント（GP）に換算し、1単位あたりのグレードポイントの平均値を算出するもの。本学のGPAは、履修登録した科目毎の5段階評価（秀、優、良、可、不可・放棄）を4から0までのGP（Grade Point）に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点。

研究指導スケジュール

文学研究科 博士後期課程

年次	時期	指導内容
1年次	4月	指導教員によるガイダンスを受け、指定日までに「研究主題及び指導教員届」と研究主題、研究目的、研究実施計画が記載された「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員から研究指導計画に基づく個別指導を受けた後、学生支援部(教務担当)へ提出する。また、指導教員が担当する「演習」(「特殊研究」及び「特殊課題研究」)を履修するとともに、各自の研究テーマに沿った授業科目を指導教員の助言を受けて決定し、履修する。
	5～12月	3年間で雑誌論文3本以上(うち査読論文1本以上)を発表できるよう、「特殊課題研究」の時間を利用して毎週進捗状況を指導教員に報告し、その指導を受ける。
	1～2月	2年次に向けての研究について、指導教員の指導を受ける。
2年次	4月	1年次に引き続き、指定日までに前年度の「研究実施報告書」と今年度の「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員から研究指導計画に基づく個別指導を受けた後、学生支援部(教務担当)へ提出する。また指導教員が担当する「演習」(「特殊研究」及び「特殊課題研究」)を履修する。
	5～9月	次年度までに雑誌論文3本以上(うち査読論文1本以上)を発表できるよう、「特殊課題研究」の時間を利用して進捗状況を指導教員に報告し、その指導を受ける。
	10～12月	「特殊課題研究」の時間を利用して指導教員の指導を受け、2年次の秋学期に各専攻で開催する中間発表会において、博士論文に向けた研究成果を発表する。
3年次	4月	2年次に引き続き、指定日までに前年度の「研究実施報告書」及び今年度の「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員から研究指導計画に基づく個別指導を受けた後、学生支援部(教務担当)へ提出する。また指導教員が担当する「演習」(「特殊研究」及び「特殊課題研究」)を履修する。
	5～10月	今年度中に発表する雑誌論文3本以上(うち査読論文1本以上)と、博士論文の進捗状況について、「特殊課題研究」の時間を利用して指導教員に報告し、その指導を受ける。
	11～12月	博士論文を提出する。
	1～2月	審査委員(主査1名、副査2名)による最終試験の実施。その結果に基づいて、研究科委員会が可否を決定する。
	3月	学位の授与

文学研究科 博士前期課程

年次	時期	指導内容
1年次	4月	指導教員によるガイダンスを受け、指定日までに「研究(修論)指導教員届」と研究主題、研究目的、研究実施計画が記載された「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員から研究指導計画に基づく個別指導を受けた後、学生支援部(教務担当)へ提出する。また、指導教員が担当する「演習」もしくは「講義」及び配当年次にあった「課題研究(研究指導)」を履修するとともに、各自の研究テーマに沿った授業科目を指導教員の助言を受けて決定し、履修する。
	5～12月	個別の研究テーマに基づく研究の進捗状況について報告し、個別に指導教員の確認を受ける。
	1～2月	2年次に向けての研究について、個別に指導教員の指導を受ける。
2年次	4月	「修士論文」を履修登録し、指定日までに「修士論文等題目届」、前年度の「研究実施報告書」及び今年度の「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員から研究指導計画に基づく個別指導を受けた後、学生支援部(教務担当)へ提出する。また、指導教員が担当する「演習」もしくは「講義」及び「課題研究(研究指導)」を履修する。
	5～12月	修士論文の進捗状況について、個別に「課題研究(研究指導)」の時間を利用して指導教員に報告し、その指導を受ける。また、10月には修士論文についての中間報告書を作成し、「修士論文等中間報告書」を学生支援部(教務担当)に2部提出する。
	1月	修士論文を提出する。
	2月	審査委員(主査1名、副査2名)による最終試験の実施。その結果に基づいて、研究科委員会が可否を決定する。
	3月	学位の授与

教育学研究科 修士課程

年次	時期	指導内容
1年次	4月	指導教員によるガイダンスを受け、指定日までに「研究（修論）指導教員届」と研究主題、研究目的、研究実施計画が記載された「研究計画書」（各2部）を作成し、指導教員から研究指導計画に基づく個別指導を受けた後、学生支援部（教務担当）へ提出する。また、指導教員が担当する「演習」もしくは「講義」及び「課題研究（研究指導）」を履修するとともに、各自の研究テーマに沿った授業科目を指導教員の助言を受けて決定し、履修する。
	5～12月	個別の研究テーマに基づく研究の進捗状況について報告し、個別に指導教員の確認を受ける。
	1～2月	2年次に向けての研究について、個別に指導教員の指導を受ける。
2年次	4月	「修士論文」を履修登録し、指定日までに「修士論文等題目届」、前年度の「研究実施報告書」及び今年度の「研究計画書」（各2部）を作成し、指導教員から研究指導計画に基づく個別指導を受けた後、学生支援部（教務担当）へ提出する。また、指導教員が担当する「演習」もしくは「講義」及び「課題研究（研究指導）」を履修する。
	5～12月	修士論文又は特定の課題についての研究の成果（以下、「修士論文等」）の進捗状況について、個別に「課題研究（研究指導）」の時間を利用して指導教員に報告し、個別にその指導を受ける。また、10月には修士論文等についての中間報告書を作成し、「修士論文等中間報告書」を学生支援部（教務担当）に2部提出する。また、「修士論文等中間報告会」で中間報告を行う。
	1月	修士論文等を提出する。
	2月	審査委員（主査1名、副査2名）による最終試験の実施。その結果に基づいて、研究科委員会が合否を決定する。
	3月	学位の授与

文学研究科 博士後期課程

神道学専攻 博士後期課程

研究主題及び 指導教員等 (研究指導計画)	<p>1年次……………指定日までに、「研究主題及び指導教員届」「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究指導計画の確認)後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p> <p>2年次以降………毎年指定日までに、前年度の「研究実施報告書」(2部)と今年度の「研究計画書」(2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究計画の確認)の後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p>
研究指導者	<p>教授 河野 訓 教授 新田 均 教授 橋本 雅之 教授 松本 丘</p>
修得単位	<p>【令和5年度以降の入学生】 基幹科目は指導教員の特殊研究4単位以上、展開科目は12単位必修、合計16単位以上を修得すること。</p> <p>【平成31～令和4年度入学生】 基礎科目は指導教員の特殊研究4単位以上、基幹科目は12単位必修、合計16単位以上を修得すること。</p>
単位互換科目	<p>「京都・宗教系大学院連合」に加盟している他大学の科目を8単位まで履修することができます。履修希望者は「単位互換科目履修登録票」を指定された履修登録日までに学生支援部(教務担当)へ提出してください。なお、授業内容については、各校ウェブサイトのデータベースまたは学生支援部教務担当窓口にてシラバスを閲覧してください。</p> <p>※種智院大学人文学部の科目については、聴講可能ですが単位認定は認められないので注意してください。</p>

授業科目

令和5~8年度の入学生に適用

基幹科目

授業科目	形態	単位数	開講学期		備考
			春	秋	
神道思想特殊研究Ⅰ	演習	2	○		
神道思想特殊研究Ⅱ	演習	2		○	
祭祀学特殊研究Ⅰ	演習	2	○		
祭祀学特殊研究Ⅱ	演習	2		○	
神道史特殊研究ⅠA	演習	2	○		不開講
神道史特殊研究ⅠB	演習	2		○	不開講
神道史特殊研究ⅡA	演習	2	○		不開講
神道史特殊研究ⅡB	演習	2		○	不開講
神道史特殊研究ⅢA	演習	2	○		
神道史特殊研究ⅢB	演習	2		○	
神道史特殊研究ⅣA	演習	2	○		不開講
神道史特殊研究ⅣB	演習	2		○	不開講
神道古典特殊研究Ⅰ	演習	2	○		
神道古典特殊研究Ⅱ	演習	2		○	
宗教学特殊研究Ⅰ	演習	2	○		
宗教学特殊研究Ⅱ	演習	2		○	

展開科目

授業科目	形態	単位数	開講学期		備考
			春	秋	
特殊課題研究Ⅰ	演習	2	○		雑誌論文3本以上、うち 査読論文1本以上
特殊課題研究Ⅱ	演習	2		○	
特殊課題研究Ⅲ	演習	2	○		
特殊課題研究Ⅳ	演習	2		○	
特殊課題研究Ⅴ	演習	2	○		
特殊課題研究Ⅵ	演習	2		○	

平成31～令和4年度の入学生に適用

基礎科目

授 業 科 目	形 態	単位数	開講学期		備 考
			春	秋	
神道思想特殊研究Ⅰ	演習	2	○		
神道思想特殊研究Ⅱ	演習	2		○	
祭祀学特殊研究Ⅰ	演習	2	○		
祭祀学特殊研究Ⅱ	演習	2		○	
神道史特殊研究ⅠA	演習	2	○		不開講
神道史特殊研究ⅠB	演習	2		○	不開講
神道史特殊研究ⅡA	演習	2	○		不開講
神道史特殊研究ⅡB	演習	2		○	不開講
神道史特殊研究ⅢA	演習	2	○		
神道史特殊研究ⅢB	演習	2		○	
神道史特殊研究ⅣA	演習	2	○		不開講
神道史特殊研究ⅣB	演習	2		○	不開講
神道古典特殊研究Ⅰ	演習	2	○		
神道古典特殊研究Ⅱ	演習	2		○	
宗教学特殊研究Ⅰ	演習	2	○		
宗教学特殊研究Ⅱ	演習	2		○	

基幹科目

授 業 科 目	形 態	単位数	開講学期		備 考
			春	秋	
特殊課題研究Ⅰ	演習	2	○		雑誌論文3本以上、うち 査読論文1本以上
特殊課題研究Ⅱ	演習	2		○	
特殊課題研究Ⅲ	演習	2	○		
特殊課題研究Ⅳ	演習	2		○	
特殊課題研究Ⅴ	演習	2	○		
特殊課題研究Ⅵ	演習	2		○	

国文学専攻 博士後期課程

研究主題及び 指導教員等 (研究指導計画)	<p>1年次……………指定日までに、「研究主題及び指導教員届」「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究指導計画の確認)後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p> <p>2年次以降………毎年指定日までに、前年度の「研究実施報告書」(2部)と今年度の「研究計画書」(2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究計画の確認)の後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p>
研究指導者	教授 大島 信生 教授 田中 康二 教授 松下 道信
修得単位	<p>【令和5年度以降の入学生】</p> <p>基幹科目は指導教員の特殊研究4単位以上、展開科目は12単位必修、合計16単位以上を修得すること。</p>
単位互換科目	<p>「京都・宗教系大学院連合」に加盟している他大学の科目を8単位まで履修することができます。履修希望者は「単位互換科目履修登録票」を指定された履修登録日までに学生支援部(教務担当)へ提出してください。なお、授業内容については、各校ウェブサイトのデータベースまたは学生支援部教務担当窓口にてシラバスを閲覧してください。</p> <p>※種智院大学人文学部の科目については、聴講可能ですが単位認定は認められないので注意してください。</p>

授業科目

令和5~8年度の入学生に適用

基幹科目

授業科目	形態	単位数	開講学期		備考
			春	秋	
古典文学特殊研究ⅠA	演習	2	○		
古典文学特殊研究ⅡA	演習	2		○	
古典文学特殊研究ⅠB	演習	2	○		
古典文学特殊研究ⅡB	演習	2		○	
古典文学特殊研究ⅠC	演習	2	○		
古典文学特殊研究ⅡC	演習	2		○	
古典文学特殊研究ⅠD	演習	2	○		不開講
古典文学特殊研究ⅡD	演習	2		○	不開講
近代文学特殊研究Ⅰ	演習	2	○		不開講
近代文学特殊研究Ⅱ	演習	2		○	不開講
国語学特殊研究Ⅰ	演習	2	○		
国語学特殊研究Ⅱ	演習	2		○	
漢文学特殊研究Ⅰ	演習	2	○		
漢文学特殊研究Ⅱ	演習	2		○	

展開科目

授業科目	形態	単位数	開講学期		備考
			春	秋	
特殊課題研究Ⅰ	演習	2	○		雑誌論文3本以上、 うち査読論文1本以上
特殊課題研究Ⅱ	演習	2		○	
特殊課題研究Ⅲ	演習	2	○		
特殊課題研究Ⅳ	演習	2		○	
特殊課題研究Ⅴ	演習	2	○		
特殊課題研究Ⅵ	演習	2		○	

国史学専攻 博士後期課程

研究主題及び 指導教員等 (研究指導計画)	<p>1年次……………指定日までに、「研究主題及び指導教員届」「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究指導計画の確認)後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p> <p>2年次以降……毎年指定日までに、前年度の「研究実施報告書」(2部)と今年度の「研究計画書」(2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究計画の確認)の後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p>
研究指導者	教授 遠藤 慶太 教授 岡野 友彦 教授 松浦 光修
修得単位	<p>【令和5年度以降の入学生】</p> <p>基幹科目は指導教員の特殊研究4単位以上、展開科目は12単位必修、合計16単位以上を修得すること。</p>
単位互換科目	<p>「京都・宗教系大学院連合」に加盟している他大学の科目を8単位まで履修することができます。履修希望者は「単位互換科目履修登録票」を指定された履修登録日までに学生支援部(教務担当)へ提出してください。なお、授業内容については、各校ウェブサイトのデータベースまたは学生支援部教務担当窓口にてシラバスを閲覧してください。</p> <p>※種智院大学人文学部の科目については、聴講可能ですが単位認定は認められないので注意してください。</p>

授業科目

令和5~8年度の入学生に適用

基幹科目

授業科目	形態	単位数	開講学期		備考
			春	秋	
国史学特殊研究ⅠA	演習	2	○		
国史学特殊研究ⅡA	演習	2		○	
国史学特殊研究ⅠB	演習	2	○		
国史学特殊研究ⅡB	演習	2		○	
国史学特殊研究ⅠC	演習	2	○		
国史学特殊研究ⅡC	演習	2		○	
国史学特殊研究ⅠD	演習	2	○		
国史学特殊研究ⅡD	演習	2		○	
国史学特殊研究ⅠE	演習	2	○		
国史学特殊研究ⅡE	演習	2		○	
国史学特殊文献研究Ⅰ	演習	2	○		
国史学特殊文献研究Ⅱ	演習	2		○	

展開科目

授業科目	形態	単位数	開講学期		備考
			春	秋	
特殊課題研究Ⅰ	演習	2	○		雑誌論文3本以上、うち 査読論文1本以上
特殊課題研究Ⅱ	演習	2		○	
特殊課題研究Ⅲ	演習	2	○		
特殊課題研究Ⅳ	演習	2		○	
特殊課題研究Ⅴ	演習	2	○		
特殊課題研究Ⅵ	演習	2		○	

文学研究科 博士前期課程

神道学専攻 博士前期課程

研究指導教員届等の提出書類 (研究指導計画)	<p>1年次……………指定日までに「研究(修論)指導教員届」「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究指導計画の確認)後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p> <p>2年次……………指定日までに「修士論文等題目届」、前年度の「研究実施報告書」及び今年度の「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究計画の確認)後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p>
研究指導者	<p>教授 河野 訓 教授 中山 郁 教授 新田 均 教授 橋本 雅之 教授 松本 丘</p>
教員免許状 (専修)	<p>一種免許状を持っている学生または取得予定の学生で、文学研究科教職課程に関する履修内規(P.276)の別表1から24単位修得し、申請することによりP.267の教員免許状が交付されます。</p>
修得単位	<p>【令和5~8年度の入学生】 基幹科目は講義科目及び演習科目4単位を含む12単位以上、展開科目は課題研究4単位必修、合計30単位以上を修得すること。 また、8単位までは他の専攻または研究科の授業科目及び「京都・宗教系大学院連合」に加盟している他大学の単位互換科目を修得したものを充てることができます。</p>
単位互換科目	<p>「京都・宗教系大学院連合」に加盟している他大学の科目を8単位まで履修することができます。履修希望者は「単位互換科目履修登録票」を指定された履修登録日までに学生支援部(教務担当)へ提出してください。なお、授業内容については、各校ウェブサイトのデータベースまたは学生支援部教務担当窓口にてシラバスを閲覧してください。 ※種智院大学人文学部の科目について、聴講可能ですが単位認定は認められないので注意してください。</p>

授 業 科 目

令和5~8年度の入学生に適用

基幹科目

授 業 科 目	形 態	単位数	開講学期		備 考
			春	秋	
神道学研究基礎論	講義	2	○		
神道学研究法演習	演習	2		○	不開講
神道思想特殊講義Ⅰ	講義	2	○		◇
神道思想特殊講義Ⅱ	講義	2		○	◇
祭祀学特殊講義Ⅰ	講義	2	○		◇
祭祀学特殊講義Ⅱ	講義	2		○	◇
神道史特殊講義ⅠA	講義	2	○		不開講(令和9年度開講)
神道史特殊講義ⅠB	講義	2		○	不開講(令和9年度開講)
神道史特殊講義ⅡA	講義	2	○		不開講
神道史特殊講義ⅡB	講義	2		○	不開講
神道史特殊講義ⅢA	講義	2	○		不開講(令和9年度開講)
神道史特殊講義ⅢB	講義	2		○	不開講(令和9年度開講)
神道史特殊講義ⅣA	講義	2	○		不開講(令和9年度開講)
神道史特殊講義ⅣB	講義	2		○	不開講(令和9年度開講)
神道古典特殊講義Ⅰ	講義	2	○		◇
神道古典特殊講義Ⅱ	講義	2		○	◇
宗教学特殊講義Ⅰ	講義	2	○		◇
宗教学特殊講義Ⅱ	講義	2		○	◇
神道思想研究演習Ⅰ	演習	2	○		不開講(令和9年度開講)
神道思想研究演習Ⅱ	演習	2		○	不開講(令和9年度開講)
祭祀学研究演習Ⅰ	演習	2	○		不開講(令和9年度開講)
祭祀学研究演習Ⅱ	演習	2		○	不開講(令和9年度開講)
神道史研究演習ⅠA	演習	2	○		◇
神道史研究演習ⅠB	演習	2		○	◇
神道史研究演習ⅡA	演習	2	○		不開講
神道史研究演習ⅡB	演習	2		○	不開講
神道史研究演習ⅢA	演習	2	○		◇
神道史研究演習ⅢB	演習	2		○	◇
神道史研究演習ⅣA	演習	2	○		◇
神道史研究演習ⅣB	演習	2		○	◇
神道古典研究演習Ⅰ	演習	2	○		不開講(令和9年度開講)
神道古典研究演習Ⅱ	演習	2		○	不開講(令和9年度開講)
宗教学研究演習Ⅰ	演習	2	○		不開講(令和9年度開講)
宗教学研究演習Ⅱ	演習	2		○	不開講(令和9年度開講)

◇は令和9年度不開講の予定

展開科目

授 業 科 目	形 態	単位数	開講学期		備 考
			春	秋	
課題研究(研究指導)Ⅰ	演習	2	○		必修 2年次配当
課題研究(研究指導)Ⅱ	演習	2		○	必修 2年次配当

(注) 2年次生(長期履修許可者は最終年度)は「課題研究(研究指導)Ⅰ・Ⅱ」に加えて「修士論文」も履修登録すること

国文学専攻 博士前期課程

研究指導教員届等の提出書類 (研究指導計画)	<p>1年次……………指定日までに「研究(修論)指導教員届」「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究指導計画の確認)後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p> <p>2年次……………指定日までに「修士論文等題目届」、前年度の「研究実施報告書」及び今年度の「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究計画の確認)の後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p>
研究指導者	<p>教授 大島 信生 教授 木村 尚志 教授 齋藤 平 教授 田中 康二 教授 松下 道信</p>
教員免許状 (専修)	<p>一種免許状を持っている学生または取得予定の学生で、文学研究科教職課程に関する履修内規(P.276)の別表2から24単位修得し、申請することによりP.267の教員免許状が交付されます。</p>
修得単位	<p>【令和5~8年度の入学生】 基幹科目は講義科目及び演習科目4単位を含む12単位以上、展開科目は課題研究4単位必修、合計30単位以上を修得すること。 また、8単位までは他の専攻または研究科の授業科目及び「京都・宗教系大学院連合」に加盟している他大学の単位互換科目を修得したものを充てることができます。</p>
単位互換科目	<p>「京都・宗教系大学院連合」に加盟している他大学の科目を8単位まで履修することができます。履修希望者は「単位互換科目履修登録票」を指定された履修登録日までに学生支援部(教務担当)へ提出してください。なお、授業内容については、各校ウェブサイトのデータベースまたは学生支援部教務担当窓口にてシラバスを閲覧してください。 ※種智院大学人文学部の科目について、聴講可能ですが単位認定は認められないので注意してください。</p>

授 業 科 目

令和5～8年度の入学生に適用

基幹科目

授 業 科 目	形 態	単位数	開講学期		備 考
			春	秋	
古典文学特殊講義ⅠA	講義	2	○		◇
古典文学特殊講義ⅡA	講義	2		○	◇
古典文学特殊講義ⅠB	講義	2	○		◇
古典文学特殊講義ⅡB	講義	2		○	◇
古典文学特殊講義ⅠC	講義	2	○		不開講(令和9年度開講)
古典文学特殊講義ⅡC	講義	2		○	不開講(令和9年度開講)
古典文学特殊講義ⅠD	講義	2	○		不開講
古典文学特殊講義ⅡD	講義	2		○	不開講
近代文学特殊講義Ⅰ	講義	2	○		不開講
近代文学特殊講義Ⅱ	講義	2		○	不開講
国語学特殊講義Ⅰ	講義	2	○		不開講(令和9年度開講)
国語学特殊講義Ⅱ	講義	2		○	不開講(令和9年度開講)
漢文学特殊講義Ⅰ	講義	2	○		◇
漢文学特殊講義Ⅱ	講義	2		○	◇
古典文学研究演習ⅠA	演習	2	○		不開講(令和9年度開講)
古典文学研究演習ⅡA	演習	2		○	不開講(令和9年度開講)
古典文学研究演習ⅠB	演習	2	○		不開講(令和9年度開講)
古典文学研究演習ⅡB	演習	2		○	不開講(令和9年度開講)
古典文学研究演習ⅠC	演習	2	○		◇
古典文学研究演習ⅡC	演習	2		○	◇
古典文学研究演習ⅠD	演習	2	○		不開講
古典文学研究演習ⅡD	演習	2		○	不開講
近代文学研究演習Ⅰ	演習	2	○		不開講
近代文学研究演習Ⅱ	演習	2		○	不開講
国語学研究演習Ⅰ	演習	2	○		◇
国語学研究演習Ⅱ	演習	2		○	◇
漢文学研究演習Ⅰ	演習	2	○		不開講(令和9年度開講)
漢文学研究演習Ⅱ	演習	2		○	不開講(令和9年度開講)

◇は令和9年度不開講の予定

展開科目

授 業 科 目	形 態	単位数	開講学期		備 考
			春	秋	
課題研究(研究指導)Ⅰ	演習	1	○		隔週 必修
課題研究(研究指導)Ⅱ	演習	1		○	隔週 必修
課題研究(研究指導)Ⅲ	演習	1	○		隔週 必修 2年次配当
課題研究(研究指導)Ⅳ	演習	1		○	隔週 必修 2年次配当

(注) 2年次生(長期履修許可者は最終年度)は「課題研究(研究指導)Ⅲ・Ⅳ」に加えて「修士論文」も履修登録すること

国史学専攻 博士前期課程

研究指導教員届等の提出書類 (研究指導計画)	<p>1年次……………指定日までに「研究(修論)指導教員届」「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究指導計画の確認)後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p> <p>2年次……………指定日までに「修士論文等題目届」、前年度の「研究実施報告書」及び今年度の「研究計画書」(各2部)を作成し、指導教員の指導を受けた(研究計画の確認)の後、学生支援部(教務担当)に提出してください。</p>
研究指導者	<p>教授 遠藤 慶太 教授 岡野 友彦 教授 多田 實道 教授 谷口 裕信 教授 堀内 淳一 教授 松浦 光修</p>
教員免許状	<p>一種免許状を持っている学生または取得予定の学生で、文学研究科教職課程に関する履修内規(P.276)の別表3から24単位修得し、申請することによりP.267の教員免許状が交付されます。</p>
修得単位	<p>【令和5~8年度の入学生】</p> <p>基幹科目は講義科目及び演習科目4単位を含む12単位以上、展開科目は課題研究4単位必修、合計30単位以上を修得すること。</p> <p>また、8単位までは他の専攻または研究科の授業科目及び「京都・宗教系大学院連合」に加盟している他大学の単位互換科目を修得したものを充てることができます。</p>
単位互換科目	<p>「京都・宗教系大学院連合」に加盟している他大学の科目を8単位まで履修することができます。履修希望者は「単位互換科目履修登録票」を指定された履修登録日までに学生支援部(教務担当)へ提出してください。なお、授業内容については、各校ウェブサイトのデータベースまたは学生支援部教務担当窓口にてシラバスを閲覧してください。</p> <p>※種智院大学人文学部の科目について、聴講可能ですが単位認定は認められないので注意してください。</p>

授 業 科 目

令和5~8年度の入学生に適用

基幹科目

授 業 科 目	形 態	単位数	開講学期		備 考
			春	秋	
国史学特殊講義 I A	講義	2	○		◇
国史学特殊講義 II A	講義	2		○	◇
国史学特殊講義 I B	講義	2	○		◇
国史学特殊講義 II B	講義	2		○	◇
国史学特殊講義 I C	講義	2	○		不開講(令和9年度開講)
国史学特殊講義 II C	講義	2		○	不開講(令和9年度開講)
国史学特殊講義 I D	講義	2	○		◇
国史学特殊講義 II D	講義	2		○	◇
国史学特殊講義 I E	講義	2	○		不開講(令和9年度開講)
国史学特殊講義 II E	講義	2		○	不開講(令和9年度開講)
特殊文献講義 I	講義	2	○		不開講(令和9年度開講)
特殊文献講義 II	講義	2		○	不開講(令和9年度開講)
国史学研究演習 I A	演習	2	○		不開講(令和9年度開講)
国史学研究演習 II A	演習	2		○	不開講(令和9年度開講)
国史学研究演習 I B	演習	2	○		不開講(令和9年度開講)
国史学研究演習 II B	演習	2		○	不開講(令和9年度開講)
国史学研究演習 I C	演習	2	○		◇
国史学研究演習 II C	演習	2		○	◇
国史学研究演習 I D	演習	2	○		不開講(令和9年度開講)
国史学研究演習 II D	演習	2		○	不開講(令和9年度開講)
国史学研究演習 I E	演習	2	○		◇
国史学研究演習 II E	演習	2		○	◇
特殊文献演習 I	演習	2	○		◇
特殊文献演習 II	演習	2		○	◇

◇は令和9年度不開講の予定

展開科目

授 業 科 目	形 態	単位数	開講学期		備 考
			春	秋	
課題研究(研究指導) I	演習	2	○		必修 2年次配当
課題研究(研究指導) II	演習	2		○	必修 2年次配当
関係外国史研究演習	演習	2		○	
関係外国史特殊講義	講義	2	○		
国史学研究法(資料論)	講義	2	○		隔週

(注) 2年次生(長期履修許可者は最終年度)は「課題研究(研究指導) I・II」に加えて「修士論文」も履修登録すること

教育学研究科

教育学専攻 修士課程

研究指導教員届
等の提出書類
(研究指導計画)

- 1年次……………指定日までに「研究（修論）指導教員届」「研究計画書」（各2部）を作成し、指導教員の指導を受けた（研究指導計画の確認）後、学生支援部（教務担当）に提出してください。
- 2年次……………指定日までに「修士論文等題目届」、前年度の「研究実施報告書」及び今年度の「研究計画書」（各2部）を作成し、指導教員の指導を受けた（研究計画の確認）の後、学生支援部（教務担当）に提出してください。

研究指導者

教授 大杉 成喜 教授 加藤 純一 教授 駒田 聡子
 教授 勢力 稔 教授 中條 敦仁 教授 中松 豊
 教授 吉田 直樹 教授 渡邊 賢二 准教授 上野 祐一
 准教授 片山 靖富

教員免許状

一種免許状を持っている学生または取得予定の学生で、教育学研究科教職課程に関する履修内規（P.276）の別表1～3で24単位修得し、申請することにより、P.267の教員免許状が交付されます。
 （学校心理士については、P.268参照）

修得単位

【令和5～8年度の入学生】

基礎科目4単位、専門科目12単位以上（「教育科学分野」、「個別教育分野」、「教育課題分野」の3つのうち、主とする分野から6単位以上）、演習・研究科目10単位以上の合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

授 業 科 目

令和5～8年度の入学生に適用

授 業 科 目		形態	単位数	開講学期		備 考	
				春	秋		
科 基 礎	教 育 学 特 論	講義	2	○		(集中) 必修	
	教 職 特 論	講義	2	○		(集中) 必修	
専 門 科 目	教 育 科 学 分 野	教 育 哲 学 特 論	講義	2	○		(集中)
		教 育 史 特 論	講義	2	○		不開講
		教 育 社 会 学 特 論	講義	2		○	不開講
		教 育 方 法 学 特 論	講義	2		○	
		教 育 課 程 特 論	講義	2		○	(集中)
		教 育 心 理 学 特 論	講義	2	○		
		発 達 心 理 学 特 論	講義	2		○	
	個 別 教 育 分 野	学 校 心 理 学 特 論	講義	2	○		
		学 校・学 級 経 営 学 特 論	講義	2		○	(集中)
		教 育 臨 床 心 理 学 特 論	講義	2	○		
		教 育 評 価・心 理 検 査 特 論	講義	2	○		
		特 別 支 援 教 育 特 論	講義	2		○	
		幼 児 教 育 特 論	講義	2	○		不開講
		教 科 教 育 特 論 (国 語 科 教 育)	講義	2	○		
		教 科 教 育 特 論 (社 会 科 教 育)	講義	2	○		不開講
		教 科 教 育 特 論 (算 数 科 教 育)	講義	2	○		
		教 科 教 育 特 論 (理 科 教 育)	講義	2	○		
		教 科 教 育 特 論 (家 庭 科 教 育)	講義	2	○		
		教 科 教 育 特 論 (体 育 科 教 育)	講義	2	○		
教 育 課 題 分 野	教 科 教 育 特 論 (英 語 科 教 育)	講義	2	○		不開講	
	教 科 教 育 特 論 (道 徳 科 教 育)	講義	2	○		不開講	
	生 徒 指 導・進 路 指 導 特 論	講義	2	○			
	学 校 カ ウ ン セ リ ン グ 特 論	講義	2		○		
	教 育 相 談 特 論	講義	2	○			
	身 体 運 動 教 育 特 論	講義	2	○		(集中)	
	ス ポ ー ツ・健 康 学 特 論	講義	2		○		
	数 学 教 育 内 容 研 究	講義	2	○			
	数 学 教 育 学 特 論	講義	2		○		
	理 科 教 育 内 容 研 究	講義	2	○			
演 習・研 究 科 目	理 科 教 育 学 特 論	講義	2		○		
	専 門 演 習 A (教 育 科 学)	演習	2	○			
	専 門 演 習 B (個 別 教 育・教 育 課 題)	演習	2		○		
	課 題 研 究 (研 究 指 導) I	演習	2	○		1 年次は課題研究 (研究指導) I、II を 2 年次は課題研究 (研究指導) III、IV を履修のこと	
	課 題 研 究 (研 究 指 導) II	演習	2		○		
課 題 研 究 (研 究 指 導) III	演習	2	○				
課 題 研 究 (研 究 指 導) IV	演習	2		○			
課 題 研 究 (研 究 指 導) IV	演習	2		○			
科 実 習	心 理 教 育 的 ア セ ス メ ン ト 基 礎 実 習	実習	2	○		2 年次配当	
	学 校 カ ウ ン セ リ ン グ・コ ン サ ル テ ー シ ョ ン 基 礎 実 習	実習	2		○	2 年次配当	

(注) 2 年次生 (長期履修許可者は最終年度) は「課題研究 (研究指導) III・IV」に加えて「修士論文」も履修登録すること。ただし、現職教員または社会人入学者は、「修士論文」に代えて「特定の課題についての研究の成果」を履修登録することができる。

神職課程（専攻課程Ⅱ類）

※博士前期課程神道学専攻のみ

神職課程は、神職をめざす学生が、神社本庁で定められた規程により、神職資格を取得できるように設置している課程です。神職課程のうち専攻課程Ⅱ類は、神社本庁「神職養成機関に関する規定」の第四章第（二十条）に「高い教養と広い知識を踏まえ、神道に関する理論及び応用を教授・研究し、将来教学研究を担う指導神職となるに必要な基礎的資質を養う事を目的とする」とある。従って、神職をめざす堅い決心のもと、各自が自覚を持って履修してください。

神職資格

神社本庁（伊勢の神宮を本宗と仰ぎ、全国8万社の神社を包括する組織として、昭和21年に創立された。）の定める「階位検定及び授与に関する規程」により、神職資格【階位】は、上位より浄階（じょうかい）、明階（めいかい）、正階（せいかい）、権正階（ごんせいかい）、直階（ちよっかい）があります。

明階以下の階位は、神社本庁階位検定委員会の「検定（学識認定＝学科目単位）」を合格し、かつ所定の「神務実習」を修了したのち、同委員会の審査を経て階位が「授与」されます。

資格取得要件

1. 修士課程の修了要件を満たしていること。
2. 神職課程（専攻課程Ⅱ類）に関する所定の単位を修得していること。

◆神職課程（高等課程・専修課程・専攻課程Ⅰ）未修了者

課程名	学科目		神務実習					
	必修	選択必修	基礎実習	指定実習Ⅰ	指定実習Ⅱ	指定実習Ⅲ	神宮実習	中央実習
専攻課程Ⅱ類	39単位	4単位以上	○	○	○	○	○	○

○必修実習

◆神職課程（高等課程・専修課程・専攻課程Ⅰ）修了者

神宮実習 中央実習	学科目		神務実習					
	必修	選択必修	基礎実習	指定実習Ⅰ	指定実習Ⅱ	指定実習Ⅲ	神宮実習	中央実習
修了者	39単位	4単位以上	○	○	—	—	—	—
未修了者	39単位	4単位以上	○	○	—	—	○	○

○必修実習

大学での取得可能な階位（神職資格）

在学中に「神職課程：専攻課程Ⅱ類」を履修して、所定の単位を取得並びに、所定の「神務実習」を修了することによって、「明階（明階検定合格）」を取得することができます。

課程名	履修	検定合格（無試験）	階位授与	【神社本庁神職資格】
専攻課程Ⅱ類	博士前期課程神道学専攻	明階	明階	【明階検定合格・明階授与】

1. 履修手続き

- (1) 「神職課程履修申込書」を、神職養成部に期日までに提出すること。
- (2) 履修後に神職課程を辞退する場合は、指導教員に相談・報告の上、「神職課程履修辞退願」を神職養成部に提出すること。

神務実習

本学において神職課程を履修し、神社本庁神職資格を取得しようとする者は、神社本庁「階位検定及び授与に関する規程」に基づき、神職課程の一科目として本学の定める「神務実習」を履修しなければなりません。

実習は、神務実習(基礎実習)及び神務実習(指定実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)、神務実習(中央・神宮)のすべてを修了しなければなりません。但し、神職課程(高等課程・専修課程・専攻課程Ⅰ類)修了者で神宮実習、中央実習を履修修了した者は、神務実習(基礎実習)と神務実習(指定実習Ⅰ)を修了しなければなりません。

1. 目的

神職としての奉仕を実地に体験し、将来指導神職となるに必要な基礎的資質を養うことを目的としています。

2. 神務実習心得

神務実習は神明に対する真実の奉仕です。潔斎の徹底・清浄な心身の維持に心を致し、誠実、敬虔、謹慎の態度を以て一貫しなければなりません。

実習期間中は参籠の心構えで服装・頭髪等の身嗜みにいたるまで気を配り、言葉を明瞭に、動作を機敏に、何事にも積極的に取り組むよう心がけなければなりません。

3. 履修資格

- (1) 神職課程を履修中の者。(「神職課程履修申込書」を提出している者)
- (2) 修了後、神社に奉職する意志堅固な者。
- (3) 集団生活が可能で実習に耐え得る心身ともに健康な者。
- (4) 「実習申込書」を期日までに提出している者。
- (5) 「事前指導」、「事前研修」を受けた者。
- (6) 実習費が期限内に納入されている者。

4. 履修手続き

- (1) 実習申込説明会で配布された「実習申込書」その他必要書類を期日までに神職養成部へ提出すること。
- (2) 「実習費」を期日までに納入すること。

5. 履修内容

- (1) 機関実習※(事前指導、事前研修、事前テスト、指定レポート提出を含む)を受講すること。
- (2) 実務実習(大学指定の神社ほか)を指定日数分受講すること。
- (3) 機関実習(事後研修、指定レポート提出)を受講すること。
- (4) 「実習日誌」を提出すること。

※機関実習とは、大学内で行われる神務実習です。

6. 履修登録・成績評価

- (1) 履修登録されていない場合は、実習を行っても単位修得できないので、必ず登録すること。
- (2) 実習日誌・事前指導・事前事後研修の出席、事前テスト、提出レポート、実習態度（実習評価票）をあわせて総合する。

7. 注意事項

- (1) 最初に神務実習（基礎実習）を終えていなければ、他の実習を受講することは認められない。
- (2) 神務実習（指定実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）・神宮実習は、神職課程（専攻課程Ⅰ類）「祭式及び同行事作法A・B」をすでに履修した者、あるいは履修中の者でなければ履修することができない。
- (3) 中央実習は、神務実習（指定実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）・神宮実習が終えていなければ、履修することができない。
- (4) 各実習とも、各神社で定められた実習・奉仕日数が不足した場合は、神職養成部に報告の上、必ず大学が承認する神社で再度不足分の実習・奉仕を行われなければならない。
- (5) 各神務実習の事前指導及び事前研修には、実習に臨む心構え等基本的な重要事項が含まれている。また、事後研修は、実習の反省・総括指導を行う。そのため、特にその出欠を重視し、正当な理由なく無断で欠席（遅刻・早退も含む）した者は、当該実習の受講を放棄したものとみなし、当該実習を再度受講しなければならない。
- (6) 神職養成委員会において、実習の履修が不適切と判断した場合は神務実習を認めないことがある。
- (7) 神職養成委員会において、実習中に不適切と判断した場合は、履修の不許可や実習中止とする。
- (8) 実習に関する事柄についてSNSやインターネットなどに投稿・掲載・発信することを一切禁止する。実習に関する物品（印刷物、刊行物含む）や成果物、情報などを掲載することで、トラブルが起こりうるため、絶対に行わないこと。その事実を確認した場合、当該実習の参加停止、または修了不認定とする。
 学生本人以外（家族等）が行っても同様となるため、実習に関する成果物や情報など適正な管理に努めること。
- (9) 神務実習中の携帯電話・スマートフォン等の通信機器の使用は、禁止とする。
- (10) 実習及び事前指導・事前研修・事後研修等の出席は、背広上下（紺色又は、黒色の無地指定）、白ワイシャツ（無地指定、柄なしのもの、ボタンダウン等特殊な形状のものは禁止）、黒長靴下、黒革靴（運動靴やスニーカー等は厳禁）で学章を必ずつけること。女子は男子に準ずる服装とする。
- (11) 白衣等については、P.125を参照のこと。

8. 実習の種類及び日数

◎機関実習（大学が行う実習） ●実務実習先神社

神務実習	時期	実習名（場所）	日数	履修登録	備考（実習内容）
基礎実習			3日	1年次	
	1年次	◎機関実習 ・事前指導 ●神宮会館	1日 2日		
指定実習 I			35日以上	2年次	基礎実習修了後 祭式A及びB取得済みまたは履修中
I ①	1年次	◎機関実習 ①神饌調理 ②禊研修 ③祭式作法 ④祝詞	4コマ 3コマ 4コマ 4コマ		
I ②	1年次	実務神社実習 ・事前指導 ●本学が承認した神社	1日 4日分		
I ③	1年次～2年次	個別実習 ●本学が承認した神社	25日以上		
指定実習 II			10日	1年次	祭式A及びB取得済みまたは履修中
	1年次	・事前指導 ◎機関実習 ・事前研修 ・事前テスト ・レポート作成 ・事後研修 ●本学が指定する神社	0.5日 1日 0.5日 0.5日 0.5日 7日		事前研修) ・衣紋 ・修祓、拝礼 ・祝詞作文 事前テスト) ・大祓詞 ・実習神社由緒説明等 レポート作成) ・実習神社由緒説明等
指定実習 III			10日以上	1年次	
	1年次	・事前指導 ●神宮または熱田神宮	1日		
神宮実習			7日	1年次	祭式A及びB取得済みまたは履修中
	1年次	・事前指導 ●神宮	1日 6日		
中央実習			4日	2年次	基礎、指定 I・II・III、 神宮実習修了後
	2年次	・事前指導 ●神社本庁	1日 3日		

(注1) 基礎実習は、神職課程（高等課程・専修課程・専攻課程I類）修了者も、再履修しなければなりません。

9. 実習費

状況により変更される場合があります。(令和8年4月現在)

実習名	金額	振込時期	納入方法	注意事項
基礎実習	19,000円	4月上旬		
指定実習Ⅰ① (神饌調理)	実費	未定		
指定実習Ⅰ② (禊研修)	実費	未定		
指定実習Ⅰ③ (個別実習)	26,000円	5月中旬	証明書発行機 にて指定する 期間内に納入 すること。	◎納入時期は、掲示で連 絡します。 ◎実習費は一部事務手数 料等を含んだ金額です。
指定実習Ⅱ	26,000円	6月上旬		
神宮実習	30,000円	6月上旬		
中央実習	34,000円	1月中旬		

・指定実習Ⅲの実習費は不要です。

階位申請

次の書類を整え、期限を厳守して神職養成部に提出してください。(書類は説明会で配布)

- (1) 階位検定願 3通 (神社本庁所定用紙)
- (2) 階位授与願 3通 (神社本庁所定用紙)
- (3) 検定合格証写 3通 (神社本庁所定用紙)
- (4) 履歴書(複写式) 2通 (神社本庁所定用紙)
- (5) 修士課程(神道学専攻) 修了証明書並びに単位成績証明書・神務実習修了証明書(本庁所定用紙)
- (6) 明階検定・授与申請料 152,840円(令和8年4月現在)。

以上の書類を揃え、三重県神社庁を経て神社本庁に提出し審査を受けるため、書類の書き間違いや遅れは絶対に許されないので注意してください。

階位証の交付

修了証書授与式当日、各自に明階の階位証を交付します。

授業科目

「神職養成機関に関する規程」別表5(専攻課程Ⅱ類における学科学目及び修得すべき単位数)		授業科目	種別	単位数		開講学期		備考
				必修	選択	春	秋	
神道理論に関する研究	4	神道思想特殊講義Ⅰ	講義	2		○		◇
		神道思想特殊講義Ⅱ	講義	2			○	◇
神道史に関する研究	4	神道史特殊講義ⅠA	講義		2	○		不開講(令和9年度開講) 不開講(令和9年度開講) I～Ⅳから 不開講 4単位必修 不開講 不開講(令和9年度開講) 不開講(令和9年度開講) 不開講(令和9年度開講) 不開講(令和9年度開講)
		神道史特殊講義ⅠB	講義		2		○	
		神道史特殊講義ⅡA	講義		2	○		
		神道史特殊講義ⅡB	講義		2		○	
		神道史特殊講義ⅢA	講義		2	○		
		神道史特殊講義ⅢB	講義		2		○	
		神道史特殊講義ⅣA	講義		2	○		
神道史特殊講義ⅣB	講義		2		○			
神道古典に関する研究	4	神道古典特殊講義Ⅰ	講義	2		○		◇
		神道古典特殊講義Ⅱ	講義	2			○	◇
神道祭祀に関する研究及び演習	12	祭祀学特殊講義Ⅰ	講義	2		○		◇
		祭祀学特殊講義Ⅱ	講義	2			○	◇
		神道祭祀研究演習ⅠA	演習	2		○		★(読替)不開講(令和9年度開講)
		神道祭祀研究演習ⅠB	演習	2			○	★(読替)不開講(令和9年度開講)
		神道祭祀研究演習ⅡA	演習	2		○		不開講(令和9年度開講)
		神道祭祀研究演習ⅡB	演習	2			○	不開講(令和9年度開講)
神道教化に関する研究	4	神道教化特殊講義Ⅰ	講義	2		○		◇
		神道教化特殊講義Ⅱ	講義	2			○	◇
神社の管理運営に関する研究	6	神社管理運営特殊講義Ⅰ	講義	2		○		不開講(令和9年度開講)
		神社管理運営特殊講義Ⅱ	講義	2			○	不開講(令和9年度開講)
		神道福祉特殊講義	講義	2			○	◇
宗教学に関する研究	4	宗教学特殊講義Ⅰ	講義	2		○		◇
		宗教学特殊講義Ⅱ	講義	2			○	◇
(その他必修)		神務実習(基礎実習)	実習	1			○	認定科目
		神務実習(指定実習Ⅰ)	実習	1			○	認定科目
		神務実習(指定実習Ⅱ)	実習	1			○	認定科目
		神務実習(指定実習Ⅲ)	実習	1			○	認定科目
		神務実習(中央・神宮)	実習	1			○	認定科目
計	38	計		39	4以上			

必修科目39単位のほか、選択科目4単位以上修得のこと
◇は令和9年度不開講の予定

※神職課程(高等課程・専修課程・専攻課程Ⅰ類)が未修了の場合、専攻課程Ⅰ類の「祝詞研究ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」「祭式及び同行事作法A・B」「有職故実」「書道Ⅰ・Ⅱ」を履修しなければなりません。希望者は学生支援部教務担当へ申し出てください。

授 業 科 目	種 別	単 位 数		開講学期		備 考
		必修	選択	春	秋	
祝 詞 研 究 I A	演習	2		○		神職課程（注）修了者免除
祝 詞 研 究 I B	演習	2			○	神職課程（注）修了者免除
祝 詞 研 究 II A	演習	2		○		神職課程（注）修了者免除
祝 詞 研 究 II B	演習	2			○	神職課程（注）修了者免除
祭式及び同行事作法A	演習	2		○		神職課程（注）修了者免除
祭式及び同行事作法B	演習	2			○	神職課程（注）修了者免除
有 職 故 実	講義	2		○		神職課程（注）修了者免除
書 道 I	実技	1		○		神職課程（注）修了者免除
書 道 II	実技	1			○	神職課程（注）修了者免除

授業科目は専攻課程Ⅰ類と同じ。

（注）高等課程・専修課程・専攻課程Ⅰ類

読替科目対照表

専攻課程Ⅱ類科目	神道学専攻科目
神道祭祀研究演習ⅠA	祭祀学研究演習Ⅰ
神道祭祀研究演習ⅠB	祭祀学研究演習Ⅱ

学位ならびに免許・資格

**学位の授与
について
博士の学位**

学位の授与については、P.276の「皇學館大学学位規程」を参照してください。

- 甲 博士後期課程を修了した者に、皇學館大学博士（文学）の学位を授与します。
- 乙 学位論文を提出して、大学院の行う論文審査に合格し、かつ、博士後期課程を修了した者と同等以上の学力があると確認された者に、皇學館大学博士（文学）の学位を授与します。

修士の学位

文学研究科博士前期課程を修了した者に、皇學館大学修士（文学）の学位を、教育学研究科修士課程を修了した者に皇學館大学修士（教育学）を授与します。

免許・資格

○**教員免許状**

所定の単位を取得すれば、各専攻に応じて次表に掲げる教員専修免許状が授与されます。免許教科については取得している一種免許の教科に限ります。所定の単位については、P.276の各研究科の教職課程に関する履修内規を参照してください。

〈文学研究科〉

専攻	専修免許状の種類	免許教科
神道学専攻	中学校教諭	宗教
	高等学校教諭	宗教
国文学専攻	中学校教諭	国語
	高等学校教諭	国語
国史学専攻	中学校教諭	社会
	高等学校教諭	地理歴史

〈教育学研究科〉

専攻	専修免許状の種類	免許教科
教育学専攻	幼稚園教諭	
	小学校教諭	
	中学校教諭	保健体育
	高等学校教諭	保健体育

教育職員免許法 別表第1（第5条関係）より

第一欄		第二欄	第三欄
所要資格		基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数
免許状の種類			教科及び教職に関する科目
幼稚園教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。	75
	一種免許状	学士の学位を有すること。	51
小学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59
中学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59
高等学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59

備考（抜粋）

- 二 第二欄の「修士の学位を有すること」には、大学の専攻科又は文部科学大臣の指定するこれに相当する課程に1年以上在学し、30単位以上修得した場合を含むものとする。
- 七 専修免許状に係る第三欄に定める科目の単位数のうち、その単位数からそれぞれの一種免許状に係る同欄に定める科目の各単位数をそれぞれ差し引いた単位数については、大学院の課程又は大学の専攻科の課程において修得するものとする。

○学校心理士（一般社団法人学校心理士認定運営機構） 教育学研究科対象

学校心理士は、問題に直面している子どものカウンセリングなどによる直接的援助を行うことはいうまでもなく、子どもを取りまく保護者、教師、学校に対して学校心理学の専門的知識と技能をもって、心理教育的援助サービスを行うことを目的としている。

・資格申請について

大学院修士課程において、学校心理学に関する所定の8領域16単位、ならびに所定の実習を修得し（注1）、1年以上の専門的実務経験（注2）を有することが必要である。

（注1）8領域について

学校心理学

教授・学習心理学

発達心理学

臨床心理学

心理教育的アセスメント

学校カウンセリング・コンサルテーション

特別支援教育

生徒指導・教育相談、キャリア教育

実習1：心理教育的アセスメント基礎演習

実習2：学校カウンセリング・コンサルテーション基礎演習

（注2）専門的実務経験

幼児・児童・生徒等の園生活や学校生活等における心理的・教育的問題に関して、学校心理学の視点に立った専門的な心理教育的援助サービスを常勤、非常勤を問わず、学校の教員や専門員として経験すること。

【留意点】

- ・学校心理学に関する所定の8領域16単位は本学教育学専攻カリキュラムで開設されています。
- ・学校心理士の資格を取得希望する人は、担当教員に、事前に受講する科目や修論研究について必ず相談してください。なお、修論のテーマは学校心理学に関するものでなければなりません。

学位論文(修士)

修士論文の 登 録	<p>博士前期課程及び修士課程2年次に「修士論文」を履修登録するとともに、4月10日(金)(秋学期入学者は10月3日(土))までに、「修士論文題目届」を学生支援部(教務担当)に2部提出し登録します。</p> <p>未登録の場合は、該当年度に修士論文を提出することができません。</p>
特定の課題に ついての研究 の 成 果 (教育学研究科)	<p>教育学研究科生のうち、現職教員または社会人入学者が、「修士論文」に代えて「特定の課題についての研究の成果」を提出する場合は、1編につき12,000字程度からなる研究レポートを3編作成してください。</p>
中 間 報 告	<p>4月に論文題目届を提出し登録した学生は、10月3日(土)(秋学期入学者は4月18日(土))正午までに中間報告を2部学生支援部(教務担当)に提出してください。</p>
題目・指導 教員変更届	<p>論文題目及び指導教員を変更したい場合は、中間報告と同時に変更届を提出してください。これ以後に論文題目を変更したい場合は、修士論文と同時に変更届を提出してください。</p>
論文等提出時 の 注 意	<p>(1) 提出部数 主査用1部(ワープロ、パソコン使用) 副査用2部(ワープロ、パソコン又は主査用のコピー) ※付録又は資料等を別冊にする場合は、主査用・副査用それぞれにつけること。</p> <p>(2) 提出期間 令和9年1月22日(金)～1月28日(木)正午 (9月修了者は令和8年7月23日(木)～27日(月)正午) 提出受付時間 9:30～16:30 最 終 日 9:00～12:00 ※いかなる理由があっても遅れた場合は受け付けません。</p> <p>(3) 提出後の加筆・訂正・ページの増減等の変更は、一切認めません。</p> <p>(4) 印鑑を必ず持参してください。</p>
留年者の修士 論文等提出	<p>博士前期課程または修士課程の2年次生で、修士論文の中間報告を提出した者が、修士論文を未提出または評価が不可のため課程を修了できなかった場合は、次年度春学期(秋学期入学者は秋学期)に修士論文を提出することができます。</p>
修士論文の 審 査 基 準	<p>修士の学位論文は、当該専攻分野に関する先行研究を踏まえ、独自の視点で論点を整理していることを要します。</p> <p>(1) 新しい知見・解釈・展望の筋道が示されていること。 (2) 先行研究と自説がどう違うのか、きちんと説明されていること。 (3) 文献が正しく整理され、論文の形式が整っていること。 (4) 「皇學館大学研究倫理規程」ならびに「皇學館大学「人を対象とする研究」倫理規程」を遵守していること。</p>
口 頭 試 問	<p>令和9年2月18日(木)、19日(金) (9月修了者は令和8年8月25日(火)、26日(水)のいずれかにて実施) 日程は、提出期間の初日より大学院掲示板(2号館1F)に掲示します。</p>

用紙・表紙

- (1) 書式（主査用・副査用共通）
 - ①ワープロ・パソコンを使用して作成すること。
 - ②用紙は長期保存のできるものを使用し、A4サイズの片面印字とする。
 - ③印字は黒字とし、鮮明で読みやすいように注意すること。
 - ④縦書きの場合は、片面（1ページ）30字×20行×2段組、横書きの場合は、片面（1ページ）40字×30行を原則とする。
 - ⑤活字の大きさは、10.5ポイントを原則とする。
 - ⑥製本した場合、見えにくい箇所がないように、綴じ代に注意すること。
 - ⑦ページ数の印刷位置は見やすい位置で一定とする。
 - ⑧記念講堂の学生支援部カウンター備え付けの見本を参照すること。
- (2) 表紙（自筆・パソコン共通）

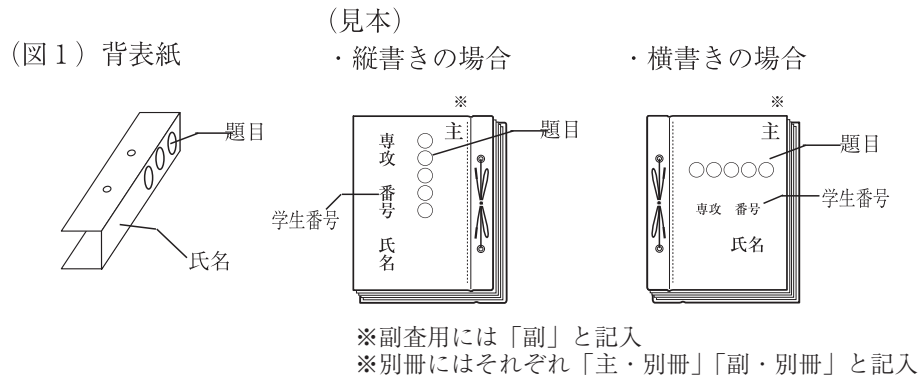
大学所定の表紙を使用のこと。

※付録、資料等を別冊にする場合も、主査用・副査用それぞれにつけること。

※表紙サイズは用紙のサイズと合わせること。

綴じ方

- (1) 用紙が縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとし、表紙に直接、手書きで題目・専攻・学生番号・氏名を明記すること（別冊も同様）。また、主査用の表紙右上に「主」、副査用の右上に「副」と記入すること。
- (2) 論文のはじめに、表紙と同様に題目・専攻・学生番号・氏名を明記した中表紙をつける。なお中表紙には「主」「副」の明記は不要（別冊も同様）。
- (3) 枚数が多く、かなり厚さがある場合は、図1のように背表紙をつけること。



審査員票

- (1) 主査用・副査用ともに、論文の終わりに所定の審査員票を綴ること。なお審査員票は、裏表紙の見開きに審査員の記載となるように綴ること。（提出者の氏名、捺印、主査の欄に指導教員名を記入すること。）
- (2) 付録、資料等別冊になる場合も主査用、副査用と同じように審査員票を綴ること。

博士學位請求論文（課程博士）

論文の提出にあたって

博士學位請求論文については、履修登録の必要はありません。

2年次の秋学期に各専攻の中間発表会で研究成果を発表してください。
(発表時期は各専攻の指示に従うこと)

博士學位請求論文の提出（甲号）

○本学学位規程第4条第1号（甲）による学位申請（課程博士）

博士後期課程の3年次生（論文提出のための在学継続者を含む）が博士學位請求論文を提出する場合は、研究指導教員の指示に従い、次の提出物を期限までに学生支援部（教務担当）に提出してください。

(1) 提出物

- ①学位申請書 1枚 ※学位規程様式5（甲）参照
- ②学位請求論文 5部（主査用・副査用含む）
- ③論文要旨 1部（A4サイズ、4,000字以内）

※上記①～③を学生支援部（教務担当）へ提出する際に、学位請求論文及び論文要旨のデータを指導教員と学生支援部（教務担当）に提出すること。

(2) 提出期間

令和8年11月7日(土)～12月10日(木) 正午

（※9月修了者（秋学期入学者及び在学継続者）の場合）
令和8年6月1日(月)～6月30日(火) 正午

(3) 最終試験

大学院委員会にて学位請求論文の受理を決定後、最終試験の日程等をお知らせします。

博士學位請求論文の審査基準

博士の学位論文は、当該専攻分野に関して独創性の面で顕著であることを要します。

- (1) 先行文献の適切な調査・分析・整理がなされていること。
- (2) 創意を支える論証が確かであること。
- (3) 当該研究が、その分野の国内外の学会に発表して、その論評に耐え得ること。
- (4) 「皇學館大学研究倫理規程」ならびに「皇學館大学「人を対象とする研究」倫理規程」を遵守していること。

用紙・表紙

(1) 書式（主査用・副査用共通）

- ①ワープロ・パソコンを使用して作成すること。
- ②用紙は長期保存のできるものを使用し、A4サイズ（片面印字）とする。
- ③印字は黒字とし、鮮明で読みやすいように注意すること。
- ④縦書きの場合は、片面（1ページ）30字×20行×2段組、横書きの場合は、片面（1ページ）40字×30行を原則とする。
- ⑤活字の大きさは、10.5ポイントを原則とする。

綴じ方

- ⑥製本した場合、見えにくい箇所がないように、綴じ代に注意すること。
- ⑦ページ数の印刷位置は見やすい位置で一定とする。

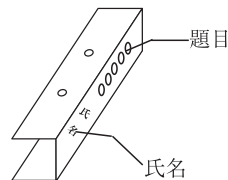
(2) 表紙

- ①論文の表紙については、学位規程の様式7を参照のこと。
※表紙サイズは用紙のサイズと合わせること。
- ②背表紙をつけて、題目及び氏名を記入すること。

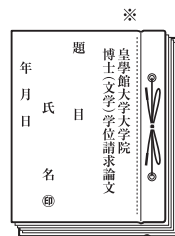
- (1) 用紙が縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとすること。
- (2) 論文のはじめに、表紙と同様に題目等を明記した中表紙をつける。
なお、中表紙への捺印は不要。

(見本)

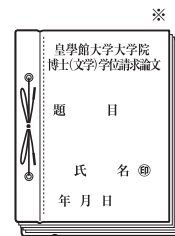
背表紙



・縦書きの場合



・横書きの場合



学位論文の公表

本学が博士の学位を授与した場合、学位規則（昭和28年文部省令第9号）及び本学学位規程に則り、次のとおり公表します。

- ①授与後3ヶ月以内に学位授与報告書を文部科学大臣へ提出するとともに、論文要旨及び審査結果要旨を本学公式ホームページにて公表。
- ②授与後1年以内に、学位請求論文を本学図書館又は公式ホームページにて公開するとともに、国立国会図書館に提出します。

在学継続

博士後期課程修了に要する所定の単位を修得した者が、博士學位請求論文を提出するために在学継続を希望する場合、「在学継続届」を2月末日までに学生支援部（教務担当）に提出してください。

※ 在学継続が認められた者は、授業料を半額とし、教育充実費の納付は免除されます。

満期退学後の論文提出

所定の単位を修得し、学位請求論文の提出を残して満期退学した者が、論文提出のため再入学する場合、授業料を半額とし、教育充実費の納付は免除されます。

なお、再入学をせずに学位請求論文を提出する場合は、学位規程第4条第2号(乙)の扱いとなり、別に定める学位請求論文審査手数料が必要となります。

皇學館大学大学院 文学研究科 博士後期課程 博士学位請求論文（課程博士）評価基準

本研究科は、わが国の歴史と伝統に基づく文化を究明することを教育研究上の目的とする。
その教育研究上の目的を達成するために、神道学専攻・国文学専攻・国史学専攻を置き、次に述べるような人材を育成する。

神道学専攻

神道精神を身につけ、日本文化の歴史と伝統を研究することにより、神道に関わる深い造詣を有する神職及び広い視野から神道を研究する能力を有する人材を育成する。

国文学専攻

国語や国文学の文献・現象を適切かつ深く解釈する能力と、広い視野から独自の問題を見出してその研究を行う能力を有する人材を育成する。

国史学専攻

国史に関する史資料の正確な読解能力を鍛えるとともに、中正な歴史観の養成を通して、高度な研究能力と、深い歴史的洞察力を有する人材を育成する。

以上の教育研究上の目的のもとで、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識が求められる本研究科博士後期課程では、所定の授業科目について16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、本大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。

特に博士論文の審査に関しては、当該専攻の定めるディプロマ・ポリシーの到達目標を考慮しつつ、以下の審査基準によって総合的な評価を行う。

（審査体制）

学位論文の審査は、学位審査に係る透明性・客観性を確保するため、当該論文に関する最終試験（公開の口頭試問）により審査し、主査1名及び副査2名以上の論文調査委員の合議で行う。

（評価項目）

博士の学位論文は、当該専攻分野に関して独創性の面で顕著であることを要する。

- (1) 先行文献の適切な調査・分析・整理がなされていること。
- (2) 創意を支える論証が確かであること。
- (3) 当該研究が、その分野の国内外の学会に発表して、その論評に耐え得ること。
- (4) 「皇學館大学研究倫理規程」ならびに「皇學館大学「人を対象とする研究」倫理規程」を遵守していること。

（評価基準）

上記の評価項目すべてを満たす学位申請論文を、最終試験を経た上で、博士論文として合格とする。

皇學館大学大学院 文学研究科 博士前期課程

修士論文評価基準

本研究科は、わが国の歴史と伝統に基づく文化を究明することを教育研究上の目的とする。
その教育研究上の目的を達成するために、神道学専攻・国文学専攻・国史学専攻を置き、次に述べるような人材を育成する。

神道学専攻

神道精神を身につけ、日本文化の歴史と伝統を研究することにより、神道に関わる深い造詣を有する神職及び広い視野から神道を研究する能力を有する人材を育成する。

国文学専攻

国語や国文学の文献・現象を適切かつ深く解釈する能力と、広い視野から独自の問題を見出してその研究を行う能力を有する人材を育成する。

国史学専攻

国史に関する史資料の正確な読解能力を鍛えるとともに、中正な歴史観の養成を通して、高度な研究能力と、深い歴史的洞察力を有する人材を育成する。

以上の教育研究上の目的のもとで、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力が求められる本研究科博士前期課程では、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、本大学院の行う修士論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。

特に修士論文の審査に関しては、当該専攻の定めるディプロマ・ポリシーの到達目標を考慮しつつ、以下の審査基準によって総合的な評価を行う。

(審査体制)

修士論文の審査は、学位審査に係る透明性・客観性を確保するため、当該論文に関する最終試験（口頭試問）により審査し、主査1名及び副査2名の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

修士の学位論文は、当該専攻分野に関する先行研究を踏まえ、独自の視点で論点を整理していることを要する。

- (1) 新しい知見・解釈・展望の筋道が示されていること。
- (2) 先行研究と自説がどう違うのか、きちんと説明されていること。
- (3) 文献が正しく整理され、論文の形式が整っていること。
- (4) 「皇學館大学研究倫理規程」ならびに「皇學館大学「人を対象とする研究」倫理規程」を遵守していること。

(評価基準)

上記の評価項目すべてを満たす学位申請論文を、最終試験を経た上で、修士論文として合格とする。

皇學館大学大学院 教育学研究科 修士課程

修士論文・特定の課題についての研究の成果評価基準

本研究科は、広い視野に立って教育諸科学の専門的知識を授け、教育学分野における研究能力を培い、また教育分野における高度な専門性が求められる職業を担うための専門的実践力を培うことを目的とする。具体的には、(1)高度職業人としての教員の養成、(2)実践的な教育研究者の養成、(3)指導的教員の養成をめざす。

以上の教育研究上の目的のもとで、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力が求められる本研究科修士課程では、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、本大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果（以下「修士論文等」という。）の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。

特に修士論文等の審査に関しては、教育学研究科修士課程ディプロマ・ポリシーの到達目標を考慮しつつ、以下の審査基準によって総合的な評価を行う。

（審査体制）

修士論文等の審査は、学位審査に係る透明性・客観性を確保するため、当該論文等に関する最終試験（口頭試問）により審査し、主査1名及び副査2名の審査委員の合議で行う。

（評価項目）

修士論文等は、次の評価項目を考慮して総合的に評価する。

修士論文

- (1) 研究テーマが明確であり、学問的意義が意識されていること。
- (2) テーマに基づいて、適切な問題を設定し、一貫した論理展開がされていること。
- (3) 研究目的にふさわしい分析手法が用いられ、資料やデータの解釈が適切であること。
- (4) 先行研究や関連した研究を十分に調査し、論文の形が整っていること。
- (5) 研究テーマの分析内容、結論において、独自の知見などが加えられていること。
- (6) 「皇學館大学研究倫理規程」ならびに「皇學館大学「人を対象とする研究」倫理規程」を遵守していること。

特定の課題についての研究の成果

- (1) 課題が明確であり、問題関心が認められるものであること。
- (2) 課題に基づいて、適切な問題を設定し、一貫した論理展開がされていること。
- (3) 研究目的にふさわしい調査又は分析手法が用いられ、資料やデータの解釈が適切であること。
- (4) 先行研究や関連した研究を十分に調査し、研究レポートとして整っていること。
- (5) 課題の分析内容、結論において、独自の知見などが加えられていること。
- (6) 「皇學館大学研究倫理規程」ならびに「皇學館大学「人を対象とする研究」倫理規程」を遵守していること。

（評価基準）

上記の評価項目すべてを満たす学位申請論文等を、最終試験を経た上で、修士論文等として合格とする。

関係規程

- 皇學館大学学位規程
- 皇學館大学大学院教務内規
- 文学研究科神職課程に関する履修内規
- 文学研究科教職課程に関する履修内規
- 教育学研究科教職課程に関する履修内規

各規程は以下の2次元コードから大学公式HPにアクセスして確認してください。



専攻科

神道学専攻科

神道学専攻

神道学専攻科について

目的

神道学専攻科は、各方面の強い要望によって昭和56年に発足し、神宮皇學館大学の建学の精神を継承して、学部学科の基礎の上に、神道に関する知識及び技能を精深な程度に教授し、その研究を指導することを目的としています。

専攻科は、日本の歴史・伝統の核心である神道の、高度な専門的研究機関ですが、また将来指導神職となるに必要な基礎的資質を養うことも目標としています。

授業科目及び解説

神道学専攻科 神道学専攻

修得単位

必修4単位 選択32単位

授業科目

令和5~8年度の入学生に適用

授業科目	種別	単位数		開講学期		備考 (*学部と同時開講)	
		必修	選択	春	秋		
神道概論Ⅰ	講義	2		○		4単位必修 *「神道概論Ⅰ」	
神道概論Ⅱ	講義	2			○		*「神道概論Ⅱ」
祭祀学研究Ⅰ	講義		2	○		16単位以上 32単位 *「祭祀概論Ⅰ」	
祭祀学研究Ⅱ	講義		2		○		*「祭祀概論Ⅱ」
神道古典研究ⅠA	演習		2	○			
神道古典研究ⅠB	演習		2		○		
神道古典研究ⅡA	演習		2	○			*「古典講読ⅡA(日本書紀)」
神道古典研究ⅡB	演習		2		○		*「古典講読ⅡB(日本書紀)」
神道史研究Ⅰ	講義		2	○			*「神道史Ⅰ」
神道史研究Ⅱ	講義		2		○		*「神道史Ⅱ」
神道神学研究Ⅰ	講義		2	○			*「神道神学Ⅰ」
神道神学研究Ⅱ	講義		2		○		*「神道神学Ⅱ」
祝詞研究ⅠA	演習		2	○			
祝詞研究ⅠB	演習		2		○		
祝詞研究ⅡA	演習		2	○			*「祝詞作文Ⅰ」
祝詞研究ⅡB	演習		2		○		*「祝詞作文Ⅱ」
神道教化研究Ⅰ	講義		2	○			*「神道教化概論Ⅰ」
神道教化研究Ⅱ	講義		2		○		*「神道教化概論Ⅱ」
宗教学研究Ⅰ	講義		2	○		*「宗教学概論Ⅰ」	
宗教学研究Ⅱ	講義		2		○	*「宗教学概論Ⅱ」	
宗教史研究Ⅰ	講義		2	○		*「世界宗教史Ⅰ」	
宗教史研究Ⅱ	講義		2		○	*「世界宗教史Ⅱ」	

(必修科目4単位のほか選択科目32単位以上修得のこと)

神 職 課 程 (専攻課程 I 類)

神職課程は、神職をめざす学生が、神社本庁で定められた規程により、神職資格を取得できるよう設置している課程です。

履修者は、修了後、神社に奉職するという明確で堅固な意志のもと、履修してください。

神 職 資 格

神社本庁（伊勢の神宮を本宗と仰ぎ、全国8万社の神社を包括する組織として、昭和21年に創立された。）の定める「階位検定及び授与に関する規程」により、神職資格【階位】は、上位より浄階（じょうかい）、明階（めいかい）、正階（せいかい）、権正階（ごんせいかい）、直階（ちよっかい）があります。

明階以下の階位は、神社本庁の階位検定委員会の「検定（学識認定＝学科目単位）」を合格し、かつ所定の「神務実習」を修了したのち、同委員会の審査を経て階位が「授与」されます。

**神 職 資 格
取 得 条 件**

1. 修了単位を修得していること。
2. 神職課程（専攻課程 I 類）に関する所定の単位を修得していること。

課程名	学科目		神務実習 (4 単位)				(1 単位)	
	必修	選択必修	基礎実習	指定実習 I	指定実習 II	指定実習 III	神宮実習	中央実習
専攻課程 I 類	57 単位	2 単位以上	○	○	○	○	△	△

○必修実習

△履修者は、神社本庁の特別措置により、所定の要件を満たした者には、受講が認められる。ただし、事情により受講者数が限定される場合がある。P.281の7.注意事項の(4)を参照。

**大学での取得
可能な階位
(神職資格)**

在学中に「神職課程：専攻課程 I 類」を履修して、所定の単位を取得並びに、所定の「神務実習」を修了することによって、「正階（明階検定合格）」を取得することができます。

課程名	履 修	検定合格 (無試験)	階位授与	【神社本庁神職資格】
専攻課程 I 類	神道学専攻科	明階	正階	【明階検定合格・正階授与】

専攻課程 I 類【明階検定合格・正階授与】

専攻課程 I 類は、神社本庁「神職養成機関に関する規程」の第四章（第二十条）に、「神道に関する知識及び技能を精深な程度において教授し、並びに神明奉仕の精神を涵養せしめることを目的とする」とあり、将来指導神職たるべき素地を養うため大学に設置されています。

1. 履修手続き
 - (1) 「神職課程履修申込書」を、期日までに神職養成部へ提出すること。
 - (2) 履修後に神職課程を辞退する場合は、指導教員に相談・報告の上、「神職課程履修辞退願」を必ず神職養成部へ提出すること。
2. 明階申請

大学卒業後・修了後、神宮・神社・神社本庁・神社庁の職員（神職・巫女・事務員を問わない）として2年以上在職し、神社本庁研修規程に基づき、必要な研修を受講した後、各都道府県神社庁を通して「明階」を申請することができます。

履修上の注意

1. 過去に、本学で次の科目を修得した場合は、申請により単位認定ができることがありますので学生支援部教務担当へ相談してください。

有職故実・神社関係法規（宗教関係法規）・神宮史Ⅰ・神宮史Ⅱ
 日本宗教史・仏教概説（世界宗教概説Ⅰ）・近代神道史・近代神道論・
 神務実習
 情報処理Ⅰ（基礎）・情報処理Ⅱ（応用）
 情報処理Ⅲ（ネットワーク）・情報処理Ⅳ（プログラミング）
 情報処理基礎・情報処理上級Ⅰ（ネットワーク）
 情報処理上級Ⅱ（プログラミング）、他情報処理関係科目

2. 神務実習のうち神務実習（基礎実習）は文学部神職課程において履修した者も、再履修しなければなりません。
3. すでに直階・権正階・正階の階位を有していても、本学所定の神務実習を全て履修しなければなりません。
 （注）文学部神職課程において履修した神務実習（指定実習Ⅱ）・神務実習（中央・神宮）については再履修する必要はありません。ただし、神務実習（指定実習Ⅰ・Ⅲ）は履修する必要があります。

神務実習

本学において神職課程を履修し、神社本庁神職資格を取得しようとする者は、神社本庁「階位検定及び授与に関する規程」に基づき、神職課程の一科目として本学の定める「神務実習」を必ず履修しなければなりません。

実習は、神務実習（基礎実習）・神務実習（指定実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）をすべて修了しなければなりません。ただし、神宮実習と中央実習については、別に定める履修要件を満たした者を神職養成委員会の議を経て、同委員会が推薦するものとする。また、直階・権正階・正階の階位を有していても、本学所定の神務実習をすべて履修しなければなりません。

1. 目的

神職としての奉仕を実地に体験し、将来指導神職となるに必要な基礎的資質を養うことを目的としています。

2. 神務実習心得

神務実習は神明に対する真実の奉仕です。潔斎の徹底・清浄な心身の維持に心を致し、誠実、敬虔、謹慎の態度を以て一貫しなければなりません。

実習期間中は参籠の心構えで服装・頭髪等の身嗜みにいたるまで気を配り、言葉を明瞭に、動作を機敏に、何事にも積極的に取り組むよう心がけなければなりません。

3. 履修資格

- (1) 神職課程を履修中の者。（「神職課程履修申込書」を提出している者）
- (2) 卒業後、神社に奉職する意志堅固な者。
- (3) 集団生活が可能で実習に耐え得る心身ともに健康な者。
- (4) 「実習申込書」を期日までに提出している者。
- (5) 「事前指導」、「事前研修」を受けた者。
- (6) 実習費が期限内に納入されている者。

4. 履修手続き

- (1) 実習申込説明会で配布された「実習申込書」その他必要書類を期日までに提出をすること。
- (2) 「実習費」を期日までに納入すること。

5. 履修内容

- (1) 機関実習◎（事前指導、事前研修、事前テスト、指定レポート提出を含む）を受講すること。
- (2) 実務実習（大学指定の神社ほか）を指定日数分受講すること。
- (3) 機関実習（事後研修、指定レポート提出）を受講すること。
- (4) 「実習日誌」を提出すること。

◎機関実習とは、大学内で行われる神務実習です。

6. 履修登録・成績評価

- (1) 履修登録がされていない場合は、実習を行っても単位修得できないので、必ず登録すること。
- (2) 神務実習（中央・神宮）の履修登録は、4月に行うこと。但し、実習許可がおりない場合がある（7. 注意事項の(4)を参照）。
- (3) 実習日誌・事前指導・事前事後研修の出席、事前テスト、提出レポート、実習態度（実習評価票）をあわせて総合評価する。

7. 注意事項

- (1) 最初に神務実習（基礎実習）を終えていなければ、他の実習を受講することは認められない。
- (2) 神務実習（指定Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）・神宮実習は、「祭式及び同行事作法A・B」をすでに履修した者、或いは履修中の者でなければ履修することができない。
- (3) 中央実習は、神務実習（指定Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）・神宮実習が終えていなければ、履修することができない。
- (4) 神宮実習・中央実習については、神社本庁の特例措置として、人物及び既往の神務実習の成績、学科目の成績並びに単位の修得等を勘案して、特別に受講が認められる。しかし、事情により受講者数が限定される場合がある。受講推薦の条件は下記の通り。
 - ア. 神職を志す者であること（面談<進路指導等>により意志を確認）。
 - イ. 実習（基礎・指定等）において、神職としての資質を疑わしめるような問題行動等の指摘がなされていないこと。
 - ウ. 修学姿勢、及び生活態度が良好と認められ、神職たるに相応しい人物であること。
- (5) 各実習とも、各神社で定められた実習・奉仕日数が不足した場合は、神職養成部に報告の上、必ず大学が承認する神社で再度不足分の実習・奉仕を行われなければならない。
- (6) 各神務実習の事前指導及び事前研修には、実習に臨む心構え等基本的な重要事項が含まれている。また、事後研修は、実習の反省・総括指導を行う。そのため、特にその出欠を重視し、正当な理由なく無断で欠席（遅刻・早退も含む）した者は、当該実習の受講を放棄したものとみなし、当該実習を再度受講しなければならない。
- (7) 神職養成委員会において、実習の履修が不適切と判断した場合は、神務実習を認めないことがある。
- (8) 神職養成委員会において、実習中に不適切と判断した場合は、履修の不許可や実習中止とする。
- (9) 神務実習中の携帯電話の使用は、禁止とする。
- (10) 実習に関する事柄についてSNSやインターネットなどに投稿・掲載・発信することを一切禁止する。実習に関する物品（印刷物、刊行物含む）や成果物、情報などを掲載することで、トラブルが起りうるため、絶対に行わないこと。その事実を確認した場合、当該実習の参加停止、または修了不認定とする。

学生本人以外（家族等）が行っても同様となるため、実習に関する成果物や情報など適正な管理に努めること。

- (11) 実習及び事前指導・事前研修・事後研修等の出席は、背広上下（紺色又は、黒色の無地指定）、白ワイシャツ（無地指定、柄なしのもの、ボタンダウン等特殊な形状のものは禁止）、黒長靴下、黒革靴（運動靴やスニーカー等は厳禁）で学章を必ずつけること。女子は男子に準ずる服装とする。
- (12) 白衣等については、P.125を参照のこと。

8. 実習の種類及び日数

◎機関実習（大学が行う実習） ●実務実習先神社

神務実習	時期	実習名（場所）	日数	履修登録	備考（実習内容）
基礎実習			3日	1年次	
	1年次	◎機関実習 ・事前指導 ●神宮会館	1日 2日		
指定実習Ⅰ			10日以上	1年次	基礎実習修了後 祭式A及びB取得済みまたは履修中
I①	1年次	◎機関実習 ①神饌調理 ②禊研修 ③祭式作法 ④祝詞	4コマ 3コマ 4コマ 4コマ		
I②	1年次	実務神社実習 ・事前指導 ●本学が承認した神社	1日 4日分		
指定実習Ⅱ			10日	1年次	祭式A及びB取得済みまたは履修中
	1年次	・事前指導 ◎機関実習 ・事前研修 ・事前テスト ・レポート作成 ・事後研修 ●本学が指定する神社	0.5日 1日 0.5日 0.5日 0.5日 7日		事前研修) ・衣紋 ・修祓、拝礼 ・祝詞作文 事前テスト) ・大祓詞 ・実習神社由緒説明等 レポート作成) ・実習神社由緒説明等
指定実習Ⅲ			10日以上	1年次	
	1年次	・事前指導 ●神宮または熱田神宮	1日		
※神宮実習			7日	1年次	祭式A及びB取得済みまたは履修中
	1年次	・事前指導 ●神宮	1日 6日		
※中央実習			4日	1年次	基礎、指定Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、 神宮実習修了後
	1年次	・事前指導 ●神社本庁	1日 3日		

- (注1) 基礎実習は文学部神職課程（高等課程）において履修した者も、再履修しなければなりません。
- (注2) すでに直階・権正階・正階の階位を有していても、本学所定の神務実習をすべて履修しなければなりません。

9. 実習費

状況により変更される場合があります。(令和8年4月現在)

実習名	金額	振込時期	納入方法	注意事項
基礎実習	19,000円	4月上旬	証明書発行機にて指定する期間内に納入すること。	◎納入時期は、掲示で連絡します。 ◎実習費は一部事務手数料等を含んだ金額です。
指定実習Ⅰ① (神饌調理)	実費	未定		
指定実習Ⅰ② (禊研修)	実費	未定		
指定実習Ⅱ	26,000円	6月上旬		
神宮実習	30,000円	6月上旬		
中央実習	34,000円	1月中旬		

※指定実習Ⅲの実習費は不要です。

階位申請

次の書類を整え、期限を厳守して神職養成部に提出してください。

(書類は説明会で配付)

- (1) 階位検定願 3通 (神社本庁所定用紙)
- (2) 階位授与願 3通 ()
- (3) 検定合格証写 3通 (神社本庁所定用紙)
- (4) 履歴書(複写式) 2通 ()
- (5) 神道学専攻科修了証明書並びに単位成績証明書・神務実習修了証明書
(本学所定用紙)
- (6) 明階検定・正階授与申請料 122,840円 (令和8年4月現在)

以上の書類を揃え、三重県神社庁を経て神社本庁に提出し審査を受けるため、書類の書き間違いや遅れは絶対に許されないので注意してください。

階位証の交付

修了証書授与式当日、各自に正階の「階位証」並びに「明階検定合格証」が交付されます。

令和5~8年度の入学生に適用

授業科目

「神職養成機関に関する規程」別表4(専攻課程I類における学科科目及び修得すべき単位数)		授業科目	種別	単位数		開講学期		備考 (*学部と同時開講)
				必修	選択	春	秋	
神道概論	4	神道概論 I	講義	2		○		*神道概論 I
		神道概論 II	講義	2			○	*神道概論 II
神道史に関する講義 又は演習	4	神道史研究 I	講義	2		○		*神道史 I
		神道史研究 II	講義	2			○	*神道史 II
神道神学に関する講義 又は演習	4	神道神学研究 I	講義	2		○		*神道神学 I
		神道神学研究 II	講義	2			○	*神道神学 II
神道古典に関する講義 又は演習	4	神道古典研究 I A	演習	2		○		
		神道古典研究 I B	演習	2			○	
		神道古典研究 II A	演習	2		○		*古典講読 II A (日本書紀)
		神道古典研究 II B	演習	2			○	*古典講読 II B (日本書紀)
神道祭祀に関する講義 及び演習	12	祭祀学研究 I	講義	2		○		*祭祀概論 I
		祭祀学研究 II	講義	2			○	*祭祀概論 II
		祝詞研究 I A	演習	2		○		
		祝詞研究 I B	演習	2			○	
		祝詞研究 II A	演習	2		○		*祝詞作文 I
		祝詞研究 II B	演習	2			○	*祝詞作文 II
		祭式及び同行事作法 A	演習	2		○		週2コマ連続
祭式及び同行事作法 B	演習	2			○	週2コマ連続		
神道教化に関する講義 又は演習	4	神道教化研究 I	講義	2		○		*神道教化概論 I
		神道教化研究 II	講義	2			○	*神道教化概論 II
神社の管理運営に関する講義 及び演習	8	神社関係法規 I	講義	2		○		*神社関係法規 I
		神社関係法規 II	講義	2			○	*神社関係法規 II
		神社管理運営論	講義	2		○		
		現代神道研究	講義	2		○		*現代神道論
		情報処理 I (基礎)	演習		1	○		*情報処理 I (基礎)
		情報処理 II (応用)	演習		1		○	*情報処理 II (応用)
(自由選択)		神宮史 I	講義		2	○		*神宮史 I
		神宮史 II	講義		2		○	*神宮史 II
		皇室概説	講義		2		○	*皇室概説
		宗教学研究 I	講義		2	○		*宗教学概論 I 2クラス
		宗教学研究 II	講義		2		○	*宗教学概論 II 2クラス
		宗教史研究 I	講義		2	○		*世界宗教史 I
		宗教史研究 II	講義		2		○	*世界宗教史 II
		日本宗教史	講義		2		○	*日本宗教史
		仏教概説	講義		2	○		*仏教概説 集中
近代神道史	講義		2	○		*近代神道史		
(その他必修・選択)		書道 I	実技	1		○		
		書道 II	実技	1			○	
		有職故実	講義	2		○		*有職故実
		雅楽	演習	1			○	
		神務実習(基礎実習)	実習	1			○	認定科目
		神務実習(指定実習 I)	実習	1			○	認定科目
		神務実習(指定実習 II)	実習	1			○	認定科目
		神務実習(指定実習 III)	実習	1			○	認定科目
神務実習(中央・神宮)	実習		1		○	認定科目		
計	40	計		57	2以上			

必修科目57単位のほか神務実習(中央・神宮)を除く選択科目2単位修得のこと

関係規程

○神道学専攻科神職規程に関する履修内規

各規程は以下の2次元コードから大学公式HPにアクセスして確認してください。



索引

英数

- 3つのポリシー・教育研究上の目的…… 8～24
- 3つのポリシー・教育研究上の目的（大学院）
…………… 235～241
- 8月又は9月卒業時の卒業論文（研究）…… 40
- CAP制 …………… 48
- ChatGPT …………… 6
- GIS 学術士資格 …………… 225
- GIS 学術士資格取得要件 …………… 226
- GPA …………… 30・31
- HOME 画面 …………… 50
- SDGs とビジネス副専攻 …………… 108
- SNS …………… 122・128・136・141・143
195・210・214・224・262・281
- Web 履修登録 …………… 50～53

ア

- 悪天候等の不測の事態 …………… 34
- アセスメント・ポリシー（学習成果の評価の方針）（学部）
…………… 25～26
- アセスメント・ポリシー（学習成果の評価の方針）（大学院）
…………… 242
- アドミッション・ポリシー …………… 8

イ

- 伊勢志摩定住自立圏共生学副専攻 …………… 112

エ

- 英語（中学校一種・高等学校一種）… 155・175

カ

- 階位申請（高等課程）…………… 123・130
- 階位申請（専攻課程Ⅰ類）…………… 283
- 階位申請（専攻課程Ⅱ類）…………… 264
- 介護等体験実習 …………… 135・136

- 学位ならびに免許・資格（大学院）…………… 267
- 学位規程 …………… 276
- 学位論文（修士）…………… 269・270
- 学外授業 …………… 32
- 各種課程等 …………… 113～230
- 学生ポータルサイト …………… 33・50・54
- 学生メニュー画面 …………… 51
- 学籍 …………… 43～46
- 学校心理士 …………… 268
- 課程費 …………… 187・189・192
- 科目ナンバリングコード …………… 54
- カリキュラム（学部）…………… 56～103
- カリキュラム・ポリシー …………… 8
- カリキュラム表の読み方 …………… 58
- 仮認定の申請について（認定心理士）…………… 217
- 関係規程（学部）…………… 231
- 関係規程（専攻科）…………… 285
- 関係規程（大学院）…………… 276

キ

- 忌引 …………… 33・36・42
- キャリア〔公務員〕副専攻 …………… 108
- 休学 …………… 43・44
- 休講 …………… 33
- 教育の基礎的理解に関する科目等 … 146・147
160・162・166・167・177・179・184
- 教育学研究科 …………… 258・259
- 教育学研究科教職課程に関する履修内規
…………… 276
- 教育学部教職課程に関する履修内規…………… 231
- 教育実習 …………… 137～144・183
- 教育実習の実施年次・期間・時期
…………… 139・140・183
- 教員免許状取得のための早見表 …………… 145
- 教員免許状の種類（平成31～令和4年度の入学生）
…………… 134
- 教員免許状の種類（令和5・6年度の入学生）
…………… 133
- 教員免許状の種類（令和7・8年度の入学生）
…………… 132

教員免許状の取得要件(平成31～令和4年度の入学生)	181
教員免許状の取得要件(令和5年度の入学生)	165
教員免許状の取得要件(令和6～8年度の入学生)	164
教科及び教科の指導法に関する科目	148～159・161・168～176・178・185・186
教科及び教科の指導法に関する科目〈教育学部〉〔小学校〕(平成31～令和4年度の入学生)	178
教科及び教科の指導法に関する科目〈教育学部〉〔小学校〕(令和5～8年度の入学生)	161
教科及び教科の指導法に関する科目〈文学部〉〔小学校一種・二種〕	185・186
教科及び教科の指導法に関する科目〔中学校一種・高等学校一種〕(平成31～令和4年度の入学生)	168～176
教科及び教科の指導法に関する科目〔中学校一種・高等学校一種〕(令和5～8年度の入学生)	148～159
教育の基礎的理解に関する科目等〈教育学部〉〔小学校〕(平成31～令和4年度の入学生)	177
教育の基礎的理解に関する科目等〈教育学部〉〔小学校〕(令和5～8年度の入学生)	160
教育の基礎的理解に関する科目等〈教育学部〉〔中学校一種・高等学校一種〕(平成31～令和4年度の入学生)	167
教育の基礎的理解に関する科目等〈教育学部〉〔中学校一種・高等学校一種〕(令和5～8年度の入学生)	147
教育の基礎的理解に関する科目等〈文学部〉〔小学校一種・二種〕	184
教育の基礎的理解に関する科目等〈文学部・現代日本社会学部〉〔中学校一種・高等学校一種〕(令和5～8年度の入学生)	146
教育の基礎的理解に関する科目等〈文学部・現代日本社会学部〉〔中学校一種・高等学校一種〕(平成31～令和4年度の入学生)	166
教育の基礎的理解に関する科目〔幼稚園〕(平成31～令和4年度の入学生)	179

教育の基礎的理解に関する科目〔幼稚園〕(令和5～8年度の入学生)	162
教科目：必修〔保育士資格〕(平成31～令和4年度の入学生)	200
教科目：必修〔保育士資格〕(令和5～8年度の入学生)	196
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	164・165・181
教職課程	132～186
教務規程	231
教養科目〔保育士科目〕(平成31～令和4年度の入学生)	202
教養科目〔保育士科目〕(令和5年度の入学生)	199
教養科目〔保育士科目〕(令和6～8年度の入学生)	198

ケ

警報発令時	34
欠席届	32・33
欠席届(要配慮)	32・33
研究指導スケジュール	243・244
研究指導者(教育学研究科)	261
研究指導者(文学研究科博士後期課程)	245・248・250
研究指導者(文学研究科博士前期課程)	252・254・256
現住所等の確認	50
現住所等確認・修正画面	50
現場実習の構成・内容(精神保健福祉士)	213

コ

皇學館システム	33・42・47～53
皇學館システム(履修登録)	50
講義概要	48・49
交通機関のストライキ等の不測の事態	34
公認心理師(国家試験受験資格)	220
公認心理師の受験資格	220

公認心理師国家試験受験資格取得に関する履修内規	231
公民（高等学校一種）	154・174
コース	27～29
国語（高等学校一種）	150・170
国語（中学校一種）	149・169
国史学専攻博士後期課程	250・251
国史学専攻博士前期課程	256・257
国文学専攻博士後期課程	248・249
国文学専攻博士前期課程	254・255

サ

在学継続	272
再試験	36
再試験受験手続き	36
再入学・復籍	46
参拝見学	42

シ

資格取得、認定までの流れ（スポーツ指導者資格）	203
資格の申請について（認定心理士資格）	217
資格の認定について（GIS学術士資格）	225
資格の認定について（自然体験活動指導者（NEALリーダー））	206
資格の認定について（社会調査士資格）	215
資格の認定について（初級パラスポーツ指導員）	205
資格申請手続（司書教諭）	189
試験	35
試験規程	231
司書教諭課程	189・190
司書教諭課程科目	190
自然体験活動指導者（NEALリーダー）資格	206
実習経費（社会調査士）	216
実習日誌（博物館学芸員）	192
実習費（ソーシャルワーク実習Ⅰ及びⅡ）	209
実習費（ソーシャルワーク実習Ⅲ）	213

実習費（教育実習）	143
実務経験のある教員による授業	54
指導教員（卒業論文（研究））	39
児童指導員	227
社会（中学校一種）	152・172
社会調査士指定科目（平成31～令和7年度の入学生）	216
社会調査士資格	215・216
社会調査士資格取得に関する履修内規	231
社会調査実習	216
社会福祉士（国家試験受験資格）	207～210
社会福祉士国家試験受験資格取得に関する履修内規	231
社会福祉士指定科目（令和3～8年度の入学生）	208
社会福祉主事	227・228
宗教（中学校一種・高等学校一種）	148・168
修士論文・特定の課題についての評価基準	275
修士論文評価基準	274
就職活動	32・33・205・206・215
就職試験	33・36
集中講義	32
修了証の授与（司書教諭）	189
授業科目履修規程	231
授業科目（神職課程専攻課程Ⅰ類）	284
授業科目（神職課程専攻課程Ⅱ類）	265・266
授業科目（神道学専攻科）	278
授業科目構成	57
授業科目の名称表記	57
受験心得	37
出席停止	32
取得可能な資格（スポーツ指導者資格）	203
主免許	132～134
小学校教諭一種及び二種免許状取得要件〈文学部〉（平成31～令和8年度の入学生）	184～186
小学校教諭一種免許状取得要件〈教育学部〉（平成31～令和4年度の入学生）	177・178
小学校教諭一種免許状取得要件〈教育学部〉（令和5～8年度の入学生）	160・161
初級パラスポーツ指導員	205
除籍	45

書道（高等学校一種）	151・171
シラバス	54
シラバス検索方法	54・55
審査基準（卒業論文（研究））	39
神職課程（高等課程）	
（平成31～令和4年度の入学生）	126～130
神職課程（高等課程）科目	
（平成31～令和4年度の入学生）	131
神職課程（高等課程）	
（令和5～8年度の入学生）	119～123
神職課程（高等課程）科目	
（令和5～8年度の入学生）	124
神職課程（専攻課程Ⅰ類）	279～283
神職課程（専攻課程Ⅱ類）	260～266
身体障害者福祉司・知的障害者福祉司	
	227・229
神道学専攻科について	278
神道学専攻博士後期課程	245～247
神道学専攻博士前期課程	252・253
神務実習（高等課程）（平成31～令和4年度の入学生）	
	126～130
神務実習（高等課程）（令和5～8年度の入学生）	
	119～123
神務実習（専攻課程Ⅰ類）	280～283
神務実習（専攻課程Ⅱ類）	261～264
心理演習と心理実習	223・224
心理学検定	218・219
心理実習の実習費	224

ス

数学（中学校一種・高等学校一種）	157
スポーツ指導者資格（受験資格）	203・204
スポーツ指導者資格科目	204

セ

精神保健福祉士（国家試験受験資格）	
	211～214
精神保健福祉士国家試験受験資格に関する履修内規	
	231

精神保健福祉士指定科目	
（令和3～8年度の入学生）	212
生成AIの教学面の取扱いに関する指針 Ver.1	6
成績開示	47
成績評価	30
成績評価についての質問	31
セメスター	58
選択科目	58
選択必修科目	58
選択必修科目（保育士資格）	
（平成31～令和4年度の入学生）	201
選択必修科目（保育士資格）	
（令和5～8年度の入学生）	197

ソ

ソーシャルワーク実習Ⅰ及びⅡ	209・210
ソーシャルワーク実習Ⅲ	213・214
ソーシャルワーク実習の構成・内容	209
卒業研究	39～41
卒業見込み	52
卒業後の資格取得における注意事項	187・192
卒業進級要件（平成31～令和4年度の入学生）	
	82
卒業進級要件（令和5～8年度の入学生）	59
卒業論文（研究）	39～41
卒業論文（研究）提出	40・41

タ

退学	44・45
退学勧告	45
大学4年間で履修する科目（公認心理師）	
（平成31年度～令和4年度の入学生）	222
大学4年間で履修する科目（公認心理師）	
（令和5～8年度の入学生）	221
大学が独自に設定する科目	146・147・160
	166・167・177・184
大学院について	234
大学院教務内規	276
対象となる実習（麻しん抗体検査）	230

題目・指導教員変更届（大学院）	269
単位	30
単位の認定	30
単位互換科目（博士後期課程）	245・248・250
単位互換科目（博士前期課程）	252・254・256
単位数集計表	53

チ

中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状取得要件 （平成31～令和4年度の入学生）	166～176
中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状取得要件 （令和5～8年度の入学生）	146～159
中間報告（大学院）	269
中国化学副専攻	111
地理歴史（高等学校一種）	153・173

ツ

追試験	35
追試験許可基準	36
追試験受験手続き	36
通常授業	32

テ

ディプロマ・ポリシー	8
データサイエンス副専攻	107
転科	46
転学部	46

ト

特定の課題についての研究の成果	269
特別警報・暴風警報発令時	34
特別支援学校教諭一種免許状取得要件	182
特別支援教育に関する科目（特別支援学校） （平成31～令和4年度の入学生）	182
図書館司書課程	187
図書館司書課程科目 （平成31～令和8年度の入学生）	188

ニ

日本語教育学副専攻	110
認定心理士資格	217～219
認定心理士資格取得要件 （平成31～令和4年度の入学生）	219
認定心理士資格取得要件 （令和5～8年度の入学生）	218
任用資格	227
任用資格指定科目（平成31～令和8年度の入学生）	228・229

ハ

配当年次	58
博士学位請求論文（課程博士）	271・272
博士学位請求論文（課程博士）評価基準	273
白衣等一覧	125
博物館学芸員課程（平成31～令和8年度の入学生）	191～193
博物館学芸員課程科目（平成31～令和8年度の入学生）	193
博物館実習（平成31～令和8年度の入学生）	191・192

ヒ

必修科目	58
剽窃（ひょうせつ）	38

フ

フィールドワーク	42
復学（休学）	44
復籍（除籍）	46
副専攻制度	104～112
副免許	132～134
不正行為	38
プログラミング（初等中等教育）副専攻 （令和5～8年度の入学生）	109
文学研究科教職課程に関する履修内規	276

文学研究科神職課程に関する履修内規	276
文学研究科博士後期課程	245～251
文学研究科博士前期課程	252～257
文学部教職課程に関する履修内規	231
文学部神職課程に関する履修内規	231

ホ

保育士資格	194～202
保育士資格取得に関する履修内規	231
保育士資格取得要件 (平成31～令和4年度の入学生)	200～202
保育士資格取得要件(令和5～8年度の入学生)	196～199
保育所実習	194・195
保育所履修手続	195
暴風警報発令時	34
保健体育(中学校一種・高等学校一種)	156・176
補講	34
ポリシー	8～26

マ

麻しん抗体検査	230
満期退学後の論文提出	272

メ

明階総合課程履修受講資格	119・120・122 126・127・129
免許資格取得条件	114～118
免許状の申請(教員免許)	144・183

ヤ

山室山参拝	42
-------	----

ヨ

幼稚園教諭一種免許状取得要件 (平成31～令和4年度の入学生)	179・180
幼稚園教諭一種免許状取得要件 (令和5～8年度の入学生)	162・163
要配慮欠席について	32・33

リ

理科(高等学校一種)	159
理科(中学校一種)	158
履修・修得科目一覧	53
履修系統図	48
履修指導	47
履修者が5名以下の選択科目	49
履修上の注意(平成31～令和4年度の入学生)	83・84
履修上の注意(令和5～8年度の入学生)	60・61
履修制限単位数	48
履修登録	48
履修登録の手順	49
履修登録画面	51・52
履修登録修正	52
履修登録方法	50～52
領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園) (平成31～令和4年度の入学生)	180
領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園) (令和5～8年度の入学生)	163

レ

レポート	35・37
------	-------

ロ

ログイン画面	50
論文・研究報告(レポート)	37

履修要項

発行年月日 令和8年4月1日
編 集 大学事務局 学生支援部・神職養成部
発 行 皇學館大学
住 所 〒516-8555
伊勢市神田久志本町1704
T E L 0596 (22) 0201 (代表)
0596 (22) 6315 <教務担当>
0596 (22) 6049 <教職支援担当>
0596 (22) 6312 <神職養成部>
F A X 0596 (27) 1704

- ◎ 大学からの伝達事項は、すべて掲示（一部は学生ポータルサイト等①～④においても連絡）によって行います。
- ◎ 一旦、掲示した事項についての見落としは、各人の責任となります。
- ◎ 掲示は、必要に応じて随時行われますので、常に掲示に留意し、見落とし等による事故のないように注意が必要です。

① 学生ポータルサイト <http://sp.kogakkan-u.ac.jp/>

休講・補講・教室変更・時間割・シラバス・履修要項
※特別警報・暴風警報発令時の一斉休講等のお知らせ（緊急の連絡含む）



② 皇學館システム（皇學館大学ポータル） <https://univision.kogakkan-u.ac.jp/>

ログイン後、個別に確認できます。

履修登録・修正
時間割（登録済）・単位数確認
現住所修正・P.50参照



③ 学生メール（Gmail） <https://mail.google.com/a/stu.kogakkan-u.ac.jp/>

全学生に大学のメールアドレスが付与されます。

アドレスは、学生番号@stu.kogakkan-u.ac.jpです。

（例）e0811999@stu.kogakkan-u.ac.jp

パソコン、スマートフォン等で利用できます。
大学からの連絡等はこのアドレスに配信します。



④ 教育支援システム（manaba corse） <https://lms-manaba.kogakkan-u.ac.jp/>

授業支援
授業担当教員からの連絡



学生支援部窓口受付時間

（大学の休業日は、閉鎖します）

月～金 9：00～17：00

土 9：00～13：00

受講心得

- 授業には遅刻せずに出席すること。
万一遅刻した場合の成績評価における取り扱いは、各教員が定めることとします。
なお、30分以上の遅刻者は欠席扱いとし、該当教室への入室を禁止します。(注)
- 授業中の携帯電話・スマートフォン等の電子機器の使用については、授業担当者が許可した場合を除き、禁止します。
- 授業中の私語を禁止します。
- 私語等により、授業の進行を妨げる者があれば、授業担当者より退席を命ずることがあります。
- 退席処置を拒否した場合、成績評価を受けることはできません。
- 退席処置をうけた後の授業において、受講態度に改善が見られない場合、成績評価を受けることはできません。

学 長

(注) 公共交通機関の遅延による遅刻の場合は、当該交通機関発行の遅延証明書を受けとり、直ちに授業を受けに行ってください。

